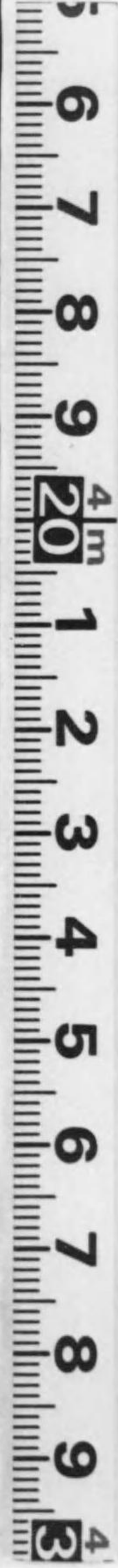


14. 5-817



1200501218724

14.5
317



始



609

第二輯

會社四季報

昭和十二年九月刊



東洋經濟新報社編

社會四季報

昭和十一年第一輯

東洋經濟新報社編

營業種目

| | | | | | |
|-------|------------|-------|-------|--------|---------|
| 會計の検査 | 財産に関する遺言執行 | 貸付並保置 | 不動産信託 | 有價證券信託 | 金 錢 信 託 |
|-------|------------|-------|-------|--------|---------|

共同信託

大阪本店

東區今橋三丁目一番地
電話北濱(23)代表三四〇一番
振替口座大阪七九九〇〇番

東京支店

麹町區内幸町一丁目七番地
電話銀座(57)三四八六番
振替口座東京八四六六三番

序

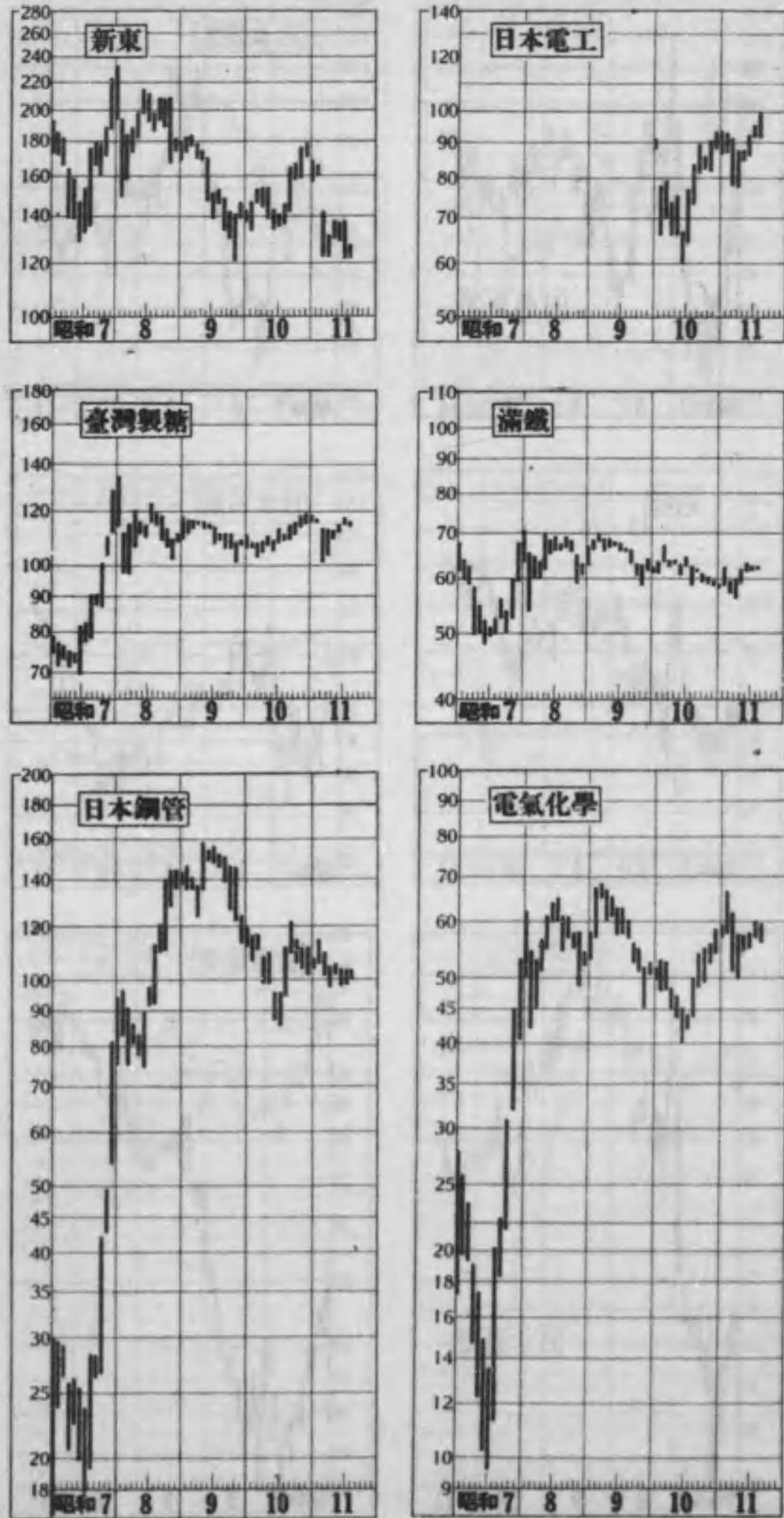
「會社四季報」の第二輯を世に送る時期が來た。第一輯は幸に投資家から絶大の支持を受けることが出來たが、併し本書の眞價が發揮されるのはこれからである。生きた會社便覽たらしめやうと云ふ本書の目的は、年四回の發行によつて始めて達成されるからだ。その意味で、此の第二輯の編纂には、可なり苦心を拂つた積りである。物色買人氣の旺盛な昨今、第一輯より以上、有用な投資家讀本たり得ると思ふ。

たゞ短時間に仕上げねばならぬ關係上、讀者より種々改善意見を寄せられたに拘らず、その殆んど大部分は取り入れる暇がなかつた。此の點甚だ遺憾であるが、併し社數を増し、また統計資料の正確を計る等、部分的に補正を行つた。勿論これで満足してゐる譯ではない。輯を重ねるに従つて、改めて行く考へである。讀者との協同編輯こそ吾々の希ふ處だから、本輯に就ても遠慮なく意見や批評を寄せられるやう御願ひする。

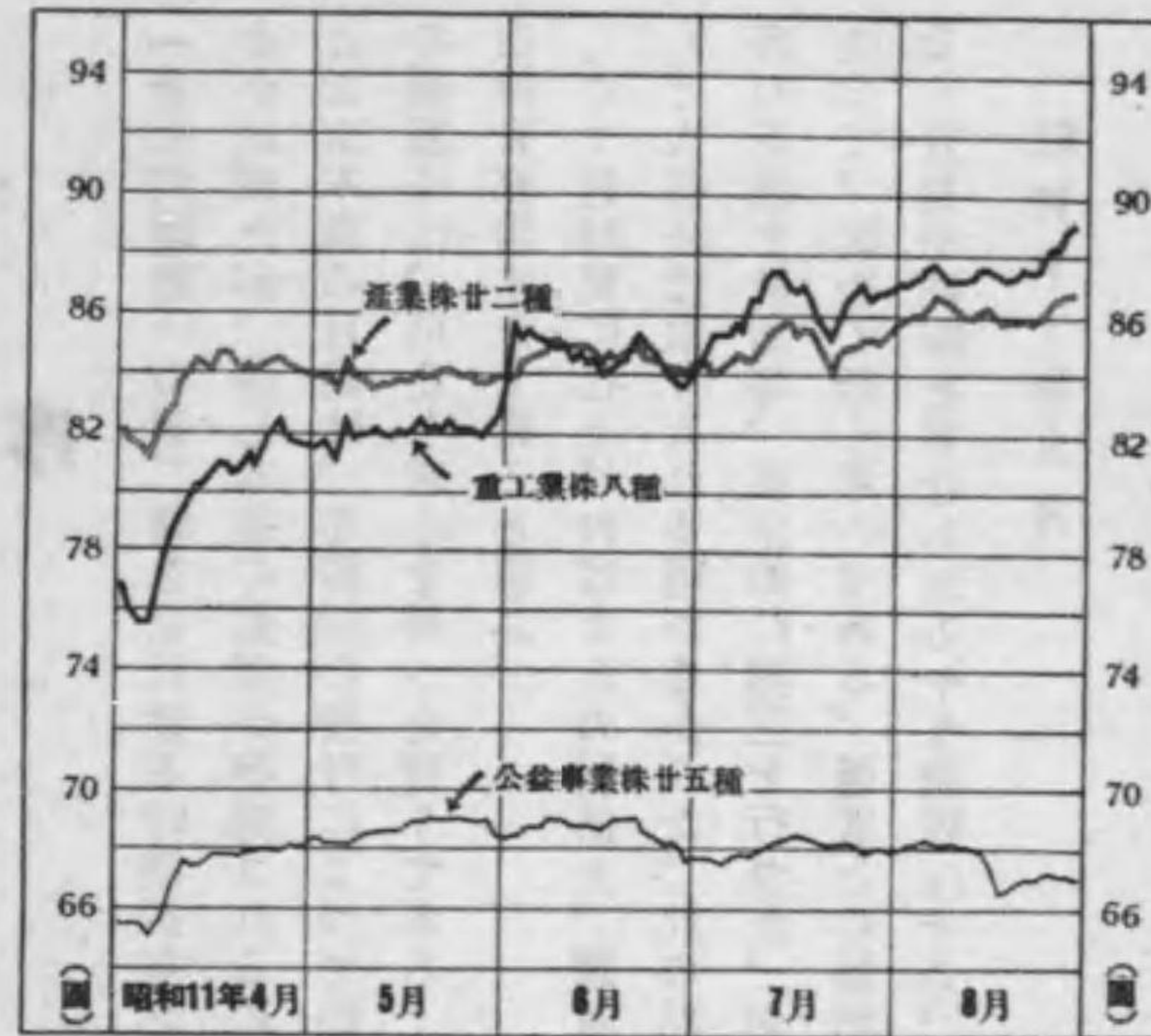
昭和十一年九月

東洋經濟新報社

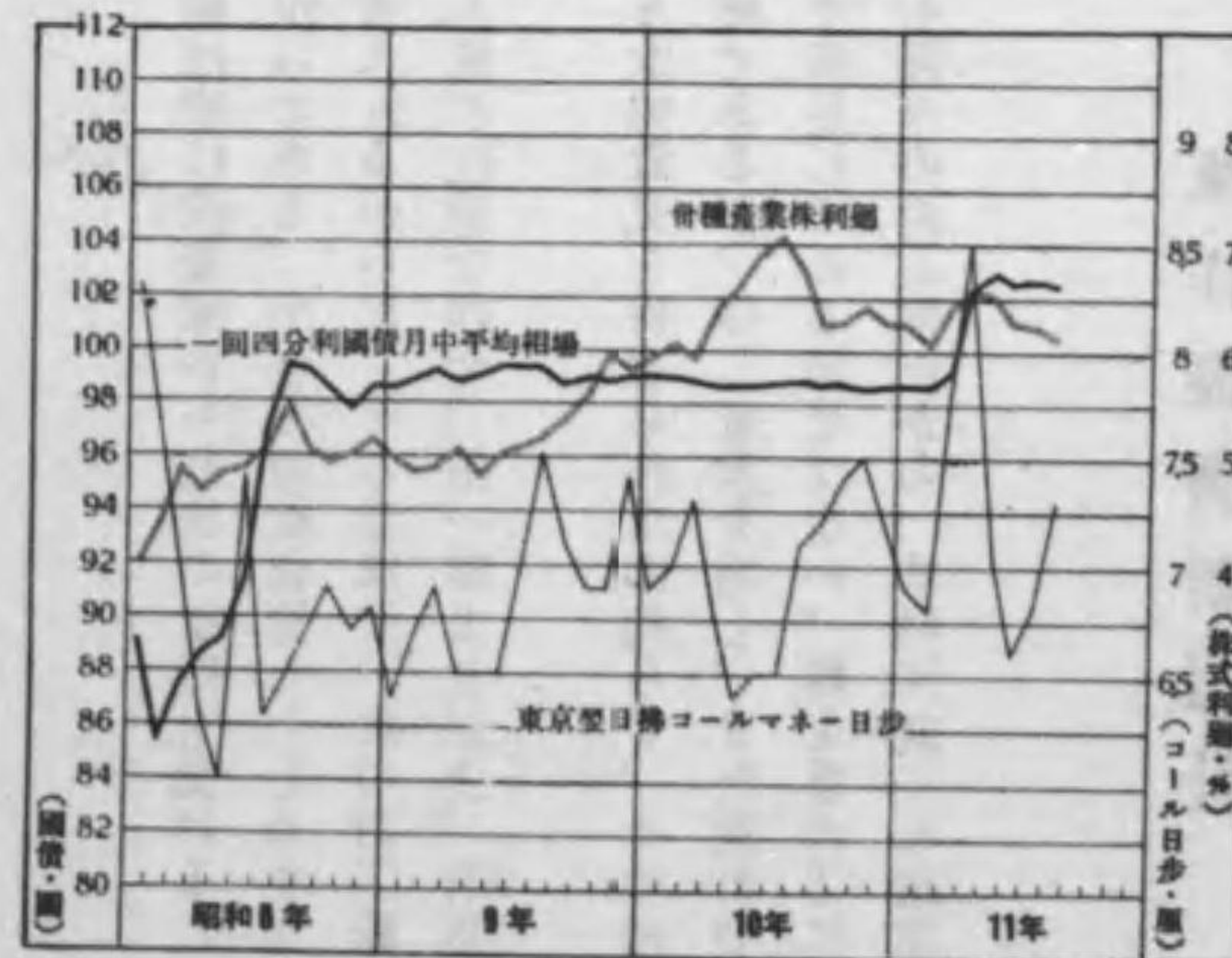
花形株最高最低相場 (東京長期、月中高低)



(我社調) 日々平均株價

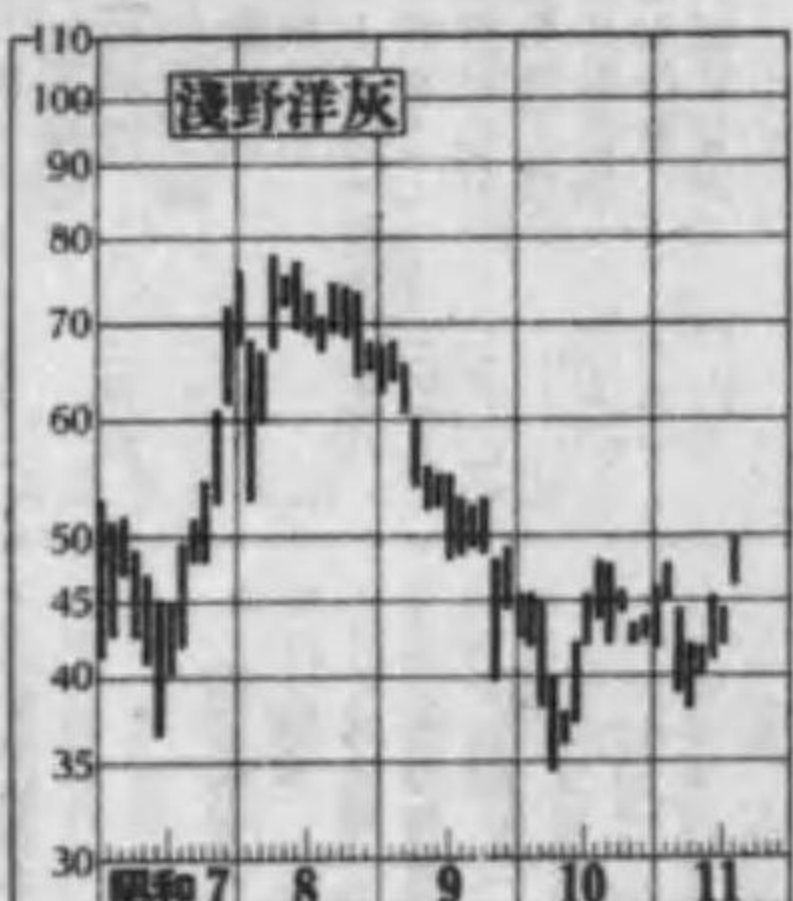
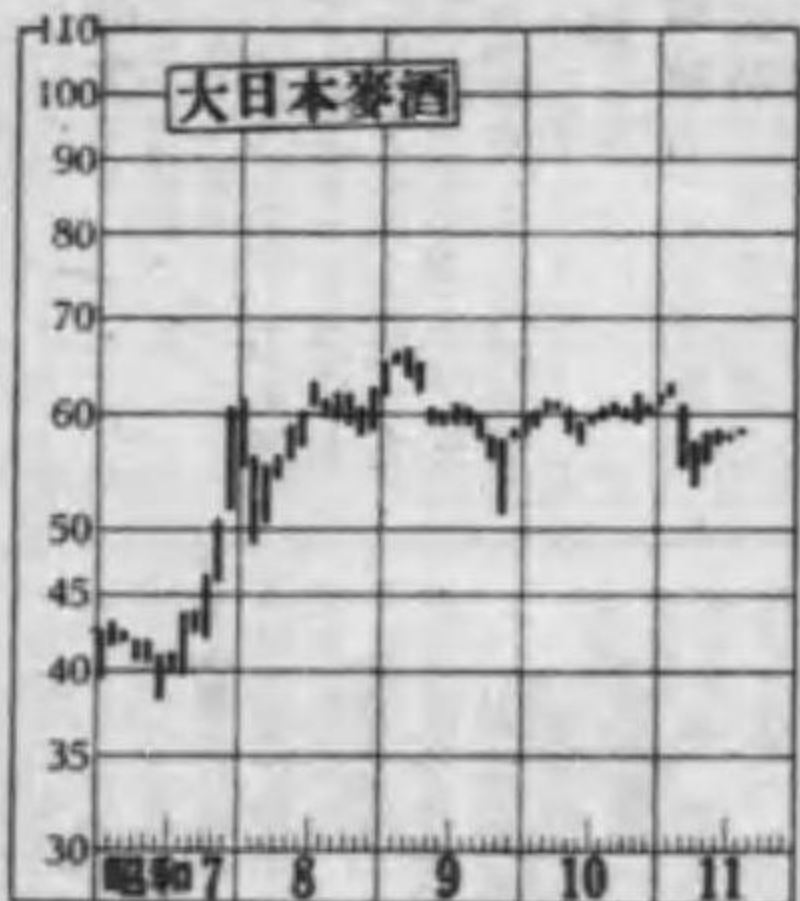


金利と株式利廻

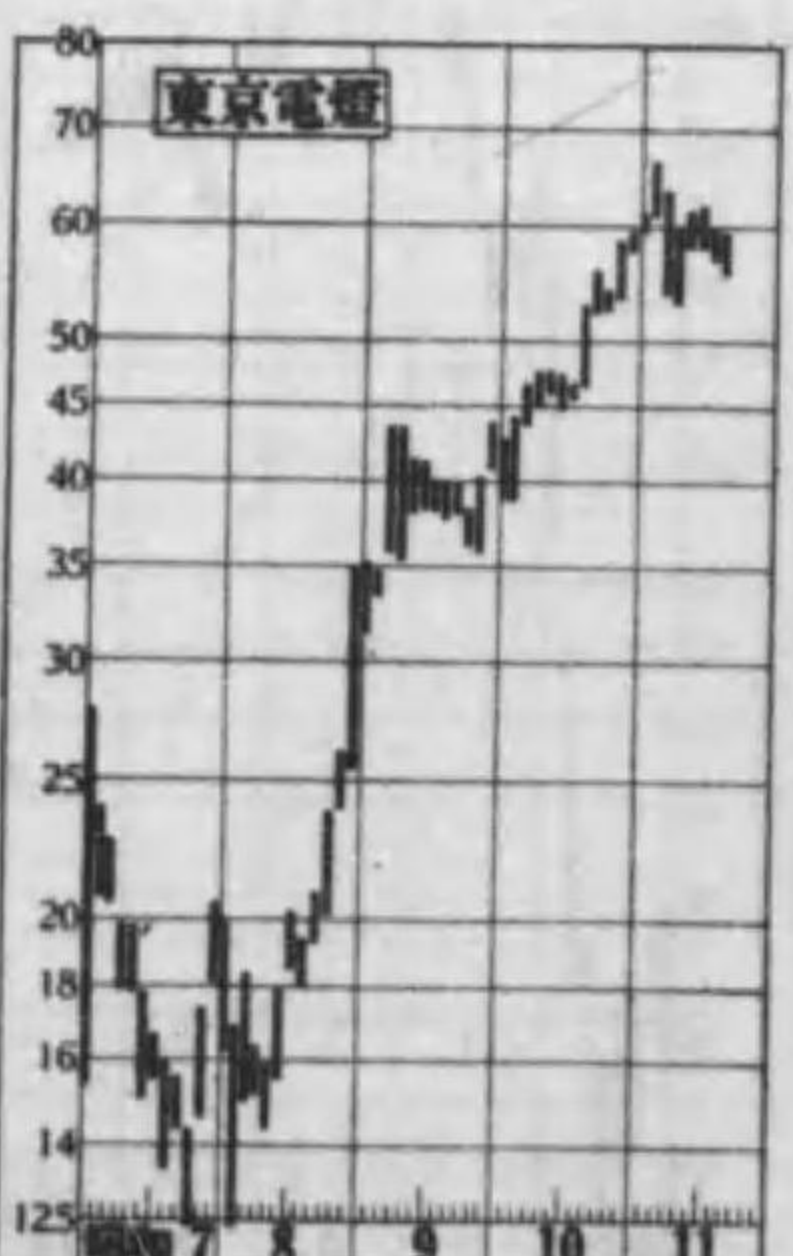
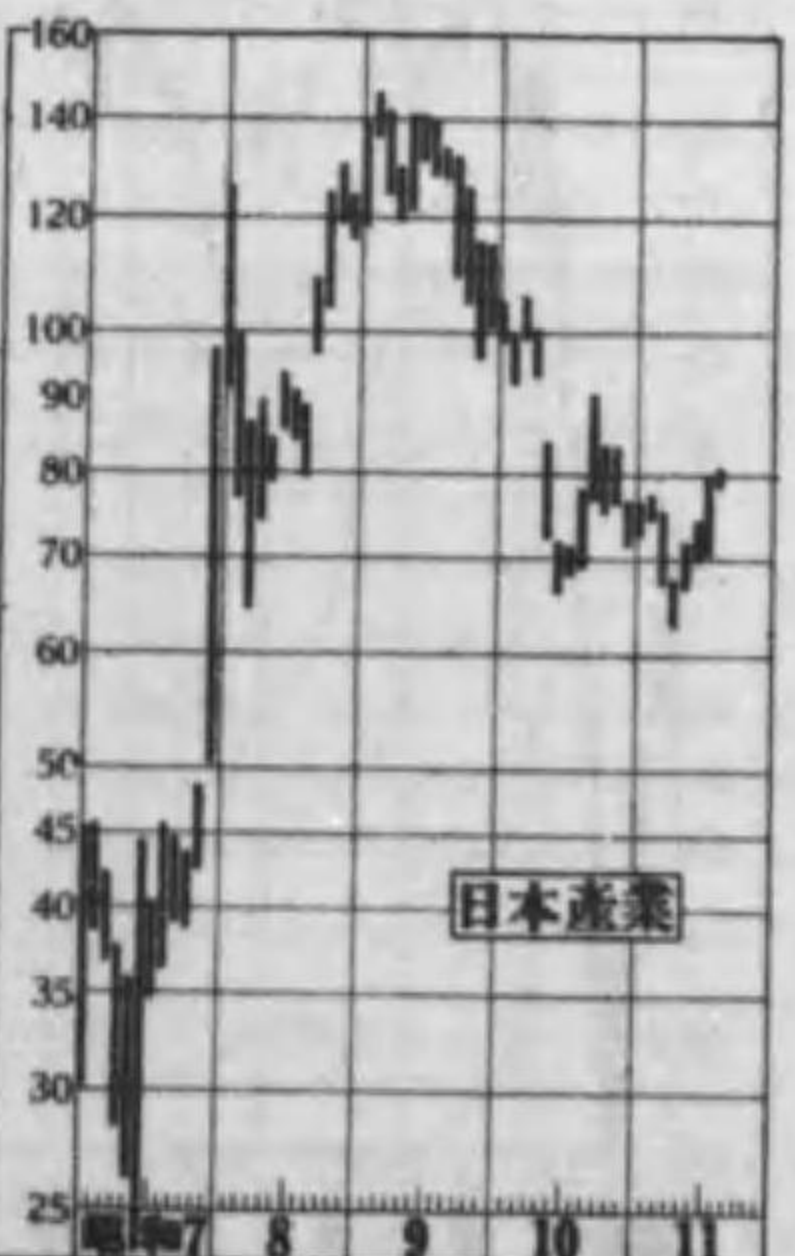
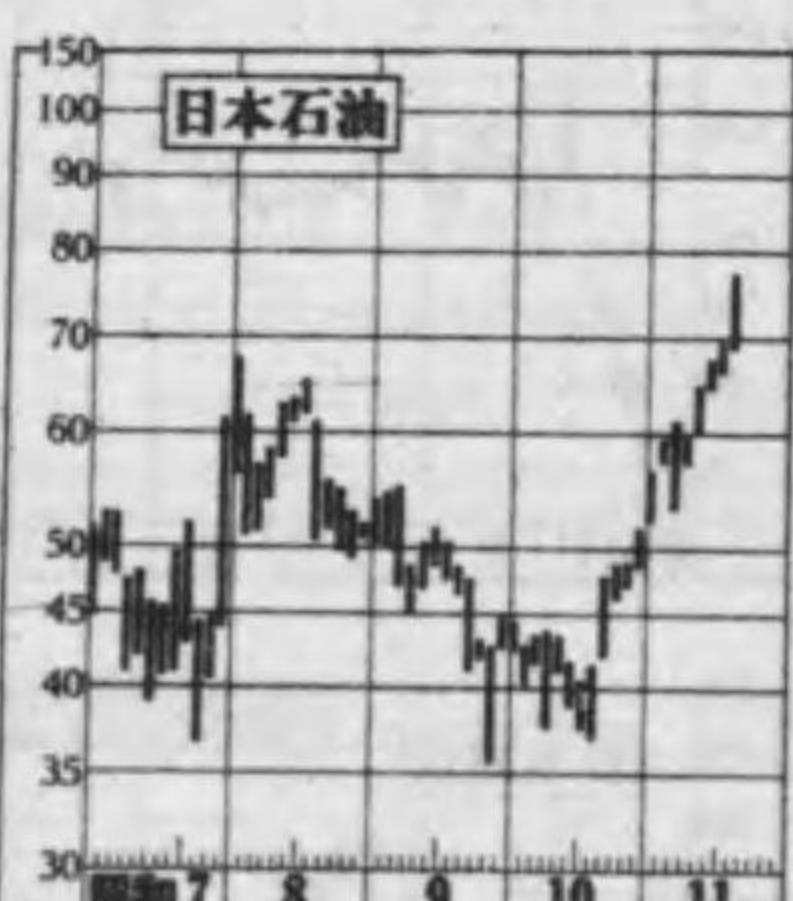
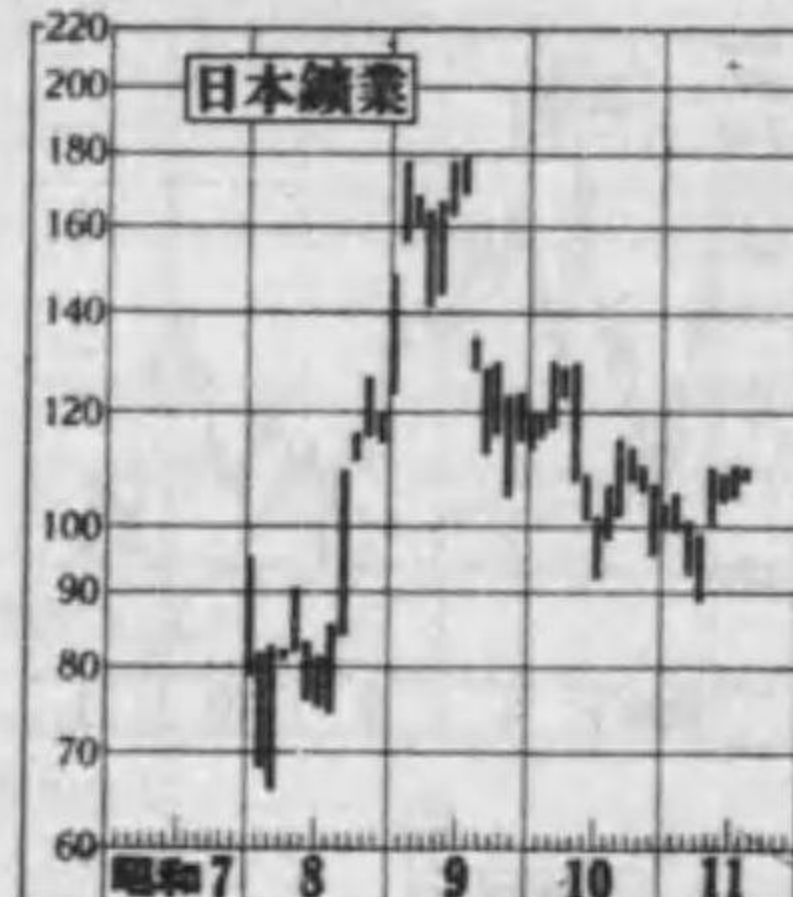
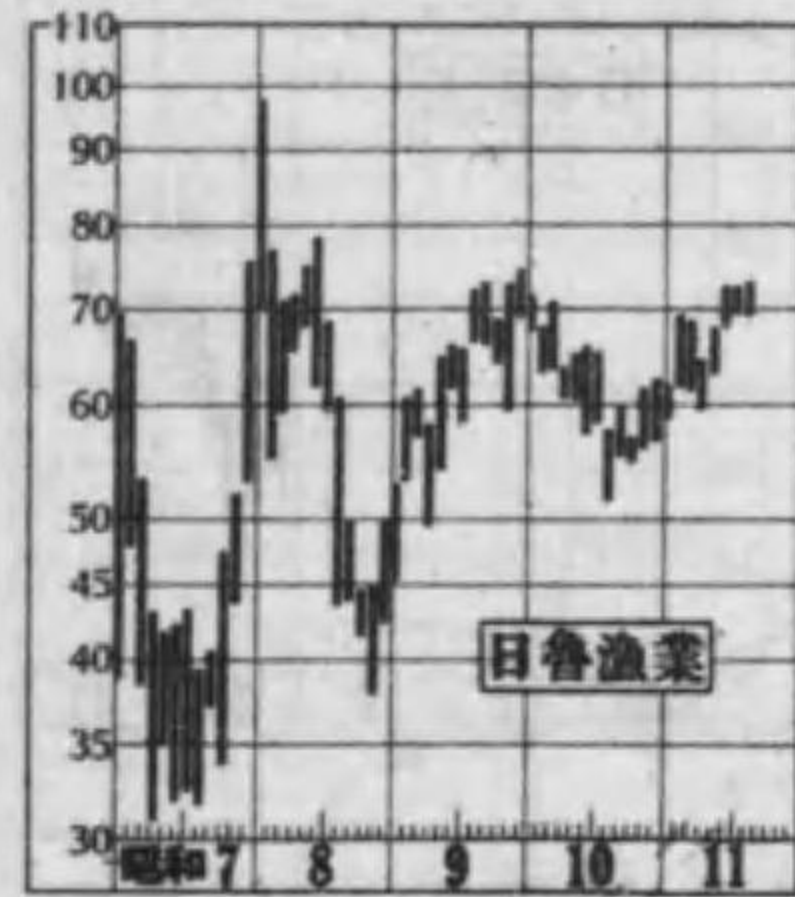


(備考) 産業株廿二種は重工業株を含まずコールド日歩は最低一日平均。
 以上は總べて八月末日迄の数字に依る。

花形株最高最低相場 (東京長期、月中高低)



花形株最高最低相場 (東京長期、月中高低)



に減つて来た。殊に八月下旬の輸出は振ひ、愈々本格的輸出季に入つた模様である。尤もその増加率は昨年のもそれと比すると劣つてをり、反對に輸入の増加は仲々衰へない。その上日濠通商問題を始め海外の貿易障害は更に加つてをるが併し本年を通じた入超は大難把に見て一億四、五千萬圓止まりであらう。これを昨年が僅か乍ら出超を示したのに比較すると逆轉した譯だが、それ以前の貿易尻に比すると決して驚く程の入超ではない。他面貿易外の受取勘定は寧ろ増加の傾向にあるので、國際收支は依然樂觀してよい。

【樂觀見越しが無い】こう云ふ譯で何もかも經濟界は良好である。丁度昨年も上半期の悲觀人氣から甦生して夏は却つて良好を示し、秋景氣の期待が非常に濃厚であつた。爲めに各商品に亘つて先高見越が行はれた。處がその後實需が伴はなかつたため、年末から今年初めにかけて荷売れの壓迫を蒙つた。今年も前述の如く財界の基調は案外に良く、秋景氣の發展が期待せられてゐるが、併し昨年にくりてゐるためか、樂觀見越が殆んど行はれず、

寧ろ手持商品の準備も手控えてゐるやうである。従つて昨年に現れた如く今後荷売れの壓迫が起る危險が少なく、反對に年末に近づくに従つて物によつては品拂底の現象を呈するかも知れない。

【國策不安も輕減】以上の如く經濟界そのものには目下の處不安材料はない。若し問題になるとすれば政治不安であるが、これも二・二六事件直後に現はれたやうな不安は時日の経過と共に輕減し、殊に八月二十五日に發表された國策にも窺はれる如く、急激なる財界變動を起すやうな國策は行はれるものでないとの見透しが財界にも段々ついて来た。尤も年末に近づくに従つて政治季節に入るので政治不安も解消する譯には行くまいが、併し從來行はれてゐたやうな國策不安は下火とならう。

【海外財界も良好】目を海外に轉ぶると、紙幅が無いので省くが、英、米とも財界は好い。つまり最近の景氣昂進は世界的と言つてよい。たゞスペインの内亂が何う落着くか一寸問題であるが、これも今日のところ我國に對し悪い影響を及ぼすとは考へられない。

事業概観

【再膨脹時代】二・二六事件の突發は一時産業界を萎縮さすかと懸念されたが、その後の實際の経過に徴すると、反對に産業界再膨脹の契機となりつゝあることが明かにされた。電力の國營か民營かと言ふ問題も、その何れが産業の膨脹を來すかと云ふ政策論である。もともと我が産業界は滿洲事變並に金輸出再禁止を動機として飛躍的發展を遂げつゝある。併しそのテンポが九年を一應の峠として十年から發展が鈍化乃至は横ばひ狀況を呈してゐた。例へば我社調の事業活動指數に依ると再禁止以來の上向歩調は昨十年一月に於て頭打ちとなり、その後漸衰乃至は停頓状態に陥り本年一月には一〇二・〇の低下を示すに至つた。處が今春から再び上向に轉じ去る六月には一〇六・〇となり、十年一月の最高に著しく接近して来た。七月は幾分低下したが、その内容を吟味すると決して産業の萎縮を示すものではない。夏枯れにも拘らず事業界は活況を續けたが、これから愈々秋の活躍期に入るので一段と活氣を呈するであらう。

【利潤増加】事業界の再び上進歩調にあることは事業成績にも現はれてゐる。即ち我社調査の二十一事業百四社の綜合成績を見ると、總利益は二億八千百萬圓で十年下期に比し六百萬圓の増加であり、十年下期の同上期に對する増益額二百萬圓よりも著しく多い。而も拂込資本金は二十九億五千二百二十萬圓と十年下期より五千二百萬圓の膨脹となつた。これは借金返済のためもあるが、事業擴張資金充當のため膨脹したのが主因である。かゝる資本金の膨脹にも拘らず、利益率は十年下期と同様一九%を維持してゐるところを見ても事業界の好調が窺はれる。更に配當率を見ると八%八となり十年上期より〇%六、同下期より〇%一の増加を示してゐる。尤も各事業別に検討すると、利益率は造船、炭礦、石油、肥料、製糖、皮革の六事業が上昇し、紡績、人絹、海運、セメント、曹達の五事業が低下してをる。つまり依然軍需關係會社が一層好轉してをるに對し、輸出に多く依存する産業が不振を呈してゐる。

【銀行訂正】右は本年上半期の會社成績を通して見たの

であるが、この跋行的傾向は最近に至つて稍や改まり、全面的の好轉を示すに至つた。即ち軍需關係工業は軍事費膨脹見越しの下に—それはスペインの内亂勃發によつて高められた世界的軍擴傾向にも拍車をかけられて—一段と好調を示してをる。更にこれまで不振を呈してゐた人絹業も統制の強化と需給改善によつて立直りが期待せられるに至つた。また紡績業の悪化も底が見えて來た。その他セメント業も統制強化によつて業界の安定を見るに至つた。上半期に於いては砂糖や麥酒が專賣になるのではないかと云ふので不安視されたが、それも今日では殆んど問題とならなくなつた。且つ國家統制の代表的事業として目標とせられてゐる電力も例の民有國營案が逕信省案のまゝでは成立し難いことは略ぼ明かだ。つまり國家統制による事業不安が一般的に輕減して來た。

【原料國策】次に見逃してならぬのは原料國策の問題である。既に石油資源の補給として石炭液化が研究せられてゐたが愈々企業化に近づいて來た。また鐵鋼の自給策として砂鐵處理の研究も進められてゐる。搗て加へて對

濠通商戰勃發に刺戟せられて羊毛の代用品としてステール・ファイバー工業の發展が事實問題として登場するに至つた。これに關聯して原料バルブの對策も進められてゐる。事實現内閣の國策中にも液體燃料及び鐵鋼の自給、纖維資源の確保が掲げられてゐるが、今後此の方面に新たに我が産業の發展が期待せられる。

【オリムピツク事業】尙ほ附加しておきたいのはオリムピツク東京開催決定によつて、ホテル事業を始めオリムピツクと直接間接關係ある例へばセメント、木材、運輸等の事業が好望せられて來たことも最近の事業界の一現象である。四年先のことはあるが、その準備は今から計畫せられるのであるから、これ等の事業の前途も一應注目すべきであらう。

【活況持續】勿論好材料ばかりでない。原料高製品安の傾向は依然改まらぬし、海外の通商障害も下火となりさうにない。従つて事業界の前途も坦々たるものではないが、併し最近の事業界が再度の行進を始めたことだけは確かだ、事業界前途には依然活況が續くと見てよい。

株式界の前途

【秋相場期待】株式界の騰勢は仲々強い。既に四月以來六ヶ月余りも騰貴が續いてゐる。而も未だに押目らしい押目を作りさうにもなく、物色買は依然旺盛である。九月一日發會の如きは諸株軒並みに昂騰し、秋相場の期待は益々濃厚である。事實財界の諸指標を見る限り、未だ危険信號を掲げをやうな兆候はない。例へば物價、貿易、事業活動、金融、事業利潤等何れを見ても良好である。では株式自體の位地はどうか。これも利廻りから見ても、仕手關係から見ても大した不安はない。

【利廻りの位地】先づ標準となる利廻りの位地を見やう。我社調査の産業株三十種平均の利廻りに依ると九月五日現在では六分一毛である。この利廻りは今日の公社債の利廻りや銀行預金利子等と比べて割高に置かれてゐると言つて差支へない。そのことは個々の株式を拾つて見ても、例へば白糖、明糖、大日本麥酒、王子製紙、三菱鐵業等の一流株が今日尙ほ五分臺の利廻りである。また花形株として活躍してをる浦賀船梁も五分四厘近い利廻り

ある。日本石油が四分六厘程度にあるが、これも増配を見込めば五分以上となる。況んや、これまで人氣の離散してゐた人絹、紡績、肥料、セメント等になると六分から七分臺の高利廻りにおかれてゐる株も少なくない。

【買株増加】取組高も未だ株價を壓迫する程度には達してはゐない。過去の經驗に依ると當中先の三期合計が三百萬株を突破しないと株價暴落の導因とならない。然るに八月末の最も増加した廿八日に於ても二百十九萬一千株である。九月に入ると更に増加の傾向にあるが、漸く二百萬臺を上廻つたに過ぎぬ。更に注目すべきは二・二六事件以來實物取引の旺盛なことである。八年から九年にかけても實物取引は多かつたが、その當時は流行の新設株や公開株を熱狂的に買ったのであつた。處が最近に於ては前の經驗にこりて採算の範圍内に於いて投資してゐるのである。而も此の實物は保險會社を始め各金融機關がまとめて引取つてゐる。従つて物によつては品不足を來してをる株も尠なくない有様である。要するに、市場取引も空買空賣が少なく、實物本位であることが判る

が、それだけ株價も暴落の危険が少ないと言へる。

【國策問題】問題は政治不安だけである。二・二六事係によつて突發した政治社會不安は、その後漸次薄らいだが、それでも尙ほ目に見えない不安氣分に依然蔽はれてゐる。即ち電力國營論や取引制度改善説に現はれたやうに、現在の資本主義機構を否定する意向を現内閣は考へてゐるのではないかと云ふ不安である。或ひは此の不安はつきとめて見ると大して脅威を感じる必要はないのかも知れない。八月廿五日に發表された廣田内閣の國策を見ると、從來市場の感じてゐた不安は確かに行過ぎであつた。今後此の國策不安が更に輕減すれば、株界は一般的に一段と昂騰を辿るであらう。その代り、何かの原因で政治不安が擡頭するとまた株界は壓迫される。その成行は今後の實際に見る外ないが、併し前述の如く經濟界の諸指標は良好であるから、假令一寸した政治不安で下落したとしても、深押しがあらうとは考へられない。從來と同様根強い物色買が現はれやう。

【投資方針】個々の株式の位地に就いては、各會社の記

事に就いて知られたいが、こゝで一般的な投資方針に關して若干述べておこう。前述した通り、春からの騰貴は高利廻訂正の範圍であつて未だ本格的な低金利相場を出してはゐないと思ふから長期的に投資する積りなら、特殊の悪材料あるものは別として、一般的に買方針で差支へないと思ふ。たゞ株價の位地が高まつてゐるので從來の様を騰げ餘地はない。軍事財政の膨脹から見ても、重工業株化學工業株が依然活躍するであらうが、概してその位地が高くなつて來たので選擇の必要がある。その代り、從來不振を呈してゐた人絹だとかセメントが統制強化と需給改善によつて稍持直して來たが、その他の平和事業株も今後立直りが期待され、高利廻の訂正相場が尙ほ續くのではないと思ふ。國策に直接關係ある株は石油の如きは樂觀され、電力は悲觀されてゐるが、今日の位地では電力も少し悲觀に過ぎてゐる。砂糖、麥酒の專賣不安も依然改まらぬやうだが、大して不安視する必要はあるまい。新東も環境が良化すれば下げる譯には行かない。

紡績事業

【需給安定】綿業界は一向よりやゝ落着模様になつて來た。本年上半期の綿絲需給は大して問題なく経過したが、これは綿絲生産高が僅か乍ら減少すると共に、他方輸出方面はそれ程悪くならなかつたからである。下半期に入つてからも最近までの需給關係は悪くない。輸出は色色問題されつゝも、七月の綿布輸出は約二億二千八百萬平方碼で良好の方であつた。綿布輸出は今後も一概に非觀しなくても良い様である。尤もこれから秋以後は丁度増産期に入る關係上生産がふえるから、需給の好化は期待し難い。ことによると幾らか供給過多になるかも知れぬ。然しそれも大したことはなく、大體需給状態はさう不安はないと思ふ。紡績聯合會も十一月十二月の操短率を現行のまゝ据置きと決定した。

【採算】需給の安定と共に、採算もやゝ見直して居る。例へば昨年來屢々赤字に悩んで居た綿絲廿手も本年上半年以來大體黒字となつてゐるし、また本年上半年初め暫く採算割れだつた中絲四十手も最近では利益勘定を示してゐ

る。尤も採算良化の程度はさう大したものではないし、今後原棉が高いと再び差益は少くなる懸念もある。この點は殊に明年上期以降の成績を豫想するに當つて注意を要するが、然し差當つては各社とも多かれ少なかれ安んずる原棉があるので寧ろ原棉の値上りで利益してゐる。

【下期成績】一般に紡績會社の成績は、最近期毎に、低下して來たが、この下期はさう悪くなく、大體上期並みか、會社によつてはそれ以上に達しよう。たゞ一般に從來の含みが段々減つてゐるので、内容の充實せる會社は別として、其他の會社では決算の好化は望み難く、弱體會社の決算は寧ろ窮屈たるを免れない。然し主要會社で下期減配懸念のものなく、配當は殆んど据置の見込みだ。【株價】紡績株は敬遠されること既に久しく、最近の利廻は三大紡以外は大抵六分以上、それも七、八分といふものが多い。相當よい會社にしてさうである。然し紡績株と云つても何も一から十迄悲觀する必要はない。以下採録の會社で配當繼續に安定性があり、それで株價が實質以下に下つてゐるものを探せばなほ興味もある。

東洋紡績株式会社

(本社) 大阪市北区堂島濱通二ノ八(電北 一六〇七)

【強味】當社の第一の強味は内容の優秀なことだ。借金は少しもないし、一方積立金の如きは本年上期末に六千七百萬圓餘に上り拂込金を超えること一千百三十七萬圓に及ぶ状態である。更に資産の部にも相當の含みがある。當社の實質を以つてすれば綿業不況が多少續いても別段憂ふる必要はない。

【業績安定】業績も亦順調で本年上期の計上利益は一千五十三萬圓、その利益率は三割七分餘を示して居る。これで一割八分配當だから利益處分も例の如く堅實なものだ。綿業不振のため實際の利益は一と頃の好調期から見れば減少して居るが、然し先づ大體順調な成績が維持されて居る。この下期も不安なくほゞ上期程度の成績には達する見込みだ。

今後の事業擴張は、綿紡の朝鮮、北支への進出、毛絲の増設、染色加工の擴張、人織事業への着手等々に亘つて居る。人織は新たに山口縣岩國に工場を設置し、規模は差當り日産二十疋で明年上期中には完成の豫定だ。これらの擴張によつて収益力は増大し業績は更に安定性を加へることにならう。

【配當安全】一割八分配當は十分繼續しうる。増税の影響も不安視するに當らない。寧ろ拂込徴收を期待していいと思ふ。

鐘淵紡績株式会社

(本社) 東京市向島區隅田町二ノ一六二(電隅田 三〇一三)
(營業所) 神戸市林田區御崎町一丁目(電兵庫 三〇)

【拂込問題】當社の拂込徴收は時期の問題である。たゞ何時徴收するかといふ點になると、津田社長の方寸にあることで一寸推斷出来ない。然し本年上期の考課状を見ると借金は約四千萬圓も急増して居り、而かも擴張計畫から言つてなほ相當の資金を要する。それ故當社の金融状態から見れば拂込徴收は遠くない様に思はれる。が一方現在の營業状態は必ずしもさう樂でない様だ。そこで結局拂込は、徴收後も二割五分配當が十分維持出来る時期まで延ばすのではないかと想像される。拂込徴收期が接近しつつあることは事實だが、この所一寸注意を要する。

【業績】最近の計上利益は少しづつ減つてゐるが、實際の成績も一時ほど良くない様だ。尤も本年上期の計上利益は八百八十九萬圓で利益率四割五分だから二割五分配當の繼續に何ら問題ないが、決算が従来に較べや、裕りを失ひつゝあることは否定されない。然し今後はどうかと言ふに別段悲觀する要はない。といふのは最近の業績低下の一つには未働資本の壓迫が大きいためであるが、今後は擴張の完成により収益力の増加が期待されるからだ。

【配當】二割五分といふ高率だが、當局者は繼續する方針であり、また今後の収益力から言つても當分動かす必要はあるまい。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正三年六月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 紡績、織機、人絹、毛絲、絹布、絹紡織、ステール・フアイバー |
| 【資本金】 | 公稱 五〇〇萬圓 拂込 五〇〇萬圓 |
| 【株数】 | 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 |
| 【役員】 | (會長) 阿部房太郎(社長) 庄司乙吉(專務) 伊藤七郎、種田健藏、岡本三郎、谷口豊三郎、中山秀一、土屋喜太郎、作川錦太郎、澤重保、川口正雄、(監査) 河部彦太郎、齋藤恒一、山邊清亮、神野金之助、九鬼校七 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、七九七名 伊藤七三三〇 千代田生命三、七三〇 三井物産 一、八〇〇 尾形喜兵衛三、六七〇 豊島中七三三三 日本生命三、七三〇 野村生命二、〇〇〇 後藤安太郎二、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 綿紡績機(一、六六三) 絹紡績機(一、六六三) 織機(一、六六三) 天枝毛機(一、六六三) 人絹機(一、六六三) 天枝毛機(一、六六三) |
| 【生産高】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 平均着手 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【平均着手】 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【株主】 | 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 |
| 【投資会社】 | 裕豐紡績、福徳染工場 |
| 【資本異動】 | 九月和泉紡績合併に決定。 |

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治十九年十一月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 紡績、織機、毛紡、生絲、東洋製紙、人絹、製糖、加工、其他 |
| 【資本金】 | 公稱 五〇〇萬圓 拂込 五〇〇萬圓 |
| 【株数】 | 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 |
| 【役員】 | 社長 津田 信吾 監査 野崎 廣太 常務 城戸 孝吉 室田 義文 三宅 孝太 中上 三郎 取締役 名取 和作 前山 久吉 中村 幸康 染谷 實治 丸山 幸康 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、二六六名 第一生命 三、〇〇〇 三井物産 三、〇〇〇 明治生命 三、〇〇〇 廣徳興業 三、〇〇〇 山一證券 三、〇〇〇 後藤信太郎 三、〇〇〇 千代田生命 三、〇〇〇 川崎貯蓄 三、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 綿紡績機(一、〇〇〇) 絹紡績機(一、〇〇〇) 織機(一、〇〇〇) 天枝毛機(一、〇〇〇) 人絹機(一、〇〇〇) 天枝毛機(一、〇〇〇) |
| 【生産高】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 平均着手 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【平均着手】 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【株主】 | 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 新(五〇〇) 五〇〇,〇〇〇 |
| 【投資会社】 | 裕豐紡績、福徳染工場 |
| 【資本異動】 | 九月和泉紡績合併に決定。 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 【資産負債】 | 五十年 五十二年 |
| 株主資本 | 三、七三三 三、七三三 |
| 外部負債 | 三、七三三 三、七三三 |
| 使用總資本 | 七、四六六 七、四六六 |
| 固定資産 | 七、四六六 七、四六六 |
| 流動資産 | 〇 〇 |
| 現金預金 | 〇 〇 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 |
| 收入 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 利益 | 〇 〇 〇 〇 |
| 【配當】 | 一割八分 一割八分 |
| 【名義書換】 | 十 十 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 【資産負債】 | 六十年 六十二年 |
| 株主資本 | 三、七三三 三、七三三 |
| 外部負債 | 三、七三三 三、七三三 |
| 使用總資本 | 七、四六六 七、四六六 |
| 固定資産 | 七、四六六 七、四六六 |
| 流動資産 | 〇 〇 |
| 現金預金 | 〇 〇 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 |
| 收入 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 利益 | 〇 〇 〇 〇 |
| 【配當】 | 一割八分 一割八分 |
| 【名義書換】 | 十 十 |

大日本紡績株式会社

(本社) 兵庫縣尼崎市東本町一ノ五〇
(営業所) 大阪市東區安土町二ノ三〇(電本町三二一五)

【増資決定】資本金五千二百萬圓を、五千八百萬圓増の一億二千萬圓とすることに決定した。増資方法は新株百十六萬株のうち百四萬株を此の十月一日現在の株主に舊株一對新株一の割合で割當て、残り十二萬株は六萬株づつ、折半して、一半は功勞株とし他は九月四日公募した。公募価格は卅三圓均一で申込は即日締切つた。この外「大日本修濟會」の割當株三萬株は取扱證券業者で引受けた。第一回拂込は四分の一で、期日は来る十月廿六日。

【増資理由】この増資の第一の目的は増配に代へるためであり、次は擴張資金調達のためである。當社の一割二分配當は實質以下の低率配當でありかねて増配が懸案となつてゐたが、時節柄増配は思はしくないもので、増資といふ方法を選んだのだ。擴張計畫の主なるものは綿紡、人織、染色加工等であるが、これにも相當の資金を要する。尤も擴張資金は手許でも賄へる、がさうすれば手許資金が薄くなるので増資で資金を調達しようといふ譯だ。

【配當】増資の意味が右の如くだから、増資の結果減配する様なことはなく、現在一割二分配當の持続は可能だ。現に業績も良好だし、今後の擴張による利益も期待されよう。また増配のため配當に支障を來たす様なことはない筈である。株價は割安。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治二十二年六月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績、絹紡、絹布、羊毛製品 |
| 【資本金】 | 資本金 5,000,000 準備金 1,000,000 公積金 3,000,000 |
| 【株主】 | 社長 菊池 善三 常務 小寺 源吾 取締役 野村菊之助 今村 奇男 三村 和義 倉田 重三 伊藤 萬助 田代 重三 岩田宗太郎 松村 清成 辰田 悦藏 本吹利之助 池田 耕三 大島 茂 原田 忠雄 |
| 【大株主】 | 株主總數 6,666名 大日本紡績 1,000,000 田代重三 1,000,000 矢野清兵衛 1,000,000 伊藤 萬助 1,000,000 岩田宗太郎 1,000,000 伊藤 萬助 1,000,000 岩田宗太郎 1,000,000 伊藤 萬助 1,000,000 岩田宗太郎 1,000,000 |
| 【事業規模】 | (一) 十一年五月末現在 綿紡績 1,200,000、捻絲機 2,000、織機 2,000、絹毛織機 1,000、加工工場 3,000、人造纖維機 1,000 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 綿紡績 1,200,000、捻絲機 2,000、織機 2,000、絹毛織機 1,000、加工工場 3,000、人造纖維機 1,000 |
| 【資本金】 | 資本金 5,000,000 準備金 1,000,000 公積金 3,000,000 |
| 【株主】 | 株主總數 6,666名 大日本紡績 1,000,000 田代重三 1,000,000 矢野清兵衛 1,000,000 伊藤 萬助 1,000,000 岩田宗太郎 1,000,000 伊藤 萬助 1,000,000 岩田宗太郎 1,000,000 伊藤 萬助 1,000,000 岩田宗太郎 1,000,000 |

| | |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 外部負債 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 固定負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |

日清紡績株式會社

(本社) 東京市東區龜戸町二ノ七八
(事務所) 東京市日本橋區浪花町二〇(電浪花二三三)

【業績】去る五月末締切の十一年上期は前期よりも可成り業績低下し、配當は前期の一割二分を据置いたとはいふもの、利益金は二百二十萬三千圓で前期に比し三十一萬圓の減少、利益率は二割二分三厘となつて前期に較べると三分一厘の低下であつた。最好調の九年下期に比較すると業績悪化は相當目立つてゐる。此の點東洋紡や大日本が殆ど毎期變らぬ利益金を計上し、或は増益を發表してゐるのに較べると遙かに見劣りがするのは否めぬが、上期の一割二分配當据置きに無理があるわけではない。

【内容】利益金の社内保留率は四三%九で、前期の五〇%一から見ると、六%二方の低下ではあるが、然し此の社内保留率はさう悪いものではない。固定資産の償却も前期より二十五萬圓減じたが、土地を含めた固定資産(内地工場のみ)に對して十四、五ヶ年賦だから悪いとは云へない。

【好轉】當社は中系中心會社だが、六月以來中系の採算が好轉してゐるので自然成績良く、この下期は尠くとも上期程度の利益を擧げ得るから減配の懸念はない。子會社日清レーヨンも漸く本格的經營期に入つた。再減配懸念、宮島社長引退のデマで一時は八十三圓弱まで賣叩かれたが、八十圓臺は勿論下り過ぎ。

| | | | |
|--------|--|--------|--|
| 【設立】 | 明治四十年二月 | 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績及綿織布 | 【資本金】 | 公稱 七〇〇〇〇〇 實收 一、九七五〇〇 |
| 【株数】 | 新 一〇〇〇〇〇 舊 一〇〇〇〇〇 | 【重役】 | 社長 宮島清太郎 常務 鷺尾勇平 取締役 岡田社四郎 山本信三 西村傳八 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、九七五名 明治生命 三〇〇〇〇 中島伊平 三〇〇〇〇 宮島清太郎 二〇〇〇〇 文水廣徳會社 二〇〇〇〇 千代田生命 二〇〇〇〇 山田 借成 一〇〇〇〇 川崎野澤 七〇〇〇 岡田社四郎 九〇〇〇 川崎野澤 七〇〇〇 | 【事業規模】 | 十年上 十年下 十年上 精紡績(圓) 三三、三三三 織績(圓) 二、二二二 機織(圓) 一、一一一 糸織(圓) 一、一一一 平均番手 三〇、三〇〇 綿布(圓) 一〇〇、〇〇〇 原棉(圓) 一〇〇、〇〇〇 原棉(圓) 一〇〇、〇〇〇 原棉(圓) 一〇〇、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 中野電力、日新染布、東亞製麻、日清レーヨン、青島電氣 | 【資産負債】 | 五十一年 十一月 五十一 株主資本 五〇〇〇〇〇 外部負債 八〇〇〇〇〇 支拂手形 一〇〇〇〇〇 使用總資本 六八〇〇〇〇 固定資産 三三〇〇〇〇 流動資産 三五〇〇〇〇 現金預金 一〇〇〇〇〇 |
| 【株主】 | 株主總數 一、九七五名 中野合資會社 九〇〇〇 川部利兵衛 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 大庄商店 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 | 【収支】 | 十年上 十年下 十年上 收入 一〇〇〇〇〇 支出 一〇〇〇〇〇 利益 一〇〇〇〇 配當 一〇〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 綿生(圓) 一〇〇〇〇〇 平均番手 三〇、三〇〇 加工月産千疋 一〇〇〇〇 加工月産千疋 一〇〇〇〇 加工月産千疋 一〇〇〇〇 | 【配當】 | 十年上 十年下 十年上 一割二分 一割二分 一割二分 |
| 【名義書換】 | 五 新券文附 二十 | 【利息】 | 九月一日 七分一厘 六月三厘 |

内外綿株式會社

(本社) 大阪市北區堂島北町四一(電北 二〇一三)

【好成績】當社は良好なる成績を續けて居り、近年の利益率は二割二、三分を下つたことがない。殊に本年上期の成績は頗る良く利益金は三百三十一萬圓、利益率は二割七分一厘に達した。近年稀に見る好成績だつた譯である。然し増益は凡て錯却に向け、配當は一割二分を据置いた。自然餘裕綽々たる決算だつた。本年上期の成績がかく良好であつたのは、安値原棉を手持してゐた頃支那の綿業界が昨秋の幣制改革後活況を呈したからである。

【下期】来る十一月締切りの下期も引續き好成績をあげうる込みだ。一時市況はや、停滞氣味であつたが、最近概して順調に経過してゐるし、それに下期も安値の手持原棉がまだ相當ある。更に今年支那の棉花が豐作の豫想なので、今後は安い棉が使へる。また當社の有力な収益源泉をなして居る染色加工もよい。それ故下期も樂觀して可なりで裕々現配當を据置ける。

【積立巨額】當社は在支紡中の優秀會社で、内容は頗る充實して居る。所謂借金は少しもないし、他方積立金が一千九百萬圓餘に上つてゐるので株主資本の合計は拂込金の二倍に達して居る。資産内容も概して良好だ。支那のことだから將來色々問題も起きようが、當社の實質を以つてすれば、前途も不安ない。

| | | | |
|--------|--|--------|--|
| 【設立】 | 明治二十年九月 | 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績、綿織布加工 | 【資本金】 | 公稱 三〇〇〇〇〇 實收 三〇〇〇〇〇 |
| 【株数】 | 新 三〇〇〇〇 舊 三〇〇〇〇 | 【重役】 | 専務 佐々木國藏 常務 岡田大郎 取締役 山口幸三郎 阿部大郎 監査 牛田虎之助 天木繁三郎 中野高三郎 大西喜一 川部利兵衛 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、九七五名 中野合資會社 九〇〇〇 川部利兵衛 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 大庄商店 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 | 【事業規模】 | 十年上 十年下 十年上 精紡績(圓) 三三、三三三 織績(圓) 二、二二二 機織(圓) 一、一一一 糸織(圓) 一、一一一 平均番手 三〇、三〇〇 綿布(圓) 一〇〇、〇〇〇 原棉(圓) 一〇〇、〇〇〇 原棉(圓) 一〇〇、〇〇〇 原棉(圓) 一〇〇、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 中野電力、日新染布、東亞製麻、日清レーヨン、青島電氣 | 【資産負債】 | 五十一年 十一月 五十一 株主資本 五〇〇〇〇〇 外部負債 八〇〇〇〇〇 支拂手形 一〇〇〇〇〇 使用總資本 六八〇〇〇〇 固定資産 三三〇〇〇〇 流動資産 三五〇〇〇〇 現金預金 一〇〇〇〇〇 |
| 【株主】 | 株主總數 一、九七五名 中野合資會社 九〇〇〇 川部利兵衛 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 大庄商店 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 阿部大郎 三〇〇〇 天木繁三郎 三〇〇〇 | 【収支】 | 十年上 十年下 十年上 收入 一〇〇〇〇〇 支出 一〇〇〇〇〇 利益 一〇〇〇〇 配當 一〇〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 綿生(圓) 一〇〇〇〇 平均番手 三〇、三〇〇 加工月産千疋 一〇〇〇 加工月産千疋 一〇〇〇 加工月産千疋 一〇〇〇 | 【配當】 | 十年上 十年下 十年上 一割二分 一割二分 一割二分 |
| 【名義書換】 | 五 新券文附 二十 | 【利息】 | 九月一日 七分一厘 六月三厘 |

倉敷紡績株式会社

(本社) 岡山府倉敷市元町四七ノ四 (電倉敷一〇)
(出張所) 大阪市西區江戶橋北通一丁目 (電土佐堀三)

【上期減配】倉敷紡は本年上期の配當を二分減の一割とした。營業成績は悪くなかつたが、倉敷絹織の減配で配當收入が少し減り、また経費も若干増加したので、全體の成績は昨年同期より更に低下した。それに當社の一割二分配當は既にやゝ窮屈だつたので、この上期の減配は先づ至當である。

【内容】内容は近年可なり見直した。先年所有の倉絹株と三豐紡織株とを賣却して得た巨額の處分益で内容改善を行つたのである。但し良くなつたと言つても、従來と較べてのこと、他の優良會社に比較するとなほ遜色がある。資産内容は寧ろ良いが、借金が比較的多く本年上期末に於いても社債が九百七十萬圓もある。

【擴張】本年上期に姉妹會社倉敷毛織と又新紡績とを買收の形式で合併した。倉敷毛織は倉敷紡が毛織事業に進出するため創立したもので、まだ本格的に利益をあげるに至つてゐないが、將來性はある。更に當社では九月より人織紡績をも行ふことになつた。

【配當措置可能】當下期は、主業の綿紡が上期より良く、人織紡績の利益もあるため、一割配當の繼續に問題はない。それに當社は原棉手當に成功し、相當値上り益がある。下期計上利益は内輪に止められやうが、それだけ今後の一割配當は樂になる。

錦華紡績株式会社

(本社) 金澤市大豆田新町一 (電三、三〇)
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル (電北濱 七七)

【特徴】錦華紡は吳羽紡に次いで急發展した會社で、その設備は優秀であり、内容また良好である。設備が優秀なるため自然コストが安くこの點は當社の大きな強味だ。例へば資産負債の内容を見ても、固定資産は紡機一錘當り三十一圓といふ低評價であり、一方借金は無い。一流大紡績から見ると勿論まだ見劣りのする所はあるが、然し相當不況抵抗力を持つて居ると言つてよい。

【子會社】當社は事業の多角化を自社で行はず、主として別會社を創立してやつてゐる。錦華人絹、錦華毛絲等がそれである。而してこれら傍系會社の事業もほゞ成功して居り、錦華人絹は本年上期五分の初配當をつけた。錦華毛絲はまだ配當する迄になつてゐないが、本年上期は利益率一割一分五分に上つた。兩社共に配當しても、それが、五六分程度なら錦華紡の配當收入はさ程ではないが、投資會社の成功しつゝあるのは注意されてよい。

【配當】當社の業績は綿業不振のため最近やゝ悪くなつてゐるが、それでも本年上期の利益率は二割餘で、一割配當の措置にはなほ十分な裕りあつた。下期も綿糸の値上りで引續き相當の成績を維持し得る筈である。二割配當繼續に問題はない。株價の利廻りは七分以上になつてゐるが、割安である。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治二十一年三月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 綿紡績及絹織布 |
| 【資本金】 | 公稱 1,000,000 新(舊) 1,000,000 |
| 【株数】 | 新(舊) 100,000 |
| 【重役】 | 社長 大原孫三郎 取締役 石原得一 常務 神田吉 監査 水瀬又七 取締役 林桂三郎 監査 小林益太郎 取締役 原澄治 監査 小島益太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,000名 大原孫三郎 8,000 中國銀行 10,000 岡山商事 8,000 清手保太郎 5,000 直村和三郎 4,000 三宅 金作 4,000 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 綿紡績(一) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 綿紡績(二) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 平均番手 1,000 1,000 1,000 1,000 綿布生産(千疋) 1,000 1,000 1,000 1,000 原棉消費(千疋) 1,000 1,000 1,000 1,000 原棉消費(千疋) 1,000 1,000 1,000 1,000 原料費(千圓) 1,000 1,000 1,000 1,000 |
| 【投資會社】 | 倉敷絹織、倉敷毛織 |
| 【資本異動】 | 十一年三月又新紡績、倉敷毛織を買收 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 六十牌 六十牌 六十牌 |
| 株主資本 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 社債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 収入 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正六年六月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績及絹織布 |
| 【資本金】 | 公稱 1,000,000 新(舊) 1,000,000 |
| 【株数】 | 新(舊) 100,000 |
| 【重役】 | 社長 佐藤大郎 取締役 中島理一 常務 加藤正吉 監査 川畑恒二 取締役 高島伊作 監査 酒井宗吉 取締役 増田義一 監査 門田道助 取締役 西野幸作 監査 門田秀 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,000名 江代田生命 7,000 西野幸作 7,000 千代田生命 7,000 望月太郎 7,000 望月玉三 7,000 帝國生命 7,000 佐藤大郎 7,000 進九 7,000 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 綿紡績(一) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 綿紡績(二) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 平均番手 1,000 1,000 1,000 1,000 綿布生産(千疋) 1,000 1,000 1,000 1,000 原棉消費(千疋) 1,000 1,000 1,000 1,000 原棉消費(千疋) 1,000 1,000 1,000 1,000 原料費(千圓) 1,000 1,000 1,000 1,000 |
| 【投資會社】 | 錦華人絹、錦華毛絲 |
| 【資本異動】 | 九年十二月三、七、十圓増資 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五十牌 五十牌 五十牌 |
| 株主資本 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 社債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 固定資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 収入 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

吳羽紡績株式會社

(本社) 大阪市東區安土町二ノ五(電話本町五)

【配當安全】當社の本年上期成績は、利益金約百五十萬圓、利率二割六分八厘で、昨年同期と大差なかつた。配當は一割二分を据置いたがなほ餘裕ある決算である。當下期も大體上期程度の利益がある見込みだ。現行配當は引續き問題なく踏襲出来る。

【強味】當社が近年好成绩を示して居るのは、相次ぐ擴張によつて収益基礎が増大したことによるが、同時に當社の強味とする低生産費の効果が與つて力ある。生産費の安いのは、設備が優秀であると共に、工場が北陸にあるので電力費、勞働等の點に於いて有利な條件を持つてゐるからだ。たゞ當社は近年の擴張費を賄ふに拂込、社債平均主義をとつて來た關係上借金が比較的多く、現在一千萬圓の社債を持つて居る。但し其他の點に於いては内容上別段問題がなく概して良好だ。

【擴張】綿紡は目下増設進行中のものが年内には完成の豫定であり、今後は専ら人絹に主力を注ぐ筈だ。人絹工場は龍山(兵庫縣)及び宮崎に敷地を買収してあり、龍山では既に目下日産八萬を建設中で本年中には完成の見込みである。建設費は約四百萬圓。【拂込】右の建設費調達のため、近く拂込徴收を行ふのではないかと思ふ。昨今の株價八十三、四圓揃みはまだ安い。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 昭和四年七月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績、綿織布、加工 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 拂込 2,100,000 |
| 【株数】 | 新 100,000 舊 21,000 |
| 【重役】 | 社長 伊藤忠兵衛 取締役 小島 逸平 事務 井上富三 取締役 伊藤竹之助 取締役 泉 久七 監査 早川 隆三 豊田利三郎 山田 昌作 大林 義雄 古橋 林司 田中 榮八郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 3,125名 伊藤忠兵衛 2,000 松岡 潤吉 7,000 小島 逸平 7,000 伊藤竹之助 6,000 豊島 久七 6,000 豊島 牛七 5,000 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 二十年上 綿紡績 3,000 天 天 天 天 天 加工月産 1,000 天 天 天 天 天 工場 吳羽、龍野、井波、大門 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 二十年上 綿紡績 1,000 天 天 天 天 天 平均番手 天 天 天 天 天 綿布生産 天 天 天 天 天 加工品 天 天 天 天 天 實業費(天) 天 天 天 天 天 |
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 五十年 株主資本 5,000,000 天 天 天 外部負債 6,000,000 天 天 天 支拂手形 10,000,000 天 天 天 流動資産 10,000,000 天 天 天 現金預金 10,000,000 天 天 天 |
| 【配當】 | 十年上 十年下 二十年上 配當率 10% 天 天 天 配當額 1,000,000 天 天 天 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分五厘 時價 新 100 天 天 天 時價 舊 100 天 天 天 |
| 【名義書換】 | 十 續【新券交付】五十續 |

福島紡績株式會社

(本社) 大阪市北區玉江町二ノ三(電土佐堀 二二二)

【業績】當社の配當は二割で、紡績會社中績紡に次ぐ高率配當である。本年上期の成績は利益金百四十萬圓、利率三割五分餘で、昭和八年頃より可なり低下してゐるのに配當は引續き二割据置きたから、それだけ決算に餘裕の乏しくなつたことは否定されない。然し利率三割五分と言ふ會社はさう多くはなく、依然相當の成績と言つてよい。またこれ、二割配當なら別に無理でない。本年下期の成績も不安なく、殊に棉花の買付けに成功してゐるのて利益金は上期程度或ひはそれ以上に、達する模様だ。従つて配當は据置きと見てよい。

【内容】當社の強味は内容の優れてゐることだ。本年上期末に於いて外部負債は僅かに百二十萬圓に過ぎず、而かも一方積立金の如きは、一千三百五十萬圓に達し、拂込資本より五百五十萬圓も多い。過去に蓄積に努めて來たお蔭であるが、高利率率を維持してゐるのも一つにはかゝる基礎があるからだ。また資産内容も良好である。たゞ當社には經營に積極性を缺く憾みがある。

【將來配當】綿業不振の折柄であり、殊に發展性に乏しい當社で二割といふ高配當が何時迄續けられるかといふことには一應疑問も持たれる。然しその永續性は問題としても當分不安ない様だ。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治三十五年八月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績及綿織布 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 拂込 8,000,000 |
| 【株数】 | 新 100,000 舊 80,000 |
| 【重役】 | 社長 八代祐太郎 取締役 内海 靜太郎 取締役 野村 徳七 監査 河盛 勲太郎 八代 武次 彦坂 萬太郎 古市 宣三 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,125名 八代祐太郎 2,000 河盛勲太郎 2,000 野村 徳七 1,000 江口 治郎 6,000 大橋 善平治 5,000 野村 銀行 5,000 八代 尚二 5,000 松浦 恭一 5,000 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 二十年上 綿紡績 1,000 天 天 天 天 天 機織 1,000 天 天 天 天 天 工場所在地 龍山、堺、笠岡、倉吉 福島、姫路、龍野 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 二十年上 綿紡績 1,000 天 天 天 天 天 平均番手 天 天 天 天 天 綿布生産 天 天 天 天 天 原棉消費 天 天 天 天 天 原棉消費(天) 天 天 天 天 天 營業費(天) 天 天 天 天 天 |
| 【投資會社】 | 福島人絹 滿洲綿紡 福島紡績 |
| 【資本與動】 | 十年五月新株第四回五目拂込徴收(金額 100,000) |
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 五十年 株主資本 5,000,000 天 天 天 外部負債 6,000,000 天 天 天 支拂手形 10,000,000 天 天 天 流動資産 10,000,000 天 天 天 現金預金 10,000,000 天 天 天 |
| 【配當】 | 十年上 十年下 二十年上 配當率 20% 天 天 天 配當額 2,000,000 天 天 天 |
| 【利息】 | 九月一日調 六分 時價 新 100 天 天 天 時價 舊 100 天 天 天 |
| 【名義書換】 | 十 續【新券交付】三十續 |

岸和田紡績株式會社

(本社) 大阪府岸和田市北町九五三(電岸和田三〇一三三)
(營業所) 大阪市東區北久太郎町寺田ビル内(電本船場三〇一三三)

【業績低下】最近の成績は一向より可なり悪い。本年上期の利益金は八十三萬圓、利益率二割二分八厘であつたが、これで配當は一割五分を据置いたから、決算の裕りも少くなつた。利益の社内保留率は三割餘に過ぎず、固定資産銷却廿萬圓は銷却年限二十八年賦といふ状態だ。固定資産は從來銷却に努めた結果相當割安になつてゐるので、今日銷却を減らしても強ち非難するに當らぬが、とに角決算が窮屈になつて来たことは争はれぬ。

【内容は良】但し内容は依然良好である。借金は少しもないし、他方本年上期末の株主資本二千二百萬圓餘のうち積立金が一千二百四十萬圓で過半を占めて居る。即ち資産は殆んど自己資本を以つて賄つてゐる譯だ。資産内容も大體良い。たゞ生産費がやゝ割高の缺點があり、積立金が多い割合に對拂込資本利益率が高くないのは主としてこのためと見られる。尤も本年上期に新設大垣工場の精紡機六萬餘、燃糸機二萬餘が全部完成したので、從來の割高な生産費も幾らか訂正されよう。

【配當置置窮屈】當下期の成績は大體上期と大差なく、配當は据置けよう。然し既に上期の決算に於いて一割五分配當は聊か窮屈だし、下期据置くとしても其後とも安定性があるとは言へない。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治二十五年十一月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 綿紡績及綿織布 |
| 【資本金】 | 公稱 六、七〇〇、〇〇〇 新 三、三〇〇、〇〇〇 |
| 【株数】 | 公稱 七、七〇〇、〇〇〇 新 三、三〇〇、〇〇〇 |
| 【役員】 | 社長 寺田 甚吉 取締役 寺田元之助 常務 山田宗三郎 監査 竹原友三郎 常務 小田利三郎 金納源十郎 取締役 寺田 榮吉 杉田 宗助 |
| 【大株主】 | 株主總數 二、七〇〇名 寺田合名 九、九三三 佐野紡績 二、〇〇〇 寺田 宗助 三、〇〇〇 岸和 三、〇〇〇 寺田 千代 八、七〇〇 金納源十郎 六、〇〇〇 和泉銀行 四、〇〇〇 廣海三三郎 三、〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 精紡機(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 織機(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 工場所在地 岸和田市二工場 大垣市 津市 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 精紡機(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 平均番手 三三 三三 三三 三三 綿布生産(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 原綿消費(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 原綿消費費(圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 賣上高(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 原料費(圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 岸和田人絹、泉州織物、佐野紡績 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 六月 十一月 六月 |
| 株主資本 | 三、七〇〇、〇〇〇 三、七〇〇、〇〇〇 三、七〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 |
| 收入 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 二、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 六分八厘 新 三、三三三 利息 五分八厘 |
| 【名義書換】 | 十 續【新券交付】三十續 |

天満織物株式會社

(本社) 大阪市旭區毛馬町一〇三ノ一(電堀川五三三)
(營業所) 大阪市北區中之島二丁目二五江商ビル(電北濱三〇一三三)

【決算良】業界不振のため成績は最近毎期少しづつ悪くなつてゐるが、然し八分配當ではなほ余裕たつぶりの決算を行つて居る。例へば本年上期の利益率は、低下したと言へ二割一分六厘で、利益の六割近くは社内に保留されて居る。社内保留を厚くして居るのは内容改善のためもあるが、この堅實決算は買つてよい。

【擴張】當社も近年の擴張は顯著な方で、本年上期末の精紡機換算機数は二十五萬六千餘となり、六年上期末に比較すると約十三割といふ増加だ。同時に紡機の大部分はハイドラフト化し、現在ハイドラフト化せぬものは約一割見當に止る。更に目下新に高知工場を建設中で、その規模は紡機約六萬餘、完成は今年末の予定である。建設費約三百萬圓は昨年の拂込と手許資金とで賄へる。

【内容】かくて當社の設備は可なり面目を改めて来たが、内容に於いては借金が比較的多く(主なるものは社債五百萬圓)、また固定資産の如きもやうやく時價並みになつた程度に過ぎない。之からなほ相當の改善を要する。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治二十年三月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績、綿織布 |
| 【資本金】 | 公稱 一〇、〇〇〇、〇〇〇 新 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株数】 | 公稱 一〇、〇〇〇、〇〇〇 新 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【役員】 | 社長 野田吉兵衛 取締役 江南要太郎 専務 尾上 金吉 監査 岡島 綱雄 取締役 竹村清次郎 田附政次郎 取締役 中田安治郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、三〇〇名 江村 信一 九、〇〇〇 野田同業會社 二、〇〇〇 竹村 清次郎 七、〇〇〇 野田商店 七、〇〇〇 田附政次郎 三、〇〇〇 野田吉兵衛 三、〇〇〇 楠瀬 好教 三、〇〇〇 野澤 清三 三、〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 精紡機(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 織機(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 工場所在地 大阪府旭區毛馬町 大府府豊能郡豊津村 富山縣上新川郡大澤野村 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 精紡機(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 平均番手 三三 三三 三三 三三 綿布生産(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 原綿消費(噸) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 原綿消費費(圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 賣上高(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 原料費(圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 年十月第二回拂込十二圓五枚收 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 |
| 株主資本 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 |
| 收入 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 七分六厘 新 三、三三三 利息 七分四厘 |
| 【名義書換】 | 十 續【新券交付】三十續 |

出雲製織株式會社

(本社) 島根縣松江市町一九〇〇
(營業所) 大阪市東區船場後町三ノ八(電本町三三三)

【業績】 本年上期の利益率は二割七分七厘で、昨年上、下兩期より更に低下した。配當は一割据置きである。然し右の成績で一割配當なら依然堅實と言つてよい。社内保留率は六割四分に達し、また固定資産銷却年限は十四年賦余に當るから無難である。

【人絹進捗】 當社は最近綿紡の擴張を一應打切り、人絹に主力を注いで居る。人絹工場は島根縣高津町にあり、本年上期末に四千錘が完成した。更に目下擴張中で来る十月末には七千錘、十一月末には一萬錘に達する予定だ。經費は右一萬錘に對し約五百萬圓余りで足りる由だが、既に上期中に約三百四十萬圓を支出してあるので、あと約百六十萬圓あればよい。擴張は人絹だけでなく、人絹及びその紡績をも目論んで居る。

【拂込】 然し當社の手許資金は僅かしかないので、今後の擴張費は借金か拂込によらねばならぬ。當局者は差當り借金で賄ふ意向だが、既に借金も相當あるので、今後の見透しさへつけば拂込徴収も具體化して来るだらう。

【配當】 當下期の綿紡の成績は上期に大差ない模様だ。人絹も漸次收益期に入つて来たが、この利益は銷却に向ければ大して残るまい。然し全體の成績は悪くないので、配當は繼續可能。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正九年一月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績、綿織布、人絹 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000 拂込 10,000 |
| 【株数】 | 新(11,111) 11,000 |
| 【重役】 | 社長 穴道政一郎 取締役 米益清一 専務 穴道寛一 監査 森山茂太郎 取締役 四方田保 飯田重之助 横尾孝之亮 佐藤眞 取締役 緒原武太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,426名 穴道政一郎 8,000 八雲證券 8,000 穴道寛一 1,000 松江銀行 7,000 中野會太郎 7,000 出雲電氣 3,000 四方田保 3,000 大高 盛敏 3,000 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 綿紡績(機) 3,800 1,200 1,200 1,200 綿紡績(錘) 3,800 1,200 1,200 1,200 人絹工場(機) 1,000 1,000 1,000 1,000 今市工場(島根縣松江市町) 穴道工場(島根縣八束郡穴道町) 人絹(五尾(島根縣石見郡五尾町)) |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 綿紡績(機) 3,800 1,200 1,200 1,200 平均番手 37.5 37.5 37.5 37.5 綿紡績(錘) 3,800 1,200 1,200 1,200 實績(益) 1,000 1,000 1,000 1,000 營業費(一) 1,000 1,000 1,000 1,000 |
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 十一月 株主資本 6,600 6,600 6,600 6,600 外部負債 4,400 4,400 4,400 4,400 社債 4,400 4,400 4,400 4,400 借入金等 1,000 1,000 1,000 1,000 使用總資本 11,000 11,000 11,000 11,000 固定資産 6,000 6,000 6,000 6,000 流動資産 5,000 5,000 5,000 5,000 ×現金預金 1,000 1,000 1,000 1,000 ×印中(には有價證券を含む) |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 收入 1,000 1,000 1,000 1,000 支出 1,000 1,000 1,000 1,000 前却年率 100% 100% 100% 100% |
| 【利息】 | 十一月 九月一日調 九分四厘 時間 新 1,000 利息 八分三厘 |
| 【名義書換】 | 十 錢【新券交付】五十錢 |

名古屋紡績株式會社

(本社) 名古屋南區八軒町字上新谷二三八八(電南二〇〇)

【決算窮届】 當社は賣絲一本の會社で織物は行つてゐない。従つて織布兼營會社の様な弾力性が無い。本年上期の成績は昨年同期と大差なく、利益金三十二萬七千圓、利益率一割一分七厘であつた。減配を懸念されて居たが、さう悪い成績でなかつたので配當は六分を据置いた。然し乍ら當社の實質から見れば決算は決して余裕あるものではない。利益の社内保留率は四割二分でこの限り少いとは言へぬが、固定資産銷却金は昨年同期と同様僅か十萬圓で四十年賦といふ長期銷却である。近年銷却に努めて来たのであるが、最近また逆轉してしまつた譯だ。

【内容】 内容も、一と頃から見ると随分見直したが、なほ改善の余地が多い。例へば本年上期末に固定資産の評価は紡機換算一錘當り五十三圓でやつと時價並みである。それに借金も社債が四百萬圓あり、規模から言つて少い方ではない。

【配當維持不確實】 来る十一月締切の下期成績は、上期並みにはなり相だ。小規模ながら最近人絹紡績も手をつけてゐる。尤もこの方からの利益は知れて居よう。然し全體として上期程度の成績とすると六分配當は出来るが、依然裕りのある決算とは言へぬ。下期据置いてもその先きは六分配當を續け得るかはや疑問だ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正七年三月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績 |
| 【資本金】 | 公稱 5,000 拂込 5,000 |
| 【株数】 | いろいろ(5,000) 5,000 |
| 【重役】 | 社長 下出 民義 取締役 田中 備一 専務 阿部利七郎 監査 磯貝 清 常務 上川勲太郎 下出 重喜 市島 三郎 取締役 中野四郎太 太田 三郎 下出 重喜 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,796名 江島 商店 3,000 阿部利七郎 2,000 小島 商店 3,000 中野 組 2,000 下出 重喜 3,000 尾坪 常吉 2,000 仁壽生命 3,000 上川勲太郎 2,000 松葉合名 3,000 波山 孝三 2,000 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 綿紡績(機) 2,000 1,000 1,000 1,000 綿紡績(錘) 2,000 1,000 1,000 1,000 工場所在地 名古屋南區千種町高見 名古屋市沼津山下 福島縣郡山市長者町 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 綿紡績(機) 2,000 1,000 1,000 1,000 平均番手 37.5 37.5 37.5 37.5 原棉消費(千貫) 2,000 2,000 2,000 2,000 實績(益) 600 600 600 600 營業費(一) 100 100 100 100 |
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 十一月 株主資本 5,000 5,000 5,000 5,000 外部負債 0 0 0 0 社債 0 0 0 0 借入金等 0 0 0 0 使用總資本 5,000 5,000 5,000 5,000 固定資産 5,000 5,000 5,000 5,000 流動資産 0 0 0 0 ×現金預金 0 0 0 0 |
| 【利息】 | 十一月 九月一日調 六分 時間 新 1,000 利息 八分二厘 |
| 【名義書換】 | 五 錢【新券交付】五十錢 |

和歌山紡織株式會社

(本社) 和歌山市傳法橋南ノ町一(電話一五)

【無配繼續】當社は昨年同期に四分配當より再び無配に陥つたが、去る六月末締切りの本年上期も無配を繼續した。この期の利益金は僅か六萬四千圓足らずで、昨年同期より五萬二千圓減、更に同上期から見ると十七萬六千圓の激減である。利益率は昨年同期の九分二厘から同下期四分五厘、本年上期には更に僅か二分五厘といふ状態となつた。これでは配當を行はうにも行へない。

【弱點】こんなに成績が舉げられないのは、無論業界不振のためであるが、同時に當社の内容がよくなく、設備能率の悪いことも見逃せない。工場は近年増設改善に依つて大分良くなつては來たが、現在ある三工場は何れも經濟單位に達せず、何かにつけて不利を免れない。資産負債内容も一と頃から見る可なり見直して居るけれど、まだ改善の余地が多い。殊に從來銷却不足であつた、め固定資産の割合が比較的多く、その評價も最近やよくなつて一錘當りやうやく五十圓一寸といふ所である。

【將來】成績は今後も急には良くならないだらう。綿業界は最近や、落着き模様にあるが、前途はまだ手放しの樂觀も出來ない。來る十二月期も大した利益は望めず、無配繼續の外あるまい。立直りは當分困難と云ふ外ない。

| | |
|---------|---|
| 【設立】 | 明治二十六年二月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 綿紡績、綿織布 |
| 【資本金】 | 株式總數 100,000株 資本金 100,000圓 |
| 【株數】 | 100,000株 |
| 【重役】 | 社長 川口 義安 取締役 吉村友之進 専務 南 俊一 監査 遠藤 美之助 取締役 大堀 徳之丞 本多 徳之助 高橋 彦兵衛 桑田 虎太郎 土生 信一 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,262名 南 俊一 1,200名 帶谷 吉次郎 500名 川口 義安 400名 森 久兵衛 300名 南 幸夫 300名 岡本 英二郎 300名 南 操 300名 中村 合名 300名 竹中 源助 200名 土橋 平次郎 200名 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 十年上 綿紡績 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 平均番手 100支 100支 100支 綿織布 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 平均番手 100支 100支 100支 原料消費 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 營業經費 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 |
| 【工場所在地】 | 和歌山市傳法橋南ノ町 和歌山市中ノ島 和歌山市有田町其島町 同 五箇目 |
| 【資産負債】 | 六十月 六十月 六十月 株主資本 6,000 6,000 6,000 外部負債 4,000 4,000 4,000 借入金 1,000 1,000 1,000 支拂手形 1,000 1,000 1,000 使用總資本 10,000 10,000 10,000 流動資産 10,000 10,000 10,000 現金預金 10,000 10,000 10,000 【收支勘定】 十年上 十年下 十年上 收入 10,000 10,000 10,000 支出 10,000 10,000 10,000 【利益】 十年上 十年下 十年上 利益 10,000 10,000 10,000 【名義書換】 十 十 十 |

近江帆布株式會社

(本社) 滋賀縣蒲生郡八幡町大字宮内二〇九(電話八〇〇〇)

【上期無配】當社は本年上期の配當を、從來の七分より一舉無配とした。發表された成績を見るとたしかに悪く、利益金は僅か十四萬圓餘で、昨年同期の利益金四十萬圓臺に比すれば著しい減少である。その上去年一月五十萬圓の拂込を徴収した關係もあり、本年上期の對平均拂込資本利益率は僅か四分四厘に急低下した。この成績では無配も止むを得ない所だ。

【實績】然し本年上期の成績が實際これ程悪かつたことは思へぬ。不振だつたことは事實だが、實際の利益は三十萬圓前後あつた模様だ。すると七分はともかく、五分配當位は出來た筈だ。

【無配理由】にも拘らず一舉無配としたのは、實は目下新設中の宇和島工場(精紡機約六萬錘)の建設費の残額がなほ約三、四十萬圓要るが、手許には殆んど餘分の資金がなく、利益金を出來るだけ内部に保留して右建設費に充てようといふ澤だ。尤も保留益だけでは間に合はず當局者は不足分は更に借金による意向である。

【復配期】宇和島新工場の完成は來る十月頃だからこの下期には大して役立たない。従つて下期の成績には期待出來ず、配當も無配を繼續するだらう。然し明年上期にはこの新工場が本格的に働くので、利益も幾らか増し、低率配當なら出來るかと思ふ。

| | |
|---------|---|
| 【設立】 | 明治三十年四月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 綿紡績、綿織布、帆布 |
| 【資本金】 | 株式總數 100,000株 資本金 100,000圓 |
| 【株數】 | 100,000株 |
| 【重役】 | 社長 森五郎兵衛 常務 西川 仁右衛門 専務 島田 善男 中野 五郎兵衛 小守 利兵衛 監査 小澤 七兵衛 西川 嘉重 小西 梅三 河部 市太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,262名 森五郎兵衛 6,000名 小澤 七兵衛 5,000名 西川 嘉重 3,000名 森 謙治 3,000名 辻井 亮太郎 2,000名 西川 仁右衛門 2,000名 小澤 幸三 2,000名 酒井 宗太郎 2,000名 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 十年上 精紡機 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 精織機 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 織機 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 工場 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 |
| 【工場所在地】 | 八幡工場(帆布) 彦根工場(精紡) 三坂工場(精織) 宇和島(建設中) |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 平均番手 100支 100支 100支 綿紡績 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 原料消費 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 營業經費 1,000,000圓 1,000,000圓 1,000,000圓 |
| 【資産負債】 | 五十月 五十月 五十月 株主資本 8,000 8,000 8,000 外部負債 2,000 2,000 2,000 借入金 1,000 1,000 1,000 支拂手形 1,000 1,000 1,000 使用總資本 10,000 10,000 10,000 流動資産 10,000 10,000 10,000 現金預金 10,000 10,000 10,000 【收支勘定】 十年上 十年下 十年上 收入 10,000 10,000 10,000 支出 10,000 10,000 10,000 【利益】 十年上 十年下 十年上 利益 10,000 10,000 10,000 【名義書換】 十 十 十 |

旭紡織株式会社

(本社) 東京市日本橋區室町二丁目四(電日本橋 三三三一五)

【上期減配】十一年上期は業界不振で利益金十三萬八千圓に過ぎず、前期より四萬七千圓、前々期より六萬三千圓を減じた。利益率も一割臺を割つて九分二厘に止り、遂に二分減配の五分配當とした。償却は僅か四萬九千圓で、土地を除く固定資産四百七十四萬圓に對して四八・四ヶ年賦に當る。

【社債返済】然し勤銀から五分五厘借入金二百四十五萬圓の融通を受けることに成功し、六月二十日七分利社債二百三十五萬圓を返済した。これで毎半年期一萬五千圓程利拂は軽減されるし、問題の高利債も一應形がついたわけだ。

【下期】今年下期の綿糸生産高は前期と大差なく一萬一千捆見當である。そのうち賣糸は七割を占めて居り、平均番手は三〇手位だ。紡糸から十一萬圓、織布から一萬八千圓の益金は出るから、雑収入を合して前期程度の利益には達する。外に利息負擔の軽減があるから、結局決算は幾分樂になるであらう。ステープル・ファイバーの混紡を研究中だがまだ製品を市販するに至るかどうかは判らなう。

【株價】二十五圓拂込のものが十一圓掘みまで賣叩かれてゐる。五分配當として一割以上の高利廻だが、やむを得まい。

【設立】大正八年十一月

【決算期】五月、十一月

【事業】綿紡績及織布

【資本金】公稱 六〇〇〇

【株數】(一〇〇) 100,000

【重役】

會長 渡邊 周

専務 市川 濟一

常務 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

取締役 藤村 辰三

【資産負債】

株主資本

外部負債

社債

支拂手形

使用總資本

固定資産

流動資産

現金預金

【收支勘定】

收入

支出

【業績】

【株價】

【豫想配當】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

朝鮮紡織株式會社

(本社) 朝鮮釜山府凡一町七〇〇(電釜山四四〇五)
(出張所) 東京市豊町區丸の内一ノ六ノ二(電丸ノ内 四六六)

【大紡績進出と當社】東洋紡、鐘紡等の内地大紡績の朝鮮進出が當社の前途に如何なる影響を與へるか、相當注目されてゐたが、この點として問題視するには當らぬ様である。大紡績が朝鮮に進出するに至つたのは低コストが獲られると云ふ理由から丈だ。第一に深夜業の制限ないこと、第二に紡績聯合會の操短を受けないこと、第三に賃銀低廉なること等がそれである。ところでこれら大紡績の製品は、一部朝鮮向のものもあるが、大部分は海外向である。朝鮮に於ける激越な競争の不安はなく、大紡績も亦市價維持に努力してゐる。従つて當社への影響といへば品ガスの妙味がなくなつた程度であつて、一概に前途を不安視するには當らぬであらう。

【業績】十一年上期の利益は五十四萬六千圓、利益率二割一分八厘で一割配當を据置いた。二、三期前よりかなり利益は減つたが、窮屈な決算ではない。續く下期は稍好轉が望まれそうだ。綿糸布益五十餘萬圓、織綿、人絹兩事業で十萬圓、傍糸營口紡からの配當收入五萬圓、合計して六十五萬圓以上の利益は出る。以前から營口紡擴張のための増資が問題とされてゐるが、來期中には實現の運びとなるであらう。

【設立】大正六年十一月

【決算期】五月、十一月

【事業】綿紡、織布、加工、人絹織物

【資本金】公稱 100,000

【株數】(1000) 100,000

【重役】

常務 原安三郎

専務 齊藤吉十郎

常務 小室 利吉

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

取締役 松野 鶴平

【資産負債】

株主資本

外部負債

社債

支拂手形

使用總資本

固定資産

流動資産

現金預金

【收支勘定】

收入

支出

【業績】

【株價】

【豫想配當】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

【名義書換】

足利紡績株式会社

(本社) 東京市日本橋区芳町二丁目(電字塔町 五三六)

【借金整理】昨年三月と八月に一株當り各々五圓宛、總額百萬圓の拂込を徴收し、一方債権者側にも譲歩してもらつて、借金整理を行つた。當社は昭和九年頃二百七十萬圓前後の外部負債を負ふてゐたが、その大口のものと云へば創立當時の高物價時代に三井物産から買入れた機械の借金百六十萬圓であつた。これを整理したのである。そして六十萬圓ばかりの整理金は割高な固定資産の償却に振向けられた。従つて支拂利息も激減し、以前には半期六、七萬圓、綿糸一捆當り十五、六圓にも及んでゐた利息負擔は十一年上期には一萬六千圓、捆當り三圓餘となつた。

【業績】尤も業績の振はざるに甚しい。十一年上期の利益は四萬圓に過ぎず、不振の前期より更に五千圓を減じた。最も多く利益を擧げた九年上期に比すれば五分の一以下に激減した。一方相次ぐ拂込徴收を行つた結果拂込資本は増加してゐるので上期利益率の如きは二分九厘といふ貧弱さだ。然るにその上期も前期同様繰越金で埋合はせて無理に五分配當を繼續した。續くこの下期は綿糸出來高四千八百捆見當だが、綿布は採算が悪化してゐるので幾分減る模様だ。利益は上期より幾分多しとしても大したことはないまい。決算に手心を加へても減配或は無配は避けられまい。

| | | | |
|--------|-----------------|---------|---|
| 【設立】 | 大正八年十二月 | 【資本】 | 公稱 五,000 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 | 【株数】 | 公稱 100,000 |
| 【事業】 | 綿紡績及綿織布 | 【重役】 | 社長 岩原 謙三 取締役 内田 清三、芳野 萬太郎、大橋 新太郎、監査 鈴木 敏夫、根津 嘉一郎、坂井 隆三 |
| 【大株主】 | 株主總數 七三名 | 【工場所在地】 | 栃木縣足利郡山邊村八幡 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 | 【貸付】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【貸付】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 | 【配當】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【配當】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 | 【名義書換】 | 十 十 十 |

明正紡織株式会社

(本社) 大阪市東淀川区三津屋新町(電北三三三)

【業績低下】最近の業績低下は覆ひ得ず、十年上期迄數期間の利益率は三割乃至四割台であつたのが、昨年同期では二割八分七厘となり、更に本年上期では一割九分七厘に低下した。本年上期の利益率が急低下したのは拂込増加にもよるが、主因はやはり綿業界不振のためである。一割配當の据置きは別に無理ではないが、決算に從來の様な余裕はなくなつた。

【新事業】然し前途は敢へて悲觀を要しない。今後は既設事業の増設、改善の効果が見込まれるし、更に有望なのは新事業として人織紡績を始めたからである。既に新設中の人織紡績用紡機三萬錘は殆んど完成した。原料のステープル・ファイバーは姉妹會社明正レイヨンから買ふことになつてゐる。此の新事業はまだ下期には本格的利益をあげる事に致らないが、相當綿紡の不振を補ふことが出来よう。更に今後はこの人織紡績を擴張する計畫だ。

【内容】それに内容も大體に於いて良好である。借金が少々あるがそれも社債二百萬圓ばかりであり、また一錘當り固定資産の如きも約三十五圓位で一流紡績並みだ。

【配當】當下期成績は綿紡は僅々上期程度だが、これに人織紡績の利益も幾分加はる。一割配當はなほ繼續出來る見込みである。

| | | | |
|--------|-----------------|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十五年五月 | 【資本】 | 公稱 五,000 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 | 【株数】 | 公稱 100,000 |
| 【事業】 | 綿紡績、綿織布 | 【重役】 | 社長 文平 聖堂、吳 啓藩、常務 根本 精一、松井 萬一、取締役 山本 發太郎、高田 象一、石川 知足 |
| 【大株主】 | 株主總數 四三名 | 【工場】 | 大阪市東淀川区三津屋新町、同 西淀川区佃町、同 愛媛縣宇摩郡三島町、同 宇摩郡川之江町 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 | 【貸付】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【貸付】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 | 【配當】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【配當】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 | 【名義書換】 | 十 十 十 |

第二帝國人絹株式会社

(本社) 大阪市北區中之島二ノ二五江商ビル内(電本三六)

【強味】當社は人絹事業に経験の深い帝人の子會社である關係上、色々の便宜を得てゐる。工場建設・製造技術・販賣等皆帝人まかせである。それに工場が新しいのだから能率は頗るよい。自然製造原價が安くなる道理である。

【上期実績】當社の錘数は現在二萬錘となつてゐるが、操業開始は去る三月で當時の錘数は一萬五千錘であつた。従て四月締切りの上期成績は殆んど問題でなかつた。

【下期初配】然し来る十月末に締切る下期の生産高は六萬兩と押へられる。原價は帝人三原工場より寧ろ安いと言はれる位だから、兩當り二十圓位の利益は見込んでよからう。すると下期の利益は百二十萬圓と言ふことになる。利益率は二割四分である。當然配當が問題になつて来る。固定資産償却を何れ位にするかによつて配當率も違つて来るが、大體八分から一割迄の間に決定するものと見てよからう。

【合併問題】一部では當社が帝人へ早急に合併するやうにみてゐるが、主腦者はそれを否定してゐる。事實當社の収益状態からみると、まだ合併の時機でないようだ。第二帝人と帝人の合併問題はもうしばらく静觀する方が無難だと思ふ。

【設立】昭和九年九月

【決算期】四月、十月

【事業】人絹製造

【資本金】公 10,000
株 10,000

【株数】(株) 1,000

【重役】社長 桑 逸三 取締役 大橋 正 吉岡 正 水田 清太 吉岡 正 大橋 久一 監査 東川 善房 大屋 晋三 岡室 成和 壽人

【大株主】株主總數 60名
帝人絹業(株) 10,000 野村銀行(株) 10,000 竹中イテニ(株) 10,000 野村合名(株) 10,000 藤本(株) 10,000 日本生命(株) 10,000 富田(株) 10,000 長崎(株) 10,000 川崎信託(株) 10,000 松尾善二(株) 10,000

【事業規模】工場所在地 廣島縣三原町 設備能力 二萬錘

【關係會社】帝國人絹の子會社

【資本異動】昭和十年十月第二回拂込十一圓五枚收

【資産負債】四十一年 十一年 十一年

株主資本 3,860 3,860 3,860

外部負債 3,860 3,860 3,860

使用總資本 7,720 7,720 7,720

固定資産 1,000 1,000 1,000

流動資産 6,720 6,720 6,720

現金預金 4,000 4,000 4,000

【收支勘定】十年上 十年下 十一年上

收入 100 100 100

支出 100 100 100

【業績】十年上 十年下 十一年上

利益 100 100 100

【株價】(實價) 高値 安値

【豫想配當】十一年十月期 八分

【利息】九月一日調 利息三分四厘

【名義書換】十 錢【新券交付】三十錢

倉敷絹織株式会社

(本社) 岡山縣倉敷市元町四九七ノ四 (營業所) 大阪市東區今橋三愛信ビル(電北濱六五七)

【業績低下】當社の成績も最近低下し、本年上期の利益金は三十四萬四千圓で利益率は二割一分だ。前期に較べ利益金は七十八萬七千圓減、利益率は一割五厘の急低下に當る。人絹絲價の低落のため減益した所へ拂込資本が膨脹したからである。當社は昨年十一月に姉妹會社中國レイヨン(資本金二千萬圓・内五百萬圓拂込)を對等條件で合併したので上期の拂込資本は三千萬圓となつたが、中國レイヨンの工場(岡山)は建設中で合併資本金は丸々負擔となつたのだ。そこで上期に六分と言ふ大巾減配を斷行して一割四分配當に改めた。

【内容】右の如く成績は急低下を免れなかつたが、内容は依然良好である。例へば固定資産の適當評價は三十萬圓足らずで相變らず新界唯一の低評價となつてゐる。

【下期再減配】下期は人絹界の好轉で業績は盛り返すものと期待される。然し當社は上期に於いてまだ減配不足であつたし、統制強化は商工省の肝入りで行はれ、對社會的關係などを考慮する必要もある。下期にもう一・二分の減配は止むを得ぬであらう。一割二・三分の配當なら絲價が六十圓台になれば當社の能力からみて將來略々不安なく持續可能とみられる。

【設立】大正十五年六月

【決算期】五月、十一月

【事業】ウイスコース人絹製造

【資本金】公 10,000
株 10,000

【株数】(株) 1,000

【重役】社長 大原孫三郎 取締役 柿原 得一 常務 藤田 三郎 吉岡 正 水田 清太 大橋 久一 監査 東川 善房 大屋 晋三 岡室 成和 壽人

【大株主】株主總數 60名
倉敷紡績(株) 10,000 大原孫三郎(株) 10,000 住友合資(株) 10,000 中國銀行(株) 10,000 大株代(株) 10,000 住友友友(株) 10,000 久光 傳一(株) 10,000 住友化學(株) 10,000

【事業規模】工場所在地 倉敷市外、愛媛縣新居濱 人絹日産能力 10,000 擴張計畫 四國四條工場 岡山工場 スタイプル・ファイバー

【生産高】十年上 十年下 十一年上
人絹(株) 10,000 10,000 10,000
資本異動 十年十一月中國レイヨンを合併三千萬圓増資

【資産負債】五十一年 十一年 十一年

株主資本 5,000 5,000 5,000

外部負債 5,000 5,000 5,000

使用總資本 10,000 10,000 10,000

固定資産 1,000 1,000 1,000

流動資産 9,000 9,000 9,000

現金預金 5,000 5,000 5,000

【收支勘定】十年上 十年下 十一年上

收入 100 100 100

支出 100 100 100

【業績】十年上 十年下 十一年上

利益 100 100 100

【株價】(實價) 高値 安値

【豫想配當】十一年十一月期 一割二分

【利息】九月一日調 利息六分

【名義書換】十 錢【新券交付】五十錢

旭ベンベルグ絹絲株式會社

(本社) 大阪市北區宗室町一(電土佐場 四三三)

【強味】當社はベンベルグ絹絲を主としレイヨンを製造してゐるが、これ等の製造に要する原料、材料はバルブと棉を除いたほか、電力から薬品に至るまで一切自給してゐる。この點當社の強味である。

【業績不振】業績は他社同様最近は矢張り低下してゐる。ベンベルグ絹絲は特殊な立場にあるが、レイヨンが悪るいのでそれに連れて當社の業績も低下せざるをえない。本年上期の利益金は三百六十八千圓で前期より約四十五萬圓を減じた。償却金を六十萬圓減らして一割配當を据置いたが、随分苦しい決算であつた。

【下期成績】下期は概算四百一、二十萬圓の利益が見込れる。拂込資本に對し二割二、三分の利益率となる。かゝる成績とすれば上期よりも多少余裕のある一割配當がやれる譯だ。償却本位の決算をやるとすれば、むしろ減配は免れないことになるが、當局者は一割を据置くだらう。

【人織に邁出】尙ほ當社は天津工場をステイブル・ファイバーに轉換した。操業早々だから確かなことは言はれぬが、下期邊りから若干の収益が期待されるものと見てよい。之が本業に寄與するようになれば、更に決算は多少の余裕を加へる筈だ。

東洋レイヨン株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町三井物産内(電日本橋 三三三)
(事務所) 滋賀縣大津市石山北大路町(電大津 一三二一)

【上期減配理由】本年上期の利益は二百二十九萬圓、對拂込資本利益率二割二分九厘で、配當据置可能の成績であつたが、當時業界の見透が不冴であつたのと、倉敷、帝人兩大會社の減配に歩調を合はせるのが、當社將來のためでもあるので、三分減配の一割二分配當とした。

【下期】四月に全運轉を開始した石山第三工場日産二十噸を加へ、下期は日産七十噸の生産能力だ。尤も三割五分の操短を行つてゐるから、人絹生産數量は十八萬圓見當である。兩當り利益は上期約十四圓であつたが、六月中旬電力七キロの自給新設備が完成したから、それだけコストの低下が期待される。一方採みに採んだ人絹統制問題もケリがついて相場は下値に乏しくなつた。差詰め下期の兩當り利益を十四、五圓としても總益金二百六十萬圓は見込めるわけだ。これだけで上期より好成績で、當然一割二分配當は維持出来るが、外に人織五噸の製出をやつてゐるから、これから半年二十萬圓見當の利益が出る。

【子會社新設】東洋綿花と共同出資で人絹製造會社「東洋絹織」を創立。投資資金は借金で賄ひ拂込徴収は直ぐはやらぬ。が、新會社の當社持株は總て公開されやう。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十一年五月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | レイヨンの製造、人絹 |
| 【資本金】 | 公稱 100,000 払込 100,000 |
| 【株数】 | 新 10,000 公 10,000 |
| 【役員】 | (社長) 野口達(常務) 堀尾三郎 (取締役) 市川誠次、堀尾俊一、復原直三郎、上田五郎、堀尾俊一、藤田直三郎、モリア、(監査) 堀尾次郎、藤生傳、金田榮太郎、木島敏三郎、コンラート・ヘルマン |
| 【大株主】 | 株主總數 1,126名 日本郵政 1,000名、野口達 100名、アルゲメーネ・クンズジエ・ウニエ會社 100名、アンシエタッド・レイヨン・コボレシヨーン 100名、ゼー・ビー・ベンベルグ 100名、イー・デー・ファルベン・インダストリー 100名 |
| 【事業規模】 | 生産能力 レイヨンの製造 100噸 人絹の製造 100噸 無水アンモニア會社 100噸 苛性苛性(日産) 100噸 合成繊維(日産) 100噸 |
| 【生産高】 | 十年上 10,000 十年下 10,000 十年上 10,000 十年下 10,000 |
| 【投資會社】 | 旭染工、旭絹織 |
| 【資本異動】 | 十年九月一二圓五拂込徴収 |

| | |
|--------|--|
| 【資産負債】 | 十月 十一月 十二月 |
| 株主資本 | 100,000 100,000 100,000 |
| 外部負債 | 20,000 20,000 20,000 |
| 社債 | 10,000 10,000 10,000 |
| 借入金 | 10,000 10,000 10,000 |
| 使用總資本 | 130,000 130,000 130,000 |
| 固定資産 | 100,000 100,000 100,000 |
| 流動資産 | 30,000 30,000 30,000 |
| 現金預金 | 10,000 10,000 10,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 10,000 十年下 10,000 十年上 10,000 十年下 10,000 |
| 【株價】 | 新 100 高 120 安 80 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分一厘 新天〇 六分六厘 |
| 【名義書換】 | 十 續【新券交付】五十續 |

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十五年一月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | レイヨンの製造、人絹 |
| 【資本金】 | 公稱 100,000 払込 100,000 |
| 【株数】 | 新 10,000 公 10,000 |
| 【役員】 | (社長) 安川雄之助(取締役) 佐木精 専務 幸島 浩 常務 井上 治、石田 謙助 若林卯三郎、監査 武村貞一郎 取締役 小澤武、岡田 省風 平田篤太郎、秋庭 義清 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,126名 三井物産 1,000名、東洋銀行 1,000名 帝國生命 1,000名、三井生命 1,000名 第一生命 1,000名、愛國生命 1,000名 三井生命 1,000名、千代田生命 1,000名 仁壽生命 1,000名、日華生命 1,000名 |
| 【事業規模】 | 工場 石山工場 大津市石山北大路町 生産能力 日産 70噸 |
| 【事業成績】 | 石山第三工場四月完成(日産20噸) 十年上 10,000 十年下 10,000 十年上 10,000 十年下 10,000 |
| 【投資會社】 | レイヨンの製造、東洋絹織 |
| 【資本異動】 | 十年三月新株一二圓五拂込徴収 |

| | |
|--------|--|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 十二月 |
| 株主資本 | 100,000 100,000 100,000 |
| 外部負債 | 20,000 20,000 20,000 |
| 社債 | 10,000 10,000 10,000 |
| 借入金 | 10,000 10,000 10,000 |
| 使用總資本 | 130,000 130,000 130,000 |
| 固定資産 | 100,000 100,000 100,000 |
| 流動資産 | 30,000 30,000 30,000 |
| 現金預金 | 10,000 10,000 10,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 10,000 十年下 10,000 十年上 10,000 十年下 10,000 |
| 【株價】 | 新 100 高 120 安 80 |
| 【利息】 | 九月一日調 二分 時價新天〇 四分二厘 |
| 【名義書換】 | 十 續【新券交付】五十續 |

日本レイヨン株式会社

(本社) 京都府久世郡宇治町 (電字治 101)
(営業所) 大阪市東區安土町二丁目 (電本町三三三)

【擴張完了】 當社は從來能力の過少に悩んで来たが、それも去る四月の岡崎第二工場擴張完了で解消した。去る三月に一千五百萬圓を増資して三千萬圓の資本金に改めたが、此の増資拂込金を右岡崎工場の擴張費に充當した譯だ。これで當社の能力は約三萬三千錘(日産四十七噸余)となつたのである。

【業績良好】 一般に人相會社の今年上期成績は悪るかつたにも拘らず、當社の成績は却つて向上してゐる。擴張能力が働き出したので生産高は増加し、同時に、製造原價が安くなつたからだ。従つて賣値が下つたけれども、それを補つて尙ほ増益を見たのである。即ち上期の利益金は二百二十七萬四千圓で前期より約四十九萬圓の増益に當り、利益率は五分一厘を向上してゐる。配當は前期同様一割を据置いたから決算はかなり余裕を加へて来た。

【二割據置】 下期の豫想利益は大體二百三十萬圓見當である。増資拂込金があつて来るから利益率は二割四、五分に低下するが、一割配當は略々不安なく持續可能の見込みだ。それに當社は休錘分をステイブル・ファイバー製造に振向けてゐる。現在はまだ日産四・五噸程度であるが、之を年内には十噸から十五噸位に擴張する方針である。今後はこの利益も加はらう。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正十五年三月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | ウイスコース人絹製造販賣 |
| 【資本金】 | 公稱 三〇〇〇〇〇 拂込 一八〇〇〇〇 |
| 【株数】 | 新 舊 (株) 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 菊地 恭三 取締役 宇野賢一郎 常務 菊地 文吾 監査 伊藤 萬助 宮野源一郎 若田宗太郎 取締役 藤本元之助 今村 奇男 松村 隆成 岡部 正三 小寺 源吾 森田 丁也 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、八三三名 仁壽生命三、〇〇〇 大日本紡績三、三三三 朝池 文吾二、三三三 伊藤 萬助一、〇〇〇 第一 鐵兵 〇、〇〇〇 上山勲太郎 〇、〇〇〇 安達 英雄 〇、〇〇〇 龜岡徳太郎 〇、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場並生産能力 宇治工場 日産 三、〇〇〇 岡崎第一工場 〇、〇〇〇 岡崎第二工場 〇、〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 生産高(噸) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 利益(圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【資本異動】 | 九年十月、同年十二月十個各拂込 徴收、十一年四月、〇〇千圓を増資、 新株第一回拂込十二個五徴收 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 |
| 株主資本 | 一六、〇〇〇 一六、〇〇〇 一六、〇〇〇 |
| 外部負債 | 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 三三、〇〇〇 三三、〇〇〇 三三、〇〇〇 |
| 流動資産 | 一六、〇〇〇 一六、〇〇〇 一六、〇〇〇 |
| 現金預金 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 支出 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 利益 六分七厘 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 五十 |

東京人造絹絲株式會社

(本社) 東京市淺草區駒形一ノノ一 (電淺草 三〇〇一)

【妙味は人絹】 當社では嘗て人絹事業擴張の豫定で買収済みとなつてゐた沼津の新工場敷地八萬坪を、急據ステイブル・ファイバー事業に充てることとなり、九月早々着手した。右は全體で日産五十噸計畫、第一期二十五噸といふ大掛りなもので、この第一期の工事完成期は來年三、四月頃になる。

【建設費】 右設備には當局者の計畫によると適當に僅かに十三萬圓を要するに過ぎない。この計畫通りに行くとすれば正に劃期的なものだが、尙分新しい試み丈に品質について若干の疑問は残る。併し資金には心配ないやうだ。二十噸設備には三百餘萬圓要るが、これは四分三厘社債を以つて賄ふ。

【豫想利益】 人絹百封度當り十圓の利益、歩留九二%として二十五噸設備では半期九十一萬圓の利益が出る。利息負擔半期七萬圓を減しても尙ほ八十四萬圓が残り、現在の拂込資本六百萬圓に對比すれば二割八分の高収益率だ。差詰めこの下期と明年上期の業績には寄與しないが、前途に妙味を加へた譯だ。

【下期】 それに、之迄減配を重ねて来たが、今下期は稍好轉の見込みだ。操短で生産數量は減るが、高級人絹の生産に力を入れ、又休錘分をファイバー生産に宛てたからだ。配當は据置の筈。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正十五年四月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | ウイスコース人絹 |
| 【資本金】 | 公稱 六、〇〇〇 拂込済 六、〇〇〇 |
| 【株数】 | 〇〇〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 町田徳之助 監査 愛房重太郎 常務 渡邊 豊彦 取締役 鈴木 修三 小島 喜六 相談 市橋保治郎 取締役 渡谷 正吉 前川 道平 下郷 傳平 島崎 正一 |
| 【大株主】 | 株主總數 〇、〇〇〇名 仁壽生命九、〇〇〇 町田 糸店 〇、〇〇〇 二徳商會七、〇〇〇 福井銀行六、〇〇〇 日本共立六、〇〇〇 町田徳之助五、〇〇〇 渡谷 正吉三、〇〇〇 染谷 徳重三、〇〇〇 丸岡清太郎二、五〇〇 東京 鮎 糸二、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場別能力 吉原工場(靜岡縣富士郡吉原) 〇、〇〇〇坪 工場敷地(ファイバー) 〇、〇〇〇坪 日産能力(人絹) 〇、〇〇〇噸 沼津工場(靜岡縣沼津)(計畫中) 〇、〇〇〇坪 工場敷地(ファイバー) 〇、〇〇〇坪 日産能力(ファイバー) 〇、〇〇〇噸 |
| 【生産高】 | 十年上 十年下 十年上 人絹(噸) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【資本異動】 | 九年三月五個、同年十月十個、 十年二月十五個拂込徴收 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 |
| 株主資本 | 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 |
| 外部負債 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 |
| 流動資産 | 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 |
| 現金預金 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 支出 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 利益 四分五厘 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 三十 |

三重人造絹絲株式會社

(本社) 三重縣安濃郡安東村大字觀音寺

【内容改造】當社の創立は随分古いが、業績はサッパリ振はない能力が小さく且つ良い技術家がない爲めである。そこで名古屋の豊田式織機から資本並に技術上の援助を受け、社業の挽回を計ることとし、重役陣の大改造を断行した。

【減資・増資】それと同時に、減資して不良資産を切捨て、更に本年一月には優先株を募つて増資を行ひ、資本金を二百萬圓に改めた。此の優先株は豊田式織機の重役が全部引受けたのである。これで當社は完全に豊田式織機の子會社となつた。

【業績】今年上期は整理の過渡期にあつたのでまだ業績は大して擧がらなかつた。然し此の下期にはかなり期待されるものがあると思はれる。工場設備は、豊田式織機の手ですつかり改善されてゐるから、能率も今迄のやうなものでなくなつた。のみならず、技術が良くなつてゐるので、糸も前よりは格が上つて居り、また高級絲の生産もポツポツ始めてゐる。

【理想配當】優先株には四分の配當がつけられるが、明年上期邊りになれば更に普通株に對しても四、五分位の配當復活が出来るのではないかと思ふ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十三年十月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 人絹製造 |
| 【資本金】 | 公稱 二〇〇,〇〇〇 拂込 七〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | (五〇〇) |
| 【重役】 | 社長 兼 松野 取締 益子愛太郎 常務 入谷幹之助 青木留太郎 取締役 後藤幸三 監査 田中林助 平田佐三郎 黒田忠義 野崎誠一 渡邊久三郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 一七名 金城興業 二〇〇 池田正信 二〇〇 兼松 一〇〇 入谷幹之助 一〇〇 青木留太郎 一〇〇 渡邊久三郎 一〇〇 後藤幸三 一〇〇 野崎誠一 一〇〇 益子愛太郎 一〇〇 黒田忠義 一〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 津市郊外 生産能力 日産參萬半 事業成績 十年上 一三三 十年下 一三三 製造益(千圓) 一三三 一三三 販賣益(千圓) 一三三 一三三 營業費(千圓) 一三三 一三三 |
| 【資本運動】 | 昭和九年八月四八萬圓減資 次いで一六八萬圓を増資、第一回拂込 十二圓五枚收 |

| | |
|----------|-------------|
| 【資産負債】 | 五十年 五十年 五十年 |
| 株主資本 | 三〇〇 三〇〇 三〇〇 |
| 外部負債 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 借入金 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 使用總資本 | 二〇〇 二〇〇 二〇〇 |
| 流動資産 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 支出 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 固定資産 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 消却年率 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【業績】 | 九年上 九年下 九年上 |
| 利益 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【株價】(實物) | 高値 安値 高値 安値 |
| 九八年 | 高値 安値 |
| 九九年 | 高値 安値 |
| 一〇〇年 | 高値 安値 |
| 一〇一年 | 高値 安値 |
| 一〇二年 | 高値 安値 |
| 一〇三年 | 高値 安値 |
| 一〇四年 | 高値 安値 |
| 一〇五年 | 高値 安値 |
| 一〇六年 | 高値 安値 |
| 一〇七年 | 高値 安値 |
| 一〇八年 | 高値 安値 |
| 一〇九年 | 高値 安値 |
| 一〇一〇年 | 高値 安値 |
| 一〇一一年 | 高値 安値 |
| 一〇一二年 | 高値 安値 |
| 一〇一三年 | 高値 安値 |
| 一〇一四年 | 高値 安値 |
| 一〇一五年 | 高値 安値 |
| 一〇一六年 | 高値 安値 |
| 一〇一七年 | 高値 安値 |
| 一〇一八年 | 高値 安値 |
| 一〇一九年 | 高値 安値 |
| 一〇二〇年 | 高値 安値 |
| 一〇二一年 | 高値 安値 |
| 一〇二二年 | 高値 安値 |
| 一〇二三年 | 高値 安値 |
| 一〇二四年 | 高値 安値 |
| 一〇二五年 | 高値 安値 |
| 一〇二六年 | 高値 安値 |
| 一〇二七年 | 高値 安値 |
| 一〇二八年 | 高値 安値 |
| 一〇二九年 | 高値 安値 |
| 一〇三〇年 | 高値 安値 |
| 一〇三一年 | 高値 安値 |
| 一〇三二年 | 高値 安値 |
| 一〇三三年 | 高値 安値 |
| 一〇三四年 | 高値 安値 |
| 一〇三五年 | 高値 安値 |
| 一〇三六年 | 高値 安値 |
| 一〇三七年 | 高値 安値 |
| 一〇三八年 | 高値 安値 |
| 一〇三九年 | 高値 安値 |
| 一〇四〇年 | 高値 安値 |
| 一〇四一年 | 高値 安値 |
| 一〇四二年 | 高値 安値 |
| 一〇四三年 | 高値 安値 |
| 一〇四四年 | 高値 安値 |
| 一〇四五年 | 高値 安値 |
| 一〇四六年 | 高値 安値 |
| 一〇四七年 | 高値 安値 |
| 一〇四八年 | 高値 安値 |
| 一〇四九年 | 高値 安値 |
| 一〇五〇年 | 高値 安値 |
| 一〇五一年 | 高値 安値 |
| 一〇五二年 | 高値 安値 |
| 一〇五三年 | 高値 安値 |
| 一〇五四年 | 高値 安値 |
| 一〇五五年 | 高値 安値 |
| 一〇五六年 | 高値 安値 |
| 一〇五七年 | 高値 安値 |
| 一〇五八年 | 高値 安値 |
| 一〇五九年 | 高値 安値 |
| 一〇六〇年 | 高値 安値 |
| 一〇六一年 | 高値 安値 |
| 一〇六二年 | 高値 安値 |
| 一〇六三年 | 高値 安値 |
| 一〇六四年 | 高値 安値 |
| 一〇六五年 | 高値 安値 |
| 一〇六六年 | 高値 安値 |
| 一〇六七年 | 高値 安値 |
| 一〇六八年 | 高値 安値 |
| 一〇六九年 | 高値 安値 |
| 一〇七〇年 | 高値 安値 |
| 一〇七一年 | 高値 安値 |
| 一〇七二年 | 高値 安値 |
| 一〇七三年 | 高値 安値 |
| 一〇七四年 | 高値 安値 |
| 一〇七五年 | 高値 安値 |
| 一〇七六年 | 高値 安値 |
| 一〇七七年 | 高値 安値 |
| 一〇七八年 | 高値 安値 |
| 一〇七九年 | 高値 安値 |
| 一〇八〇年 | 高値 安値 |
| 一〇八一年 | 高値 安値 |
| 一〇八二年 | 高値 安値 |
| 一〇八三年 | 高値 安値 |
| 一〇八四年 | 高値 安値 |
| 一〇八五年 | 高値 安値 |
| 一〇八六年 | 高値 安値 |
| 一〇八七年 | 高値 安値 |
| 一〇八八年 | 高値 安値 |
| 一〇八九年 | 高値 安値 |
| 一〇九〇年 | 高値 安値 |
| 一〇九一年 | 高値 安値 |
| 一〇九二年 | 高値 安値 |
| 一〇九三年 | 高値 安値 |
| 一〇九四年 | 高値 安値 |
| 一〇九五年 | 高値 安値 |
| 一〇九六年 | 高値 安値 |
| 一〇九七年 | 高値 安値 |
| 一〇九八年 | 高値 安値 |
| 一〇九九年 | 高値 安値 |
| 一〇一〇〇年 | 高値 安値 |

錦華人絹株式會社

(本社) 廣島市宇品町字一丁目一〇〇
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル(電話 北濱 五七五)

【強味】當社は錦華紡績の子會社なので、親會社錦華紡から種々援助を受けてゐる。資金の融通は勿論、一部従業員(販賣係等)も融通して貰つてゐる。比較的創業は新しいが、之等の強味が當社の成績に少なからず寄與して順調な伸展を示してゐる。

【配當開始】十年下期は末だ工場運轉開始後滿一ヶ年目に過ぎぬので成績は大してよくなかつたが、本年上期はすつかり面目を改めた。利益金は五十七萬圓を擧げ、拂込資本に對する利益率も一割九分上つた。前期に比較すると利益金は三十萬六千圓の増加、利益率は九分九厘の急向上である。そこで當社は愈々六分の初配當をつけた。

【將來】而も来る十月迄に約九千二百錘の増設を行ふ豫定であり、目下着々進行中である。之が完成すると半期生産高は五・六萬圓に上る。尤も下期はまだ擴張過渡期のため生産高は精々四萬圓見當だが、函當り利益は上期より二、三圓の増加が期待されるから、利益總額は約九十三、五萬圓を見込まれる。利益率は二割二、三分に當るから六分配當には一層餘裕を加へる筋合である。

【拂込】更に當社は日産二十五錘を目標にステイブル・ファイバ―新設の計畫中だが、資金は拂込金と借入金で賄ふ方針である。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 昭和八年二月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | ワイスコース人絹製造 |
| 【資本金】 | 公稱 一〇〇,〇〇〇 拂込 六〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | (一〇〇〇) |
| 【重役】 | 社長 佐藤清治郎 取締役 竹村清次郎 専務 藤岡 第二 監査 杉道助 取締役 酒井 宗吉 北川 大藏 加藤 正人 野野 幸作 野野 清嗣 |
| 【大株主】 | 株主總數 一〇名 錦華紡績 七〇〇 野野 合名 三〇〇 北川 同族 二〇〇 竹村清次郎 二〇〇 千代田生命 一〇〇 田村政次郎 一〇〇 竹村 信一 一〇〇 武田政太郎 一〇〇 藤岡 第二 一〇〇 佐藤清治郎 一〇〇 野野 幸作 一〇〇 野野 清嗣 一〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 廣島市宇品町 生産能力(日産) 一三〇錘 紡績機 一三〇 操業開始 十年上 十年下 十年上 操業開始 十年上 十年下 十年上 人絹(一圓) 一〇〇元 一〇〇元 一〇〇元 人絹(二圓) 一〇〇元 一〇〇元 一〇〇元 |
| 【関係會社】 | 錦華紡績の子會社 |
| 【資本運動】 | 十一年十月十圓拂込徴收の豫定。 |

| | |
|----------|-------------|
| 【資産負債】 | 四十年 四十年 四十年 |
| 株主資本 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 外部負債 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 借入金 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 使用總資本 | 二〇〇 二〇〇 二〇〇 |
| 流動資産 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 支出 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 固定資産 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 消却年率 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【業績】 | 九年上 九年下 九年上 |
| 利益 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【株價】(實物) | 高値 安値 高値 安値 |
| 九八年 | 高値 安値 |
| 九九年 | 高値 安値 |
| 一〇〇年 | 高値 安値 |
| 一〇一年 | 高値 安値 |
| 一〇二年 | 高値 安値 |
| 一〇三年 | 高値 安値 |
| 一〇四年 | 高値 安値 |
| 一〇五年 | 高値 安値 |
| 一〇六年 | 高値 安値 |
| 一〇七年 | 高値 安値 |
| 一〇八年 | 高値 安値 |
| 一〇九年 | 高値 安値 |
| 一〇一〇年 | 高値 安値 |
| 一〇一一年 | 高値 安値 |
| 一〇一二年 | 高値 安値 |
| 一〇一三年 | 高値 安値 |
| 一〇一四年 | 高値 安値 |
| 一〇一五年 | 高値 安値 |
| 一〇一六年 | 高値 安値 |
| 一〇一七年 | 高値 安値 |
| 一〇一八年 | 高値 安値 |
| 一〇一九年 | 高値 安値 |
| 一〇二〇年 | 高値 安値 |
| 一〇二一年 | 高値 安値 |
| 一〇二二年 | 高値 安値 |
| 一〇二三年 | 高値 安値 |
| 一〇二四年 | 高値 安値 |
| 一〇二五年 | 高値 安値 |
| 一〇二六年 | 高値 安値 |
| 一〇二七年 | 高値 安値 |
| 一〇二八年 | 高値 安値 |
| 一〇二九年 | 高値 安値 |
| 一〇三〇年 | 高値 安値 |
| 一〇三一年 | 高値 安値 |
| 一〇三二年 | 高値 安値 |
| 一〇三三年 | 高値 安値 |
| 一〇三四年 | 高値 安値 |
| 一〇三五年 | 高値 安値 |
| 一〇三六年 | 高値 安値 |
| 一〇三七年 | 高値 安値 |
| 一〇三八年 | 高値 安値 |
| 一〇三九年 | 高値 安値 |
| 一〇四〇年 | 高値 安値 |
| 一〇四一年 | 高値 安値 |
| 一〇四二年 | 高値 安値 |
| 一〇四三年 | 高値 安値 |
| 一〇四四年 | 高値 安値 |
| 一〇四五年 | 高値 安値 |
| 一〇四六年 | 高値 安値 |
| 一〇四七年 | 高値 安値 |
| 一〇四八年 | 高値 安値 |
| 一〇四九年 | 高値 安値 |
| 一〇五〇年 | 高値 安値 |
| 一〇五一年 | 高値 安値 |
| 一〇五二年 | 高値 安値 |
| 一〇五三年 | 高値 安値 |
| 一〇五四年 | 高値 安値 |
| 一〇五五年 | 高値 安値 |
| 一〇五六年 | 高値 安値 |
| 一〇五七年 | 高値 安値 |
| 一〇五八年 | 高値 安値 |
| 一〇五九年 | 高値 安値 |
| 一〇六〇年 | 高値 安値 |
| 一〇六一年 | 高値 安値 |
| 一〇六二年 | 高値 安値 |
| 一〇六三年 | 高値 安値 |
| 一〇六四年 | 高値 安値 |
| 一〇六五年 | 高値 安値 |
| 一〇六六年 | 高値 安値 |
| 一〇六七年 | 高値 安値 |
| 一〇六八年 | 高値 安値 |
| 一〇六九年 | 高値 安値 |
| 一〇七〇年 | 高値 安値 |
| 一〇七一年 | 高値 安値 |
| 一〇七二年 | 高値 安値 |
| 一〇七三年 | 高値 安値 |
| 一〇七四年 | 高値 安値 |
| 一〇七五年 | 高値 安値 |
| 一〇七六年 | 高値 安値 |
| 一〇七七年 | 高値 安値 |
| 一〇七八年 | 高値 安値 |
| 一〇七九年 | 高値 安値 |
| 一〇八〇年 | 高値 安値 |
| 一〇八一年 | 高値 安値 |
| 一〇八二年 | 高値 安値 |
| 一〇八三年 | 高値 安値 |
| 一〇八四年 | 高値 安値 |
| 一〇八五年 | 高値 安値 |
| 一〇八六年 | 高値 安値 |
| 一〇八七年 | 高値 安値 |
| 一〇八八年 | 高値 安値 |
| 一〇八九年 | 高値 安値 |
| 一〇九〇年 | 高値 安値 |
| 一〇九一年 | 高値 安値 |
| 一〇九二年 | 高値 安値 |
| 一〇九三年 | 高値 安値 |
| 一〇九四年 | 高値 安値 |
| 一〇九五年 | 高値 安値 |
| 一〇九六年 | 高値 安値 |
| 一〇九七年 | 高値 安値 |
| 一〇九八年 | 高値 安値 |
| 一〇九九年 | 高値 安値 |
| 一〇一〇〇年 | 高値 安値 |

昭和人造絹株式会社

(本社) 東京市京橋區寶町味の素ビル(電京橋100)

【復興】去る三月末錦の人絹工場が火災に遭つた爲暫くその製造は不可能の状態にあつたが、其後工事は着々進捗して錦工場の再興は殆ど成り、目下試運転中である。更に新設せられた高萩工場も十月末には完成期に入る。そのほか、火災を機会に種々の大擴張計畫を持つてゐる。火災前錦工場の分を込めて建設費總額は二千萬圓に上る。

【聯合會加盟】當社は今まで盟外社であつたが、増産認定に關する紛議が解決したので人絹聯合會に加盟した。そのため人絹はかなり生産制限される。錦工場の一萬二千八百錠は三割五分の休錠を行ふし、高萩工場新錠は一萬四千錠中六千錠を認められたわけである。その六千錠も加重制限の結果六割一分二厘五毛の休錠を行ふ。結局兩工場合して運轉總錠數は一萬六百四十五錠に止まる。だが人絹、ペンベルグ等への轉換が行はれる。

【今期復配】十一月期に早くも配當復活を見込めさうだ。人絹、人絹を合して四萬圓弱(人絹は百封度一兩に換算)の生産高があり、藥品、過燐酸肥料を合して七十萬圓見當の利益は出やう。すると相當償却に振向けても六、八分の配當は出来る。設備が期を通じて働く來期以降は更らに興味を増すわけだ。

【設立】昭和九年八月

【決算期】五月、十一月

【事業】ツイスコース人絹、苛性曹達、硫酸、二酸化炭素

【資本金】公稱 二、五〇〇、〇〇〇 拂込 六、〇〇〇、〇〇〇

【株数】(株) 一〇〇、〇〇〇

【役員】社長 高橋 保 取締役 河野豊太郎、伊藤 英夫、監査 石井 太吉、吉田 勇三、岡田 四郎、金成 通

【大株主】株主總數 一、五〇〇名

吉田 勇三 〇、〇〇〇 森 興 行 九、〇〇〇

廣徳興業 七、〇〇〇 鈴木三三會社 七、〇〇〇

小川 嘉彦 五、〇〇〇 高橋 保 五、〇〇〇

上田源三郎 五、〇〇〇 鈴木 平作 五、〇〇〇

【事業規模】工場所在地 福島縣石城郡楢村、茨城縣松原町高萩

生産能力(日産) 人絹 百封度、ツイスコース 一〇〇、〇〇〇

【資本異動】十年二月國光レヨン合併、資本金増資、十年十二月三圓拂込後

【資産負債】五月、十一月、五月

株主資本 一、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇

使用手形 一、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】十年上、十年下、十年上

【業績】十年上、十年下、十年上

【株價】(實物) 高値、安値

【利息】九月一日調、四分一厘

【名義書換】十、新券交付、五十、五十

新興人絹株式會社

(本社) 大阪市東區今橋四丁目一(電北濱 興空一六)

【業績好轉】當社はステープル・ファイバー専門會社である。更に岐阜には紡絲工場を持ち、全生産量の半分餘を紡絲して賣り、残りはファイバーの儘で販賣してゐる。業績は十年下期迄は赤字續きで問題にならなかつたが、本年上期には一轉して十三萬七千圓の利益を計上した。然し前より繰越された損金があり、それを埋めなければならぬ爲め配當は出来なかつた。

【擴張計畫】先般の重役會で明春迄五十萬錠擴張を決定したが、其後當分は十萬錠に止めて残りは無期延期とした。此の十萬錠は遅くも明年上期迄に完成の豫定である。之が出来ると當社の能力は既設分と合せて二十萬錠となる。之で經濟的能力となるから自然原價は低下するであらう。

【下期初配當か】現在能力日産十萬錠のうち實際運轉可能分は八萬錠である。従つて當下期の生産高は約二百萬封度と押へられる。そのうち約百五十萬封度は紡絲に向けられるわけだ。豫想利益はファイバーで約二十萬圓見當、紡絲で約十萬圓乃至十五萬圓位である(紡絲はまだ全運轉とならない)。すると下期は合計三十萬圓乃至三十五萬圓位の利益が見込まれる勘定で、利益率は一割二分から四分となる。五、六分の初配當が期待される。

【設立】昭和八年九月

【決算期】五月、十一月

【事業】ステープル・ファイバー及ファイバー、ヤーン

【資本金】公稱 一〇〇、〇〇〇 拂込 一〇〇、〇〇〇

【株数】(株) 一〇〇、〇〇〇

【役員】社長 河崎 助太郎 取締役 青木 留太郎、常務 買集 益藏、監査 石井 謙太郎、取締役 加美 好男、黒川 福三郎、伊藤 竹之助、高橋 幸三、藤井 松四郎、福本 兼之助、田村 駒治郎、河崎 省三、津田 榮太郎

【大株主】株主總數 一、七九名

新興毛織 〇、〇〇〇 木村 慶太郎 六、七三

河崎 助太郎 六、〇〇〇 賀集 益藏 四、〇〇〇

高濱 正一 三、〇〇〇 和田 八左衛門 三、〇〇〇

佐野 政視 二、八〇〇 石井 謙太郎 二、五〇〇

大橋 新太郎 二、〇〇〇 河崎 經吉 二、〇〇〇

【事業規模】工場 大竹工場 廣島(ファイバー工場)、大垣工場 大垣(紡絲工場)

生産能力(日産) ステープル・ファイバー 一〇〇、〇〇〇

【事業成績】(十年下期) 一〇、〇〇〇

【関係會社】新興毛織の子會社

【資本異動】十年十一月五圓拂込後

【資産負債】五月、十一月、五月

株主資本 一、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇

使用手形 一、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】十年上、十年下、十年上

【業績】十年上、十年下、十年上

【株價】(實物) 高値、安値

【利息】九月一日調、四分八厘

【名義書換】十、新券交付、五十、五十

東邦人造織維株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内昭和ビル(電九ノ内 三三三)
(事務所) 大阪市東區伏見町五ノ四二日本後兵衛内(電北三三三)

【設備】 當社はステープル・ファイバー専門會社で、規模は日産七廻半、ファイバーの紡絲機一萬錘で、ファイバーの内約五廻半は其のまま販賣し、約一・七廻は紡絲して販賣する筈である。ファイバーの操業を開始したのは昨年十二月からだが、紡絲機も去る四月から一部操業を始め、近く全運轉の豫定である。

【今來期】 操業早々のことから業績は未だ良くない。去る三月決算では四萬三千圓の赤字だった。此の九ヶ月も恐らく四、五萬圓の利益に止つて、未だ配當を付けるには至るまい。然し乍ら明年三月期になると經營は本格的となり、配當可能な状態が来る。

フルに運轉すれば半期二百四十萬封度見當生産されるから、内百九十萬封度をファイバーの儘で、残り五十萬封度を紡絲して賣れば、現在程度の市況なら三十萬圓程度の利益が出る。

【初配當】 そこで、固定資産償却を十ヶ年賦とし、また借入金の利拂を差引いても六萬圓の純益が出る計算となる。さうすると純益率は五分弱となり、四、五分程度の配當が附けられる。

【増設】 第二期建設設計として更に七廻半を建設する計畫があるが、恐らく明年に入つてからであらう。之には約二百萬圓を要するので、配當を付け拂込がとれる様になつてからの事と思ふ。

【設立】 昭和九年六月

【決算期】 三月、九月

【事業】 ステープル・ファイバー製造
並に紡織

【資本金】 公稱 10,000,000
拂込 2,250,000

【株数】 (三) 100,000

【重役】 社長 後宮信太郎 取締役 赤司和太郎
常務 大島 亮治 取締役 門野重九郎
笹岡 敏男 佐々木 義彦 監査 山口誠太郎

【大株主】 株主總數 欠名
後宮信太郎 5,000 赤司和太郎 5,000
大西 幸一 5,000 門野重九郎 5,000
山口誠太郎 5,000 濱口 清文 5,000
藤田 健三 5,000 中辻喜次郎 5,000
千代田生命 5,000 三宅 國隆 5,000
藤川 彌藏 5,000 大島 亮治 5,000
佐々木 義彦 5,000 佐々木 義彦 5,000

【事業規模】 工場所在地 徳島市郊外北島村
敷地 100千坪
建設費 2,750千圓
生産能力 100,000錘
精紡機 100,000錘

【資産負債】 三十月 九十月 二十月

株主資本 3,230,000 3,230,000 3,230,000
外部負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本 2,230,000 2,230,000 2,230,000
流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【收支勘定】 十年上 十年下 十年上

利支 益 出 入 (一) 六 (一) 六 (一) 六
支 益 出 入 (一) 六 (一) 六 (一) 六

【業績】 十年上 十年下 十年上
利益 1,230,000 1,230,000 1,230,000
損 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【株價】 (實物) 高値 安値
九 年 上 7.8 8.2
十 年 上 7.8 8.2
十 年 下 7.8 8.2

【理想配當】 十 年 上 無配
【利息】 九月一日調 利息一
時價 三.七
【名義書換】 十 錢 【新券交付】 五十 錢

福島人絹株式會社

(本社) 山口縣佐渡郡防府町三田尻
(營業所) 大阪市北區玉江町二(電土佐堀二)

【上期実績】 當社は十年上期に五分の初配當をつけ、以後この配當を持続してゐる。然し利益率からみると當社の五分配當はかなり窮屈だ。十年上期は一分四厘の利益率であつたが、同下期は九分九厘に低下した。十一年上期は一分六厘と稍々盛り返してはゐるけれど、配當開始當時に較べると、矢張り利益率と配當率との開きがせばまつてゐることは見逃せない。

【決算窮屈】 當社の五分配當が如何に苦しいものであるかは、償却成績をみるとハッキリ判る。十一年上期の償却年限は二十三ヶ年となつてゐる。人絹會社の償却は、理想から云へば先づ七、八年であるが、普通は十ヶ年と云ふ所であらう。此の標準から考へると當社の償却は問題外に少ない。

【配當豫想】 右の様な償却を訂正すれば五分配當は出来ない。先づ無配當が至當であらう。然し當局者は假令償却年限がどうあらうとも無配當にはせず、窮屈でも五分配當を持続する意向らしい。幸に人絹界は明朗化してゐるから、下期の成績は上期のようなことはなからう。決算の窮屈なことには變りないが、漸次償却金を増加させる望みがある譯だ。但し當社將來の爲めを思ふなら茲でキツバリ無理配當を止めることが本筋であらう。

【設立】 昭和八年三月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 人造絹糸、ステープル・ファイバー

【資本金】 公稱 10,000,000
拂込済 1,000,000

【株数】 (高) 100,000

【重役】 社長 八代祐太郎 取締役 今橋 又吉
取締役 野村 徳七 監査 山内 實
八代 武次 河盛勲太郎

【大株主】 株主總數 11名
福島紡織 100,000 八代祐太郎 10,000
野村 徳七 10,000 山内 實 10,000
八代 武次 10,000 河盛勲太郎 10,000
八代 尚二 10,000 木村信太郎 10,000
竹尾幸次郎 10,000 古市 宣三 10,000
貴志 未吉 10,000 彦坂萬太郎 10,000

【事業規模】 工場所在地 山口縣防府町
生産能力(日産) 100,000錘
人絹 100,000錘
ステープル・ファイバー (九ヶ年十月開業) 100,000錘
紡織機 100,000錘
人絹 組 100,000錘
ステープル・ファイバー (設計中) 100,000錘

【關係會社】 福島紡織の子會社
【資本異動】 九年十二月第四回拂込十圓、十年五月第五回拂込七圓五枚收

【資産負債】 五十年 十一年 五十二年

株主資本 7,800,000 7,800,000 7,800,000
外部負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本 6,800,000 6,800,000 6,800,000
流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【收支勘定】 十年上 十年下 十年上

利支 益 出 入 (一) 六 (一) 六 (一) 六
支 益 出 入 (一) 六 (一) 六 (一) 六

【業績】 十年上 十年下 十年上
利益 1,230,000 1,230,000 1,230,000
損 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【株價】 (高) 安値
八 年 1.2 1.2
九 年 1.2 1.2
十 年 1.2 1.2
十 一 年 1.2 1.2

【理想配當】 十 年 上 五分
【利息】 九月一日調 利息一
時價 一
【名義書換】 【新券交付】

日本人造羊毛株式会社

(本社) 東京市麹町区幸町大坂ビル内(電報掛 三三三)
(事務所) 大阪市南區末吉橋通日簡ビル内(電報掛 三三三)

【操業開始】 當社は創立當時ステープル・ファイバーをやる計畫だったが、これを變更して先づ人絹に着手し、次で小規模にファイバーに取りかゝつた。設備は人絹日産五匁、ファイバー日産一匁である。そして去る五月末から一部操業を開始し、八月十一日工場の始業式を行つて愈々全運轉を開始した。製品も既に七月頃からぼつぼつ出市してゐる。

【今年業績】 操業直後の事として業績は未だ良くない。去る五月份は收支差引利益金なしと云ふ決算をしたが、今期(来る十一月締切)も未だ配當を付け得る迄には至らぬだらう。今期は良く行つて二十萬圓見當の利益と思ふから、償却や借金の利拂で先づ收支トントン、乃至若干の純益が出る程度と思ふ。

【擴張】 然し現在工場を擴張してをり、来る十月末には人絹日産六匁、ファイバー五匁となる豫定で、更に明年には第二期計畫としてファイバー三十匁の工場を増設する豫定である。これには相當資金が要るが、兎も角今後には興味がある。

【配當】 當社の人絹は高級艶消品だから収益の割合も良い。ファイバー六匁の完成と相俟つて明年五月邊りになれば五、六分の配當を付け得る様になると思ふ。

岸和田人絹株式会社

(本社) 大阪市東區北久太郎町三ノ三八(電報掛 三三三)

【調點】 新設會社で、且つ能力は經濟單位以下に止り、大きな擴張をするには資金が容易に得られぬと云つた弱味がある。

【現況】 第一期に屬する三千匁は本年一月に大部分の据付けを終つて二月から一部運轉を開始……四月末に及んでやうやく全運轉をみるに至つた。第二期分に屬する四千匁は目下着々工事進行中で、遅くも十月末迄には完成の豫定である。十月を過ぎると聯合會の新増規程に防げられて不利となるからである。

【下期業績】 今期は第一期分の能力が全運轉する。操短率を考慮しても月約三千二、三百匁の生産が見込れる。半期では一萬九千匁乃至二萬匁見當と押へられる。が、増設分からは四、五千匁位しか期待されないから、合計二萬三、五千匁だ。函當りの利益は如何によく行つても十匁は困難だらう。精々五、七匁と云ふ所ではあるまいか。とすれば利益總額は十五、七萬圓だ。拂込資本に對して六、七分の利益率である。償却を考慮すると配當の如きはとて出ない相談である。

【配當の時期】 尤も明年上期には第二期増設分が動き出すから、操短率を考慮しても月約五千匁の生産高が期待される。三、五分の配當なら不可能でない。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 昭和九年七月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 高級艶消人絹、空洞人絹 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000 拂込 2,000 |
| 【株主】 | (13名) 100,000 |
| 【重役】 | 社長 金光 一夫 取締役 鈴木 伊十 常務 竹村 房吉 中根 新一 本多貞次郎 監査 佐々木 俊平 井上篤太郎 植村 俊平 洲戸 吉善 |
| 【大株主】 | 株主總數 132名 青木 一三三、三〇〇 太陽生命 三〇〇,〇〇〇 都島 茂雄 三〇〇 西井三郎 九〇,〇〇〇 長谷尾市三 八〇,〇〇〇 新井三郎 九〇,〇〇〇 金光 一夫 五〇,〇〇〇 鬼木 房夫 四〇,〇〇〇 中根 新一 三〇,〇〇〇 石川 信一 二〇,〇〇〇 新日本火災 三〇,〇〇〇 山本 信一 二〇,〇〇〇 本多貞次郎 一〇,〇〇〇 安東 直一 一〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 大分縣大分市大分豐河原 工場敷地 約 3,000坪 生産能力(日産) 約 5,000匁 人絹 |
| 【資産負債】 | 五十一年 十一年 十一年 株主資本 2,010 2,010 2,010 外部負債 1,990 1,990 1,990 使用總資本 4,000 4,000 4,000 固定資産 1,130 1,130 1,130 流動資産 2,870 2,870 2,870 現金預金 2,870 2,870 2,870 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 收入 100 100 100 支出 100 100 100 利益 0 0 0 |
| 【配當】 | 十一年十一月期 無配 九月一日調 利廻り 1 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 【新券交付】 三十 三十 三十 |

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 昭和九年七月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | ウイスクース人絹製造並販賣 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000 拂込 2,000 |
| 【株主】 | (13名) 100,000 |
| 【重役】 | 社長 寺田 善吉 取締役 寺田 善吉 常務 山田宗三郎 監査 河野 善雄 寺田 道彦 金納源十郎 取替 豊田喜一郎 小田利三郎 寺田元之助 |
| 【大株主】 | 株主總數 131名 岸和田紡績 10,000 寺田 善吉 1,000 寺田合名 八〇〇 岸村 徳平 二七〇 金納源十郎 三三〇 寺田元之助 二二〇 佐野紡績 三三〇 杉田 宗助 二〇〇 竹原友三郎 三三〇 寺田吉之助 二〇〇 山田宗三郎 一六〇 寺田 善吉 一〇〇 山田 道彦 一六〇 小田利三郎 一〇〇 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 岐阜縣大垣市郊外 生産能力(日産) 約 6,000匁 人絹 擴張計畫 人絹日産能力 約 3,000匁 【關係會社】 岸和田紡績の子會社 【資本異動】 十年三月第二回拂込十二圓五枚收 |
| 【資産負債】 | 五十一年 十一年 十一年 株主資本 2,010 2,010 2,010 外部負債 1,990 1,990 1,990 使用總資本 4,000 4,000 4,000 固定資産 1,130 1,130 1,130 流動資産 2,870 2,870 2,870 現金預金 2,870 2,870 2,870 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 收入 100 100 100 支出 100 100 100 利益 0 0 0 |
| 【配當】 | 十一年十一月期 無配 九月一日調 利廻り 1 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 【新券交付】 三十 三十 三十 |

羊 毛 工 業

【濠毛不買對策】我國の濠毛不買對策は着々として實行に移されつゝある。既に去る八月十一日、羊毛工業會は加盟各社への羊毛輸入割高基準を決定し、同月二十五日には輸入統制實行機關として羊毛輸入統制協會を創設した。

【濠毛買控への程度】かくて濠毛買控へは愈々實行期に入つたが、南阿、南米から買ひ得るものは恐らく三十萬俵見當であらう。

【原毛相場】シドニー初市の生れ値は前季納會相場に比し五—一〇%高かつた。日本の買控へは勿論弱材料であるに相違ないが、然し歐洲筋が日本の不買、従つて市價の低落を見越して多數買出動するかも知れない。そうなるると一概に市況が軟化するとは限らない。たゞ今シーズンの濠毛産出高は前季に比し三%の増加を豫想されてゐる。従つて普通なら相場は幾分弱含みとなる道理だが、その程度も僅かで、大體前シーズンと大差なからう。

【値差補償】然し之よりも問題なのは、從來濠毛に對し南阿毛と南米毛とが持つてゐた値差であるが人絹並びに

綿糸の輸出組合から七、八百萬圓見當の補償金が期待出来るし、羊毛輸入統制會でも濠毛の輸入に對して統制手數料を徴収する。之を俵當り十圓として假に四十萬俵では四百萬圓だ。値箱が俵當り四十圓なら、南亞及南米毛に對し結局合計三十萬俵分の補償が出来るわけだ。

【羊毛工業界の前途】右の通りで、使用原毛のコストは高くはなるが、今日見透される限りに於ては我が生産會社が著しい不利を蒙るものとは思はれない。此の十一年下期を限つて云ふならば、寧ろ製品の値上りで、濠洲問題勃發前に豫想された業績より遙に良くなることは確かだ。といふのは今年度の持越原毛は可成りの數量に上り、各社平均では來年一、二月頃まで手持はあるやうに見受けられるから、製品市場の騰つただけ有利となる勘定だ。セル糸AG260は封度當り五月の一圓四、五十錢（現物）から最近は一圓五、六十錢に、モスリンは赤百碼當り五月の四十九錢弱から最近五十三錢に騰つてゐる。前述の如き原料輸入對策が出来るとすれば羊毛工業の前途を一概に悲觀するには當るまい。

日 本 毛 織 株 式 會 社

(本社) 神戸市兵庫區西出町六九一番屋敷 (電兵庫 三〇三—二)
(支店) 東京市麹町區二ノビル内 (電丸ノ内七五)

【上期業績】當社は上期決算に於て四百五十二萬五千圓の利益を挙げ、利益率は三割二分九厘を示した。十年下期の利益金四百六十萬五千圓、利益率三割三分五厘に比較すれば、幾分か見劣りする事は否めない。尤もこれを前年同期に比較すれば、かなり優秀なものと言ひ得るが、然し同業他社中には十年上期よりよいのは勿論の事十年下期に比較しても優良な成績を収めてゐる會社もあるのだから、當社の此の上期の成績は優良とは言ひ得ない。その一半の理由は、當社の規模が大きく、爲に多量の原料手當を一齊に安値で狙ひうる事が出来ぬ所にある。

【今期豫想】今期に關する限り當社の業績は向上する。原毛は高いが、製品市價は騰つてゐる。手堅く見ても、少くも上期並の成績は、擧げ得るものと豫想される。勿論現配當持續だ。

【濠毛問題】濠毛不買の影響は當社にとつても悪い。然し之を過大視する事は誤りである。濠洲以外で買へば原毛は高いが、之には相當の補償金が給附される。羊毛工業會社も勿論幾分の犠牲を拂はねばならぬが、大損失を蒙るやうな事はないと思ふ。

【將來配當】假りに減益したとしても、從來決算が極めて堅實であり、資産に含みもかなりあるから、減配はしないだらう。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治二十九年十二月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 絨、毛布、モスリン、毛織、ネル、セル、メリヤス、人造絹絲 |
| 【資本金】 | 公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇 |
| 【株 數】 | 舊(五〇) 五〇,〇〇〇 新(三三) 三三,〇〇〇 |
| 【重 役】 | 社長 川西清兵衛 取締役 八馬 兼介 常務 坂脇敬二郎 川西 清司 櫻井 秀一 取締役 田村 市郎 監査 財田 秀一 小倉 根貞松 毛戸 勝元 小倉 喜一 佐野 彌三郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 八七五名 本小會社合資五〇〇,〇〇〇 川西 清司 三〇,〇〇〇 澤田清兵衛 三〇,〇〇〇 川西 清兵衛 一〇,〇〇〇 有馬市藏 一〇,〇〇〇 川西 清兵衛 一〇,〇〇〇 川西龍三 一〇,〇〇〇 澤田龍之助 一〇,〇〇〇 日本生命 一〇,〇〇〇 神吉藤太郎 一〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 絨毛機(元) 五〇,〇〇〇 元 五〇,〇〇〇 紡毛機(元) 一〇,〇〇〇 元 一〇,〇〇〇 撚絲機(元) 一〇,〇〇〇 元 一〇,〇〇〇 モスリン(元) 一〇,〇〇〇 元 一〇,〇〇〇 人造絹絲(元) 一〇,〇〇〇 元 一〇,〇〇〇 |
| 【生産高】 | 十年上 十年下 絨 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 モスリン 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 綿 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 共立モスリン、昭和毛織紡績。 |
| 【資産負債】 | 五十一年 五十一年 株主資本 五〇,〇〇〇 五〇,〇〇〇 外部負債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 支拂手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 使用總資本 七〇,〇〇〇 七〇,〇〇〇 固定資産 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 流動資産 四〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇 現金預金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 |
| 【收支動向】 | 十年上 十年下 收入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 支出 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 利益 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 消却年率 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 |
| 【業 績】 | 十年上 十年下 利益率 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 利益金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 |
| 【株 價】 | 高値 安値 新株 九年 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十年上 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十年下 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年上 一〇〇 一〇〇 一〇〇 十一年下 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【豫想配當】 | 十一年十一月期 一割二分 |
| 【利 息】 | 九月一日 六分一厘 時價 新株 四分二厘 |
| 【名義書換】 | 十 錢【新交附】三十錢 |

東洋モスリン株式会社

(本社) 東京市東區龜戸町七ノ五〇(電田五二)
(營業所) 東京市東區龜戸三丁目三三〇(電田五二)

【轉換】 當社は從來主としてモスリンをやつて來たが、ステープル・ファイバーの旺盛に伴ひ、所謂「新興モス」に壓迫せられて面白くないので、今後は廣巾厚地のサージに力を注ぐ。この爲め既に龜戸工場に四十二臺の織機を入れた。

【子會社新設】 右の仕上行程は新設埼玉染絨株式會社(資本金二十五萬圓、去る八月七日第一回拂込一株に付二十五圓總額十二萬五千圓を徵收。總株五千株中半分は東洋モスリンの所有、あとは埼玉縣有志の所有で、公募せず)に於いて行はしめる。工場は浦和附近に建てられる。

【今期業績】 對濠問題の結果製品の値上りて毛糸の採算は良い。下期前半は比較的利益が少なかつたが、後半でカバーし、平均一封度について二十錢掃みの利益は出る。すると二百萬封度では四十萬圓だ。これに反しモスリン(別一)は悪く碼當り二錢の利益はむづかしい。假りに一錢八厘と見れば七百五十萬碼乃至八百萬碼では十三、四萬圓の利益だ。併しこの外に綿糸布益、繰越製品益を加へると全體で九十萬圓見當の利益は擧りそうだ。とすれば現行八分配當は据置けることになる。製品値上りと前記の轉換で一應減配懸念はなくなつたわけだ。

| | | | |
|--------|---|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十年一月 | 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | モスリン、毛絨、綿織、綿布 | 【資本金】 | 公稱 10,000,000 新(500,000) |
| 【株数】 | 新(500,000) | 【役員】 | 社長 門野重九郎 取締役 古澤 丈作 監査 佐野 精一 河野 太郎 大田 文雄 藤田 道善 |
| 【大株主】 | 株主總數..... 3,976名 大倉 組 3,000 東電證券 2,676 鈴木 仁 1,000 安田銀行 3,000 内藤 九郎 6,000 梅浦 健吉 8,000 門野重九郎 6,000 石森安太郎 6,000 岩田 廣一 5,000 大竹 智重 5,000 | 【事業規模】 | 十年上 十年下 十二年上 モスリン(千疋) 1,000 1,000 1,000 毛(千疋) 1,000 1,000 1,000 綿(千疋) 1,000 1,000 1,000 綿布(千疋) 1,000 1,000 1,000 |
| 【投資會社】 | 東洋毛糸 埼玉染絨 | 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 株主資本 2,500,000 2,500,000 2,500,000 外部負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000 社債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000 固定資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000 固定資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |

東京モスリン紡織株式會社

(本社) 東京市東區龜戸町西三ノ一(電田五二)
(營業所) 東京市東區龜戸町二ノ一六(電田五二)

【借金負擔】 上期の利益は四十二萬一千圓だが、これは實際の利益ではない。元來當社は三分配當を行ふには約八十萬圓近くの利益を要する。多額の債務を整理して行かねばならぬからだ。即ち半期に要するのは、(一)整理債務年賦償還金二十三萬七千圓、(二)社債償還額三十萬圓、(三)配當金と同額の償還金、即ち、三分配當を行ふとすれば十一萬六千圓、(四)この外當社自身の三分配當所要金十一萬六千圓——以上合計約七十七萬圓となる。

【業績】 かく利拂が多いわけ他社より負擔は加はるが、差詰めこの十一年下期は三分配當据置きに不安はない模様だ。毛糸は封度當り十五錢の差益が豫想されるから、九十萬封度では十三萬五千圓の利益が出る。モスリンの利益は案外大きい。當社の赤白Dは別一及びB一より碼當り一錢乃至五厘高だ。又赤百(一等品)は日毛一號より一錢高だ。生産數量も全國で二割減じてゐるが、當社だけは依然今期千四百萬碼が産出される。かくてモスリンから四十萬圓見當の利益が出るし、ほかに羅紗、綿糸布益があるから全部合すれば八十萬圓程度にはなる。一時は對濠問題で持久力に乏しい當社は前途を氣遣はれたが、代替羊毛に補償金が期待されることとなり、不安は薄らいだ。

| | | | |
|--------|---|--------|--|
| 【設立】 | 明治二十九年三月 | 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | モスリン、毛絨、羅紗、綿織、綿布 | 【資本金】 | 公稱 10,000,000 新(7,500,000) |
| 【株数】 | 新(7,500,000) | 【役員】 | 社長 鶴見左吉雄 取締役 角田晴之助 常務 楠本吉太郎 監査 金子 良吉 杉本 徳三 白石 徳三郎 大塚勝之丞 取締 小松恒太郎 深井 三男 |
| 【大株主】 | 株主總數..... 2,476名 三井物産 8,000 東洋棉花 6,000 楠本吉太郎 6,000 西村合名 5,000 堀越 勲治 5,000 杉村商店 5,000 萬興 業三 5,000 杉村商店 5,000 | 【事業規模】 | 十年上 十年下 十二年上 モスリン(千疋) 1,000 1,000 1,000 毛(千疋) 1,000 1,000 1,000 綿(千疋) 1,000 1,000 1,000 綿布(千疋) 1,000 1,000 1,000 |
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 株主資本 2,500,000 2,500,000 2,500,000 外部負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000 社債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000 固定資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000 固定資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 | | |

東洋毛絲紡績株式會社

(本社) 大阪市東區伏見町五ノ四二(電北濱 四三)

【上期業績】當社の去る五月末締切の本年上期決算は、利益金三十九萬二千圓、利益率は一割三分一厘であつた。十年下期に比しては幾分劣るが、大した差違はない。利益の分配比率も社内保留五二%八を示し、無難な決算である。

【原毛対策】當社のみならず、一般羊毛工業會社の今後は濠毛買控へに影響する所が多い。然し代替毛の値補償も、人絹布輸出組合聯合會とか、綿布輸出組合等からかなり出るものと期待されるから、原毛手當も一概に悲觀するには及ぶまい。尙ほ當社は、最近ステイブル・ファイバーの混紡を、試験的にはあるが、行つてゐる。これがうまく行けば濠毛制限の打撃も或る程度軽減されよう。勿論濠毛が自由に買へる場合に比較すれば、苦痛には違ひないが、それをあまり大きく評價するのは當らぬと思ふ。

【配當】創立後日尚ほ浅いので内部蓄積が充分に行はれてゐない。それ故今後減益すれば直ちに減配を餘儀なくされるかも知れない。【新興と合併】當社は周知の如く新興毛織の子會社である。従つて新興毛織が合毛工場立退きの場合當社との合併談の起るは當然だ。新興當局者は既に其の準備をしてゐるらしい。新興との合併も遠い將來の事ではあるまい。

| | |
|---------|------------------------------------|
| 【設立】 | 昭和七年三月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 梳毛、毛糸 |
| 【資本金】 | 10,000,000 |
| 【株数】 | 100,000 |
| 【重役】 | 社長 河崎助太郎、取締役 伊藤竹次郎、田村清太郎、竹中彌助、高橋幸三 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,131名 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【工場所在地】 | 三重縣四日市市津出 |
| 【工場設備】 | 三重縣四日市市津出 |
| 【主要設備】 | 月産能力 五六〇千封疋 |
| 【洗毛機】 | 三臺 |
| 【梳毛機】 | 三臺 |
| 【毛糸機】 | 三臺 |
| 【再洗毛機】 | 三臺 |
| 【原料使用高】 | 10,000,000 |
| 【關係會社】 | 新興毛織子會社 |

| | |
|--------|-----------------|
| 【資産負債】 | 五十一年十一月 |
| 株主資本 | 六,八〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 支拂手形 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 八,八〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 五,八〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【收支確定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【株價】 | 高値 安値 |
| 【理想配當】 | 十一月十一日 優八分 |
| 【利息】 | 九月一日 普五分 |
| 【名義書換】 | 五錢 |
| 【新券交付】 | 十五錢 |

滿蒙毛織株式會社

(本社) 奉天皇姑屯(電三三三)

【上期業績】當社は去る五ヶ月期決算に於て利益率一割九分三厘を挙げ、優先八分、普通五分の配當を維持した。利益金の社内保留率は六割五分六厘だから、決算には充分の余裕がある。前期に比較すると利益率は三厘の向上である。九年下期には三割三分九厘の利益率を示したのだから、それに較べるとまだ悪いが、それは主に羊毛工業界一般の傾向に依るものであつた。

【増資】去る六月資本金二百五十萬圓を五百萬圓とし三百萬圓を増加した。此の三百萬圓は全額拂込で東拓が全部引受けた。これは東拓からの借金を株式に振替へたのである。當社は東拓から社債百萬圓、借入金三百四十萬圓の融通を受けてゐたが(去る五月末)、此の借入金中三百萬圓を株金にした譯だ。従つて此限り増資によつても當社は別に新資金を護得する譯でない様に見えるが、然し從來の担保が浮いて来るから、これを担保に新たな金融を付けることが出来、百萬圓程の新資金を得る。

【前途】かくて此の新資金で奉天工場及名古屋工場を整備し、又北支への販路を開拓する。製品では新たに薄地物へも手を染めつつある。また當社原料の八割見當は滿蒙羊毛だから、濠毛不買問題は影響薄だ。尙増資による配當負担増は大したものではない。

| | |
|---------|---|
| 【設立】 | 大正七年十二月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 梳毛、毛糸 |
| 【資本金】 | 5,000,000 |
| 【株数】 | 100,000 |
| 【重役】 | 社長 義雄、取締役 武石、中谷、松浦、取寄、中谷、松浦、取寄、中谷、松浦、取寄 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,131名 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【工場所在地】 | 奉天、名古屋 |
| 【洗毛機】 | 三臺 |
| 【梳毛機】 | 三臺 |
| 【毛糸機】 | 三臺 |
| 【再洗毛機】 | 三臺 |
| 【原料使用高】 | 10,000,000 |
| 【關係會社】 | 滿蒙毛織百貨店 |
| 【資本異動】 | 九年十月一五〇萬圓増資、十一年六月三百萬圓増資全額拂込徴収 |

| | |
|--------|-----------------|
| 【資産負債】 | 五十一年十一月 |
| 株主資本 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 支拂手形 | 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 五,〇〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 二,〇〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【收支確定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 【株價】 | 高値 安値 |
| 【理想配當】 | 十一月十一日 優八分 |
| 【利息】 | 九月一日 普五分 |
| 【名義書換】 | 五錢 |
| 【新券交付】 | 十五錢 |

日東紡績株式会社

(本社) 福島縣山形市山形町(電話山八八八)
(営業所) 東京市京橋區京橋片倉ビル内(電話橋三三三)

【實行】人織時代を迎へて有封に入つた当社では、中空ファイバー「パラマフィル」の先約を十二年六月迄進めてゐるといふ物凄さである。ステープル・ヤーン「パラマウント」、織物「パラマックス」も好評で孰れも年内約定済だ。

【強味】當社の人織事業に對する經驗は一朝一夕にして築かれたものではない。既に昭和八年末この方製造を行つて來た。従つて當社製品には容易にイミテーションを許さず、同業簇生に依つて一時に収益基礎をおびやかされる懸念はない。

【擴張】人織生産能力は現在(九月)福島工場日産二十疋だが、十二月迄には三十疋に擴張される。そればかりではない。郡山郊外富久山新工場二十疋の工事にも着手した。この分は十二年四月、五月頃完成する。

【拂込】増設資金として来る十一月一日第二回拂込一株につき十二圓五十錢總額百二十五萬圓を徴收する。

【業績良好】十一年九月期の利益は百二十萬圓程度に達しよう。尤も利益は内輪に發表されようが、百二十萬圓をそのまま拂込資本に對比すると三割八分餘の利益率だ。來期以降は更に善い。一割配當は安定配當と見てよい。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正七年四月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 絹紡糸、袖糸、人造纖維其他 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 新(三) 10,000,000 |
| 【株数】 | 新(三) 100,000 |
| 【重役】 | 社長 片倉 三平 取締役 今井 五六 取締役 鈴木 武雄 取締役 内藤 千尋 取締役 片倉 武雄 取締役 佐藤 圓治 取締役 林 清夫 取締役 廣川 芳三 取締役 片倉 直人 取締役 島村 芳三 取締役 片倉 方平 取締役 片倉 繁太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,226名 片倉製絲(三) 2,000 千代田生命 2,000 帝國生命 6,000 片倉生命 2,000 |
| 【事業規模】 | 絹紡機(總) 6,000台 糸紡機(三) 3,000台 ミュール(一) 1,500台 土絹機(一) 1,000台 縮緬機(一) 1,000台 縮緬機(一) 1,000台 スレープ(一) 1,000台 |
| 【生産高】 | 十一年上 十一年下 十二年上 絹紡糸(三) 2,000,000 2,000,000 2,000,000 縮緬(一) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 スレープ(一) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【投資會社】 | 鬼首興業 |
| 【資本異動】 | 十一年四月五百萬圓増資 |

| | |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 三十月 九十月 三十一月 |
| 株主資本 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 外部負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 借入金 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 固定資産 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 流動資産 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 現金預金 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十一年上 十一年下 十二年上 |
| 収入 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 支出 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 【利益】 | 九月一日調 四分二厘 |
| 【名義書換】 | 十 五 新券交附 廿五 |

帝國製麻株式會社

(本社) 東京市日本橋區雷町一ノ一(電日本橋三三二)

【實質】當社の實質は見直されねばならぬ。往年の不良資産は次第に整理され、改善されつゝある。而も業績は向上の一途を辿つてゐる。去る六月期決算は、利益金百一十一萬八千圓、利益率二割九分で、配當は依然七分を据置いたから、決算は充分の余裕があつた。前期に較べると、利益金は三萬一千圓を減じ、利益率は六厘の低下を示してゐるが、然しこれは表面のことであつて實際は前期より良かった。

【増配か】と云ふのは、六月期決算には退職重役への慰勞金九萬圓程の支出があつたから、之を考慮すると利益は對前期五、六萬圓の増加、利益率は一分見當の向上なのだ。従つて既に實質に於ては一分程度の増配が可能であつた。来る十二月期も大体六月期と大差ない成績を予想されるから、或は一分増配をするかも知れない。業績の向上は軍需關係の亞麻製品の賣行良好の爲だ。

【拂込か】若し増配しないとしても、拂込徴收が期待される。當社は借金整理に専念し、近年借金は著しく減じてをり、昨年十二月期と今年六月期の比較に於ても、二百三十萬圓の激減である。然し尙九百五十萬圓の借金が残つてゐるから、今後拂込を徴收して借金返済を行ふものと見られる。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治四十年七月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 帆布、ダック、シャツ、薄地、リネン、服地、シャツ地、飛行機用糸、教機用糸、織物糸 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 |
| 【株数】 | 新(三) 100,000 |
| 【重役】 | 社長 安田善太郎 取締役 安田 一 常務 河野 寅三 取締役 蒲澤 安吉 取締役 大河内 行一 取締役 伊藤 忠三 取締役 大橋 新太郎 取締役 飯田 藤二 取締役 平塚 直治 取締役 藤田 藤二 取締役 安田 善五郎 取締役 松本 蒸治 取締役 玉木 誠次郎 取締役 松本 蒸治 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,226名 安田 保三 6,000 安田生命 2,000 川崎 三三 3,000 安田銀行 2,000 小池 合資 2,000 大橋本店 2,000 小池 合資 2,000 大倉組 2,000 |
| 【事業規模】 | 麻糸紡機(總) 7,000台 紡機(總) 1,000台 織糸機(總) 3,000台 工場 大阪、廣瀨、札幌、大津、東京、浦和、釜山、豊山 製麻所 北海道各地十六ヶ所 |
| 【事業成績】 | 十一年上 十一年下 十二年上 製品販賣(千圓) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 加工収入(千圓) 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【投資會社】 | 大正製麻、東洋麻工業、日本麻紡績、滿洲製麻 |

| | |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 六十月 十二月 六十一月 |
| 株主資本 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 外部負債 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 借入金 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 固定資産 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 流動資産 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 現金預金 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十一年上 十一年下 十二年上 |
| 収入 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 支出 | 6,600,000 6,600,000 6,600,000 |
| 【利益】 | 九月一日調 五分七厘 |
| 【名義書換】 | 五 新券交附 二十 |

電力燈業

【株價の位置】電力株は利廻が高い。例へば五大電力の利廻を見ても、宇治電は六分二厘弱、大同及日電六分六厘弱、東邦六分八厘餘、東電六分九厘と、いづれも著しい高利廻になつてゐる。言ふ迄もなく、電力統制問題の前途に見据えがつかず、成行が案じられてゐる爲である。然し、此の際電力株を賣放すことは無謀だ。他の株に乘替へるとしても、これだけの高利廻のものはない。況んや、恐れられてゐる民有國營案が實現しない場合には飛んだ莫迦を見ねばならない。寧ろ今後種々なデマが飛んで株價が奔落する様な場合があれば、其の時は勇敢に買つて出るべきである。また現在の株價でさえ、尙著しく有利な利廻だ。

【民有國營案】當初の民有國營案といふ名稱は、其の後國策發表に當つて電力統制案と改められたが、此のことは如何に民有國營案に無理があり、これを強行することが固難であるかを物語つてゐる。此の民有國營案の強制的現物出資、及び物は民有だが運営は國家に任せるといふ點は、未曾有の深刻な立案である。斯る急激な改革の意圖が投資界から恐れられて、株價の低落を來してゐる譯だ。然し果して斯る案が實現し得るだらうかは、大いに疑問である。凡そ國有、國營といふ大問題は、強力な主張者、政治的勢力なしには實現しない。ところで、いまこれを支持する強力な勢力は何かと云ふと、世間では一般に軍部だと見てゐるらしい。然しながら、軍部の支持とは言つても、是が非でも民有國營でなくてはならぬと云ふ様なものでないと思ふ。軍部としては廣義國防の見地から、軍需工業用電力の豊富低廉及一朝有事の際に電力不足を來さぬことを目的とするだけであらうと思はれる。單にそれだけならば強いて民有國營でなくても他に幾らも方法がある。かう考へて見ると、どうも此の案は實現が困難だ。そして強制出資及民有國營の様な急激な案でさえなければ、其他の方法による電力統制は投資界を恐怖させる様な結果を生むまい。

【會社業績】それに電力會社の業績自體は依然順調で、大部分の會社は増益こそすれ減益の恐れはない。

東京電燈株式會社

(本社) 東京市芝田村町一ノ一 (電燈三三三)

【上期一分増配】上期決算にて問題の一分増配を断行し八分増配を付けた。実績から云つて當然の成行きである。九下期の四分復配以來六分、七分、八分と逐期増配して來た譯だが、四期間かかつて八分増配が可能になつた譯ではなく、八分増配の實力は既に十年上期頃から備はつてゐたのである。併し今年上期は殊によく、電燈電力料を初め電熱料、雜電氣料等、何れも顯著な増収を示し、營業收入全体では十年上期より八分八厘の増収である。投資關係收入も従來當社の癖と目されてゐた東電證券が復活した爲め著しく増した。かくて總收入七千六百九十八萬圓を挙げ、銷却前利益は三千七十一萬圓となつた。利益率は一割四分三厘に當り、一割一分増配の大正末年の地位に恢復したのである。

【社債借替と下期】それに第一回號社債三千二百五十萬圓を去る八月、五分から四分一厘に借替へた。半期の負担減十四萬六千圓である。尤も此の借替はバーから廿五錢切れたから、較差金が八萬一千圓になる。これを一時に落せば下期の利拂減は云ふに足るまい。どの途十五萬圓足らずでは當社の世帯として大したものではないが、これで内債は全部四分臺となつた譯だ。下期は不需用期と云つても三千萬圓近い利益は見込める。八分増配は安泰だ。

| | |
|-------|---|
| 【設立】 | 明治十六年二月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電燈、電力供給 |
| 【資本】 | 株式總額 400,000 圓 |
| 【株主】 | 株主總數 1,000 名 |
| 【役員】 | 社長 藤田之助、取締役 鈴木左衛門、常務 河野重太郎、田島忠治、五十嵐直三、新井章治、廣瀬爲久、伊藤三郎、大橋新太郎、藤原善吉、太刀川平治、戸澤芳樹、本間利雄 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,000 名 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代田生命 | 100,000 圓 |
| 帝國生命 | 100,000 圓 |
| 高松生命 | 100,000 圓 |
| 康徳興業 | 100,000 圓 |
| 東京生命 | 100,000 圓 |
| 東京電燈 | 100,000 圓 |
| 東邦電力 | 100,000 圓 |
| 東信電氣 | 100,000 圓 |
| 千代 | |

東邦電力株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内) (支店) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内) (支店) 大阪市東區高麗橋三ノ一東洋棉花ビル(電北濱區) (支店) 大阪市東區高麗橋三ノ一東洋棉花ビル(電北濱區)

【拂込徴収】五分利社債千九百五十萬圓を返済する爲め、来る十一月二日期限で第三回拂込千七百五十萬圓を徴収に決定した。同社債は九月末に一括して償還されるから、これにより半期四十八萬八千圓の利子負擔軽減になる。かやうに五分利の金を返却して八分配當付の拂込金に振替へ、不足分は手許から賄ふと云ふ方法は、昨秋も遣つた處で、低金利の今日、株主にとつては有難い。

【建設計畫】飛騨川水系の名倉發電所一萬七千九百キロと川邊の二萬四千キロは目下着工中で、夫々来る十月末及び明年秋完成の豫定である。その他、下原二萬キロの開發、名古屋の火力三萬五千キロの増設計畫がある。建設費は、キロ當り水力三百圓以下、火力百五十圓見當で可なり廉いが、それでも先行き一千七、八百萬圓の資金を要する。最終拂込近しと見られる所以だ。

【今下期】十月末締切の本年下期は、四月から實施した電氣料金の値下げが期中全期間に互つて影響する譯だが、最近までの実績では、需要の増大によつて料金引下げをカヴァーしたのみならず、電燈方面は却つて増收してゐるやうだ。季節的關係による収入の減少と社債の返済による發行手数料の支出増嵩で、今上期以上の好成績は期待薄であるが、八分配當繼續に問題は無い。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治三十八年十一月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 電燈、電力供給 |
| 【資本金】 | 公稱 300,000 拂込 200,000 |
| 【株数】 | 新 300,000 (500) 1,000,000 |
| 【重役】 | 社長 岸本五郎門 取締役 小阪 順造 本務 海東 要造 山田平十郎 常務 竹岡 隆一 高橋 英一 副常務 宮川 甲兵 各務 幸一郎 取締役 名取 和作 門野 健之進 大島 小太郎 角田 正壽 西山 信一 豊田 河三郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 300 名 東邦證券 200 千代田生命 100 明治生命 30 東京海上 30 帝國生命 30 東邦生命 30 昌榮興業 30 仁壽生命 30 同收電(千代田) 100 同收電(千代田) 100 同收電(千代田) 100 同收電(千代田) 100 同收電(千代田) 100 同收電(千代田) 100 |
| 【投資會社】 | 東京電燈、大同電力、新潟電力、掛川電氣、矢作水力、合同電氣、九州送電、大井川電力、東邦瓦斯、東邦證券、其他 |
| 【資本興動】 | 十年三月三十一日拂込徴収 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 四十年 十一年 四十二年 |
| 株主資本 | 2,300,000 2,300,000 2,300,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 社債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 3,300,000 3,300,000 3,300,000 |
| 固定資産 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 流動資産 | 1,300,000 1,300,000 1,300,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支積定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 収入 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【利益】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 利益 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 【名義書換】 | 五 五 五 五 |

大同電力株式會社

(本社) 東京市丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内) (支店) 大阪市東區高麗橋三ノ一東洋棉花ビル(電北濱區) (支店) 大阪市東區高麗橋三ノ一東洋棉花ビル(電北濱區)

【上期増配】當社は本年上期決算に於て從來の五分配當を六分に引上げた。此の期の利益金は、その前期たる十年下期と略同様ではあるが、季節的に下期より上期が悪い通例から見ると實質的には好轉した譯だ。それに十年下期の業績が既に一分程度の増配を充分行ひ得る程のものであつたのだから、此の増配は當然と見られる。而も最近の電力需要の増加が、毎年平均二萬五千キロもあると言ふ状態だから、今後の業績も大いに樂觀され、六分配當の維持などには少しの苦痛も感じない。

【増設擴張】當社は東電に對し十萬キロの賣電契約を持つてゐるが、現在は五萬キロしか賣渡してゐない。今後之は契約一杯にまで供給される豫定である。此のほか京濱、阪神、中京方面の需要も引續き増大するので、之に備へる爲、當社は設備の擴張を行つてゐる。昨年末矢作笹戸水力(出力九千キロ)の建設を終り、本年末には木曾川笠置水力(出力三萬五千キロ)が完成の豫定であり、更に三浦貯水池の建設工事にも着手した。之等の擴張で、今後の増大する需要は賄はれる。

【契約更改】宇治電への賣電契約更改が近づいた。之は確かに不利だか、需要の増大で充分補へる。勿論配當は据置ける。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正八年十一月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電力卸賣 |
| 【資本金】 | 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000 |
| 【株数】 | 新 1,000,000 (500) 1,000,000 |
| 【重役】 | 社長 増田 次郎 取締役 寺田 其吉 常務 藤波 收 宇木 幸吉 水松 利照 宮寺 敏雄 太田 光熙 秋谷 謙太郎 有村 隆一 山下 民義 村中 博 伊丹 二郎 杉山 榮 藤原 隆吉 宮崎 彌作 萩原 隆吉 |
| 【大株主】 | 株主總數 300 名 大同土産 100 東電證券 100 京阪電氣 100 寺田合名 100 千代田生命 30 山二株式 30 發電所出力(水力) 100,000 同收電(千代田) 100,000 同收電(千代田) 100,000 同收電(千代田) 100,000 同收電(千代田) 100,000 |
| 【投資會社】 | 昭和電力、立山水力、木曾電、和泉電氣、神岡水電、關西共同下力、中部共同火力、大同土地其他 |
| 【資本興動】 | 十年三月三十一日拂込徴収 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 五十二年 |
| 株主資本 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 社債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 固定資産 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支積定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 収入 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支出 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【利益】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 利益 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 【名義書換】 | 五 五 五 五 |

日本電力株式會社

(本社) 大阪市北區宗是町一番地(電土佐橋 六〇一)

【業績】當社の去る三ヶ月の業績は一段と良好だったが、七分配當を据置いた結果、決算には益々餘裕が加はつて來た。此の九月決算も豊水に依る石炭費の節約で業績は更に向上しやう。

【擴張】現在着手中の擴張は黒部川第二發電所(出力六萬五千キロ)であるが、之は今秋完成の見込みである。恐らく十月頃から運轉開始の運びとならう。之に引續いて黒部川第三發電所(出力七萬七千五百キロ)の工事に着手する豫定である。之は豫定としては十三年中に完成する事になつてゐるが、何しろ深山幽谷の事だから、十五年位に延びるかも知れぬ。更に傍系會社たる關西電力は馬瀬川の水を引いて瀬戸第二發電所(出力二萬八千キロ)を既に十年末に着工し、十三年に完成の豫定である。かやうに相次いで擴張を行ふのであるが、電力の需要の益々旺盛を極めてゐる今日、その消化に心配する必要は更でない。

【配當】かゝる状態だから今後も引續いて増益の見込みだ。去る七月二十五日に増資新株一株につき十二圓五十錢徴収したが、此の程度の資本負擔増は問題でなく、七分配當維持は容易だ。只問題は、電力民有國營案の成否如何と言ふ點に掛るが、假に之が行はれるとしても無茶は出來るものでないから心配はいらぬ。

【設立】大正八年十二月
【決算期】三月、九月
【事業】電力卸賣、電燈、電力供給
【資本金】公稱 三〇〇,〇〇〇
新(三三三) 三〇〇,〇〇〇

【株主】池尾 芳藏 取締役 武藤 嘉門
副 内藤 龍喜 後藤 勲治
本務 深野 兼一 石井 順一郎
岸田 幸雄 田中 榮八郎
取締役 石原 正太郎 溝口 直亮
内山 敬三郎 三木 國太郎
秋山 武三郎 新 三木 國太郎

【大株主】株主總數 一九、三三三名
日電 〇、〇〇〇 安田生命 〇、〇〇〇
明治生命 〇、〇〇〇 安田生命 〇、〇〇〇
東信電氣 〇、〇〇〇 第一生命 〇、〇〇〇
三井生命 〇、〇〇〇 大倉 組 〇、〇〇〇

【事業規模】
【事業所出力(水力)】一四、三三三キロ
【事業所出力(火力)】一〇〇、〇〇〇
【事業成績】十年上 十年下 十一年上
電力(千キロ) 一、二二二 一、二二二
同收入(千圓) 一、九八八 一、九八八
電燈(千燈) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
同收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【投資會社】朝鮮電力、關西共同火力、日電、山陽水電、庄川水電、飛騨電氣、中部電力、因幡水電、三河水電

【資本異動】十一年七月七千萬圓増資一、二圓五拂込徴収

【重役】社長 林 安策 取締役 岸 國太郎
副 影山 鏡三郎 石澤 四郎
取締役 淺見 又藏 大倉 喜七郎
野口 謙 岡崎 忠雄
水井 孝三 的場 順一郎

【大株主】株主總數 一八、〇〇〇名
第一生命 〇、〇〇〇 大倉 組 〇、〇〇〇
六電電氣 〇、〇〇〇 帝國生命 〇、〇〇〇
石州銀行 〇、〇〇〇 松尾 合名 〇、〇〇〇

【事業規模】
【事業所出力(水力)】一四、三三三キロ
【事業所出力(火力)】一〇〇、〇〇〇
【事業成績】十年上 十年下 十一年上
電力(千キロ) 一、二二二 一、二二二
同收入(千圓) 一、九八八 一、九八八
電燈(千燈) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
同收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【投資會社】朝鮮電力、關西共同火力、日電、山陽水電、庄川水電、飛騨電氣、中部電力、因幡水電、三河水電

【資本異動】十一年七月七千萬圓増資一、二圓五拂込徴収

【重役】社長 林 安策 取締役 岸 國太郎
副 影山 鏡三郎 石澤 四郎
取締役 淺見 又藏 大倉 喜七郎
野口 謙 岡崎 忠雄
水井 孝三 的場 順一郎

【大株主】株主總數 一八、〇〇〇名
第一生命 〇、〇〇〇 大倉 組 〇、〇〇〇
六電電氣 〇、〇〇〇 帝國生命 〇、〇〇〇
石州銀行 〇、〇〇〇 松尾 合名 〇、〇〇〇

【事業規模】
【事業所出力(水力)】一四、三三三キロ
【事業所出力(火力)】一〇〇、〇〇〇
【事業成績】十年上 十年下 十一年上
電力(千キロ) 一、二二二 一、二二二
同收入(千圓) 一、九八八 一、九八八
電燈(千燈) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
同收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【投資會社】朝鮮電力、關西共同火力、日電、山陽水電、庄川水電、飛騨電氣、中部電力、因幡水電、三河水電

【資本異動】十一年七月七千萬圓増資一、二圓五拂込徴収

【資產負債】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇
社債 一〇〇,〇〇〇
借入金 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

宇治川電氣株式會社

(本社) 大阪市北區宗是町一丁目(電土佐橋 六〇一)
(出張所) 東京市豊島區九ノ内三ノ二仲通三號館(電丸ノ内元三)

【増資實現】宇治川電氣の増資は、親株が額面を割るに至つて、其の拂込實現に多大の不安を持たれたのであつたが、割當申込なき増資新株は宇治電證券が引受け、漸く去る七月六日に實現した。宇治電證券の引受額は増資株の二割五分に當る。斯くも増資成績が不良であつたのは、言ふまでもなく例の電力民有國營案が祟つたからだが、當社の資産内容に對する不信も幾分影響してゐたこととは否定出來ないやうだ。

【業績】然し當社の業績は決して悪くない。去る三月末に締切つた本年上期決算の計上利益金は六百三十六萬三千圓に上り、平均拂込資本に對する利益率は、一割三分六厘であつた。昨年同期の利益率一割二分六厘、同上期の一割一分四厘に比較すると著しく良好である。斯く業績が發展を示すに至つたのは、勿論業界好轉と言ふ事もあるが、他方八年上期以來四期無配を繼續し内容充實に努力して來た御蔭である事も見逃せぬ。

【配當安全】現在の配當は、増資後も、何等不安なく踏襲する事が、出来る。今來期の目ぼしい好材料を拾つても、販賣電力は三萬馬力を増加するし、他方社債の低利借替による利拂減がある。かう見ると、かなり増益することは確實だ。

【設立】大正三十九年十月
【決算期】三月、九月
【事業】電燈、電力供給
【資本金】公稱 三〇〇,〇〇〇
新(三三三) 三〇〇,〇〇〇

【株主】池尾 芳藏 取締役 武藤 嘉門
副 内藤 龍喜 後藤 勲治
本務 深野 兼一 石井 順一郎
岸田 幸雄 田中 榮八郎
取締役 石原 正太郎 溝口 直亮
内山 敬三郎 三木 國太郎
秋山 武三郎 新 三木 國太郎

【大株主】株主總數 一九、三三三名
日電 〇、〇〇〇 安田生命 〇、〇〇〇
明治生命 〇、〇〇〇 安田生命 〇、〇〇〇
東信電氣 〇、〇〇〇 第一生命 〇、〇〇〇
三井生命 〇、〇〇〇 大倉 組 〇、〇〇〇

【事業規模】
【事業所出力(水力)】一四、三三三キロ
【事業所出力(火力)】一〇〇、〇〇〇
【事業成績】十年上 十年下 十一年上
電力(千キロ) 一、二二二 一、二二二
同收入(千圓) 一、九八八 一、九八八
電燈(千燈) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
同收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【投資會社】朝鮮電力、關西共同火力、日電、山陽水電、庄川水電、飛騨電氣、中部電力、因幡水電、三河水電

【資本異動】十一年七月七千萬圓増資一、二圓五拂込徴収

【重役】社長 林 安策 取締役 岸 國太郎
副 影山 鏡三郎 石澤 四郎
取締役 淺見 又藏 大倉 喜七郎
野口 謙 岡崎 忠雄
水井 孝三 的場 順一郎

【大株主】株主總數 一八、〇〇〇名
第一生命 〇、〇〇〇 大倉 組 〇、〇〇〇
六電電氣 〇、〇〇〇 帝國生命 〇、〇〇〇
石州銀行 〇、〇〇〇 松尾 合名 〇、〇〇〇

【事業規模】
【事業所出力(水力)】一四、三三三キロ
【事業所出力(火力)】一〇〇、〇〇〇
【事業成績】十年上 十年下 十一年上
電力(千キロ) 一、二二二 一、二二二
同收入(千圓) 一、九八八 一、九八八
電燈(千燈) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
同收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【投資會社】朝鮮電力、關西共同火力、日電、山陽水電、庄川水電、飛騨電氣、中部電力、因幡水電、三河水電

【資本異動】十一年七月七千萬圓増資一、二圓五拂込徴収

【重役】社長 林 安策 取締役 岸 國太郎
副 影山 鏡三郎 石澤 四郎
取締役 淺見 又藏 大倉 喜七郎
野口 謙 岡崎 忠雄
水井 孝三 的場 順一郎

【大株主】株主總數 一八、〇〇〇名
第一生命 〇、〇〇〇 大倉 組 〇、〇〇〇
六電電氣 〇、〇〇〇 帝國生命 〇、〇〇〇
石州銀行 〇、〇〇〇 松尾 合名 〇、〇〇〇

【事業規模】
【事業所出力(水力)】一四、三三三キロ
【事業所出力(火力)】一〇〇、〇〇〇
【事業成績】十年上 十年下 十一年上
電力(千キロ) 一、二二二 一、二二二
同收入(千圓) 一、九八八 一、九八八
電燈(千燈) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
同收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇

【投資會社】朝鮮電力、關西共同火力、日電、山陽水電、庄川水電、飛騨電氣、中部電力、因幡水電、三河水電

【資本異動】十一年七月七千萬圓増資一、二圓五拂込徴収

【資產負債】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇
社債 一〇〇,〇〇〇
借入金 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【株主資本】三十一年九月三十日
株主資本 三〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

【流動資産】三十一年九月三十日
現金預金 一〇〇,〇〇〇
流動資産 一〇〇,〇〇〇

【固定資産】三十一年九月三十日
固定資産 二〇〇,〇〇〇
投資資産 二〇〇,〇〇〇

【負債】三十一年九月三十日
負債 一〇〇,〇〇〇
外部負債 一〇〇,〇〇〇

九州水力電氣株式會社

(本社) 福岡市大字庄三五番地
(出張所) 東京市麹町區丸の内三ノ二(電九ノ内三三)

【好調な上期】上期は依然たる北九州の工業界活況に恵まれて電力収入の増加が特に著しかった。それに利拂減と経費節約に成功して利益金は四百三十三萬圓に達し、十年下期より四十八萬圓、前年同期より實に百六萬圓の激増を見るに至つた。利益率一割二分八厘で配當は七分据置きだから、餘裕は可なりあつた譯だ。

【拂込徴収と下期】營業状態は益々好調で電力供給は不足を告げてゐる。目下九州送電を通じて宮崎縣耳川筋に五萬キロの塚原發電所を建設中だが、難工事のこと故完成は十四年にならう。それまでは九州共同火力から買電の契約になつてゐるが、この受電も十二年末からのことで當面の補給にはならぬ。が、將來は好望と云へよう。たゞ當社には拂込に對し九割餘の借金がある。そこで去る七月、九百十二萬圓の拂込を徴収して借入金の一部返済と塚原開發費に充てた。従つて資本負擔の増大は免れ難いが、今期も利拂減に恵まれようから大した負擔増にはなるまい。加之、子會社九州電軌の立直り—今期一分増配略々内定—もあるから、營業状態と併せて見ると當社の一分増配は愈々可能性が多い。

【妙味】借金整理と事業擴張資金調達のため明年春最終拂込徴収の意圖らしい。實現の曉には増資の肚もあるやうだ。

| | |
|-------|---|
| 【設立】 | 明治十四年四月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電力供給 |
| 【資本金】 | 公稱 六、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | 新(四〇) 41,000 |
| 【役員】 | 社長 太田重三郎 専務 八坂秀二郎 常務 八坂秀二郎 取締役 村上巧兒、監査 黒木佐久馬、大野守治、水井浩亮、内本浩亮、大屋 隆、藤田野次郎、松本健次郎、乙部 隆、藤田野次郎、黒木佐久馬、江藤基三郎、上野山太郎、藤田野次郎、藤田野次郎、藤田野次郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 九、六六名 高橋銀行 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 帝國生命 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 第一生命 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 明治生命 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 大分合同 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 【貸付成積】 十年上 十年下 十年上 十年下 電灯敷金(千円) 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 同収入(千円) 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 供給電力(千kw) 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 電力収入(千円) 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 【投資成積】 九州電軌、福岡電氣、九州送電、昭和電灯、延岡電氣、筑後電氣、瀬江水力、小國水力、別府大分電氣、神都電氣興業、九州電工、九州保電社 【資本移動】 十一年七月十日拂込徴収 |

| | |
|--------|--|
| 【資産負債】 | 五十一年十一月 |
| 株主資本 | 七、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支積定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 収入 | 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 利益 | 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 新株 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分 時價 新六八 利息 六分九厘 【名義書換】 五錢 【新券交付】 廿五錢 |

大日本電力株式會社

(本社) 東京市京橋區銀座四ノ三(電京橋三〇三)

【合併後の決算】當社は去る五月、八對十の比率を以つて東部電力を吸収合併した。東部の資本四百六十二萬七千圓を切捨て、合併し、當社は資本金二千四百八萬圓、拂込千八百五十萬八千圓を増して公稱資本金一億八百八萬圓、拂込八千九十八萬六千圓となつたのである。本年上期の合併後第一次決算は、利益金六百六萬八千圓を挙げ、對平均拂込利益率は一割五分を示し、九分配當を繼續した。十年上期に較べ利益率六厘の好化である。社内保留三六%七は稍々少ないが、減價銷却に百三十五萬圓を計上してゐるから、總固定資産に對し三六・六年賦となり、非難すべき利益處分でもない。

【今期】北海道の金山、炭礦、製紙業、秋田の油田、鑛山、福島、の化學工業、茨城の機械工業等の活況で、當社の成績も依然よい。今期も一割四分の利益率で九分配當据置きに懸念はない。

【建設】需要増加に備へる爲め、目下、鳥海川第二發電所六千キロ、江別の火力第二發電所一萬二千五百キロを開發中であり、忠別川は改修によつて千四百キロから三千七百五十キロに出力を増す筈である。何れも年末完成、來年早々運轉開始の豫定だ。工費は總計三百九十萬圓になるが手許資金と借入金で賄ふ筈。

| | |
|----------|--|
| 【設立】 | 大正八年十月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電燈、電力、瓦斯供給 |
| 【資本金】 | 公稱 一〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | 株主總數 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【役員】 | 社長 大川平三郎、取締役 矢島 富造、専務 穴水 龍雄、常務 穴水 龍雄、常務 堀本高之助、取締役 田中榮八郎、監査 小野 達三、加納友之助、小野 耕一、加納友之助 |
| 【大株主】 | 株主總數 六、四三名 北電興業 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 穴水合名 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 富國電機 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 富國電機 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 富國電機 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 取付電燈(千燈) | 三三、〇〇〇 |
| 契約電力(kw) | 三三、〇〇〇 |
| 取付電燈(千燈) | 三三、〇〇〇 |
| 電燈収入(千円) | 三三、〇〇〇 |
| 電力収入(千円) | 三三、〇〇〇 |
| 瓦斯収入(千円) | 三三、〇〇〇 |
| 【投資成積】 | 北電興業、北海道合同電氣 |
| 【資本移動】 | 五月東部電力合併、四六萬圓を各増資 |

| | |
|--------|--|
| 【資産負債】 | 五十一年十一月 |
| 株主資本 | 七、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支積定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 収入 | 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 利益 | 〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 新株 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分 時價 新六八 利息 六分九厘 【名義書換】 五錢 【新券交付】 三十錢 |

合同電気株式會社

(本社) 三重縣津市南堀通二二〇
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル(電北漢三二二二)

【業績良好】當社は八年上期に配當を二分減配し、以て内容の改善に努めて來た。その效あつてか最近の業績は著しく改つてゐる。去る三月締切りの上期は利益金四百三十三萬二千圓を擧げた。前期に比しては十九萬六千圓の減益であるが、前年同期からみると二十萬五千圓の増益に當る。

【内容改善】借金澤山で悩んだが下掲表の如く十一年三月末の總額は五千九百八十萬圓となり、一、二年前に比べると約二千萬圓を減少してゐる。減配して極力借金の返済に努めたからである。他方手許現金は百三、四十萬圓から昨今は二百二、三十萬圓に増加し、金融も漸次楽になつて來た。

【下期増配】當社は十年下期一度増配を行つたが、今年下期も又一分程度の増配が期待される。殊に下期には東洋紡、三重製絨、東邦人造纖維、岸和田紡等の各工場に新規供給乃至増給しつゝあるから、増益は必然の勢である。それに借金減少による利拂減と云ふ消極的増益も相當寄與する。假りに一分の増配と押へれば配當金増加は半期三十一萬圓だ。下期に之位の増益を擧げることは大して困難ではない。下期の一分増配は略々確實と期待してよからう。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正十一年五月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電力電燈瓦斯供給 |
| 【資本金】 | 公稱 七、〇〇〇,〇〇〇 株主 六、〇〇〇,〇〇〇 |
| 【株主】 | 南(株) 七、〇〇〇,〇〇〇 新(株) 七、〇〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | (會長) 松永安左衛門(社長) 太田光熙(副社長) 高桑謙一(事務) 櫻木亮三(常務) 清水收吉(取締) 伊藤傳七 市川春吉 海軍要造 河村清兵衛 筒原信郎 中西四郎 名取和作 野村正幸 小林高平治 安保康三(監査) 加藤豊夫 風間八左衛門 藍川清成 島村安次郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 八、九六名 東邦電力 七、七〇〇 京阪電氣 二、〇〇〇 東邦證券 二、〇〇〇 松榮合資 二、〇〇〇 東海三三 一、〇〇〇 滋賀銀行 九、〇〇〇 井原 外助 九、〇〇〇 松江銀行 八、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 發電所出力(水力) 一、〇〇〇、〇〇〇kw 事業成績(千圓) 十一年上 十一年下 十一年上 電燈收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電車乘客(千人) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電氣收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 瓦斯供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 瓦斯收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 合同瓦斯、信貴生駒電氣、阪和電氣、邊野電力、四國水力、其他 |

| | |
|--------|-------------------------------|
| 【資產負債】 | 三十一年 九十年 三十二年 |
| 株主資本 | 六、〇〇〇,〇〇〇 六、〇〇〇,〇〇〇 六、〇〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 社債 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 借入金 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 投資資産 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 收支動向 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 收入 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 利益 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 配當 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 七十歳 |

矢作水力電気株式會社

(本社) 名古屋市中區東片岡町二ノ二
(支店) 豊町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内二〇七)

【建設】當社の水力開發計畫は實に目醒しいものがある。周知の様子に泰阜水力五萬二千五百キロを完成し、全運轉に入つてゐるが豊水力一萬三千キロを建設中である。其のほかに平岡水力約四萬三千キロ、和合水力約二千五百キロ及奥地(オヂ)水力二萬キロの建設計畫を有してゐる。急激な膨脹計畫である。

【電力供給】以上全部が完成した場合には泰阜の出力と合せて十三萬キロの出力が増加する譯である。が、それは大同電力、矢作工業其地へ捌けて行く豫定だと當事者は語つてゐる。

【新資金】泰阜水力の分を除いて建設資金はザツト二千萬圓を要すると思ふが、これは一部は拂込徴収により、一部は借金による等である。借金は大體豫定が立つてゐる様だ。

【下期業績】去る三月期は利益率一割一分二厘で、配當は優先株一割二分、普通株七分を續け、利益金の社内保留率は三割一分であつた。此の九月期からは泰阜水力の収入が一部分入るから、利益金増加の筋合にあり、現行配當維持は問題ない。更に明年三月期からは泰阜の収入が期を通じて入るから一層利益が増す。

【将来性】前述の建設途上には資本負擔が増すことになるが、然し配當には問題なかるべく、前途興味があると思ふ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正八年三月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電力卸賣、一般供給 |
| 【資本金】 | 公稱 八、〇〇〇,〇〇〇 株主 八、〇〇〇,〇〇〇 |
| 【株主】 | 新(株) 八、〇〇〇,〇〇〇 優(株) 八、〇〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 福澤 勇吉 取締 川崎友之介 副 杉山 正 他 八名 常務 成瀬 正忠 監査 島田 剛太郎 後藤 一藏 他 三名 小山 博三 相談 門野 健之進 取締 高木 得三 他 二名 |
| 【大株主】 | 株主總數 六、五九名 金城證券 一、〇〇〇 大同電力 一、〇〇〇 東京海上 一、〇〇〇 伊藤 電氣 一、〇〇〇 東邦證券 八、〇〇〇 天千代田生命 八、〇〇〇 川崎 貯蓄 四、〇〇〇 日本徴兵 四、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 發電電力(水力) 一、〇〇〇、〇〇〇kw 供給區域 愛知縣、岐阜縣 事業成績(千圓) 十一年上 十一年下 十一年上 電燈收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一般電力(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電氣收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 矢作工業、大北工業、金城證券 |
| 【資本異動】 | 十一年七月優先十圓、十一年四月五圓十一月七圓五圓五圓五圓の管 |

| | |
|--------|-------------------------------|
| 【資產負債】 | 三十一年 九十年 三十二年 |
| 株主資本 | 八、〇〇〇,〇〇〇 八、〇〇〇,〇〇〇 八、〇〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 社債 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 借入金 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 投資資産 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 收支動向 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 收入 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 利益 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 配當 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分 |
| 【名義書換】 | 二 新券交付 二十歳 |

東信電気株式会社

(本社) 東京市京橋區寶町一ノ七(電氣橋 二三一七)

【建設】阿賀野川筋に新郷発電所(福島縣)二萬五千キロを建設の計畫がある。明年中に完成の豫定であるが、發生電力は東電へ賣る了解がついてをり、東電を通じて主に日本電工へ供給される筈である。また登世島水力二萬三千キロの計畫もあるが、これは新郷水力完成後のことである。

【拂込】新郷発電所建設資金として此十月一日に一株につき十二圓五十銭、總額五百七十萬三千七百五十圓の拂込を徴収する。だが、建設資金は直ぐは必要ないのだから、増配の代りに拂込徴収で株主に酬ゆるといふ意味を含んでゐるものであらう。

【業績】去る三ヶ月決算は利益率一割九分二厘、配當率九分、利益保留率五割一分三厘といふ好成绩だつた。來る九ヶ月も大體此の程度の利益が擧がる様子である。此決算からすれば、一分程度の増配も可能なのだが、今期も先づ増配はすまい。前述の通り拂込を徴収するが、その後新郷発電所完成迄の間は資本負擔が加はるからだ。然し現在同様半期四百九十萬圓見當の利益が擧がれば、利益率は一割七分餘となり、現行配當維持は問題あるまい。

【前途】新水力完成後はキロ五十圓に賣れても、半期百二十五萬圓の増収だ。而して其の曉には再度拂込徴収も期待される。

【設立】大正六年八月

【決算期】三月、九月

【事業】電力卸賣

【資本金】電力卸賣

【株数】新(三三三) 舊(一〇〇七〇)

【重役】社長 鈴木忠治 取締役 白野量作

専務 森島 川崎友之介 小坂順造

取締 高橋保 大川平治 石渡吉治

廣瀬久 監査 高梨新三郎

三野 龍雄 鈴木三郎助

【大株主】株主總數 三三三三名

東電證券 三〇〇〇 味の素本舖 一〇〇、〇〇〇

森興業 三三三 帝國生命 三三三、〇〇〇

共済會 三三三 高橋商事 三三三、〇〇〇

第一生命 三三三 新潟電力 三三三、〇〇〇

安田保全 三三三 日本電氣 三三三、〇〇〇

【事業規模】(千キロ) 電力所出力 東電賣電量

高瀬川筋 三三三 阿賀野川筋 三三三

千曲川筋 三三三 吾妻川筋 三三三

計 三三三

【投資会社】昭和肥料、草津電機、日本

電力、東京電力、信濃水電、早川電力

日本電力、大同電力、群馬水電

【資本振動】十二年二月拂込徴収

【資産負債】三十一年

株主資本 三〇〇、〇〇〇

外部負債 三〇〇、〇〇〇

社債 三〇〇、〇〇〇

使用總資本 三〇〇、〇〇〇

固定資産 三〇〇、〇〇〇

流動資産 三〇〇、〇〇〇

【收支勘定】十年上 十年下

収入 六〇〇、〇〇〇

支出 六〇〇、〇〇〇

【業績】十年上 十年下

利益 三〇〇、〇〇〇

【株價】(東電) 株價

九年上 三三三

九年下 三三三

十年上 三三三

十年下 三三三

【豫想配當】十一年九月期 九分

【名義書換】十 議(新券交付)三十議

廣島電気株式会社

(本社) 廣島市小町三三(電氣橋)

【増資決定】當社の現在資本金は六千萬圓全額拂込済みであるが、今回四千萬圓を増資して一億圓の資本金に改めることとなつた。増資の目的は社債並に借入金の一部を返済することにある。而して増資新株八十萬株の内六十萬株を八月一日の株主に舊二株に新一株の割で割當て、十萬株は功勞株とし、残り十萬株はプレミアム附で一般に公募することに決定してゐる。公募の時期乃至條件等は まだ發表されない。

【業績】今年上期の利益金は四百五萬五千圓で利益率は一割三分五厘であつた。前期に比し利益金は二十三萬六千圓を増加したが、拂込資本膨張のため利益率は遂に八厘の低下となつてゐる。配當は八分を据置いたため利益處分は稍々窮屈となつた。前期の利益保留率は四割二分二厘であつたが、今年上期は三割九分二厘と落ちてゐる。

【配當安全】然し當社の供給区域内には各種の工場が多いから今後大に電力の需要増加が期待される。従て増資後に於いても八分配當は略々續けられる見込みである。更に營業上の増益以外に消極的ではあるが、借金返済による利拂減も見込まれる。何れにしても八分配當は安全である。

【設立】大正十年八月

【決算期】五月、十一月

【事業】電燈電力の供給

【資本金】電燈電力の供給

【株数】新(一〇〇) 舊(一、〇〇〇)

【重役】(社長)守屋義之(副社長)鈴木

重一(常務)稻葉吉(取締役)廣島直彌、

澤原精一、島津清吉、坂口武市、井原外

助、井原茂兵衛、藤田宗三郎、戸田宗三郎

木村平八、牧田孫太郎、松本榮一郎(監

査役)太刀掛正一、坂口平兵衛、川村丈

夫(相談役)松本清助

【大株主】株主總數 一一一三名

廣電證券 七六六 島本 幸助 三三三

坂口合名 二〇〇 木村同族 三三三

井原 外助 三三三 木村 平八 三三三

藤田銀行 一〇〇〇 帝國生命 一〇〇〇

米子銀行 八〇〇 中國合同電氣 七〇〇

【事業規模】(水力) 六、三三三キロ

【事業成績】十年上 十年下 十一年上

電燈收入(千圓) 一、一〇〇 一、〇〇〇 一、一〇〇

電力收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

小口電力(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

大口電力(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

電熱供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

電力收入(千圓) 三、一〇〇 三、〇〇〇 三、一〇〇

【投資会社】廣電電機、出雲電氣、廣電鐵道

【資本振動】九年十月第三回拂込三圓徴

收十年七月第四回拂込三圓徴収全額拂

込十年十月第三回拂込三圓徴

込十年七月第四回拂込三圓徴収全額

込十年十月第三回拂込三圓徴

込十年七月第四回拂込三圓徴収全額

【資産負債】十一年

株主資本 五〇〇、〇〇〇

外部負債 五〇〇、〇〇〇

社債 五〇〇、〇〇〇

使用總資本 五〇〇、〇〇〇

固定資産 五〇〇、〇〇〇

流動資産 五〇〇、〇〇〇

【收支勘定】十年上 十年下

収入 七〇〇、〇〇〇

支出 七〇〇、〇〇〇

【業績】十年上 十年下

利益 三〇〇、〇〇〇

【株價】(東電) 株價

八年上 三三三

八年下 三三三

九年上 三三三

九年下 三三三

【豫想配當】十一年十一月期 八分

【名義書換】十 議(新券交付)五十議

京都電燈株式會社

(本社) 京都市中京區河原町通新築橋下ル備前島町(電本局二〇一)

【増資】當社は、去る五月二十八日の定時株主總會で資本金五千二百萬圓を八千萬圓に増加する事に決定した。増資新株二千六百萬圓(五十二萬株)だけを舊株主に二對一の割合で割當て、残り二百萬圓(四萬株)は社員に割當てる。第一回拂込一株十二圓半、總額七百萬圓は去る九月一日に徴收したが、此の拂込徴收後も現行配當維持は何等不安なものと思はれる。

【業績】電力需要が旺盛なので、依然として業績の伸張が豫想されるからだ。將來は暫くをいて本年上期の決算だけを見ても、利益率は一割五分七厘で、一割配當を行つてゐる五年上期當時の利益率一割四分四厘に較べても上位にある位だ。又本年上期の需要を前年同期のそれと對比すると、電燈々数は四〇三を、電力キロワット数は一三〇をそれぞれ増加してゐる。尤も電熱キロワット数は減つてゐるが之は總供給數量が少いのだから問題でない。

【好轉理由】更に餘剰電力のなかつた點も見逃せない。當社は日電、大同、宇治電の三社から買電してゐるが、強制的に餘分の買電契約をさせられ、不經濟極まる状態であつたが、需要増加で之が消化されて來た。現行配當は充分維持可能だ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治二十年十一月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 電燈、電力供給、電線運轉 |
| 【資本金】 | 公稱 五,000,000 拂込 五,000,000 |
| 【株主】 | 新(三三) 三,000,000 舊(一七) 二,000,000 |
| 【役員】 | 社長 田中 博 取締役 藤井 善助 副社長 田邊 隆二 大澤 徳太郎 常務 山本 和七 佐々木 富造 石川 芳太郎 監査 田中 一馬 取締役 會野 作太郎 原 逸郎 取締役 會野 作太郎 株主總數 八,三三三名 |
| 【大株主】 | 第一生命 六,二〇〇 帝國生命 九,二二七 中江 龍二 九,七〇〇 日本生命 九,二二七 松原 庄七 八,七〇〇 大澤 清治 八,三三三 川崎 貯蓄 八,〇〇〇 百十四銀行 七,三三三 |
| 【事業規模】 | (水力) 三,三三三 (火力) 三,三三三 |
| 【營業成績】 | 取付電灯(千灯) 十一年上 十一年下 十二年上 取付電線(千線) 三,三三三 三,三三三 三,三三三 電力供給(千キロ) 六,二二七 六,二二七 六,二二七 同收入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 電線收入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 |
| 【投資】 | 八日市鐵道、京阪電氣、合 同電氣、天橋立鐵道、關西共同火 力、大澤寺川水電、鞍馬電氣其他 |
| 【資本異動】 | 十一年五月新設二面五、丙 七面五拂込徴收 八月二千八百萬圓を 増資、九月第一回拂込二二圓五徴收。 |

| | |
|--------|------------------------------------|
| 【資産負債】 | 四十年 十一年 四十二年 |
| 株主資本 | 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 |
| 社債 | 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 〇 〇 〇 |
| 現金預金 | 〇 〇 〇 |
| 【收支動向】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 十二年上 |
| 収入 | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 |
| 支出 | 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 |
| 利益 | 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 |
| 【配當】 | 一〇月 一〇月 一〇月 一〇月 一〇月 |
| 配當率 | 二〇% 二〇% 二〇% 二〇% 二〇% |
| 【名義書換】 | 十 十 十 十 十 |

臺灣電力株式會社

(本社) 臺北市書院町一ノ一(臺北一電)
(支店) 臺南市觀音亭區有樂町三信ビル(電本局 三三)

【上期好成績】去る六月末締切の上期は利益金二百二十四萬圓餘で、拂込資本金三千七百三十萬九千圓に對する利益率は一割二分餘、配當は六分を續けた。利益金の社内保留率は七割七分三厘だから決算は充分の餘裕がある。利益金は前期に比し四十六萬六千圓を増加し、利益率は二分弱の向上だ。昨年十一月増資新株の拂込二百八十一萬餘圓を取つて資本負擔が増加したにも拘はらず、斯く業績が向上してゐるのは、電力収入の増加に依る。

【建設】現在日月潭第二發電所四萬三千五百キロを建設中で、明年九月迄には完成の豫定である。周知の如く一昨年夏日月潭第一發電所十萬キロが完成したが、臺灣に於ける産業の發展と一般電氣需要の増加に伴つて早くも電源不足を招來しつゝあるため、第二發電所を建設してゐる譯だ。更に其の完成後は霧社堰堤の築造による貯水池建設(資金五百萬圓)大南澳溪發電所三萬キロ建設等々の開發計畫を有してゐる。

【將來】日月潭第二の出力は大體捌ける豫定である。うち二萬七千キロ(負荷率八五%)は日本アルミへ賣る筈だ。料金は最低五厘見當て、日本アルミの業績に應じて料率を引き上げ得る契約だ。其他日産の破安工場への供給計畫等あつて興味多い。

| | |
|---------|--|
| 【設立】 | 大正八年八月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 電燈電力、カーバイド |
| 【資本金】 | 公稱 五,000,000 拂込 五,000,000 |
| 【株主】 | 政府(五〇) 二,500,000 民間(五〇) 二,500,000 |
| 【役員】 | 社長 松本 幹一 取締役 野口 敬治 副社長 安達 房治郎 理事 後宮 信太郎 監事 能澤 外茂吉 監事 後宮 信太郎 後 藤 隆二 八條 隆正 |
| 【大株主】 | 臺灣總督府 五,〇〇〇 臺灣銀行 五,〇〇〇 第一生命 六,〇〇〇 帝國生命 三,七〇〇 臺灣銀行 二,〇〇〇 明治生命 二,〇〇〇 臺灣銀行 七,〇〇〇 臺灣銀行 七,〇〇〇 伊藤 紀兵衛 七,〇〇〇 仁壽 生 命 六,〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 水力 | 一,八〇〇 一,八〇〇 一,八〇〇 一,八〇〇 |
| 火力 | 一,二〇〇 一,二〇〇 一,二〇〇 一,二〇〇 |
| 電力(千キロ) | 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 |
| カーバイド | 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 |
| 製造高 | 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 電燈(千燈) 七,〇〇〇 七,〇〇〇 七,〇〇〇 七,〇〇〇 收入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 供給電力(千キロ) 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 電熱(千キロ) 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 收入(千圓) 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 【資本異動】 昭和十年七月、一一、二五 五千圓を増資。 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 六十年 七十年 八十年 九十年 十一年 |
| 株主資本 | 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 |
| 社債 | 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 〇 〇 〇 〇 〇 |
| 現金預金 | 〇 〇 〇 〇 〇 |
| 【收支動向】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 十二年上 |
| 収入 | 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 |
| 支出 | 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 |
| 利益 | 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 |
| 【配當】 | 一〇月 一〇月 一〇月 一〇月 一〇月 |
| 配當率 | 二〇% 二〇% 二〇% 二〇% 二〇% |
| 【名義書換】 | 五 五 五 五 五 |

鬼怒川水力電気株式会社

(本社) 東京市渋谷区千駄谷五ノ八六一(電話谷五〇一)

【増配】去る五月末締切の上期決算に於て二分増配を執行し、配當七分を付けたが、此の増配は稍々無理であつた。利益金は前期に比し二厘の向上に過ぎなかつたから、増配をする爲には社内保留を減らす外なく、従つて社内保留率は前期の四割八分一厘から二割九分へと急低下した。此の増配は時期尚早だつたと言へる。

【今後】然し下期は大體七分増配を續けてさう窮屈でない決算が出来る豫定である。といふのは利拂減と配當収入の増加があるからだ。當社は去る四月に五分三厘利付一千萬圓、五分二厘利付一千五百萬圓をいづれも四分五厘債に借替へた。此利拂減が半期九萬圓見當になる。上期にはこれがまだ決算に出なかつたが、下期には丸々現はれて来る。配當収入の増加は、小田急が去る四月決算で二分八厘の配當を復活した爲で、これで約七萬圓の配當が當社下期の収入に受入れられる。合せて十六萬圓程増益になる。拂込資本金に對して一分二厘餘の利益率上昇に當る。

【好材料】其他水路清掃によつて、發電所出力が三千キロ増したので之を東電へ賣る筈だが、今迄の所未だ交渉が成立しない。之が賣れば半期十萬圓位の増益にはなるだらう。

【建設】四萬キロの建設計畫あるも未だ認可が下りない。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治四十三年十月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電力卸賣 |
| 【資本金】 | 公稱 50,000 拂込 30,000 |
| 【株数】 | 新 100,000 舊 30,000 |
| 【重役】 | 社長 利光 鶴松 取締役 利光 水松 副社長 中野寅次郎 取締役 小野小之助 常務 利光 學一 取締役 吉村 正吉 取締役 上杉松太郎 監査 藤野 正吉 取締役 藤江 周輔 須田 宜 白根 次郎 池邊 相生 石川 貞 井上 敬太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 4,633名 鬼怒川水力電氣 1,200 小野製糖 300 丸三 300 小川政子 1,500 平沼久三 300 三井物産 300 小川市太郎 1,000 藤江周輔 300 有田 300 有田生命 300 辰馬悦藏 300 中江龍二 300 西野守藏 300 |
| 【事業規模】 | 發電所出力 電力 3,000 水力 3,000 火 力 3,000 賣電先 東電、東京市電氣局其他 供給成積 十年上 十年下 十年上 供給電力 10,000 10,000 10,000 同 收入 10,000 10,000 10,000 |
| 【投資會社】 | 關東水力電氣、小田原金行電氣、帝都電氣 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 |
| 株主資本 | 3,000 3,000 3,000 |
| 外部負債 | 5,000 5,000 5,000 |
| 社債 | 5,000 5,000 5,000 |
| 流動資産 | 10,000 10,000 10,000 |
| 固定資産 | 10,000 10,000 10,000 |
| 投資資産 | 10,000 10,000 10,000 |
| 現金預金 | 10,000 10,000 10,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 収入 | 10,000 10,000 10,000 |
| 支出 | 10,000 10,000 10,000 |
| 【株價】 | 高値 安値 新株 |
| 【豫想配當】 | 十一月十一日 七分 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 二十 |

山陽中央水電株式會社

(本社) 大阪市東區北濱四丁目四八(電北濱五七)

【業績立直】去る五月末締切の本年上期決算に於ては、利益金百九十六萬四千圓を擧げ、前期より二十三萬一千圓、前年同期より三十三萬一千圓を増加した。利益率にして前期に比し一厘、前年同期に比し二厘の向上だ。この五月期には増資によつて拂込資本金が増大したに拘らず、かく利益率が向上したのも注目されてよい。かくて七分配當には、かなりの余裕を示すに至つた。

【立直原因】この業績立直りは、言ふ迄もなく電燈、電力収入の増加によるが、それにも増して重要な原因は、増資による借金の整理である。即ち當社は去る二月十五日、資本金六百萬圓を増資して、三千九百萬圓としたが、増資新株の拂込は一舉に全額を徴收し、これによつて六分利社債五百萬圓の償還を行ひ、また手許資金の充實を計つた。そのため支拂利息は前期より七萬五千圓、前年同期に比すると十七萬一千圓を減少した。こうした借金整理によつて、また内容も改善されてきた。

【前途好望】而も前途には段々楽しみがもてる。殊に當社は最近節電發電所隣接地十三萬坪を、一般工業家に分譲して工場の誘致を計つてゐる。節電港の改築工事も完成が近いから、この企てはかなりの成功を収めやう。七分配當の持績は確實だ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正八年七月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電燈電力供給 |
| 【資本金】 | 公稱 6,000,000 拂込 6,000,000 |
| 【株数】 | 株主總數 1,691名 |
| 【重役】 | (社長) 連水 太郎 (専務) 土居 精治 (常務) 梅田 雄三 (取締役) 井上 周、清水 次郎、南郷 三郎、木原 通一、志津野 直文、小林 三三、河手 拾一、高島 雄三、牛尾 健治、(監査) 伊藤 長太郎、木間 龍三、八馬 兼介 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,691名 山陽中央電氣 3,000 山陽 商事 3,000 早川 電力 1,000 三井 物産 3,000 牛尾 合資 3,000 井上 周 3,000 連水 合資 3,000 井上 周 3,000 井上 合資 3,000 木原 商店 3,000 |
| 【事業規模】 | 發電所出力 (水力) 1,000 供給區域 兵庫縣、廣島縣、岡山縣 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 電燈収入 1,000 1,000 1,000 電力供給 (電力) 1,000 1,000 1,000 電力供給 (電力) 1,000 1,000 1,000 電力収入 (電力) 1,000 1,000 1,000 |
| 【投資會社】 | 山陽中央電氣、中國合同電氣、東城水力、播磨瓦斯 |
| 【資本異動】 | 九年六月、同年十二月及十年六月各十二萬圓拂込徴收(拂込済)十年十一月六萬圓増資。 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 |
| 株主資本 | 3,000 3,000 3,000 |
| 外部負債 | 5,000 5,000 5,000 |
| 社債 | 5,000 5,000 5,000 |
| 流動資産 | 10,000 10,000 10,000 |
| 固定資産 | 10,000 10,000 10,000 |
| 投資資産 | 10,000 10,000 10,000 |
| 現金預金 | 10,000 10,000 10,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 収入 | 10,000 10,000 10,000 |
| 支出 | 10,000 10,000 10,000 |
| 【株價】 | 高値 安値 新株 |
| 【豫想配當】 | 十一月十一日 七分 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 二十 |

日本海電氣株式會社

(本社) 富山市櫻橋通一(電富山三二六一)
(營業所) 東京市麹町區丸の内一ノ二帝國生命館内(電丸ノ内四六六)

【業績】 去る五月末締切の上期には利益率一割三分二厘を示し、八分配當を續けた。十年下期に一分増配をして七分から八分にしたのだが、配當は概して裕りがある。上期利益金の社内保留率は三割六分六厘である。十年下期の社内保留率三割一分八厘に比較すると、可なり樂な決算になつてゐる。

【地盤】 かく良くなつたのは、營業區域が富山縣、石川縣及新潟縣で電力供給に於て惠まれてゐるからだ。大口電力需要家には日滿アルミ、日本鋼管、吳羽紡(吳羽、入善、福野の三工場)、日清紡、錦華紡、王子製紙、立山製紙、北海曹達、日本曹達、日本カ―バイト、七尾セメント、富山電鐵等を持つてゐる。之は非常な強味だ。而も發電所建設費はキロ當り三百十圓で安い。

【建設】 ところが、大口電力供給の増加は當社發電力及購入電力を以てしても不足勝ちとなり、殊に各期洪水時にはそれが著しい。そこで補給用火発電所一萬二千五百キロを建設する計畫がある。出來れば明年十一月迄に完成したいのだが、都合によつては一年遅れるかも知れない。いづれにしても二百萬圓位の金が要る。
【拂込運】 そこで第一新株十七圓五十錢、第二新株五圓位の拂込徴收は行く行く問題になることと思ふ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治三十一年二月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電燈電力及瓦斯供給 |
| 【資本金】 | 公稱 三、〇〇〇、〇〇〇 第一新株(三三三) 三、〇〇〇、〇〇〇 第二新株(三三三) 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株数】 | 株主總數 七、〇〇〇名 第一新株 三、〇〇〇名 第二新株 三、〇〇〇名 |
| 【重役】 | 社長 山田 昌作 取締役 深尾 貞 常務 新田 與一 監査 中田清兵衛 取締役 谷 欽太郎 青木善四郎 取締役 藤田 太郎 馬場 正治 取締役 山田 小兵衛 |
| 【大株主】 | 株主總數 七、〇〇〇名 十二銀行 三、〇〇〇 金澤又在衛門 三、〇〇〇 馬場 正治 三、〇〇〇 金澤野野 三、〇〇〇 米田元吉 三、〇〇〇 運沼安太郎 三、〇〇〇 藤田 合名 三、〇〇〇 山田 昌作 三、〇〇〇 志浦徳太郎 三、〇〇〇 運沼長藏 三、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 發電所出力(水力) 三、二〇〇キロ 供給區域 富山縣、石川縣、新潟縣 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 電燈收入(千圓) 一、一五二、一〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 瓦斯供給(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 黒部川電力、小松電氣、風至電氣、日本カ―バイト工業、富山電氣鐵道、日滿アルミニウム、吳羽紡績其他 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 五、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 収入 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 六分九厘 時價 新 六分 六分七厘 【名義書換】 五 錢 【新券交付】 二十錢 |

中國合同電氣株式會社

(本社) 岡山市上西川町一五(電話 三三三)

【上期業績】 去る五月末締切の十一年上期決算に於ては、利益金二百五十三萬圓を擧げ、對拂込資本利益率は一割六分三厘に達した。電力會社としては頗る好成绩で、九分配當を樂につけた。

【増資實行】 かねて建設中の三幡發電所は去る二月に竣成したが、これに約七百五十萬圓ほどの資金を要した。その資金の一部は、去る二月一日に二百三十六萬七千圓の拂込を徴收して充てたが、なほ借入金で賄つてゐた残りが五百萬圓ほどある。そこでこの借入金の返済を行ふために過般増資案を決定した。一千九百萬圓を増資して、五千萬圓の資本金とするのである。そして第一回拂込金十二圓五十錢は去九月一日に徴收した。

【益々好調】 増資後も何等不安はない。かねて申請中の電力料値下げが七月一日付で認可され、近く實行されるが、それは拂込資本に對して高々三厘位の減收に止る模様だ。電燈、電力ともに引續いて増收が期待される上に、他方借入金の返済による利拂減が加はる。まづ半期二十一萬圓見當の利拂が軽減されやう。新資本による配當負擔増加はほゞこれで相殺される勘定だ。その上三幡發電所の運轉開始によつて電力供給力が増加するから、益々順調が期待される。現行配當持續は確實だ。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正五年六月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電燈、電力供給 |
| 【資本金】 | 公稱 五、〇〇〇、〇〇〇 舊(五〇・〇) 六、〇〇〇、〇〇〇 新(一三三) 六、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株数】 | 株主總數 一、〇〇〇名 新株 一、〇〇〇名 |
| 【重役】 | 社長 坂野 誠太郎 取締役 乾 利一 監査 吉村 善男 清水 榮治郎 今井 茂次 清水 榮治郎 木原 通一 牛尾 健治 土居 清治 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、〇〇〇名 山陽中央電氣 三、〇〇〇 牛尾 合資 三、〇〇〇 鳥取電氣 三、〇〇〇 山陽商會 三、〇〇〇 日本電氣 三、〇〇〇 牛尾 健治 三、〇〇〇 坂野 誠太郎 三、〇〇〇 大阪信託 三、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 發電所出力(水力) 三、〇〇〇キロ |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 電燈收入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同收入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同收入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 鳥取電氣、廣島電氣、加茂電氣、久米水力、作陽水電、日本電氣、播磨電氣、湯原水電 |
| 【資本異動】 | 十一年二月三圓五拂込徴收九 月千九百萬圓増資三圓五拂込徴收 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 五、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 七、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 収入 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 六分九厘 時價 新 六分 六分七厘 【名義書換】 五 錢 【新券交付】 二十錢 |

北海水力電気株式会社

(本社) 札幌市大通東一ノ二
(出張所) 東京市麹町区有楽町三丁目(電報掛) 一五七

【拂込】 當社は昨年十一月に一株につき五圓、總額三百一十一萬二千五百圓の拂込を徴収したが、更に来る十一月同額の拂込を取ることになつた。合せて六百二十二萬五千圓となるが、これは豊平川藻岩發電所建設資金及借金の一部返済の爲である。

【建設】 藻岩發電所は一萬二千キロで、今秋完成の豫定である。此の建設資金は四百五十萬圓見當で、右の二度の拂込資金で充分賄ひ得る。當社は従來王子製紙の苦古牧工場から供給を受けてゐた。處が王子自身の需要増加からこれが不足勝ちとなつてゐたので、藻岩發電所を建設して王子からの受電に代へやうと云ふのである。ほかに札幌市への供給も増加するので、新水力の發電力は大幅に増える豫定である。

【業績】 當社は従來電燈に主力を置いてゐたが、近年北海道の工業的發展に伴つて電力供給も次第に増加してゐる。併しまだ去る四月期に於ても電燈収入と電力収入の振合は七・三對二・七の割合で、電燈収入が依然多い。従つて業績の伸び方は緩いけれども、決算は良好で、去る四月期には利益率一割四分、配當八分で、余裕ある決算であつた。

【將來】 借金は利子は安い、漸次返済の方計。内容は良くなる。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十五年十一月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 電燈、電力供給 |
| 【資本金】 | 公稱 三、三〇〇、〇〇〇 拂込 三、三〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | (要目) 六三、三〇〇 |
| 【役員】 | 社長 藤原銀次郎 取締役 高田 直也 専務 藤井久我治 足立 正 取替 大橋新太郎 田中 治朗 寺田 省吉 後藤 東樹 板谷 宮吉 渡田 昭明 岡崎久太郎 遠藤 石太郎 大瀧基太郎 一柳 貞吉 村田不二三 田中 傳太 高島利太郎 渡邊 道太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、六六名 王子證券 三、〇〇〇 藤原 八、〇〇〇 三井生命 一〇、〇〇〇 合資 八、〇〇〇 平井 國英 七、〇〇〇 板谷 宮吉 七、〇〇〇 日華生命 六、〇〇〇 村田不二三 五、〇〇〇 |
| 【事業所】 | 札幌市、小樽市外十八郡 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 電燈収入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力収入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 同収入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【投資会社】 | 札幌送電、樺太電氣、眞狩電氣、定山溪鐵道、帯岡電氣、小樽水力電氣工業 |
| 【資本異動】 | 十年十一月五回拂込徴収 |

| | |
|--------|--------------|
| 【資産負債】 | 四十 十月 十一月 |
| 株主資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支拂手形 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 五、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 収入 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 利益 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 時價 | 新△七〇 利週 六分八厘 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 三十 額 |

關東水力電気株式会社

(本社) 東京市麹町区丸の内海上ビル(電九ノ内) 六三

【上期業績】 去る六月末締切の上期決算は、利益金百四十三萬五千圓、利益率一割四分二厘を示し、配當は恒例九分の外に、營業開始十週年記念として三分の特配を付けた。利益率は前期に比し三厘の低下だったが、特配を付けただけ決算は窮屈となつて、利益金の社内保留率は前期の三割八分から一割五分餘に低下した。償却率も低下したが、當社は固定資産評價が低いし、従來償却が行届いてゐたので問題にするに足らぬ。

【契約更改】 當社は佐久發電所六萬六千キロを五萬五千キロと査定し、其の全部を東電へ七十二圓で賣つてゐる。半期収入は百九十萬圓見當で、契約期限は昭和十三年十一月である。従つてそれ迄は全く業績には變化が起らない。處が去る六月末に、東電と十三年十二月以後の契約を締結した。その契約によると、電力量は六萬四百七十キロに増加し、料金は年極めて全部を三百五十三萬七千五百圓ばかりと定めた。従つて電力収入は半期百七十七萬圓見當となり、現在よりも半期二十萬圓を減ずる。然し、それでも利益率一割二分餘を擧げ得るから、現行配當は据置ける。

【前途】 佐久發電所出力増加の計畫、餘剰電力利用による新規事業の計畫があり、注目を要する。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正八年十月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 電力卸賣 |
| 【資本金】 | 公稱 五〇、〇〇〇、〇〇〇 拂込 五〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | 新(三三) 三〇、〇〇〇 舊(三三) 三〇、〇〇〇 |
| 【役員】 | 社長 淺野總一郎 取締役 鶴田 勝三 常務 淺野 八郎 監査 金子喜代太 野村 孝 山崎 學一 野村 林太郎 鈴木 敏次郎 淺野 良三 大瀧 大藏 中野 寅次郎 淺野 義夫 廣瀬 爲久 相談 利光 鶴松 太刀川 平治 若尾 球八 杉本 好太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、二七名 淺野同族 三、八〇〇 鬼怒川水力六、六〇〇 東電證券 八、〇〇〇 關東證券 三、八〇〇 帝國生命 三、八〇〇 千代田生命 七、六〇〇 明治生命 二、〇〇〇 加藤金太郎 三、〇〇〇 安田生命 二、〇〇〇 片倉生命 八、〇〇〇 |
| 【事業所】 | 電力卸賣先 東京電燈 責任取置量 六〇、〇〇〇キロ 契約期限 昭和十三年十一月 キロ當年額 八、〇〇〇 供給區域 標津市鶴見區、川崎市 |
| 【投資会社】 | 關東證券 |
| 【資本異動】 | 昭和十年六月一、三〇〇萬圓増資 第一回拂込十二圓五徴収 |

| | |
|--------|-------------|
| 【資産負債】 | 六年 十二年 十六年 |
| 株主資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、七〇〇、〇〇〇 |
| 支拂手形 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 四、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 収入 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 利益 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 時價 | 新△七〇 利週 七分 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 三十 額 |

熊本電気株式会社

(本社) 熊本市新橋今町四六(電 三〇一〇)

【擴張・増資】當社は豫ての懸案たる増資を去る四月二十五日の株主總會で決定し、資本金を倍額の五千五百五十萬圓とした。第一回拂込は一株につき十二圓五十錢、總額六百九十三萬七千五百圓で去る七月一日に徴收した。之で當社の拂込資本金は三千四百六十八萬七千五百圓となつた。増資新株の拂込金は、川邊第一發電所工事費、九州共同火力への拂込金、及び將來の五木川第一、第二兩發電所の建設費に當てられる。

【増益續く】業績は近年極めて順調である。利益金の推移を見るに、九年前下期の例外を除いては毎期順調なる伸張を示してをり、利益率は平均拂込資本の關係で必ずしも利益金と同一の傾向を辿つてはゐないが、九年前下期を境として之亦例外なく向上してゐる。本年上期の一割六分三厘と言ふ利益率は一割配當を行つてゐた八年上、下期の利益率を遙に突破する成績である。現行配當は九分だから決算は益々余裕を加へて來た事が判らう。

【下期配當】従つて假令増資に依る資本負擔の増加があつても、十一年上期程度の利益が擧がれば、現行配當は充分維持し得る。而も最近の需要の増加傾向から見て今後の業績は一層好化するものと見られるから、九分配當は愈々安泰だ。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治四十二年六月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電力電燈の供給 |
| 【資本金】 | 公稱 五,500,000 拂込 三,468,750 新(三) 三,468,750 |
| 【株主】 | 新(三) 三,468,750 |
| 【重役】 | 會長 林市藏(社) 赤星典太(事務) 中島爲喜(常務) 上野吉三(取締役) 大川平三郎(取締役) 田中榮八郎(長谷川太郎(堀内) 藤原平山(岩澤) 森廣(大原) 長野友博(安田) 高木第四郎(高木) 杉原推敏(中津) 高木第四郎(高木) 杉原 |
| 【大株主】 | 株主總數 三,468,750名 安田保全社(三) 中島 爲喜(一) 安田銀行(三) 大川合名(八) 熊本銀行(八) 井芹 康也(八) 清浦 泰吾(七) 長谷川太郎(六) 五木川太郎(六) 五木川太郎(六) |
| 【事業規模】 | 發電所出力(水力) 一,000キロワット 發電所出力(火力) 一,000キロワット |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 電燈數(千燈) 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 電燈收入(千圓) 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 電力契約(千) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 電力契約(千) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 電力收入(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 鹿兒島電氣、球摩川電氣、竹田水電、山鹿水電、九州電力、馬見原水電、大阿蘇電氣、九州共同火力其他 |
| 【資本異動】 | 十一年七月二、七五〇萬圓増資(二) 五拂込徴收拂込 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 三十月 九十月 三十一月 |
| 株主資本 | 三,468,750 三,468,750 三,468,750 |
| 外部負債 | 六,120,000 六,120,000 六,120,000 |
| 社債 | 三,000,000 三,000,000 三,000,000 |
| 流動負債 | 一,120,000 一,120,000 一,120,000 |
| 使用總資本 | 三,468,750 三,468,750 三,468,750 |
| 固定資産 | 一,120,000 一,120,000 一,120,000 |
| 流動資産 | 二,348,750 二,348,750 二,348,750 |
| 現金預金 | 一,120,000 一,120,000 一,120,000 |
| 【收支動向】 | 十年上 十年下 十年上 收入 三,468,750 三,468,750 三,468,750 支出 三,468,750 三,468,750 三,468,750 利益 〇 〇 〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 六分六厘 時價 新六六 利七六六 【名義書換】五 新券交付四十 |

京濱電力株式会社

(本社) 東京市芝區田村町一ノ二(電 銀座 三六二)

【安泰】當社は資本的にも營業的にも完全な東電の子會社で、東電の發電所を唯別會社にしたといふ様なものだから、業基は安泰である。當社の出力は全部を東電へ賣つてをり、東電から毎期百三十萬圓前後の電力料収入及電力輸送料が賦つて入つて來る。東電との契約更改期は昭和十八年二月、料金の更改期は十三年三月だから、當分問題は何もない。

【上期業績】去る四上期では利益率一割七分九厘で、配當は八分を付けた。利益の社内保留率五割一分五厘といふ餘裕ある決算をしてゐる。従つて八分配當は勿論安泰である。

【償却】固定資産は去る四上期で一千七百二十三萬圓あつたが、(償却前)半期三十五萬圓の償却をしてゐるから償却年限は二十五ヶ年賦見當で良好である。公稱出力に對するキロ當り建設費も三百九十圓程で高くないが、今後一層低くなる。

【建設】それに新水力の建設計畫がある。長野縣島々水力二千六百十キロ、山梨縣釜無川第三水力一千七十キロは、未だ着手してゐないが、一、二ヶ月中に工事に取つかゝる。建設費百萬圓見當は手許資金で賄ひ、完成後は東電へ賣ることになつてゐる。完成は昭和十三年の豫定となつてゐる。前途は好望だ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十年六月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 電力卸賣 |
| 【資本金】 | 公稱 一〇,000,000 拂込 一〇,000,000 新(三) 一〇,000,000 |
| 【株主】 | 新(三) 一〇,000,000 |
| 【重役】 | 會長 爲久 取締役 本間 利雄 取締役 上野吉三郎 取締役 小野 耕一 取締役 河野聖太郎 取締役 佐々木久二 取締役 山田康太郎 取締役 木場貞一郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 一〇,〇〇〇名 東電證券(三) 帝國生命(三) 三井物産(三) 片倉生命(三) 第一生命(八) 八〇〇〇 板谷生命(六) 清水三三(三) 八〇〇〇 日本電報(五) 信濃電氣(三) 〇〇〇〇 小野 耕一 〇〇〇〇 大倉 組(三) 〇〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 發電所出力(水力) 〇 〇 〇 發電所所在地 湯川、前川、赤川渡、大白川、釜無川、第一、第二、小武川第三、同第四 主要販賣先 東京電燈(三) 〇〇〇〇 (契約期限六年二月、キロ年額五) |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 供給電力(千) 〇 〇 〇 電力收入(千圓) 〇 〇 〇 |
| 【投資會社】 | 東京電燈、甲府電力、脚電力 |
| 【資本異動】 | 九年七月小武川電力を合併 一六〇萬圓増資 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 四月 十月 四月 |
| 株主資本 | 一〇,000,000 一〇,000,000 一〇,000,000 |
| 外部負債 | 一〇,000,000 一〇,000,000 一〇,000,000 |
| 社債 | 一〇,000,000 一〇,000,000 一〇,000,000 |
| 流動負債 | 〇 〇 〇 |
| 使用總資本 | 一〇,000,000 一〇,000,000 一〇,000,000 |
| 固定資産 | 〇 〇 〇 |
| 流動資産 | 〇 〇 〇 |
| 現金預金 | 〇 〇 〇 |
| 【收支動向】 | 十年上 十年下 十年上 收入 〇 〇 〇 支出 〇 〇 〇 利益 〇 〇 〇 |
| 【利益】 | 九月一日調 七分 時價 新二二 利七六六 【名義書換】十 新券交付三十 |

大井川電力株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内(電丸之内西五六)

【營業】 當社は建設中の會社で、六萬二千二百キロの發電所が来る十月頃完成し、發生電力の全部を東電を通して鐵道省へ賣ることになつてゐる。然し鐵道省が要らぬと云ふ場合は(恐らく其の心配はないのだが)東電と東邦とが半分宛引受けることになつてゐる。商賣としては一寸も心配のないものである。

【資本】 當社は現在自己資本を百五十萬圓、借金(三口)千五百萬圓、合計千六百五十萬圓で開發をやつてゐる。借金は大井川興業(五百萬圓)、大井川開發(二百五十萬圓)の二會社がそれぞれ其の拂込資本金を全部當社へ融通してゐる外、保險團から七百五十萬圓を借りてゐるのである。

【合併】 ところが来る十二月一日に當社、大井川興業、大井川開發の三社が合併することになつてをり、其の前に大井川開發は二百五十萬圓の拂込をとつて五百萬圓拂込となる筈である(其の拂込二百五十萬圓で保險團からの借金を同額だけ返済する)そこで、合併後の當社拂込資本は千五百萬圓となり、借金は保險團の口五百萬圓のみとなる。之は五分利の社債とする筈だ。

【配當】 大井川興業の資本には合併後六分五厘の優先配當をする豫定だが、普通株にも行く行く七、八分の配當が出来る計算。

| | |
|-------------|--|
| 【設立】 | 大正十三年六月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電力卸賣 |
| 【資本金】 | 1,000,000 |
| 【株数】 | 100,000 |
| 【役員】 | 社長 結城 安次、取締役 大井川 平治、新井 榮吉、監査 中村 一郎、江崎 政忠、井手 一郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 九名 |
| 【事業規模】 | 三葉信託元、100、松本左衛門、結城 安次、100、新井 榮吉、中村 一郎、江崎 政忠、100、大井川 平治、中村 一郎、100、吉原 重成 |
| 【發電所出力】 | 1,000,000 (十一月十日完成の豫定) |
| 【關係會社】 | 當社への投資會社 |
| 【大井川興業株式會社】 | 資本金 500,000 (拂込 300,000) |
| 【大井川開發株式會社】 | 資本金 500,000 (拂込 250,000) |
| 【投資會社】 | 大井川鐵道、大井川電力 |
| 【資本異動】 | 十一年十二月、大井川電力、大井川興業、大井川開發の三社合併の豫定 |

| | |
|--------|-------------------|
| 【資産負債】 | 五十年十一月 |
| 株主資本 | 1,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 |
| 使用總資本 | 2,000,000 |
| 固定資産 | 1,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 |
| 【收支總定】 | 十年上、十年下、十一年上、十一年下 |
| 収入 | 1,000,000 |
| 支出 | 1,000,000 |
| 【業績】 | 十年上、十年下、十一年上、十一年下 |
| 【株價】 | 高値、安値 |
| 【豫想配當】 | 十一年十一月期 無配 |
| 【名義書換】 | 十、【新券交付】三十 |

日立電力株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内三葉十五號館(電丸之内西二)(事務所) 茨城縣多賀郡日立町(電日立鎮山三〇)

【配當】 本年九月份決算も、業績順調で現行一割配當は續け得る模様である。周知の様に、増資後第一回目の決算たる去る三月份は一分増配して一割としたのだが、今期も常務方面の炭坑が活況で電力需要は旺盛だし、水流の状態も良好だから、前期程度の業績維持は容易であらう。増資後の資本負擔も大したことはない。

【建設】 當社は木戸川水力一萬百キロを建設中で、今年末には完成の豫定である。そして同時に此の上流に貯水池をも建設中で、これは明春頃完成するだらう。これが出来るると一萬五千キロ位出ると言ふ。建設資金は三百七十萬圓ばかりであるが、去る二月末に徴収した増資新株第一回拂込百二十五萬圓、手許資金百萬圓、利益金の社内保留六十萬圓、社債の借増七十萬圓を以て賄ふ。資金の點は全然問題なく、且つ地點が有利なので建設費は割安に付く。即ち水路二千四百メートル、落差八百尺といふのである。一キロ當り建設費は送電線其他設備を込めて三百圓見當だ。

【今後心好調】 これが完成すると業績は一層良くなる。新水力の發生電力は磐城炭坑への五千キロを始め關係會社の日立鎮山、日立製作へ契約が出来てゐる。配當は既に高率だから増配はしまいが、兎に角前途は楽しみだ。

| | |
|----------------|---|
| 【設立】 | 昭和二年九月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電力卸賣 |
| 【資本金】 | 1,000,000 |
| 【株数】 | 100,000 |
| 【役員】 | 社長 結城 安次、取締役 淺原 源七、常務 玉河 久雄、監査 下河邊 二、取替 友田 一郎、山田 敬光、加藤 亮記 |
| 【大株主】 | 株主總數 三名 |
| 【事業規模】 | 日本産業公司、800、東京生命、1000、安田生命、1000、帝國生命、1000、愛国生命、1000、田中 龍夫、1000、昭和生命、1000、第一鐵兵、1000、大日本産酒、1000、千代田生命、1000 |
| 【平均最大供給電力(水力)】 | 100,000 |
| 【發電所】 | 夏井川第一、第二、第三、石岡第一、第二 |
| 【擴張計畫】 | 木戸川發電所 (出力二千、十一年末竣工) |
| 【事業成績】 | 十年上、十年下、十一年上、十一年下 |
| 【電力収入】 | 1,000,000 |
| 【買入電力】 | 1,000,000 |
| 【資本異動】 | 十年十月五百萬圓増資(二面五拂込) |

| | |
|--------|-------------------|
| 【資産負債】 | 三十年九月 |
| 株主資本 | 1,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 |
| 使用總資本 | 2,000,000 |
| 固定資産 | 1,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 |
| 【收支總定】 | 十年上、十年下、十一年上、十一年下 |
| 収入 | 1,000,000 |
| 支出 | 1,000,000 |
| 【業績】 | 十年上、十年下、十一年上、十一年下 |
| 【株價】 | 高値、安値 |
| 【豫想配當】 | 十一年九月期 一割 |
| 【名義書換】 | 十、【新券交付】五十 |

瓦斯事業

【需要期】瓦スの需要は年々一定の自然増加があるが、之を期別に見ると、各社とも上期に多く下期に少いのが例である。殊に此上期は、燃料以外に工業用燃料としての需要が多かつた爲に記録的な販賣増加を示したが、同時に副生物たるコークス、タール等の需要も殖え業績は頗る順調である。尤も一方には、炭價の昂騰があつたが買炭は多く長期契約であるから購入値段は昨年同期と大差なく、多少の値上りは副生物の値上り、瓦スの需要増加で補ひ得たので、一般に相當の増益を齎した。

【利益保留】然るに各社とも發表された利益は殆ど釘付けで大した増加を示してゐない。之は多く報償契約等の關係から増益をその儘増配に振り向けることが困難なためと社會勢に遠慮して、増益を内面償却又は秘密積立に廻してゐるからである。それが證據には需要増加に伴ひ供給設備等も相當増加してゐる筈なのに、別項に見る如く各社とも興業費勘定は殆ど膨脹を示してゐない。

【統制問題】併し瓦斯事業は電力事業と共に地域的獨占

を許され、重要な基礎産業であるので、瓦斯事業法に於ても之が社會化を以て統制の根本方針としてゐる。されば最近電力統制問題の進展と共に瓦斯事業の統制問題も表面化し、商工省は料金引下げと社會化を目標に瓦斯會社の經營状態を調査中であるといふ。また瓦斯事業の投下資本は、昭和九年末現在の調査によれば、總拂込資本金約四億五千萬圓で電力事業に較べ少ないから、社會化は實行容易である。社會化は兎も角としても、差し當り平準以上の高率料金を徴収してゐる會社は料金引下げを免れぬであらうから、警戒を要する。

【増配抑壓】既に述べた如く、各社の決算は非常に内輪になつてゐるが、今後幸に料金引下げを免れても、統制職運が濃化するから勿論増配は望まれぬ。寧ろ高率料金を貪り而も高率配當をしてゐる會社は、料金引下げによつて減配するに至るかも知れない。元來瓦斯會社の配當率は電力事業に較べ稍々過高の嫌があるから料金と配當問題は今年末から明年にかけて喧しい問題となるであらうが妥當料金の會社は依然堅實な投資株として興味がある。

東京瓦斯株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内海上ビル(電九ノ内西二二三)

【業績順調】十一年上期末の需要戸数は八十八萬餘戸に上り、前年同期より三萬七千餘戸即ち約四%を増加した。販賣高も亦八千六百九十五萬熱位に達し前年同期よりこれまた四%餘の増加である。瓦斯の製造増加に伴つて副生物も増加し、同収入の増加率は一〇%餘に及んでゐる。

【利益調節】かく業績は順調に發展を辿つてゐるに拘らず、表面の計上利益は却つて前年同期より四十四萬五千圓の減少である。之は瓦斯需要の季節的變化が激しいのと、報償契約關係で八分以上の増配困難なため、利益を調節して八分配當から逆算したものを計上し、餘剰利益は内面保留に充てたからだ。現に需要増加に伴ひ供給設備が擴張されてゐるにも拘はらず、興業費は殆ど増加してゐないのは其一證左である。

【統制政策】尤も商工省は近く瓦斯料金合理化を目標とした統制政策を行ふと傳へられてゐる。けれども當社の如く全國で最低の料金しかとらぬ會社には大した影響はない。たゞ新市域の料金値下は不可避だが、之が減收は需要増加によつて補はれることにならう。増資、拂込徴收は勿論、増配も困難だが、低金利時代の資産株として四分五厘利廻までは買へよう。

| | |
|----------|---|
| 【設立】 | 明治十八年十月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 瓦斯供給、瓦斯副生物、瓦斯器械製作販賣 |
| 【資本金】 | 公稱 一億、〇〇〇、〇〇〇 拂込 一三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株数】 | 新 (一三、〇〇〇、〇〇〇) 舊 (一、〇〇〇、〇〇〇) |
| 【重役】 | 社長 井坂孝 常務 都留信郎、取替 神谷啓三 取締役 太田半六、原三郎、江口鶴雄 岩村榮次郎、常監 朝吹常吉 橋本圭三郎、監査 關谷兵助 磯村豊太郎、松本泰治 |
| 【大株主】 | 株主總數 九、八五七名 東京瓦斯 三三、〇〇〇、〇〇〇、九八五名 帝國生命 六、四一〇、〇〇〇、〇〇〇名 東京生命 三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇名 第一生命 三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇名 東京海上 三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇名 |
| 【事業規模】 | 十一年上 十一年下 十二年上 製造能力 一、二二一、〇〇〇 公八 取付計器 一、二二一、〇〇〇 公八 製造高 合、〇〇〇 三、三二二、〇〇〇 公八 買入高 八、八二二 八、八二二 公八 販賣高 合、三三三 八、八二二 公八 |
| 【事業成績】 | 十一年上 十一年下 十二年上 瓦斯收入(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 副生物() 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 【投資會社】 東京瓦斯副産、京濱コークス、鶴見瓦斯 |
| 【資産負債】 | 十一年上 十一年下 十二年上 株主資本 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 使用總資本 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 投資勘定 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 現金預金 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十一年上 十一年下 十二年上 收入 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 支出 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 固定消却 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 消却年率 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【業績】 | 十一年上 十一年下 十二年上 配當率 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 利益 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株價(東京)】 | 十一年上 十一年下 十二年上 高値 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 安値 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【豫想配當】 | 十一年十二月期 八分 |
| 【利率】 | 九月一日 五分二厘 時價 新三〇、利四三分三厘 |
| 【名義書換】 | 五、新券交付 二十餘 |

大阪瓦斯株式会社

(本社) 大阪市東區平野町五ノ一 (電報號 吳六)

【料金問題】供給區域が大坂と言ふ大工業都市である事は何と言つても心強い。たゞ過日新聞紙に報ぜられた料金引下問題があるけれども其の實現は困難と思はれるし、假にそれが實現されるとしても、當社の料金は既に他社に比較してはかなり安くなつてゐるのだから、其の傷手は少くすむわけだ。

【業績順調】近年の業績は極めて順調である。本年上期の決算を見るに、利益金は三百七十二萬六千圓を示し、利益率は一割七分五厘であつた。之を前期及び前年同期と比較すると下表に見る様に若干乍ら更に良くなつてゐる。斯く利益の増加したのは言ふまでもなく瓦斯需要が増加したからであるが、此の傾向は早急に挫折するものと思はれない。従つて今後も幾分づつ増益することには疑ひの餘地がない。

【拂込】當社は拂込徴収の必要に迫られてゐる。これは内容の改善に資するためである。十一年上期末の考課面から見た金融状態は極めて窮乏なものである。例へば固定資産の五千八十七萬三千圓は、株主資本の四千九百八十二萬六千圓より多いし、外部負擔の五百八十八萬四千圓に對し流動資産は三百四十萬五千圓に過ぎないのである。拂込徴収は必至である。

神戸瓦斯株式会社

(本社) 神戸市東區相生町五丁目一七二ノ四 (事務所) 神戸市東區北本町二丁目 (電報號 合三〇)

【好材料】當社にとつて最も大きな好材料は、別會社ベルベツト石鹼賣却の成功である。去る七月三十日、日本産業にベルベツト石鹼株百五十八萬五千圓(額面)と、同社への貸付金二百二十九萬圓とを込めて賣却した。賣値は三百七十五萬圓、現金拂と言ふ好條件である。此の譲渡代金で、第三回社債殘額四百四十萬圓を繰上げ償還するため借入れた約三百六十萬圓を返済した。これで見本期は六萬圓、來期からは七萬二千圓の各利拂減となる。更に見逃してならぬのは、從來半期二十萬圓見當も行つて來たベルベツト石鹼勘定の償却が、今期からは不要となつた。此の二つによつて、消極的ながらかなり今後増益する筈である。

【供給條件改善】然し當社は増配せず、増益は瓦斯消費者へのサービス改善に用ゐるやうである。その第一着手として先づ公示熱量を、從來の一立方米三千七百瓦カローリから、四千瓦カローリ見當に引上げるこゝになつてゐる。

【拂込】當社は來年六月までに社屋新築、瓦斯發生機増設、尼崎瓦斯の増資等で三百三十萬圓見當の資金を必要とする。手許資金だけでは賄へない。拂込徴収は必至である。拂込徴収後現行一割配當は少しも心配ない。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治三十年四月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 瓦斯供給、並に副生物精製販賣 |
| 【資本金】 | 公稱 五,000,000 新(五〇〇) 三,000,000 |
| 【株数】 | 新(五〇〇) 三,000,000 |
| 【重役】 | 片岡 直方 取締役 梶原 仲治 野村 徳七 監査 今村 幸男 下村 孝太郎 清水 正雄 外山 拾造 太田 太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 三,二二三名 野村合名 二,〇〇〇 野村銀行 一,〇〇〇 乙丑組合 一,〇〇〇 野村銀行 一,〇〇〇 野村生命 一,〇〇〇 野村銀行 一,〇〇〇 野村生命 一,〇〇〇 野村銀行 一,〇〇〇 大田生命 一,〇〇〇 野村銀行 一,〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 計量器數千個 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 瓦斯製造(千立方) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 副生物産出(千個) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一、産出(千個) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 瓦斯收入(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 副生物(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 資本異動 九月六日新株第二回拂込十 二圓五枚徴収 |
| 【資産負債】 | 六月 十二月 六月 十二月 株主資本 六,〇〇〇,〇〇〇 六,〇〇〇,〇〇〇 外部負債 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 固定資産 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 現金預金 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【収支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 收入 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 支出 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 固定利益 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 消却年率 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇% |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 高値 安値 高値 安値 高値 安値 高値 安値 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【利息】 | 九月一日調 五分四厘 時價 新三六 利息 四分九厘 |
| 【名義書換】 | 五 條【新券交付】十五條 |

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治三十一年六月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 瓦斯供給並に副生物精製販賣 |
| 【資本金】 | 公稱 五,000,000 新(三二五) 三,000,000 |
| 【株数】 | 新(三二五) 三,000,000 |
| 【重役】 | 小曾 貞松 取締役 長尾 良吉 藤 藤 監査 辰馬 悦藏 取部 川西清兵衛 松葉 恭助 瀧川 英一 |
| 【大株主】 | 株主總數 三,一六六名 本小曾合資 一,〇〇〇 本小曾 一,〇〇〇 大同生命 一,〇〇〇 松商會 一,〇〇〇 長尾青空門 一,〇〇〇 瀧川 英一 一,〇〇〇 御影精製會 一,〇〇〇 第一生命 一,〇〇〇 辰馬悦藏 一,〇〇〇 關口合資 一,〇〇〇 辰馬任男子 一,〇〇〇 川崎武之助 一,〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 一、晝夜製造能力(立方) 一、〇〇〇 供給區域 神戸市、西宮市、兵庫縣武 庫郡の大部分 計量器數千個 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 瓦斯供給(千立方) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 副生物産出(千個) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、産出(千個) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 瓦斯收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 副生物(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 資本異動 尼崎瓦斯、ベルベツト石鹼 投資會社 日本業工 |
| 【資産負債】 | 六月 十二月 六月 十二月 株主資本 六,〇〇〇,〇〇〇 六,〇〇〇,〇〇〇 外部負債 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 固定資産 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇 現金預金 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【収支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 收入 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 支出 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 固定利益 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 消却年率 一〇〇% 一〇〇% 一〇〇% |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 高値 安値 高値 安値 高値 安値 高値 安値 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【利息】 | 九月一日調 五分三厘 時價 新三六 利息 三分九厘 |
| 【名義書換】 | 十 條【新券交付】二十條 |

北海道瓦斯株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内海上ビル(電九ノ内一〇〇〇)

【決算の含み】十一年上期は創業二十五周年記念に當つてゐたが、特配を行はず、八分配當に据置いた。利益率一割四分で八分配當だから決算は頗る含みがある。興業費償却も年率五%で無難の利益處分であつた。

【記録的需量】十一年上期は稀有の嚴寒のため、瓦斯販賣高は三百四十六萬八千立方メートルといふ新記録を示した。下期は夏場で季節的に需量は減少するのを例とするが、今期は十月に地元で大演習があるもので、何時も程需量は減退せず、或は上期程度の販賣高があるものと豫想される。炭價の値上りは多少打撃だが、副産物の値上りや瓦斯の賣行増加で補はれるから懸念する程のことはない。

【含蓄増加】瓦斯の賣行も副産物収入も逐期増加の趨勢にありながら利益は釘付けである。一見不可解であるが、實は興業費の内面償却をし、利益を調節してゐるからである。例へば十一年上期の興業費は九年前下期に比し僅か十五萬圓の微増に過ぎない。最近のメートル一個當り興業費は六十三圓餘で九年前上期の七十七圓餘に比し十圓以上の收縮だ。従つて借金は殆ど一掃された。前途業績は益々順調を豫想されるが、配當は八分に据置かれるであらう。自然内容は好化する一方だ。株價は五分五厘利廻迄買へやう。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十四年七月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 瓦斯供給、瓦斯副産物精製及販賣、瓦斯機器製作及販賣 |
| 【資本金】 | 公稱 三〇〇,〇〇〇 新(三三) 三〇〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | 新(三三) 三〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 太田 牛六 取締役 佐々木健介 取締役 鈴木 寅彦 監査 中島 伊平 取締役 磯部 英一郎 取締役 關谷 平助 取締役 藤井 七郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 三〇〇名 太田 合名 三〇〇 帝國生命 八〇〇 中島 伊平 六〇〇 武州銀行 五〇〇 片倉 生命 三〇〇 東洋火災 三〇〇 東京火災 三〇〇 東洋火災 一〇〇 廣田 恒一 一〇〇 新井 仁一 一〇〇 |
| 【事業規模】 | 一、事業製造能力 三、〇〇〇立方メートル 工場所在地 札幌、釧路、函館市 供給區域 札幌市、小樽市、函館市 引出口數 十一年上期 七、七〇〇 九年前下期 五、八〇〇 瓦斯製造所 三、〇〇〇 販賣高 三、〇〇〇 炭炭高 三、〇〇〇 ターナル(費) 三、〇〇〇 瓦斯收入(千圓) 三、〇〇〇 副産物(千圓) 三、〇〇〇 【資本與動】 昭和九年十月新株第一回拂込十二圓五枚收 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 六月 十二月 十一月 |
| 株主資本 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 外部負債 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 使用總資本 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 流動資産 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 現金預金 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 收入 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 支出 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 消却年率 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 【業績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 利益 | 三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇 |
| 【理想配當】 | 十一年十二月期 八分 【利廻】 九月一日 六分 時價 新 二九〇 利廻 五分三分 【名義書換】 十 新券交付 五十枚 |

南滿洲瓦斯株式會社

(本社) 大連市西通一七

【業態】本年上期(去三月末締切)は株式公開後最初の決算であつたが、当期の利益率は下表に見る如く一割五分一厘で業績にやや向上停頓を思はせる。が、それは拂込七十萬圓を徴収したに拘らず、總係費、營業費、製造費等の増嵩で支度増加し、利益増の鈍かつたによる。無論八分配當の持續に懸念ない成績であつた。

【前送】上期末の需要家戸數五萬九千八百九十六戸は前年同期末より一割五分、瓦斯賣上量の四億六千五百六十二萬立方呎は一割七分の各増加で、何れも創業以來の規模と供給を示した。この傾向は、邦人の増加、各種工業の勃興の好影響で今後も見られるであらう。但し料金引下げ問題があり、現に去四月一日から大連の家事用器具貸付料を若干値下げした。然し供給量の増加で業績に心配ない。殊に當社には哈爾濱に事業創設の計畫がある。

【増資】尤もそれには相當の事業費を要するが、その實現は一般の要望であるから、二、三年後には具体化するだらう。そして程度はまだ判らぬが、増資に進むと思はれる。滿洲電業と共に滿鐵の傍系株開放のトップを切つただけに、危げのない事業だ。

【配當】増配は兎も角、八分維持は確實だ。株價は公開値段より更に十圓高の七十圓幅を唱へる様になるのも無理はない。

| | |
|----------|--|
| 【設立】 | 大正十四年七月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 瓦斯製造販賣 |
| 【資本金】 | 公稱 一〇〇,〇〇〇 株 一〇〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | 株主總數 一〇〇名 |
| 【重役】 | 事務 白濱 多太郎 取締役 中西 敏彦 常務 志村 徳造 監査 富田 壽 齋藤 勲七 深水 壽 取締役 前田 寛伍 |
| 【大株主】 | 株主總數 一〇〇名 南滿洲鐵道 一〇〇 仁壽生命 九〇〇 滿洲銀行 三〇〇 仁壽多太郎 三〇〇 日本生命 三〇〇 大同生命 三〇〇 愛國生命 三〇〇 第一生命 三〇〇 帝國生命 三〇〇 明治生命 三〇〇 志村 徳造 三〇〇 安田生命 一〇〇 |
| 【事業規模】 | 一、事業製造能力(千立方呎) 三、〇〇〇 二、事業製造能力(千立方呎) 三、〇〇〇 |
| 供給區域 | 大連、鞍山、奉天、安東、新京 |
| 【事業成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 売上高(千圓) | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 瓦斯收入(千圓) | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 副産物(千圓) | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 製造費(千圓) | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 營業費(千圓) | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |

| | |
|--------|--|
| 【資産負債】 | 三月 九月 十一月 |
| 株主資本 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 收入 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 支出 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 消却年率 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【業績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 利益 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【理想配當】 | 十一年九月期 八分 【利廻】 九月一日 六分 時價 新 二九〇 利廻 五分三分 【名義書換】 十 新券交付 三十枚 |

京成電気軌道株式会社

(本社) 東京市本所區向島押上町二〇三番地(電燈田三〇)

【前期】先づ上年本期業績を一瞥する。當期の利益率は九分九厘六毛一約一割で、前二期に比べ七分配當に餘裕含みとなつた。電車の不振(降雨と事件の影響による)に反し、電燈電力及自動車の好調だつたのが、業績向上の主因である。勿論向上したと言つても程度は僅少だが、漸く舊態を改める状態となつて来た。

【今期】今期々初六、七二ヶ月の収入は、雜收入を除き電車、電燈電力、自動車共増加し、合計前年同期より五萬八千圓増の八十八萬六千圓を示した。土地賣却も好成績であるから、この調子だと前期に劣らぬ業績を挙げ得やう。配當は引續き七分を踏襲する見込だ。今後も當分増配は望めぬが、内容は改善される。

【内容】電車會社一般の通弊だが、當社も亦資産構成良好とは言へない。併し比較的償却に留意してをる點は認められてよい。而も當局者は來年上期から別途積立(半期四、五萬圓内外)を廢し、それだけ電車業の償却を殖やす方針の様である。從來の擴張期から收益期に入つたので、今後は内容充實に志さうと言ふ譯だ。

【前途】増税問題や電燈料引下問題等あり、現在の業態では樂觀するの早い、明るい方面へ向ひつゝ、あると言ひ得る。株價はジリ高を辿り、額面を復活するに至つたのも無理からぬ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十二年七月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電燈運輸業、電燈電力供給、 乗合自動車業 |
| 【資本金】 | 公稱 100,000 新 100,000 |
| 【株数】 | 新 10,000 |
| 【重役】 | 社長 本田貞次郎 取締役 望月軍四郎 専務 後藤國彦 監査 板谷宮吉 大井田瑞足 井上敬次郎 吉田秀彌 大塚 向 高梨 博司 八木 逸郎 津田 貞吉 後宮新太郎 澤山 村吉 |
| 【大株主】 | 株主總數 3,576名 川崎 善野郎 八次 後藤 國彦 10,000 千崎 商會 10,000 川崎 信託 10,000 野村 生命 10,000 日華 生命 10,000 河野 通三 10,000 千葉 銀行 10,000 |
| 【事業規模】 | (營業軒程) 2,232軒 押上 青砥 高砂 金町 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十二年上 乗客數(千人) 3,322 3,322 3,322 同運賃(千圓) 1,111 1,111 1,111 電燈收入(千圓) 1,111 1,111 1,111 電力收入(千圓) 1,111 1,111 1,111 自動車(千圓) 1,111 1,111 1,111 |
| 【投資會社】 | 渡良瀬水電、成田鐵道 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 |
| 株主資本 | 50,000 50,000 50,000 |
| 外部負債 | 50,000 50,000 50,000 |
| 社債 | 50,000 50,000 50,000 |
| 借入金 | 50,000 50,000 50,000 |
| 使用總資本 | 50,000 50,000 50,000 |
| 固定資産 | 50,000 50,000 50,000 |
| 流動資産 | 50,000 50,000 50,000 |
| 現金預金 | 50,000 50,000 50,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十二年上 |
| 收入 | 50,000 50,000 50,000 |
| 支出 | 50,000 50,000 50,000 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十二年上 |
| 利益 | 50,000 50,000 50,000 |
| 【豫想配當】 | 十一月十一日 七分 |
| 【利息】 | 九月一日 七分 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

京濱電気鐵道株式会社

(本社) 川崎市堀川町二九(電川崎 1000)
(事務所) 東京市芝區高輪南町一七(電高輪 1000)

【大合同】地下鐵の項にも書いた様に、當社と地下鐵の共同出資で京濱地下鐵設立の計畫があり、其の完成と共に當社、地下鐵、京濱地下鐵、高速鐵道及湘南電鐵を大合同する案がある。此問題は今後の成行き及大合同の條件、合同後の配當力等が今のところ的確には判らぬので、瞭つきりしたことは言へないが、然しこれが出れば東京の都心から浦賀まで一直線の連絡が付くから交通量が増加することだけは確かで、其の限り好材料に違ひない。

【資金】京濱地下鐵への當社の出資は五萬株であるから、全額拂込の場合でも、二百五十萬圓に止まるが、最初は五圓拂込の豫定だから二十五萬圓でよいのである。而も其の金繰は、興業銀行が援助する筈だから問題ない。利拂負擔も大したことではない。外に品川—上大岡間に今年末から急行電車運轉計畫があつて、待避線建設其他に七十萬圓の資金を要するが、これ亦金繰は問題なく、利拂も僅かな額に止まる。

【配當】業績は最近順調で、去る五ヶ月決算にも利益率は對前期八厘、對前年同期一分を向上してゐる。今十一月期も期初二ヶ月の成績は依然好調だ。沿線住宅地の發展、今後の急行運轉、子會社湘南の配當復活豫想等好材料は多い。が、當分は増配自重か。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治三十一年三月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電燈運輸業、自動車業 |
| 【資本金】 | 公稱 100,000 拂込 100,000 |
| 【株数】 | 新 10,000 |
| 【重役】 | 社長 望月軍四郎 取締役 田中 百敏 専務 生野 國六 監査 山崎 信一 専務 小川 成亮 上野 清助 取締役 原 善一郎 井坂 孝 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,600名 日本 生命 10,000 内閣 銀行 10,000 太平洋 生命 10,000 小川市 太郎 10,000 望月 軍四郎 10,000 馬場 正治 10,000 望月 太郎 10,000 日清 生命 10,000 望月 玉三 10,000 望月 楠夫 10,000 |
| 【事業規模】 | 品川—横濱日之出町 京濱浦田—穴守 京濱川崎—川崎大師 大森海岸—大森 營業軒程 3,333軒 |
| 【運輸成績】 | 十年上 十年下 十二年上 乗客數(千人) 3,333 3,333 3,333 同運賃(千圓) 1,111 1,111 1,111 自動車(千圓) 1,111 1,111 1,111 |
| 【投資會社】 | 湘南電鐵 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 |
| 株主資本 | 50,000 50,000 50,000 |
| 外部負債 | 50,000 50,000 50,000 |
| 社債 | 50,000 50,000 50,000 |
| 借入金 | 50,000 50,000 50,000 |
| 使用總資本 | 50,000 50,000 50,000 |
| 固定資産 | 50,000 50,000 50,000 |
| 流動資産 | 50,000 50,000 50,000 |
| 現金預金 | 50,000 50,000 50,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十二年上 |
| 收入 | 50,000 50,000 50,000 |
| 支出 | 50,000 50,000 50,000 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十二年上 |
| 利益 | 50,000 50,000 50,000 |
| 【豫想配當】 | 十一月十一日 五分 |
| 【利息】 | 九月一日 五分 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

目黒蒲田電鐵株式會社

(本社) 東京市品川區大崎四ノ三三九(電高輪)〇一七

【伸縮業績】當社の業績は一向に伸びない。本年上期は七十四萬四千圓(銷却後)の利益金を計上してゐるが、十年上期は較べ六千圓、同下期よりは五千圓の各増加に過ぎず、利益率は最近三期に互り一割一分六厘に釘付けてゐる。これで相變らず一割配當を續けてゐるのだから決算は頗る窮屈だ。尤も收支内容を見ると、運輸収入は相當増加してゐるのだが、諸経費の膨脹や子負債の増加等で運輸益金も鐵道業益金も殆ど變化してゐない。これでは池上電車合併の効果も期待ほどでなかつたと云つてよい。それに兼業も、肝腎の田園都市業が行詰つたので、多少の不調を遺棄決算をやらねばならなかつたのも當然である。

【下期】十一月末締切の下期も大體この調子で一割配當を持續しようが、相變らず餘裕少ない決算であらう。

【問題】當社は二千三百萬圓の固定資産に對し株主資本は一千四百萬圓を有するに過ぎず、他方外部負債は一千七百萬圓に達する有様である。とすれば内容改善が急務である。少くも二分減配して八分配當とするのが妥當と思はれる。そして姉妹會社東横電鐵の補助期限が去る二月満了となつた折柄、結局は當社との合併が斷行されるものと推察される。

東京横濱電鐵株式會社

(本社) 東京市品川區上大崎四ノ三三九番地(電高輪)〇三三

【増資】本年七月初、最終拂込百二十萬圓を徴收して一千一百萬圓全額拂込となつたが、更に子會社東横乗合の合併を機に四百萬圓増資を決定した。同乗合は這般、同じく子會社なる大正自動車及び東横タクシーを合併し資本金七十五萬圓に膨脹したが、之を更に四百萬圓に増資して當社に合併するのである。

【上期躍進】本年上期は總收入二百十六萬圓に對し總支出百六十七萬圓で、益金は一躍四十八萬七千圓に上つた。對十年上期十六萬圓と五割近い増益である。利益率も七分益から九分九厘へ好化し、六分配當を據置いた。業績向上の主因は鐵道業の好調にあるが、兼營百貨店の方も幾分収益期に入つたからだ。

【補助満了と今後】下期は上期程學生定期券収入がない上、去る二月で補助金も打ち切られたので、五、七萬圓の減収も豫想されるが、他面運輸成績の伸張があるから、窮屈乍ら現行六分配當は問題あるまい。併し當社は、映畫劇場(建設中)への出資、百貨店の擴張、東京高速の渋谷驛連絡等で資金需要に迫られてゐる。その爲め前述の増資をしたり、玉電合併を目論んで金融圓滑化を計つてゐる譯だ。鐵道業が將來性に富むとはいへ、資本構成には難があるから手放し樂觀は禁物だ。尙早晚目黒電鐵と合併の筋合。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正十一年九月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電鐵運輸業、電灯電力供給 乗合自動車營業 |
| 【資本金】 | 公稱 1,700,000 株主 1,700,000 |
| 【株主】 | 第三新 (100) 株主 1,700,000 株主 1,700,000 |
| 【役員】 | 専務 五島 慶太 取締役 丹羽 武朝 常務 藤原 三郎 監査 石川 善太郎 取締役 緒明 圭造 小宮 大郎 中川 正左 津澤 秀雄 小林 一三 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,700名 第一生命 1,000 日商聯合 300 大正生命 200 藤澤同族 200 帝國生命 100 川崎重工業 100 |
| 【事業規模】 | 營業線 目黒-蒲田、五反田-蒲田 大井-二子玉川、野ヶ谷-新島津 營業軒數 34・五軒 |
| 【乗客數】 | 十年上 十年下 七年上 同 運賃(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 電力(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 電灯收入(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 電力收入(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 自動車(千圓) 1,200 1,100 1,000 |
| 【投資會社】 | 東横電鐵、目黒乗合、 |

| | |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 1,700,000 1,700,000 1,700,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 社債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 2,700,000 2,700,000 2,700,000 |
| 固定資産 | 1,400,000 1,400,000 1,400,000 |
| 投資資産 | 1,300,000 1,300,000 1,300,000 |
| 流動資産 | 1,300,000 1,300,000 1,300,000 |
| 現金預金 | 1,300,000 1,300,000 1,300,000 |
| 【收支動向】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 1,200,000 1,100,000 1,000,000 |
| 支出 | 1,200,000 1,100,000 1,000,000 |
| 利益 | 1,200,000 1,100,000 1,000,000 |
| 【配當】 | 九月一日調 六分七厘 新調 六分三厘 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十三年六月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電鐵運輸、百貨店、自動車營業 |
| 【資本金】 | 公稱 1,100,000 株主 1,100,000 |
| 【株主】 | 株主 1,100,000 |
| 【役員】 | 専務 五島 慶太 取締役 小宮 大郎 常務 藤原 三郎 監査 丹羽 武朝 取締役 緒明 圭造 津澤 秀雄 中川 正左 津澤 秀雄 小林 一三 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,100名 第一生命 1,000 日商聯合 300 大正生命 200 藤澤同族 200 帝國生命 100 川崎重工業 100 |
| 【事業規模】 | 營業線 渋谷-横濱櫻木町 營業軒數 34・五軒 |
| 【乗客數】 | 十年上 十年下 十一年上 同 運賃(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 電力(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 電灯收入(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 電力收入(千圓) 1,200 1,100 1,000 同 自動車(千圓) 1,200 1,100 1,000 |
| 【投資會社】 | 目黒蒲田電鐵の子會社 東横電鐵、東京高速、川崎乗合、東横 映畫劇場、最近東横乗合を合併四百萬圓増資の予定 【資本異動】十年八月五開拂込徴收、十一年七月十開拂込徴收 |

| | |
|--------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 1,100,000 1,100,000 1,100,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 社債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 2,100,000 2,100,000 2,100,000 |
| 固定資産 | 1,400,000 1,400,000 1,400,000 |
| 投資資産 | 1,300,000 1,300,000 1,300,000 |
| 流動資産 | 1,300,000 1,300,000 1,300,000 |
| 現金預金 | 1,300,000 1,300,000 1,300,000 |
| 【收支動向】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 1,200,000 1,100,000 1,000,000 |
| 支出 | 1,200,000 1,100,000 1,000,000 |
| 利益 | 1,200,000 1,100,000 1,000,000 |
| 【配當】 | 九月一日調 四分六厘 新調 四分六厘 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

小田原急行鐵道株式會社

(本社) 東京市渋谷區千駄谷五ノ八六一(電四谷七二)

【復配】去る四月決算で愈々二分八厘配當を復活した。五年前から十一期間無配を繼續した後の復配である。然し復配はしたが當期益金廿七萬七千圓の内、廿四萬圓は臨時益金であり、營業益金は三萬七千圓に過ぎぬ。前者は下表に證券賣却益とあるのがそれ、社長出資の山形省招遠金山株の内二千株を當社に無償で提供し、當社は之を鬼怒川興業に賣つて得たものだ。

【今期】今期は季節關係により上期より遙かに良成績の見込だ。尤も期初五―七月の三ヶ月間の運輸收入六十三萬二千圓は、前年同期より二千圓の減少である。併し八月はぐつと見直しだから期末迄には相當の増收となり、結局益金は尠なくも前年同期並、よければ卅萬圓前後には達しやう。假に廿八萬圓と押へて利益率三分七厘となるから、現行配當持續は可能な譯である。

【前途】問題は來期以降だ。座間に士官學校が移轉するに決し、補助金も現在の區間分は來年三月で打切となるが、新規に小田原線に對し下附される可能性がある。然し尙安心は出來ぬ。其處で前記金山の稼行益(來年一月から製鍊豫定)を社長ほどの程度當社株主に分配するかにより配當が決まる。産金事業を投機的に充て込むのでなければ、當社株を買進むのは早計である。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正十二年六月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 電氣運輸、土地砂利營業 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 |
| 【株数】 | 100,000 |
| 【重役】 | 社長 利光 鶴松 取締役 西野 守藏 副社長 池邊 昭生 取締役 利光 學一 常務 栗崎 康太郎 廣野 健次 三浦 實 廣瀬 健吉 取締役 小川市太郎 監査 原田 十衛 益田 元亮 星 光 小久保 喜七 |
| 【大株主】 | 株主總數 1,001名 鬼怒川水力(三) 鬼怒川興業(三) 六八 利光 鶴松 六〇〇 鈴木茂兵衛 一〇〇 吉田丹治郎 四〇〇 星 光 一〇〇 小川 あか 三〇〇 鳩山 一郎 三〇〇 三〇〇 |
| 【事業規模】 | 新原一田原、 新原町田―片瀬江ノ島 營業里程 二〇・一軒 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十二年上 乗客數(千人) 八・二〇 八・三三 同運賃(千圓) 一・二二 一・二二 貨車收入(千圓) 一・二二 一・二二 收入總計(千圓) 一・二二 一・二二 副業收入(千圓) 一・二二 一・二二 政府補助(千圓) 一・二二 一・二二 投資會社 帝都電氣、東京高速鐵道、 鬼怒川水力 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 四十年 十一年 四十二年 |
| 株主資本 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 外部負債 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 社債 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支拂手形 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 使用總資本 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 固定資産 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 流動資産 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 現金預金 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【收支總定】 | 十年上 十年下 十二年上 |
| 收入 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 利益 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 |
| 利 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【豫想配當】 | 十一年十月期 二分八厘 |
| 【利息】 | 九月一日調 利四厘二分厘 |
| 時價 | 新 三五 利 五分五厘 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 三十 |

玉川電氣鐵道株式會社

(本社) 東京市渋谷區大和田町一(電青山五五―一)

【株價の昂騰】本年初以來の當社株價の騰勢は依然挫折しない。九月初迄に親は六十三圓弱み、新は三十二圓弱みを唱へ、新の利廻りは實に三分七厘見當である。斯様な高値示現は、當社合併の意圖ある東横電鐵の買取りに因る結果である。

【上期安定】本年上期は益金四十一萬二千圓を挙げ、利益率は一割四厘に達した。十年上期に較べ五萬一千圓の増益、一分一厘の利益率向上に當り、漸く五年當時の位置に戻つた譯だ。配當の七分据置は當然である。社内保留僅か二割八分では裕り多い利益處分とは云ひ難いが、それでも前よりは餘裕を加へて來た。

【下期】十一月末締切の今下期は大体順調に推移してゐるから、四十萬圓程度の利益は擧げられよう。とすれば、利益率は一割見當になるから、七分配當の持續は可能だ。

【前途】當社の前途には可なり複雑な事情が伏在する。當社の電燈電力部を渴望する東横電鐵は當社株買占めに狂奔してゐるから、早晚同社に支配される運命のようだ。條件次第では強ち合併を嫌がる筋合とも思はれぬが、既に合併交渉には轉も入つてゐることだから實現には可なり曲折があらう。尙、オリンピック村が二子玉川方面に決定すれば、當社が惠まれることは勿論だ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治三十六年十月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電氣運輸、電氣自動車營業 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 |
| 【株数】 | 100,000 |
| 【重役】 | 社長 平沼 亮三 取締役 村瀬 末一 常務 井上 太郎 監査 金澤 三郎 取締役 井上 太郎 後藤 國彦 金光 廣夫 |
| 【大株主】 | 株主總數 623名 東横電氣(三) 千代田生命(三) 六〇〇 大正生命(三) 日本教育(三) 六〇〇 三井物産(三) 日本電報(三) 六〇〇 日野屋之進(三) 東都聯合(三) 六〇〇 |
| 【事業規模】 | 營業里程 三・七軒 營業線 渋谷―玉川、玉川―砦、渋谷 橋―中目黒、渋谷―天現寺橋、三軒 茶屋―下高井戸、玉川―溝ノ口 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十二年上 乗客數(千人) 九・八〇 九・九三 同運賃(千圓) 一・三〇 一・三〇 貨物數(千圓) 一・三〇 一・三〇 同大口(千圓) 一・三〇 一・三〇 同收入(千圓) 一・三〇 一・三〇 電燈收入(千圓) 一・三〇 一・三〇 同收入(千圓) 一・三〇 一・三〇 自動車收入(千圓) 一・三〇 一・三〇 投資會社 多摩川水力、玉川製氷、南 武鐵道 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 五十二年 |
| 株主資本 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 外部負債 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 社債 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支拂手形 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 使用總資本 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 固定資産 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 流動資産 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 現金預金 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【收支總定】 | 十年上 十年下 十二年上 |
| 收入 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 利益 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 |
| 利 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【豫想配當】 | 十一年十一月期 七分 |
| 【利息】 | 九月一日調 利四厘二分厘 |
| 時價 | 新 三五 利 五分五厘 |
| 【名義書換】 | 十 新券交付 三十 |

西武鐵道株式會社

(本社) 東京市淀橋區下落合二ノ二三五八番地(電大家三六七一)

【黒字決算に轉換】本年上期決算は久し振りに黒字を計上した。九年上期の欠損以來實に五期目である。と云つて其の利益は僅か二萬三千圓(消却前)に過ぎず、對拂込利益率五厘餘だ。これでは假令、繰越損(二十三萬六千圓)がなくても配當復活など尙問題にならない。收支は十年上期に較べ共に收縮してゐるが、支出の激減が黒字決算の根因を爲してゐる。新宿線の青バス委任經營の結果十二萬圓を收受したのと、同線の營業支出がなくなつた爲めとで好轉したわけだ。未だ積極的好轉とは云へない。

【下期】今期は夏季のことでもあり、上期より向上して三萬圓程度の益金が見込める。が無論無配繼續だ。たゞ最近、青バス側から委任經營報償金の減額を要求してゐるのは幾分問題だ。

【復配期】兎も角現狀では復配は却々難しい。そこで當局者は資本金一千三百萬圓を一千萬圓程度に減資する肚の様だ。拂込金では百八十七萬圓の切捨てだ。之が實現すれば、從來の土地勘定、早稲田線假出金、旅客誘致設備費、砂利起業費等に於ける不良資産百八十三萬圓が丁度整理出来る。當局者は低率でも復配し、之を機會に高田馬場線の新宿乗入れやオリンピック村の村山招致資金を得たいやうだから、減資は案外早いかもしれぬ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十一年八月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 鐵道運輸自動車、砂利、營業 |
| 【資本金】 | 公稱 三、〇〇〇、〇〇〇 新 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | 新 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 山本 源太 取締役 佐藤 秀吉 事務 會我 正雄 渡邊 甚吉 取務 大川平三郎 監査 岩瀬 國彦 根津嘉一郎 山崎豊太郎 松島 喜作 山崎高七 増田 二郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 三、〇二名 廣長八郎 三〇〇 大川合名 六〇〇 大正生命 五〇〇 轉利右衛門 三〇〇 櫻井合名 三〇〇 石崎 三三 三〇〇 山崎豊太郎 三〇〇 矢尾喜兵衛 三〇〇 山崎覺太郎 三〇〇 尾崎 三三 三〇〇 |
| 【事業規模】 | 營業軒數 一、〇七九軒 村山線 高田馬場—村山貯水池 川越線 川越—是國分寺 多摩線 武藏野—是國分寺 新宿線 新宿—川越久保町 大宮線 大宮—川越久保町 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 乗客人員八〇八、三三三 八〇〇、三三三 同 收入(千圓) 五、六三三 五、六三三 貨物數量(千噸) 八、二〇〇 八、二〇〇 自動車(台) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 砂利(千噸) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 新 收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 八、〇〇〇、〇〇〇 八、〇〇〇、〇〇〇 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 八、〇〇〇、〇〇〇 八、〇〇〇、〇〇〇 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支拂手形 | 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 四、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 五、六三三 五、六三三 五、六三三 |
| 支出 | 四、六三三 四、六三三 四、六三三 |
| 利益 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 利益 | 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 |
| 八一年上 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 九一年上 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 十一年上 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 十一年下 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

帝都電鐵株式會社

(本社) 東京市澁谷區千駄谷五丁目八六二(電四谷 天六下三)

【上期】五月決算の本年上期は利益九萬二千圓、利益率五分七厘で五分配當を据置いた。然し例により建設利息配當の名目だ。利益全額を未開業線(下表参照)の償却とし、更に内八萬圓を利益處分に計上しての配當である。未開業線建設の計畫がないから、斯うした決算方法は變則で、不堅實と言はねばならぬ。

【下期】今下期は期初六、七の二ヶ月間で前年同期より約一萬圓増の八萬三千圓の運輸收入を挙げた。八月は好天氣に恵まれたし、期を通じては十萬圓位の利益を挙げ得るかも知れない。從來と同様を決算方法を踏襲し五分配當を續けるだらう。或は配當好みの當局者の事だから、増益即ち増配と考へ一分位増配するかも見られるが、今の處その點迄判定することは出来ない。

【問題】前記未開業線の施工認可は来る十一月末を以て切れる。建設利息配當をやる爲めには延長再申請を行ふ外ないが、建設する意圖のないものを鐵道省が認めるかどうか疑問だ。否と来た場合、次期からは未開業線へ支出済の建設費の腐れを償却しつゝ、配當するのだから、減配の餘儀なきに至るは必然。

【前途】それでも難生の積りなら、線路は若いし、東京高速の開通、淨水道上のバス認可期待等の好材料あり捨てたものでない。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 昭和三年九月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電氣運輸、自動車營業 |
| 【資本金】 | 公稱 三、〇〇〇、〇〇〇 拂込 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株主】 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 利光 鶴松 取締役 池邊 相生 副 安藤 龍五 宇井 孝三 常務 川又貞太郎 監査 井上敬太郎 取務 中川小十郎 中野寅太郎 小田原急行 株主總數 三、〇二名 大株主 鬼怒川水力 三〇〇 東京山手電氣 三〇〇 有村兵衛 三〇〇 宇井孝三 三〇〇 前田利三 三〇〇 鈴木三榮 三〇〇 小曾清子 三〇〇 東横電氣 一、〇〇〇 小川 政子 一、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 營業線 澁谷—吉祥寺 未開業線 駒込—大井町 施工認可申請期限十一年十一月末 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 乗客人員八〇八、三三三 八〇〇、三三三 同 收入(千圓) 五、六三三 五、六三三 貨物數量(千噸) 八、二〇〇 八、二〇〇 自動車(台) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 同 運賃(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同 運賃(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同 運賃(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同 運賃(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支拂手形 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 五、六三三 五、六三三 五、六三三 |
| 支出 | 四、六三三 四、六三三 四、六三三 |
| 利益 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 利益 | 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 |
| 八一年上 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 九一年上 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 十一年上 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 十一年下 | 高値 〇・〇〇 安値 〇・〇〇 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

相模鐵道株式會社

(本社) 神奈川県高座郡茅ヶ崎町
(出張所) 東京市豊島區飯田町五ノ二五(電九段 三六)

【好材料出現】陸軍士官學校及び廣大な練兵場が、當社沿線の座間驛附近へ移轉に決した。陸軍當局は既に百八十萬坪の敷地買収に着手し、校舍建築は愈々入札の由である。これで當社は砂利部に於いて建設用砂利販賣が殖え、鐵道方面亦收入増に恵まれることとなる。前途の發展を約束されたと見てよからう。

【バス業開始】上期は省線八王子驛乗入れて鐵道業が相當の成績を挙げたのと、砂利業の支出減で七萬九千圓の益金を挙げた。利益率は六分六厘に當り十年上期より五厘の好化である。従つて十年上期の様に四分配當も出来ぬ譯ではなかつたが、三分配當に据置き資産銷却金も計上した。従來に較べ稍々堅實な決算と評してよい。併し砂利業の不振は未だ回復せず、また鐵道業も僅か乍ら十年上期に及ばなかつた。そこで當社線に併行する藤澤バスを牽制する爲め淵野邊、田名、橋本間の路線を買収し、本年初月から乗合自動車營業を開始した。が益金を擧げるまでには至らなかつた。

【配當力】今期は砂利業の安値契約がなくなつたし、鐵道業が増收期であり、バス業も去る七月から厚木―上溝間の依知線を買収したから、本年上期並みの成績は見込める。當局者は一、二分増配して拂込を徴収したい様だが、据置かれよう。

| | |
|-------|--|
| 【設立】 | 大正六年十二月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電鐵運輸砂利業營業 |
| 【資本金】 | 公稱 三,000,000 拂込 三,000,000 |
| 【株主】 | 新 100,000 舊 100,000 計 200,000 |
| 【役員】 | 社長 渡邊 謙吉 専務 曾我 正雄 取締役 沼田 敏明、大藏 隆、望月 建治、土志田 與助、徳田 昂平 |
| 【大株主】 | 株主總數 200名 沼田 敏明 10,000、水野 秀雄 10,000、 田中 一六、三三、横濱 火災 10,000、 馬場 謙吉 10,000、土志田 與助 10,000、 清田 正二、三三、高西 資三郎 10,000、 堀田 宗一、三三、山文 商店 10,000、 【事業規模】 營業軒數 14、 營業線 茅ヶ崎―橋本、藤川―四ノ宮 【事業成績】 十年上 十年下 十年上 乗客人員 100,000 100,000 100,000 客車收入 100,000 100,000 100,000 貨物運賃 100,000 100,000 100,000 砂利部 100,000 100,000 100,000 賣上高 100,000 100,000 100,000 同金額 100,000 100,000 100,000 政府補助 100,000 100,000 100,000 【投資會社】 昭和砂利工業、東京砂利共販 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 固定資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 |
| 收入 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 支出 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 利益 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 【利息】 | 九月一日調 四分五厘 時價 新 三三、三三 利息 五分 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 十 【新券交付】 二十五 二十五 二十五 二十五 |

青梅電氣鐵道株式會社

(本社) 東京府西多摩郡青梅一九二(電青梅三)

【貯水池工事と當社】東京市の大貯水池築造地は、當社線の終點御嶽驛を距る十二哩の小河内村に決定した。此築造は長さ三百二十米、頂幅八米、高さ百四十九米といふ世界第二の高堰堤を擁し、満水時貯水量一億八千四百萬立方米と言ふ大工事である。總工費は四千萬圓の巨額に達し、今十一年度から昭和二十年度に亘り、使用人夫一日五千人に及ぶ豫定だ。當社は同工事により種々の點で惠まれる。先づ客車收入が潤ふのは言ふまでもないが、貨車收入も材料の運搬で相當の増加が見込める。加之、石材部の石灰原石販賣も多分に増収が豫想される。貯水池完成の曉は御嶽山を中心にして一大公園となるから、遊覽線の強味も増すこと勿論だ。

【配當力】九月末締切の本年下期はまだ該工事の思惑には浴さないが、夏季を含む増收期のことだから十年下期並みの成績は收められよう。益金七萬圓を擧げ得れば利益率は四分六厘見當になるから、三分の現行配當持続は可能と言へる。それに借入金と支拂手形の百五十萬圓は平均五分六厘の高利の爲め、目下借替交渉中だが、これに成功すれば一層樂な三分配當が付けられよう。いづれにしろ、最早三分配當に挫折の憂ひがなくなつたのみならず、前項の好材料より見れば、先行き低率乍ら増配の樂みさへある。

| | |
|-------|--|
| 【設立】 | 明治二十六年十一月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電鐵運輸自動車石材採取營業 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000 |
| 【株主】 | 第六新 100,000 第七新 100,000 計 200,000 |
| 【役員】 | 社長 小澤 太平 専務 山崎 文五郎 取締役 大島 三三郎、指田 茂十郎、 平岡 久左衛門、中村 中左衛門 |
| 【大株主】 | 株主總數 200名 大株主 田村 牛十郎 10,000、 小澤 重徳 10,000、山崎 文五郎 10,000、 小澤 太平 10,000、石川 彌八郎 10,000、 平岡 久左衛門 10,000、 【事業規模】 營業線 立川―御嶽、福生―河岸 營業軒數 10 【事業成績】 十年上 十年下 十年上 乗客數 100,000 100,000 100,000 同運賃 100,000 100,000 100,000 一日平均 100,000 100,000 100,000 貨物運賃 100,000 100,000 100,000 同運賃 100,000 100,000 100,000 自動車部 100,000 100,000 100,000 同運賃 100,000 100,000 100,000 【投資會社】 西武興業、武陽銀行、奥多摩振興、御嶽登山鐵道 |

| | |
|--------|----------------------------------|
| 【資産負債】 | 三十年 九十年 三十一 |
| 株主資本 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 借入金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 9,000,000 9,000,000 9,000,000 |
| 固定資産 | 9,000,000 9,000,000 9,000,000 |
| 流動資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年上 |
| 收入 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 支出 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 利益 | 100,000 100,000 100,000 100,000 |
| 【利息】 | 九月一日調 四分五厘 時價 新 三三、三三 利息 五分 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 十 【新券交付】 五十 五十 五十 五十 |

秩父鐵道株式會社

(本社) 埼玉縣熊谷市大字熊谷二二三(電熊谷一四三)

【配當】當社は九年上期決算から今年上期迄六分配當を續けてゐるが、決算は余剰のある方ではない。去る五上期決算は利益率八分三厘弱だから六分配當では窮屈で、利益金の社内保留率は二割四分であつた。固定資産償却も充分とは言へない。が、償却を増す様なことをしない限り、業績の上からは減配する理由もない。

【業績】當社の収入の大部分は電鐵収入で、去る二月から自動車の營業をも始めたが、自動車収入は僅かである。電鐵収入は客車収入が四割五分、貨車収入が五割五分といふ振合で、貨車収入の方が多し。姉妹會社たる秩父セメントの出荷や原料運搬によるものである。ところで今後の業績であるが、洋灰出荷高は先づ順調に行くだらうし、客車収入も心配は要らぬ。乗客は沿線居住者が主で、大体固定してはゐるが、東京方面からの遊覽客及登山客は漸増の傾向にある。従つて今下期も大體前年同期程度維持か、或は僅かでも増益するものと見られる。

【將來性】と云つても將來に大きな期待は持てない。只去る二月に合併して始めた自動車事業が競争排除に役立つたこと、今後業績に寄與する様になるだらうと思はれることだけである。内容の點は、償却不足ではあるが、固定資産評價も先づ普通である。

富士身延鐵道株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町二ノ五(電日本橋三三四)
(事務所) 靜岡縣富士郡富士町(電富士四)

【繰越損縮減】上期末繰越損は十一萬八千圓に縮減し、あと二期で補填し終る見透しがついて來た。四十萬圓近い繰越損を擁し、剩へ赤字を續けてゐた八年當時から見れば様變りである。併し赤字こそ出さなくなつたが、まだ積極的向上とまでは行かない。上期は収入六十四萬七千圓に對し支出五十三萬一千圓で十一萬六千圓の益金を擧げたが、前二期に較べると収入減支出増は蔽ひ難い。上期は天候に崇られて豫期の客車収入を擧げ得なかつたのと、宣傳費等の營業支出が嵩んだ爲めもあるが、拂込に對し二分一厘程度の利益率ではまだ問題にならない。

【今期】尤も夏季は遊覽季節でもあり宣傳も効いたやうだから鐵道収入は期待される。他方支出も負擔利子減や經費切詰めがあるから今期は十五、六萬圓見當の益金は擧げ得やう。

【前途多難】だが配當復活は却々の難事だ。假令業績は上つても、借入金は一分五厘の特別扱ひだから、この方を整理せねばならぬ。それに十三年五月には補助滿期となり同十月は問題の社債償還期が來る。業績好化の折柄なほ手厚い同情は期待されようが、復配には間がある。最近、失權株切捨による減資説もあるが、まだ債權者の承認を得るまでには至らぬやうだ。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治三十二年十一月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 鐵道運輸業 |
| 【資本金】 | 公稱 三,000,000 第一新 (五〇〇,〇〇〇) 第三新 (五〇〇,〇〇〇) |
| 【株數】 | 株主總數 一,〇〇〇名 |
| 【重役】 | 社長 諸井 恒平 取締役 岡野 昇 常務 柿原 龜吉 河野 第一 監査 山本 秀雄 取締役 大橋 善吉 諸井 四郎 松本 眞平 根津 善一郎 出井 兵吉 石橋 幸助 出井 兵吉 山本 眞平 山本 眞平 |
| 【大株主】 | 株主總數 一,〇〇〇名 秩父セメント 株式會社 一,〇〇〇名 秩父セメント 株式會社 一,〇〇〇名 秩父セメント 株式會社 一,〇〇〇名 秩父セメント 株式會社 一,〇〇〇名 秩父セメント 株式會社 一,〇〇〇名 |
| 【事業規模】 | 羽生一熊谷一三峯口 營業里程 三〇.〇〇 哩 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 營業人員(十人) 六〇〇 六〇〇 六〇〇 同運賃(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 貨物(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 同運賃(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 自動車(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 運輸收入(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 |
| 【投資會社】 | 秩父セメント |
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 五十二年 株主資本 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 外部負債 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 社債 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 固定資産 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 一五,〇〇〇,〇〇〇 一五,〇〇〇,〇〇〇 一五,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 現金預金 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【収支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 收入 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 支出 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 利益 二,〇〇〇,〇〇〇 二,〇〇〇,〇〇〇 二,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 利益 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 |
| 【株價】 | 株主總數 一,〇〇〇名 高値 安値 第一新株 安値 九八年 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 十一年上 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 十一年下 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 |
| 【理想配當】 | 十一年十一月期 無配 |
| 【利配】 | 九月一日調 無配 |
| 【名義書換】 | 五錢【新券交付】二十五錢 |

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治四十五年四月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 鐵道運輸、山林、橋梁營業 |
| 【資本金】 | 公稱 一,〇〇〇,〇〇〇 第一新 (五〇〇,〇〇〇) 第二新 (五〇〇,〇〇〇) |
| 【株數】 | 株主總數 一,〇〇〇名 |
| 【重役】 | 社長 河西 豐太郎 監査 山中 勇 常務 小野 連三 取締役 根津 善一郎 取締役 西川 武三郎 相談 根津 善一郎 高橋 平吉 堀内 良平 氣賀 高次 堀内 良平 |
| 【大株主】 | 株主總數 一,〇〇〇名 小野 耕二 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 堀内 良平 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 堀内 良平 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 堀内 良平 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 堀内 良平 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 |
| 【事業規模】 | 富士身延一甲府 營業里程 六二.〇〇 哩 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十一年上 營業人員(十人) 六〇〇 六〇〇 六〇〇 同運賃(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 貨物(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 同運賃(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 自動車(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 運輸收入(千圓) 三〇〇 三〇〇 三〇〇 |
| 【投資會社】 | 第一及第二新株 九年六月三 圓五、十二月四圓拂込徴收 |
| 【資産負債】 | 五十年 十一年 五十二年 株主資本 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 外部負債 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 社債 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 固定資産 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 一五,〇〇〇,〇〇〇 一五,〇〇〇,〇〇〇 一五,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 七,〇〇〇,〇〇〇 現金預金 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【収支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 收入 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇 支出 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇 利益 二,〇〇〇,〇〇〇 二,〇〇〇,〇〇〇 二,〇〇〇,〇〇〇 |
| 【業績】 | 八年上 八年下 九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 利益 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 |
| 【株價】 | 株主總數 一,〇〇〇名 高値 安値 第一新株 安値 九八年 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 十一年上 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 十一年下 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇 |
| 【理想配當】 | 十一年十一月期 無配 |
| 【利配】 | 九月一日調 無配 |
| 【名義書換】 | 五錢【新券交付】二十五錢 |

京阪電氣鐵道株式會社

(本社) 大阪府北河内郡枚方町大字南六〇四
(事務所) 大阪市北區天神橋筋六丁目五(電通川 三二七)

【増配期待】来る九月期には一分増配が期待されるに至つた。尤もまだ借金が巨額にあるから、債権者側で増配に異議を唱へるかもしれないが、當局者は増配の意向らしい。

【増配力】成績を見ても、増配力はある。期初以來八月上旬までの客車収入は三百六十三萬九千圓で、前年同期より十六萬八千圓の増加を現はしてゐる。増収率は二分二厘餘で餘り芳しくはないが、しかし他方電氣供給収入は、七月末までに前年同期より約一割二分の増収となつてゐる。かくて九月の締切には、利益金は百八、九十萬圓に及び、利益率は六分一、四厘を示し得やう。一分増配の四分配當なら、決して無理ではない譯だ。

【料金値下】但し當社には省線の電化と、それに對抗するための料金値下げ問題とがある。省線電化による直接的打撃は大したものであるまいが、新京阪線を省線並みの料金六十八錢にし、定期券、回数券等の割引を行へば、少くとも半期二十萬圓の減収は免れまい。しかしこれも値下げによる乗客増と、自然増収とによつて補はれ得る見込みである。この値下げは省線の電化に先立つことが早い程、當社にとつて打撃が少いから、今秋には断行されやう。その前に増配をやつて置かふといふ意向だらう。

【設立】明治三十九年十一月

【決算期】三月、九月

【事業】電氣運輸、電氣電力供給

【資本金】公稱 壹、八〇〇、〇〇〇圓

【株主】(株主名簿) 公稱 壹、八〇〇、〇〇〇圓

【役員】社長 太田 光熙、副社長 有田 邦敏、取締役 大原 三郎、井上 周、三浦 英太郎

【大株主】株主名簿 公稱 壹、八〇〇、〇〇〇圓

【事業規模】營業額 一、三〇〇、〇〇〇圓

【事業成績】十年上 十年下 十年上 十年下

【資産負債】三十一年九月三十日

株主資本 壹、八〇〇、〇〇〇圓

外部負債 壹、〇〇〇、〇〇〇圓

借入金 壹、〇〇〇、〇〇〇圓

使用總資本 二、八〇〇、〇〇〇圓

固定資産 二、〇〇〇、〇〇〇圓

流動資産 八〇〇、〇〇〇圓

現金預金 一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

南海鐵道株式會社

(本社) 大阪市南區難波新地六番地(電改 四一人)

【好調】九月期は期初以來八月上旬までの客車収入累計が三百四十三萬五千圓で、前年同期より十六萬八千圓、五分一厘餘の増収となつてゐる。この増収率は、關西主要電氣會社中では、阪神、阪急、阪和、參宮に次いで第五位に當る。當社の運輸成績が近來餘り振はなかつただけに、この好成績は注目し得る。七月中旬までの増収率は、對前年同期二分三厘に過ぎなかつたが、七月中旬と八月上旬でかくの如く躍進したのである。濱寺を始め沿線の海水浴場の賑はつたためと、白濱、湯崎、天見温泉等の乗客誘致方策が効を奏せる結果である。

【問題】當社にも亦今後種々の建設工事が控へてゐる。本線の難波—天下茶屋間の高架複々線工事やこれに伴ふ汐見橋驛の改築工事等の計畫があり、それに約五、六百萬圓の資金を必要とする。その資金は手許資金及び借入金で賄ふやうだが、今後はそれだけ借金負擔の増大を負ふ譯なのだ。

【一割配當安全】けれども前述の如く運輸成績が好調である上に副業たる電燈電力収入もまた順調だから、右の利拂増加も大した負擔とはなるまい。差し當つて九月期は順調で、勿論現行配當が維持されやうが、將來も一割配當に懸念の生ずることはない。

【設立】明治二十八年八月

【決算期】三月、九月

【事業】鐵道運輸、電氣電力供給、乘合自動車營業

【資本金】公稱 貳、〇〇〇、〇〇〇圓

【株主】(株主名簿) 公稱 貳、〇〇〇、〇〇〇圓

【役員】社長 根津 嘉一郎、副社長 寺田 元之助、取締役 寺田 元之助、寺田 元之助、寺田 元之助

【大株主】株主名簿 公稱 貳、〇〇〇、〇〇〇圓

【事業規模】營業額 一、〇〇〇、〇〇〇圓

【事業成績】十年上 十年下 十年上 十年下

【事業成績】十年上 十年下 十年上 十年下

【事業成績】十年上 十年下 十年上 十年下

【事業成績】十年上 十年下 十年上 十年下

【事業成績】十年上 十年下 十年上 十年下

【資産負債】三十一年九月三十日

株主資本 貳、〇〇〇、〇〇〇圓

外部負債 貳、〇〇〇、〇〇〇圓

借入金 貳、〇〇〇、〇〇〇圓

使用總資本 四、〇〇〇、〇〇〇圓

固定資産 三、〇〇〇、〇〇〇圓

流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇圓

現金預金 一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

【支拂手形】一〇〇、〇〇〇圓

大阪電気軌道株式会社

(本社) 大阪府天王寺區本町六丁目(電天王寺三三三)

【運輸成績】期初以來八月上旬までの本年九月份は客車収入合計二百九十六萬一千圓で、前年同期より五萬一千圓、一分七厘餘の増收を示した。増収率からいふと今迄のところ、餘り感心されな。關西八大電鐵會社中では大鐵を除けば、他の何れの會社より低い。しかしこれは、當社が、京阪、大鐵等と同様に、沿線に野球場や海水浴場の如き臨時的な夏期の収入源を缺いたためと、期初たる四月が天候不順に見舞はれた結果で、季節的な關係に過ぎない。だからこの成績だけで悲觀する必要は全然ない。

【今期】それに去る七月一日から、豫ねて改築中の百貨店が開業したので、沿線住居者の利便を増し、業績に寄與する筋合にある。更に電燈、電力収入もよいため、順調な成績を示さう。

【前途に興味】のみならず、當社の前途には幾多興味を起さしめるものがある。その第一は、關西急行開通後の好影響だ。その開通は早くも十二年一杯はかゝらうが、これが開通すれば大軌、參急を通じて大阪—名古屋間を三時間足らずで連絡し得ることとなり、當社及び子會社參宮の乗客増加は必然である。尤も、このために當社は參急と共に資金の壓迫を受けるが、それも、一、二年の辛棒だ。參急と共に前途は頗る楽しみである。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十三年九月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電燈運輸、電燈電力、自動車 |
| 【資本金】 | 公稱 壹、〇〇〇、〇〇〇 拂込 壹、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株数】 | 新(壹〇〇) 壹、〇〇〇、〇〇〇 舊(壹〇〇) 壹、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 金森又一郎 取締役 森平藏 本務 三好 萬次郎 監査 瀧川伊之助 常務 藤田忠太郎 片岡 直方 五島 康太 取締役 直方 五島 康太 |
| 【大株主】 | 株主總數 六、二〇〇名 泉 吉太郎三三三 南都銀行二二二 天野 合名三三三 大同生命九九九 森 平藏八八八 泉 信太郎七七八 愛國生命七七八 瀧池 信託七七八 實山寺住職六六六 岩田米次郎六六六 |
| 【事業規模】 | 營業額 大阪上六、奈良線、秋津線、 櫻井線、吉野線外五線 十一年上 十一年下 |
| 【事業成績】 | 乗客人員(千人) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同運賃(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 一日平均(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電燈 數千燈 一、〇〇〇 一、〇〇〇 供給電力(千ワット) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 供給電熱(千ワット) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電氣收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 參宮急行、大阪電氣、奈良 電氣、伊勢電氣、關西急行、信貴山急行 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 三十一年 三十一年 三十一年 |
| 株主資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 社債 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 投資資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 收入 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 利益 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【豫想配當】 | 十一年九月期 無配 |
| 【利息】 | 九月一日 無配 |
| 時價 | 新 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 |
| 【名義書換】 | 十 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 |

大阪鐵道株式會社

(本社) 大阪府南河内郡富田林町大字毛人谷
(事務所) 大阪府住吉區河野第一丁目(電天王寺三三三)

【運輸不振】當社の今四月上旬から八月上旬までの客車収入は、累計七十一萬七千圓で、前年同期より一萬一千圓の増加である。その増収率は一分六厘で、關西八大電鐵會社中最低の位地に止つてゐる。前期(三月份)の客車収入増収率が最高を示しただけに、この九月份の不成績は一寸不思議である。がこれは十年九月份の運輸成績が頗るよかつたがため、それと比べて今年九月份の伸び方が低く見えるまでである。

【整理進捗】かやうに毎期増収を續けてゐるので、整理も一段と進捗し、内容も目を追ふて整備しつつある。まだ資本構成は充分とはいへないが、それでも外部負債は八年三月末の一千八百八十餘萬圓から、十一年三月末には一千六百十六萬圓に減じた。更に他方固定資産も毎期償却の結果減少を續け、十一年三月末には二千四百八十九萬圓(償却後)となつてゐる。

【將來性大】また今後にも興味もてる。まづ昭和十五年四月には負債整理が完了する。更に大鐵百貨店の建設、地下鐵の阿部野橋への延長等がある。大鐵百貨店は今年一杯には完成の見込みだし、地下鐵も明十二年末には開通の運びとならう。何れも乗客の利便を増加する。整理完了後の發展力は期待されてよい。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治三十二年五月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 鐵道運輸業、百貨店 |
| 【資本金】 | 公稱 三、〇〇〇、〇〇〇 拂込 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【株数】 | 新(壹〇〇) 三、〇〇〇、〇〇〇 舊(壹〇〇) 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 佐竹 三吾 取締役 種田 虎雄 本務 石田 義太郎 監査 野田 吉兵衛 常務 山岡 俊 村井 善四郎 取締役 北野 忠治 木村 教俊 本所 又天 山口 貞藏 |
| 【大株主】 | 株主總數 一、〇〇〇名 大阪電氣 〇〇〇 山口 貞藏 〇〇〇 阿部 三三三 泉 吉太郎 〇〇〇 内藤 宗晴 〇〇〇 泉 吉太郎 〇〇〇 寺田 萬吉 〇〇〇 阿部 實造 〇〇〇 廣海 三三三 阿部 彦太郎 〇〇〇 佐竹 三三三 吉村 友之進 〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 營業額 柏原—長野、古市—南高田、南高田— 久米、堺—古市、道明寺—阿部野橋 |
| 【事業成績】 | 乗客人員(千人) 七、〇〇〇 七、〇〇〇 同運賃(千圓) 七、〇〇〇 七、〇〇〇 貨物運賃(千圓) 〇・〇〇 〇・〇〇 同運賃(千圓) 〇・〇〇 〇・〇〇 營業收入(千圓) 〇・〇〇 〇・〇〇 自動車(千圓) 〇・〇〇 〇・〇〇 |
| 【投資會社】 | 南和電氣鐵道、大鐵百貨店 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 三十一年 三十一年 三十一年 |
| 株主資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 社債 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 投資資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 收入 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 支出 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 利益 | 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【豫想配當】 | 十一年九月期 無配 |
| 【利息】 | 九月一日 無配 |
| 時價 | 新 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 |
| 【名義書換】 | 十 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 |

阪和電気鐵道株式會社

(本社) 大阪市天王寺區悲田院町九三(電天王寺二五—九)

【運輸好調】當社の運輸成績は近來非常に好調を續けてゐる。當下期々初の四月から八月上旬までの客車収入の累計を見ると、九十二萬二千圓に達し、前年同期より六萬三千圓の増加、率にして七分三厘餘の向上だ。關西八大電鐵會社の中では阪神、阪急に次いで第三位を占めてゐる。新興會社としては實に注目すべき躍進振りである。

【収益期來る】近來好成績を續けてゐる。去る三ヶ月には繰越損金僅かに十七萬圓を残すのみとなつた。九ヶ月にはこの繰越損が全部消された上に、若干の黒字が計上されることは明白である。いよゝゝ待望の収益時代にはいる譯だ。

【復配期】そこで當然配當復活問題が起つてくる。たゞ去る三ヶ月の利益金十七萬圓は、對拂込資本利益率として僅かに二分程度にすぎないから、假令配當を復活するといつても、その程度は極めて低いもので、まづ最初は二、三分といふところであらう。そしてこの配當復活は早くとも、實際問題としては、利益を全部自由に處分しうるやうになる明年三ヶ月期或は季節的によい九ヶ月期まで延ばされるかもしれぬ。が、何れにしても配當復活は間近かであることは仲々楽しみだ。

參宮急行電鐵株式會社

(本社) 大阪市天王寺區上本町六丁目(電三三一—六)

【運輸順調】八月上旬までの今年九ヶ月期客車収入累計は、八十三萬八千圓を算し、前年同期に比し六分八厘の増収率に當つてゐる。關西八大電鐵會社の中では、阪神、阪急、阪和に次ぐ増収率だ。かうした運輸成績の順調によつて、利益金も自然増加する筋合にある。まだ繰越損が二十六萬七千圓ほどあるのでその補填に利益を喰はれるが、業績の立直りは頗る顯著である。

【合併】かねて懸案中の伊勢電整理問題も着々進んでゐる。過般第二段の整理工作として養老線を分離し、新會社とした。そして近く、愈々伊勢電を對等條件で合併することゝなつた。この伊勢電の整理、合併によつて、當社は一千萬圓の借金と約五百萬圓の現金支出を餘儀なくされる。が、他方伊勢電合併による収益と、養老電鐵及び關西急行よりの貸金利子乃至配當金収入があるから前途借金が殖えても、丸々負擔増加とはならぬ。

【前途好望】かく伊勢電の整理がつき、運輸成績も順調に行つてゐるから、前途は益々好望に値する。伊勢電の合併によつて當社は、養老線新會社並びに關西急行の經營權を一手に納めることゝなる。更に關西急行の開通後は、大軌を通じて大阪—名古屋間の連絡が實現される。前途大いに興味をもつていゝ。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十五年四月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電鐵運輸、自動車、土地建物の經營 |
| 【資本金】 | 株式總數 100,000株 額面 10,000,000圓 |
| 【役員】 | 社長 木村清 取締役 林安繁、太田光熙、高取千景、田中源助、竹中源助 監査 橋本喜作、川崎良吉、長尾良吉 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,926名 高取業 6,000圓、合同電氣 7,000圓、谷口三郎 6,000圓、筒井 6,000圓、吉井 5,000圓、天野 5,000圓、長尾 5,000圓、宇治電機 5,000圓、黒川商店 5,000圓、大坂海上大丸 5,000圓 |
| 【事業規模】 | 營業額 3,388千圓 天王寺—東和歌山 淡路—伊予 紀伊村—和歌山(免許線) 營業人員 1,000名 客車収入 2,700千圓 貨車収入 1,200千圓 運送収入 1,100千圓 政府補助 100千圓 |
| 【資産負債】 | 三十一年九月三十日 株主資本 1,600,000圓 外部負債 2,200,000圓 借入金 2,200,000圓 流動負債 2,200,000圓 流動資産 2,200,000圓 固定資産 2,200,000圓 現金預金 2,200,000圓 |
| 【業績】 | 七年上 1,000,000圓 八年上 1,000,000圓 九年上 1,000,000圓 十年上 1,000,000圓 十一年上 1,000,000圓 |
| 【配當】 | 十一月九日調 無配 九月一日調 無配 |
| 【名義書換】 | 十圓【新券交付】三十圓 |

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 昭和二年九月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 電鐵運輸、地所建物經營 |
| 【資本金】 | 株式總數 100,000株 額面 10,000,000圓 |
| 【役員】 | 社長 金森又一郎 取締役 井内彦四郎、森田虎雄、取寄健忠、片岡直方、森平、關信太郎 監査 林市藏、瀧川伊之助、關信太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,926名 三友電機 10,000圓、泉吉次郎 10,000圓、三友電機 10,000圓、昭和生命 10,000圓、住友電機 10,000圓、住友電機 10,000圓、住友電機 10,000圓、住友電機 10,000圓 |
| 【事業規模】 | 營業額 3,388千圓 營業額 3,388千圓 營業額 3,388千圓 營業額 3,388千圓 營業額 3,388千圓 |
| 【事業成績】 | 十年上 1,000,000圓 十年下 1,000,000圓 十一年上 1,000,000圓 十一年下 1,000,000圓 |
| 【投資會社】 | 大和鐵道、中勢鐵道、名張自動車、津島自動車、神都自動車、室生自動車、參宮自動車、關西急行電鐵 |
| 【資本異動】 | 近々伊勢電鐵を合併の筈 |
| 【資産負債】 | 三十一年九月三十日 株主資本 1,600,000圓 外部負債 2,200,000圓 借入金 2,200,000圓 流動負債 2,200,000圓 流動資産 2,200,000圓 固定資産 2,200,000圓 現金預金 2,200,000圓 |
| 【業績】 | 七年上 1,000,000圓 八年上 1,000,000圓 九年上 1,000,000圓 十年上 1,000,000圓 十一年上 1,000,000圓 |
| 【配當】 | 十一月九日調 無配 九月一日調 無配 |
| 【名義書換】 | 十圓【新券交付】五十圓 |

九州電氣軌道株式會社

(本社) 小倉市京町三五八番地ノ二(電天)
(出張所) 東京市豊町九ノ内三ノ三(電東七號館内(電九ノ内五))

【立直本格的】去る五月末締切の本年上期は、六年下期來の好成績であつた。利益金は、前年同期より二十萬九千圓を増加して、二百四十五萬三千圓に上り、利益率は一割二分五厘に當つてゐる。配當は五分に据え置いたが、充分の餘裕があつた。

【好調理由】當社も運輸のほかに、電燈電力の供給を兼營してゐるが、兩方ともに成績がよい。殊に最近電燈電力が當社收入の主要部分をなすに至り、而も去る五月期にはこの電燈電力收入が、前年同期より一割七分餘の著しい増収を示した。

【内容改善】それにつれて内容も一段と改善されてきた。例へば電鐵並びに電力の建設費は、本年上期には四百八十九萬三千圓に減少し、一方外部負債も二千七百九十六萬圓に縮小した。特に外部負債中の借入金は残額の四十五萬圓を返済して、五月期には借入金は一文もなくなつた。當局者の努力を買つてよい。

【増配期待】勢ひ當社には當然増配が期待される。前途の見透しは好調だし、子會社九州興業による小倉海岸の埋立工事も興味を添へてゐるから多分この十一月期には一分の増配が行はれやう。尤も九月末頃、九十萬圓の拂込が徴收されやうから、利益率はやゝ低下するが、一分程度の増配なら問題あるまい。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治四十一年十二月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 電鐵運輸業、電燈電力供給、 |
| 【資本金】 | 公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 四〇〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | 新 五〇〇,〇〇〇 第五新 一〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 村上 巧兒 取締役 福井 正治 常務 村上 正隆 取締役 山口 榮枝 取締役 山田 正隆 取締役 橋本 良枝 廣瀬 良知 監査 藤生 義之介 野田 勢太郎 黒木 佐久馬 木村 市吉 井上 博通 |
| 【大株主】 | 株主總數 三、三三三名 九州生命 〇、〇〇〇 住友會社 〇、〇〇〇 野村生命 〇、〇〇〇 大阪貯蓄 〇、〇〇〇 廣生商店 〇、〇〇〇 大坂貯蓄 〇、〇〇〇 村田七郎 〇、〇〇〇 廣石太郎 〇、〇〇〇 營業額 門司一折尾、大門一戸畑、 中央區一天神寺二線 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 營業額(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同運賃(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 自動車收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 電力供給(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 電氣收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 電氣收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 【投資會社】九州土地興業九州合同バス 【資本與助】十一年二月第五新十圓及九 月七圓五拂込徴收 |

| | |
|--------|---------------------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 五月 十一月 |
| 株主資本 | 五〇〇,〇〇〇 五〇〇,〇〇〇 五〇〇,〇〇〇 五〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 〇 〇 〇 〇 |
| 社債 | 〇 〇 〇 〇 |
| 使用總資本 | 五〇〇,〇〇〇 五〇〇,〇〇〇 五〇〇,〇〇〇 五〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 二〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 十年下 |
| 收入 | 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 |
| 支出 | 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 |
| 利益 | 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 |
| 【業績】 | 八年 九年 十年 十一年 |
| 高値 | 〇 〇 〇 〇 |
| 安値 | 〇 〇 〇 〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 高値 安値 |
| 【利息】 | 九月一日 五分五厘 十月一日 五分三厘 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 十 |

朝鮮鐵道株式會社

(本社) 京城府古市町一四番地(電、本局 三三三)
(支社) 東京市豊町九ノ内三ノ六(電九ノ内 二八〇)

【上期】八月末締切の本年上期は八分配當持續に懸念はない。八月下旬には營業線の一部に水害を受けたが、八十萬圓前後(利益率九分)の利益を豫想されるからだ。近時貨客の移動多く、現に上期も七月迄の五ヶ月間に運輸收入百六十九萬三千圓を擧げた。之は前年同期より一割五分餘の増加に當る。勿論鐵道の營業益が増すと補助金は減るが、それは當社の向上を意味し、また副業も利益勘定に轉じたから、業績に懸念を要しない。

【補助】昨年上期から朝鮮私鐵補助法改正され、補助割合が低下する事になつたが、其後も八分配當を續けてゐるのは、全く當社の營業線が何れも、朝鮮景氣の昂上に幸ひされてゐるためだ。補助期限は十四年末迄である。但しその間に買上問題が起るかも知れない。尤も補助期限を延長して其後になるとも考へられる。

【買上問題】總督府は目下永川―清涼里間(中央線)の新線測量中で、本年度から四ヶ年計畫の下に建設工事を進める。本線は當社の慶北線と忠北線一部延長によつて連絡する。其處でその二線が買上の對象になるのだ。成北線も亦茂山鐵山開發の如何で將來買上を豫想される。以上三線とも買上時期は判らないが、今後注意を要する。但し當分配當にどうこうといふ事はない。

| | |
|-------|---|
| 【設立】 | 大正五年五月 |
| 【決算期】 | 二月、八月 |
| 【事業】 | 鐵道運輸、自動車業 |
| 【資本金】 | 公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 四七〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | 舊株 五〇〇,〇〇〇 第一新 一〇〇,〇〇〇 第二新 一〇〇,〇〇〇 第三新 一〇〇,〇〇〇 第四新 一〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 大川平三郎 取締役 賀田 直治 専務 新田留太郎 取締役 金光 庸夫 常務 東條 正平 監査 野田 兼吉 取締役 小島 誠 井上 周 取締役 朴 榮 佐方 文次郎 取締役 朴 榮 村上 伸雄 |
| 【大株主】 | 株主總數 四、三九三名 朝鮮貯蓄 〇、〇〇〇 大川合名 〇、〇〇〇 三寶鐵業 〇、〇〇〇 朝鮮信託 〇、〇〇〇 朝鮮共済 〇、〇〇〇 日本鐵道 〇、〇〇〇 乗客人員(千人) 一、〇〇〇 十年上 十年下 一日平均(千人) 〇、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 貨物數量(千噸) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 貨物收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 營業額(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 自動車收入(千圓) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 政府補助 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 【投資會社】朝鮮自動車、慶南自動車、 忠南自動車、成北自動車、鮮滿交通、 |

| | |
|--------|---------------------------------|
| 【資産負債】 | 十月 十一月 十月 十一月 |
| 株主資本 | 四七〇,〇〇〇 四七〇,〇〇〇 四七〇,〇〇〇 四七〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 〇 〇 〇 〇 |
| 社債 | 〇 〇 〇 〇 |
| 使用總資本 | 四七〇,〇〇〇 四七〇,〇〇〇 四七〇,〇〇〇 四七〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 一七〇,〇〇〇 一七〇,〇〇〇 一七〇,〇〇〇 一七〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 九年上 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 |
| 支出 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 利益 | 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 |
| 【業績】 | 八年 九年 十年 十一年 |
| 高値 | 〇 〇 〇 〇 |
| 安値 | 〇 〇 〇 〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 高値 安値 |
| 【利息】 | 九月一日 七分五厘 十月一日 七分八厘 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 十 |

海運事業

【季節的船腹増】近海市場に於ける船腹は年初以來漸減を辿つてゐたが、最近に至つて大型船が弗々割込んで来た爲に、昨今の近海一區の配船数は三百四十五隻、百七十萬九千噸に上り、年初以來の最低記録たる五月末の二百九十八隻、百三十八萬三千噸に較べると三十二萬噸許りの増加である。積取りの遅延してゐた北洋材が本格的に出廻期に入つたのと、漁業用船舶需要が増加するに至つた結果にほかならない。然し之を前年同期の三百五十二隻、百七十五萬九千噸に比較すると尙七隻五萬噸の減少であり、何等問題とするに足らない。

【市況依然強調】自然運賃も昨年同期よりは強調を呈してゐる。尤も季節的關係で春頃に比べると低下した事は否めぬ。例へば八月中に於る若松—京濱の石炭運賃は二圓二十錢唱へて、春の高値二圓六十錢に比し四十錢揚の低落である。が、之を前年同期の一圓七十錢から見ると矢張り三割方の高値である。北洋材運賃も積取季であるため石炭運賃程低落せず、依然春の高値に近い百七、八

十圓見當を維持し、大勢的には手堅く保合つてゐる。かくの如く昨年に較べ運賃市況が高値を維持してゐるのはいふまでもなく、近海の船腹減少の結果である。要之、運賃市場から見る限り昨今の海運市場には夏枯氣分はななく、順調な状態である。

【遠洋亦硬化】更に遡つて、近海船腹の意外に少い理由を考へて見ると、新穀出廻期に入り、遠洋に船腹需要の多い點に歸着するやうだ。本年は北半球諸國の作柄不良に伴ひ、歐洲小麥輸入國の新穀買付が大量に行はれた結果、南米濠洲小麥の歐洲大陸向輸送に船腹需要が激増した。之が爲倫敦市況は減切硬化しプレート歐洲運賃は昭和五年以來の記録的高値二十一志六片を實現するに至つた。此のため例年見る如き外船の我近海割込みが著しく少くなつてゐる。これが體ては近海に好影響を齎してゐるわけだ。たゞ邦船の關係深い東洋—歐洲運賃は尙割安であるため、未だ邦船の歐洲出稼を刺戟するに至らない。此の點、積極的な刺戟を欠いてゐるが、間接的の効だけでも輕視出來ない。

日本郵船株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内郵船ビル(電丸ノ内 五二一三)

【五分續續】十一年上期は一般の豫期に反し、二分の特配を削つた。九月締切りの下期は季節的に貨客の増加する時期に當り、現在までの成績も相當良好の様である。従つて増益も期待されるが、前途に備へ増配は自重し、五分配當を繼續するであらう。

【措置理由】増配自重の理由は、第一、貨客の増加が近來鈍化し、成績稍頭打ちの感あること。第二、優秀船建造の必要あること。第三、社會狀勢の變化から増配を抑制すること等である。近年増益の主因をなした我輸出貿易も近來各國の輸入防壁策からその進展が阻まれ、大勢的には成績は頭打ちだ。それに前途も亦容易に樂觀を許さぬ上に、當社は近く太平洋、歐洲航路其他に多數の優秀船建造の必要がある。内定せる計畫は二萬五千噸級優秀船二隻及び一萬五六千噸級三隻で、之には政府の補助があるにしても少くも三、四千萬圓の資金を必要とする。之を従來通り社内保留で調達する主義だから、増配の餘裕を之に振向けるだらう。

【内容充實】上期の利益處分は、差益八百萬圓の中社外分配は僅に百六十一萬圓で、残り全部は社内保留された。船價も順當り百三十六圓といふ低評價で無比の充實を示してゐる。従つて、増配の樂みはないが、株價も公債並に買つてよからう。

| | | | |
|-------|---|--------|--|
| 【設立】 | 明治十八年九月 | 【資本】 | 公稱 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 【決算期】 | 三月、九月 | 【株數】 | 新 1,000,000 |
| 【事業】 | 海運業 | 【役員】 | 社長 大谷 登、副社長 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【大株主】 | 株主總數 2,222名 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【事業規模】 | 航路 船隻 噸位 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【資本金】 | 拂込 500,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【重役】 | 各務 録吉、取替 井坂 孝、理事 渡邊 水太郎、清水 安治、櫻木 幹雄、藤田 格介、大橋 新太郎、宮崎 清則、東久世 秀雄 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |
| 【株數】 | 新 1,000,000 | 【業務成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 |

東洋汽船株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内海上ビル(電丸ノ内二五五上)

【一分増配】當社の収入は備給料一本であるが、近來海運界の活況により、徐々ながら備給料の引上を見たり、十一年上期は十年下期より五萬四千圓を増収した。支出は諸税支拂が上期よりなつた結果二萬二千圓の増加に止まり、結局差益は此間三萬二千圓を増して六十五萬圓となつたので、一分増の四分に増配された。

【内容好化】尤も増益の主因が諸税の支拂延期にあるのだから、若し十年下期並みに五萬圓の諸税を支拂つたものとすれば、却つて減益を示す譯で、此際一分増配は一見窮屈の姿である。が、從來とても餘裕ある決算を續けて來たのだから、既に増配の餘地は充分あつたのである。例へば貨物船の生命は大體二十五年乃至三十年が目標であるが、毎期五十二萬二千圓に上る船價償却を計上してゐる。これは十六年償却に當る。新造船六隻に對し八隻の中古船を有する事を考慮しても、尙堅實な決算振りである。

【前途豫想】今期は前期の諸税を支拂つても備給料引上げの効果を全面的に受け、前期程度の利益は維持出来る。四分増配の維持に問題ない。明年上期には更に四千噸型の新船が三隻就航する上に下期には米國戰時利得税支拂分に對する償却も終るので、二分の増配が可能だ。株價も六分配當の六分五厘利廻迄買へる。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治二十九年六月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 貨物船運送 |
| 【資本金】 | 公稱 五、七〇〇 拂込 五、七〇〇 |
| 【株数】 | 新(五〇〇) 六、九六一 舊(五〇〇) 六、九六一 |
| 【役員】 | 社長 淺野 良三 取締役 橋本梅太郎 専務 高橋 勇 倉田 康太郎 取締役 淺野 一郎 監査 田中榮八郎 大川平三郎 白石元治郎 河合 潔 |
| 【大株主】 | 株主總數 六、〇〇〇名 淺野 同族 六、〇〇〇 丸の内商會 〇、〇〇〇 鈴木 源次 〇、〇〇〇 東洋證券 〇、〇〇〇 大川 合名 〇、〇〇〇 岡崎 正治 〇、〇〇〇 廣 徳 〇、〇〇〇 高津 株式 〇、〇〇〇 田中榮八郎 〇、〇〇〇 増山 實 〇、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 所有船隻 〇、〇〇〇 噸數 〇、〇〇〇 船價原價(全圓) 〇、〇〇〇 帳簿原價(全圓) 〇、〇〇〇 所有船名 〇、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 東洋證券、 政府助成(一、〇〇〇) 一、〇〇〇、〇〇〇 政府助成(一、〇〇〇) 一、〇〇〇、〇〇〇 |

| | |
|--------|--|
| 【資産負債】 | 十一年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 六、九六一 |
| 外部負債 | 三、三三三 |
| 借入金 | 一、〇〇〇 |
| 支拂手形 | 二、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 一〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 八、〇〇〇 |
| 流動資産 | 二、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 收入 | 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |
| 支出 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 高値 安値 |
| 十一年上 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 十一年下 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 十一年上 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 十一年下 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【利息】 | 九月一日調 四分 時價 新×〇、〇〇 利廻 四分八厘 時價 新×〇、〇〇 利廻 四分八厘 |
| 【名義書換】 | 十 錢(新券交付)三十錢 |

東京灣汽船株式會社

(本社) 東京市麹町區麹町一(電京橋 三〇一)

【一分減配】當社は、東京灣を中心の遊覽航路の經營を行つてゐるが、季節關係から下期が良く上期が悪い。殊に本年上期は非常に悪く、利益金は十一萬八千圓、利益率は九分四厘に過ぎなかつた。利益金は前年同期と同額だが、利益率は一分七厘の低下だ。配當も優先株は八分に据置いたが、普通株は一分減の六分とした。

【決算不良】而も一分減配したに拘らず、船價償却は二萬圓に過ぎず、決算は依然窮屈である。當社は近年急激に資産が膨脹したので、償却の必要に迫られてゐるが、之では不十分である。

【減益の露】上期の業績不振は荷物収入の減収が原因で、乗客収入は却つて五萬圓程の増収を示してゐる。貨物運賃減収は上期の前半競争會社が大島、八丈島航路に割り込み運賃を下げたからで、期の後半妥協は出來たが、前半の減収を補ひ切れなかつた。

【六分増配】下期は當社の書入時だが、今年は天候も良かったので相當の成績を收め得た筈である。結局下期の利益は二十五萬圓近くに上るものと見られる。とすれば六分配當を繼續すると約十五萬圓が償却に向けられる。またかくするのが本筋で、從來償却不足であるから、増益しても普通株六分以上は不可能。但し二、三期後は當社の擴張計畫が一段落するので相當期待が持てる。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治二十二年十一月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 房總、伊豆、航路經營 |
| 【資本金】 | 公稱 五、〇〇〇 拂込 五、〇〇〇 |
| 【株数】 | 新(五〇〇) 五、〇〇〇 舊(五〇〇) 五、〇〇〇 |
| 【役員】 | 社長 林 其之丞 取締役 吉野 傳治 専務 鈴木 富太郎 監査 山下 太郎 取締役 井坂 孝 田中榮八郎 小田 桐忠治 伊藤 忠兵衛 水野 護 須田 正治 岩倉 具光 松田 榮 小林 中 |
| 【大株主】 | 株主總數 〇、〇〇〇名 東武鐵道 〇、〇〇〇 帝國海上 〇、〇〇〇 康徳興業 〇、〇〇〇 林 其之丞 〇、〇〇〇 松下 榮 〇、〇〇〇 日華生命 〇、〇〇〇 岩田 眞一 〇、〇〇〇 小林 中 〇、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 所有船隻 〇、〇〇〇 噸數 〇、〇〇〇 船價原價(全圓) 〇、〇〇〇 帳簿原價(全圓) 〇、〇〇〇 |
| 【投資會社】 | 大島觀光事業、式根島温泉 ホテル、下田船渠 |
| 【資本異動】 | 十年七月七圓五、十一年三月五圓拂込徴収 |

| | |
|--------|------------------------------------|
| 【資産負債】 | 十一年 十一年 十一年 |
| 株主資本 | 五、〇〇〇 |
| 外部負債 | 三、〇〇〇 |
| 借入金 | 一、〇〇〇 |
| 支拂手形 | 二、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 八、〇〇〇 |
| 固定資産 | 六、〇〇〇 |
| 流動資産 | 二、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 十一年下 |
| 收入 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 支出 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【株價】 | 高値 安値 高値 安値 |
| 十一年上 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 十一年下 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 十一年上 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 十一年下 | 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 |
| 【利息】 | 九月一日調 四分 時價 優 八分七厘 時價 普 六分五厘 |
| 【名義書換】 | 十 錢(新券交付)二十錢 |

東京乗合自動車株式会社

(本社) 東京市日本橋區室町三ノ二ノ一 (電日本橋五六一)

【下期】九月末締切の本年下期は好成绩を豫想され、一分程度の増配も可能である。運輸収入は七月末迄の四ヶ月間に於て前年同期の一割三分増だ。支出は配車の合理化、ガソリン節約、諸経費切詰めで却つて減少してゐる。期末迄の計算では支出増加は僅少の見込だから、今期の増益は確実である。西武鐵道新宿線の委託經營費を支拂つた残額約六十萬圓の利益豫想だから、利益率は二割一分程度となる。七分配當の据置に餘裕の加ふこと勿論だ。

【興味】地下鐵の經營下に移つて以來陣容整ひ、城東電軌を合併して隅田川以東に勢力を擴大し、また城東の子會社葛飾乗合を合併するに決したから支脚は更に京成沿線に及んだ。尤も右二社の合併はまだ主務當局の認可を得ないから、實際の好影響は次期以降に屬する。尚山手方面に有力な東京環狀乗合の吸収も可能性多く、東京地下鐵との連絡運輸も六月から實施中だ。市營バスとの競争は激化するが、當社の發展力はその爲に阻止されぬ。

【内容】一昨年の減・増資で渡邊關係の腐れを落した。城東合併も同社の拂込を六十四萬八千圓減じてのもので合理的である。増配を控へ、償却に努めればそれだけ更に内容は良化する。

【株價】今期増配せねば株價は押さだらうが、其處が買場だ。

【設立】大正七年十月
【決算期】三月、九月
【事業】乗合、遊覽自動車業
【資本金】公稱 10,000
株主 5,000
【株主】新 1,000
舊 4,000
【役員】社長 早川 徳次
常務 中島 孝夫 取締役 増田 謙一
寺尾 芳男 取締役 河野 豊太郎
取締役 長瀬 繁 町田 徳之助
取締役 佐藤 謙太郎 武田 次七
内藤 正太郎 熊 龍雄

【大株主】株主總數 1,700名
東京地下鐵、文京 和田喜次郎 六、〇〇〇
三國證券、文京 富國 徹兵 三、〇〇〇
福國興業、三ノ木 寺尾 芳男 三、〇〇〇
内藤 正太郎 三、〇〇〇 佐藤 謙太郎 三、〇〇〇

【事業成績】十年上 十年下 十一年上
乗合自動車 (期末車輦數 五、〇〇〇)
乗客延長八八、〇〇〇 八、〇〇〇、〇〇〇
同 收入 (△千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇
一ヶ月平均 (△千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇
遊覽自動車 (期末車輦數 一、〇〇〇)
使用車輦 (△千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇
同 收入 (△千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇
一ヶ月平均 (△千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇

【投資會社】諸タクシー會社
【資本異動】十年一月五、六九〇千圓増資、十一年五月城東電軌を合併二百一〇萬圓増資

【設立】大正十三年三月
【決算期】五月、十一月
【事業】乗合並に、遊覽自動車運賃
【資本金】公稱 七、〇〇〇
株主 七、〇〇〇
【株主】新 1,000
舊 6,000
【役員】社長 坂本 行雄
取締役 浦野 義隆 取締役 中村 龍雄
山口 六右衛門 取締役 村井 義明
井上 三郎 取締役 中井 彌太郎
中井 四郎 取締役 森 平藏
坂本 城夫 取締役 山口 豊二
坂本 嘉雄 取締役 泉 仁三郎

| 【資産負債】 | 二十 | 廿 | 廿一 |
|--------|-------|-------|-------|
| 株主資本 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 |
| 固定資産 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 |
| 流動資産 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 現金預金 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 | 十年下 | 十一年上 |
| 收入 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 支出 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 【利益】 | 無配 | 無配 | 無配 |
| 【名義書】 | 十 | 十 | 十 |

大阪乗合自動車株式會社

(本社) 大阪市東區小橋西之町一 (電南 三三二)

【好調】本年上期決算(去る五月末締切)の利益金は七十九萬九千圓に達し對拂込資本利益率は五割六分八厘といふ高率を示した。従つて、一割二分の配當を行つても、なほ社内保留率は七割四分に及んでゐる。余裕綽々たるものだ。尤もこの上期の成績を前年同期に比較すると多少低下してゐる。これは市バス、地下鐵等との競争が激化し、自然經營の増減を來した結果に外ならない。この上期の成績停頓によつて窺はれる如く、近年好調の一途を辿つてゐた當社の業績も、漸くその頂點に達したことは否定出來ぬやうだ。

【内容充實】しかし業績の良好なることに變りなく、従つて内容は益々充實してゐる。事業の性質上固定資産はかなり多いが、それでも使用總資本に對する固定資産の割合は五割八分だ。更に償却がよく行き届いてゐるために、本年上期は多量の新車輛を購入したに拘らず、一臺當りの評價は二千三百圓程度で申分はない。

【配當安泰】かくて當社は、その内容に益々含みをもつばかりだ。今後は業績伸張のテンポが、競争激化のために従來の如く華々しくないだらうが、と云つて逆轉するとは毛頭考へられない。事業の性質上増配はやれぬが、一割二分配當は全く安泰だ。

【大株主】株主總數 1,700名
大乗合會社、三ノ木 藤原 弘造 三、〇〇〇
杉田 幸七、三ノ木 坂本 太郎 三、〇〇〇
入交 三郎、三ノ木 稻留 稻茂 三、〇〇〇
大山 茂、三ノ木 中平 貞衛 三、〇〇〇

| 【資産負債】 | 五月 | 十一月 | 五月 |
|--------|-------|-------|-------|
| 株主資本 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 |
| 固定資産 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | 七、〇〇〇 |
| 流動資産 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 現金預金 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 | 十年下 | 十一年上 |
| 收入 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 支出 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 【利益】 | 無配 | 無配 | 無配 |
| 【名義書】 | 十 | 十 | 十 |

國際通運株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内郵船ビル内(電九ノ内 三三二)

【下期取扱高増増】四―七月の四ヶ月間に於ける貨物取扱数量は、海陸合計で三百八十六萬四千噸に達した。前年同期に比較して六十六萬五千噸、二割八厘の増加である。無論、料金を下げた宅扱の激増にも依るが、現に鐵道省の發送總數は頗る増加し一般に荷動き旺盛だから、夏枯季とはいへ本年下期も上期並みの成績を挙げ得よう。七分配當の持續に心配はない。

【宅扱料引下】昨秋の國鐵貨物運賃改正に伴つて、宅扱―元の特別小口扱の料金は可なり引下げられた。當社はこれによつて元請料を減らされた上に下請料の鞘取りが狭められるに至つた。そこで本年上期は料金引下げ後最初の決算として注目せられた譯だが、依然七分配當を踏襲し得た。前年同期に較べ十七萬五千圓の減益、二分二厘の利益率低下は已むなかつたが、豫想程は悪くなかつたと云ふのは、収入が減少した一方、支出に於いて營業費、支拂利子を節減した爲めである。鎖却を十八萬圓減額したのは難といへば難だが、新たに退職重役慰勞金を六萬圓計上してをり、七分配當の据置きに餘裕を残してゐるのだから、利益處分もそれ程非難すべきではあるまい。

【内容】經營が手堅いから、資産内容は概して良好と云へる。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治五年六月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 運送取扱 |
| 【資本金】 | 拂込済 1,500,000 |
| 【株数】 | (株) 30,000 |
| 【重役】 | 社長 中野金次郎 取締役 榮島 信司 副社長 村上義一 取締役 神山 政良 専務 吉村 佐平 取締役 安座 上眞 取締役 岩倉 具光 監査 富水 福司 取締役 村田 省藏 監査 山口 壽 取締役 鬼田 鋼吉 監査 山本吉五郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,507名 近海郵船 10,000 大平生命 5,000 東京合同運送 3,000 東京共同運送 2,000 東京貨物運送 2,000 朝鮮商銀 2,000 有隣生命 2,000 野村 1,000 汽船 1,000 通商 1,000 自動車 1,000 取扱貨物(千圓) 十一年上 1,500 取扱貨物(千圓) 十一年下 1,500 海運(千圓) 1,500 支拂收入(千圓) 1,500 支拂支出(千圓) 1,500 |
| 【投資會社】 | 東京合同運送、大北火災海上運送保險、朝鮮運送、其他 |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 三十 九 十 十一年 |
| 株主資本 | 2,500,000 2,500,000 2,500,000 2,500,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 支拂手形 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 2,500,000 2,500,000 2,500,000 2,500,000 |
| 固定資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動資産 | 1,500,000 1,500,000 1,500,000 1,500,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 |
| 收入 | 1,500,000 1,500,000 1,500,000 1,500,000 |
| 支出 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 利益 | 500,000 500,000 500,000 500,000 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 十 |

日本航空輸送株式會社

(本社) 東京市芝區田村町一ノ三飛行館(電銀庫 五五五)

【國策】去八月廿五日の閣議で決定した重要國策の中に航空事業の振興が含まれてゐる。之は航空運輸及工業に互る廣義の意味であるが、當社の運輸事業は之に添ふて將來の發展を期待される。

【新航空路】尤も既に本年か或程度發展の緒に就き、現に福岡―臺北間が年初に、臺灣島内の臺北―高雄線及臺北―花蓮港線四百五十軒が八月初に何れも運航開始され、十月から東京―長野―新潟線、大阪―富山―長野線、大阪―鳥取―松江線、大阪―徳島―高知線合せて千五百四十軒の定期航空路も開設される。東京―札幌線、臺北―盤谷線亦來年度から開かれる豫定だ。

【經營】斯様に規模は擴大するが經營の實體は苦しい。大連線及福岡線の補助金は次第に減じ、最早やその兩線の收支は若干の赤字で、辛くも臺灣線以下の新規補助分の黒字で息をついてをる。好収益を望めぬのは、運輸収入の増加が捗々しくないからだ。

【下期】九月決算の下期は五、六萬圓の純益計上の見込で、前二期の缺損に比べ良成績だ。然し繰越金を崩して配當する外ない。【前途】總収入の七割見當を補助金に依存する現在の業績は今後にも急に改まるまい。減配が望ましいが、拂込徴収の必要もあり五分配當を繼續してゆくだらう。株価は國策的興味に止まる。

| | |
|----------------------------------|---|
| 【設立】 | 昭和三年十月 |
| 【決算期】 | 三月、九月 |
| 【事業】 | 旅客、貨物、郵便航空輸送 |
| 【資本金】 | 公稱 10,000,000 拂込 5,000,000 |
| 【株数】 | (株) 100,000 |
| 【重役】 | 社長 原 邦造 取締役 根津嘉一郎 専務 戸川 政治 取締役 橋本圭三郎 常務 船橋勝太郎 取締役 米田余良造 取締役 大橋新太郎 取締役 森村 芳郎 取締役 大川平三郎 取締役 阪谷 芳郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 6,453名 三菱重工業 5,000 安田保全 3,000 三井合名 3,000 瀬尾喜一郎 2,000 森村 勇 2,000 遊澤同族 2,000 仁壽生命 1,000 |
| 【事業規模】 | 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 |
| 飛行機(機) 11 11 11 11 | |
| 格納庫(坪) 1,000 1,000 1,000 1,000 | |
| 定期航空線路 | |
| 東京大連線 東京大阪間一週十二往復 復他は六往復 | |
| 大阪上海線 大阪福岡間一週六往復 | |
| 福岡臺北線 一週三往復 | |
| 臺灣島内線 臺北高雄間一日三往復 臺北花蓮間一日三往復 | |
| 【事業成績】 | 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 |
| 定期航空(千圓) 1,000 1,000 1,000 1,000 | |
| 不定期(千圓) 1,000 1,000 1,000 1,000 | |
| 事業収入(千圓) 1,000 1,000 1,000 1,000 | |

| | |
|--------|---|
| 【資産負債】 | 三十 九 十 十一年 |
| 株主資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 外部負債 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 使用總資本 | 5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000 |
| 固定資産 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 流動資産 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 現金預金 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 |
| 收入 | 4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000 |
| 支出 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 利益 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 十 |

日本無線電信株式會社

(本社) 東京市麹町區大手町日清生命館(電丸ノ内三三二)

【合併問題】國際電話との合併は、多分十一月迄には確定の運びとならう。合併の比率はまだ無論明かでないが、参考のため兩者の資産内容、業績を検討するに、當社の方が相當優れてゐる。

【資産評價】この種事業はその性質上固定資産が主だが、當社のその評價は非常に低い。建物工作物機械の帳簿價格は四百四十七萬圓だが、この當初建設費は記者の計算によると一千三百餘萬圓で既売却高は八百七十萬圓に達する。売却年率は九年弱でこの方面から見ても良好すぎるほど良好である。時代遅れの長波長設備は十年上期迄に売却済みである。

【収益検討】無電利用は時局と貿易進展とで非常に旺盛である。最近三期の平均利益金(売却前)は一百八十九萬圓で、今後この程度を繼續して行く事は易々たるものだ。売却は假りに十ヶ年完了に至ると見ても、半季六十五萬圓で足り、売却後の利益率は二割二分二厘となる。下掲配當制限規則の適用を見ても利益率はなほ一割七分一厘の高率だ。國際電話より優良と見る所以である。

【前途】合併後は重複設備が不必要となり経費が節減される。なほこの利益は別としても、この合併を機に八分位までの増配は實現を促進されよう。但、株價は既に騰げ余地に乏しい。

國際電話株式會社

(本社) 東京市麹町區内幸町大阪ビル二號館(電銀座 300)

【合併問題】日本無電との合併は兩社の承諾さへあれば、議會で法律改正の上成立する。(なほ日本無電の項参照)。

【資産評價】當社の固定資産が無電より優れてゐる點は、建設費が低廉だつた事だが、これに反し売却は、毎期利益が少いためその額は決して満足だと云へない。例へば固定資産二百八十九萬圓に對し既売却は四期で十八萬圓に止まり、十ヶ年売却の計算に對し、四十萬圓を不足する。

【収益検討】當社の本年上期利益金(売却前)は十八萬圓で、下期はオリンピックによる増収を除いても前期以上である。下期配當は六分にならう。當社は創立まだ間も無いので収益は毎毎に急カーブで上昇してゐるが、然しこの利益金がかかり増加しても、売却を正常に十ヶ年賦位にすると、残りの利益金は驚きの日本無電の場合に劣る。それに對臺灣對滿洲の通話が現設備では飽和状態に達してゐる事を思ふと利益金の急増は望まれぬ。

【配當制限】唯日本無電には配當制限があり、當社には無い。然し之も一概に當社に有利な條件とは云へぬ。あれこれ考へると、合併比率は當社側が幾分劣つて當然である。然し直ちに八分近い配當を得れば損はあるまい。

【設立】大正十四年十月

【決算期】三月、九月

【事業】海外諸國との無線電信設備を政府に貸付く

【資本金】公稱 10,000,000
 政府(50%) 5,000,000
 一般(50%) 5,000,000

【株主】

【役員】

【大株主】

【事業規模】

【事業成績】

【資産負債】

【負債】

【名義書換】十 後「新券文附」五十後

【設立】昭和七年十二月

【決算期】三月、九月

【事業】外國並對殖民地無線電信設備を主とし政府の用に供す

【資本金】公稱 10,000,000
 拂込 7,000,000

【株主】

【役員】

【大株主】

【事業規模】

【事業成績】

【資産負債】

【負債】

【名義書換】十 後「新券文附」五十後

滿洲電信電話株式會社

(本社) 新京特別市大同大街六〇一
(出張所) 東京麹町區丸の内(電九ノ内三三)

【拂込】當社は去る八月末を期日に、民間持株に對し第二回拂込十二圓半宛—總額六百八十七萬五千圓を徴收した。之で日滿兩國の政府現物出資額二千二百五十萬圓を合せ、拂込總額は三千六百廿五萬圓となつた。今回の拂込は擴張資金を賄ふためである。

【擴張】滿洲國の治安回復、建設諸事業の進捗と共に、通信網の擴充は益々重要性を加へ來つた。無線有線電信電話、放送の各事業を獨占する當社は、全滿(殊に北滿)及海外連絡に互る通信施設の整備を急いでゐる。前年度に千五百萬圓の社債を發行して施設費としたが、その殘額と今度の拂込金と、都合一千萬圓の資金が今年度の事業費となる。今年度の主なる事業は北滿の電信電話新規施設と私設電話事業の買收整理、日鮮滿有線電話設備の内安奉間ケーブル架設、及二重放送施設等だ。

【業態】相當老大な建設事業續行中なので、未働資産の壓迫を受け乍らも、通信利用の増加で業績は順調に向上してゐる。下表の通りである。今年度も傾向は同様で、殊に當社營業の中心をなす電話事業は好調、またラジオ聴取者も三萬人を越へるに至つた。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 昭和八年八月 |
| 【決算期】 | 十二月(年一回) |
| 【事業】 | 有線、無線電信電話、ラジオ |
| 【資本金】 | 公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 三六三,〇〇〇 |
| 【株數】 | 舊(五〇〇) 〇,〇〇〇 新(三六三) 〇,〇〇〇 (舊株は全部日滿政府の持株) |
| 【役員】 | 總裁 山内 靜夫 理事 西田猪之輔 副 三 多 監事 白 錫 澤 理事 井上 乙彦 監査 片山 義勝 前田 直造 中川 増藏 |
| 【大株主】 | 株主總數: 九八八名 日本政府 〇,〇〇〇 滿洲國 一〇〇,〇〇〇 南滿洲鐵道 八〇〇 放送協會 三〇,〇〇〇 朝鮮銀行 三〇,〇〇〇 日業生命 八〇,〇〇〇 千代田生命 八〇,〇〇〇 第一生命 八〇,〇〇〇 安田生命 八〇,〇〇〇 帝國生命 八〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 八年度 九年度 十年度 電報取扱局 〇 〇 〇 電話交換局 二八,九〇八 八,〇〇〇 二〇,七七一 加入者(人) 三三,三三三 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 市外通話數(千) 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 放送聴取者(人) 七,〇〇〇 三三,〇〇〇 三三,〇〇〇 ラジオ放送局大連、奉天、新京、哈爾濱 ラヂオ放送局九月十二月の四ヶ月間 【事業成績】 八年度 九年度 十年度 營業收入(千圓) 三,四四三 三,五五五 三,八三三 營業支出() 三,三三一 三,四三三 三,四三三 【資本異動】 八月民間持株五萬株に對し、一二圓五拂込後收 |

| | | | | |
|---------|----------|---------|---------|---------|
| 【資産負債】 | 十八年 | 十九年 | 二十年 | 二十一年 |
| 株主資本 | 三〇〇,〇〇〇 | 三〇〇,〇〇〇 | 三〇〇,〇〇〇 | 三〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 |
| 社債 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 三〇〇,〇〇〇 | 三〇〇,〇〇〇 | 三〇〇,〇〇〇 | 三〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 | 一〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 二〇〇,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 | 二〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 六三,〇〇〇 | 六三,〇〇〇 | 六三,〇〇〇 | 六三,〇〇〇 |
| 【收支動向】 | 八年度 | 九年度 | 十年度 | 二十一年 |
| 收入 | 三,四四三 | 三,五五五 | 三,八三三 | 四,〇〇〇 |
| 支出 | 三,三三一 | 三,四三三 | 三,四三三 | 三,四三三 |
| 利益 | 一三二 | 一二二 | 四〇〇 | 五六七 |
| 固定消却 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 |
| 消却率 | 〇.〇〇% | 〇.〇〇% | 〇.〇〇% | 〇.〇〇% |
| 【業績】 | 八年度 | 九年度 | 十年度 | 二十一年 |
| 利益 | 一三二 | 一二二 | 四〇〇 | 五六七 |
| 配當率 | 〇.〇〇% | 〇.〇〇% | 〇.〇〇% | 〇.〇〇% |
| 利益積立 | 一三二 | 一二二 | 四〇〇 | 五六七 |
| 【株價(圓)】 | 高値 | 安値 | | |
| 八年 | 一〇.〇〇 | 一〇.〇〇 | | |
| 九年 | 一〇.〇〇 | 一〇.〇〇 | | |
| 十年 | 一〇.〇〇 | 一〇.〇〇 | | |
| 二十一年 | 一〇.〇〇 | 一〇.〇〇 | | |
| 【豫想配當】 | 二十一年十二月期 | 七分 | | |
| 【利息】 | 九月一日調 | 六分一厘 | | |
| 時價(圓) | 一〇.〇〇 | | | |
| 【名義書換】 | 二十圓 | 【新株交付】 | 五十圓 | |

業 事 鋼 鐵

【生産増加續く】需要増大に伴つて鐵鋼の生産高は依然として増加を續けてゐる。本年上半期の生産実績によると、鉄鐵は百三十九萬六千噸、普通壓延鋼材は二百六萬四千噸を數へるに至つた。鉄鐵は上期中に熔鑄爐の完成したものがなかつた爲め、昨年上半年期より僅か五萬噸の増産に止つてゐるが、壓延鋼材は此の間二十七萬六千噸、割合にして一割五分餘の増加に當つてゐる。この増産は、帶鋼の如く、之迄殆んど生産のなかつたものが新に加つてゐるからであるが、その他鋼材に就ても増加は矢張り全般に亘つてゐる。

【相場安定】それに相場も四月以降大抵は安定を保つてゐる。元々市場相場には變動常ない、鋼材のことだから、多少の波瀾は免れ得なかつたが、それにしても、五ヶ月間の市價は再禁止以來稀に見る小高下に推移して來た。従つて共販建値乃至日本製鐵の賣出し値段は四月の引き上げ以後今日まで殆んど据え置きと云つてよい。需給關係は稍々波が大きく、四月の各種鋼材に亘る建値引上げ

以來、新規注文は急激に手控えられるに至つたが、それも永くは續かず、相場安定が見越されるところに最近では再び實需の拾頭を思はしめるものがある。東京、大阪及び名古屋の三市主要問屋に就て調査した鋼材在庫高—但棒、型及板鋼の三種のみ—を見ても、四月末に十五萬五千噸だつたものが漸減して、七月末には十四萬五千噸に落ちてゐる。

【採算依然窮屈】たゞ採算は、右のやうな相場の高値維持に拘らず、依然面白くないやうだ。原料が上つてゐるからである。一貫作業を行ふ日鐵は例外であるが、その他の會社では屑鋼の値上りが可なりこたへる。六、七月頃には米國屑の下落で一息つくかに見えたが、その後再び騰げたから、鋼材の種類にもよるが、競争の劇しいものでは採算一杯のやうだ。

【製鐵國策の影響】従つて此の下期も各社とも上期並みの成績しか舉るまい。尚ほ斯業の前途には製鐵國策の如何が多大的影響を持つ。平爐の認可制、販賣統制、獎勵法適用條件の改正等々の問題の解決如何に注目を要する。

株式 大島製鋼所

(本社) 東京市城東區大島四ノ一三 (電本所 三三三四番)

【上期減配】昨下期成績は急低下したが、去る四月末締切の今年上期も、續いて成績は悪るかつた。利益金は三十六萬九千圓から三十二萬一千圓と四萬八千圓を減少した。一方、平均拂込資本が二十四萬圓殖えて六百萬圓になつたので利益率は一割七厘に過ぎなかつた。當然の結果として一分減配して五分配當としたが、これでも窮屈で、償却金は更に減らさねばならなかつた。

【今後】上期の不成績は原料高、製品安によるもので、鋼塊の如きは利益は殆ど見られず、僅かに機械類、鑄鋼品で利益を擧げたに過ぎなかつた。今後、この鋼塊の利益は減少するものと思はれる。唯、鑄鋼品、機械類は、軍需關係が大部分を占め、今後受託は増大する。この方面の利益は期待されるが、全體としては、餘り樂觀をゆるさない。今期も前期程度の利益に止まらう。

【資産整理の必要】下表にも明かな如く、當社の成績は期毎に高低が著しく、甚だ不安定である。これは資産内容に弾力性が乏しいことを反映するものだ。當社は従来より固定資産の過高評價と云ふ根本的な缺陷を有するが、現在もこれがちつとも改善されてゐない。減配して極力償却に努めるか、或は減資するかして、根底から改善する必要がある。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 大正六年十二月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 造船用部分品、鐵道電車車輛部分品、一般兵器、汽機鐵管製紙機械 |
| 【資本金】 | 六〇〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | 一〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 大川平三郎 取締役 門野重九郎 副社長 長谷川太郎 取締役 田中榮八郎 監査 大倉彦一郎 田中榮八郎 浅野 良三 白石元治郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 一,〇七七 大川合資 三〇〇,〇〇〇 淺野同族 一〇〇,〇〇〇 長谷川合資 一〇〇,〇〇〇 田中榮八郎 一〇〇,〇〇〇 松井合資 一〇〇,〇〇〇 大澤龍太郎 一〇〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 平 十五、廿五、廿五、各一基 E-1式電氣爐一基、鑄鐵爐三基、五 基、各一基、熱化爐、鑄造乾燥爐各一基、水 壓鑄機、水壓沖出機、各種仕上機其他 年産能力 鋼塊 六五千噸、鑄鋼鑄鐵 八千噸 鑄造物並に素材成形物 一、二千噸 車輪車軸三千對、輪心 一、五千個 軍用車軸一、五千個、一、二千個 【事業成績】 十年上 十年下 十一年上 引受高(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 引渡高(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 【資産負債】 | 四月 十月 十一年 |
| 株主資本 | 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 借入金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 七〇〇,〇〇〇 七〇〇,〇〇〇 七〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 支出 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 利益 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【株主配當】 | 九月一日 八月 |
| 時價 | 新 八分六厘 八分五厘 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

株式 吾嬬製鋼所

(本社) 東京市向島區吾嬬町東四ノ九三 (電本所 三五五五番)

【前期再減配】前々期一割五分から一割に五分減配を行つたが、去る五月末締切の今年上期も成績は一層悪化し、更に二分の減配を餘儀なくされた。即ち利益は四十七萬四千圓から三十五萬三千圓に十四萬一千圓減少し、利益率も二割九分六厘から二割八厘に急低下した。減配したが利益保留は一層低下した。

【今期】右の成績低下は、前々期來の製品市價の低落が、前期も期前半にかけて影響したのに加へ、後半はまた原料高で採算が面白くなかつたためである。今期も鋼材市價は高値を維持してゐるが、原料高は依然として續き、採算も良化してゐない。増設中の千住工場の壓延機二臺が三月に完成したので今期はその影響を全面的に受ける。生産高はやゝ殖えるだらうが、利益はせいぜい前期並の處だらう。八分配當は据置かれると思ふ。

【將來】鐵鋼界の見透しは、當面として變化がある様には思はれない。併し、當社の資産内容は悪化してゐる。今後、借入金の返済固定資産の償却等に一段の努力を拂はねばならない。先般、抜け賣りをやつて關東鋼材聯合會から脱退する等傳へられた。併し、抜け賣りは事實で處罰されたいが、脱退はしないらしい。こんな點から見ても金融上の苦難は察せられる。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 昭和八年八月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 各種鋼材、鑄鋼品 |
| 【資本金】 | 六〇〇,〇〇〇 |
| 【株数】 | 一〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 清岡榮之助 取締役 油田 尚郎 副社長 高橋 正雄 監査 木下 茂 藤井 壽八 徳武鶴太郎 池島 三省 本間 梅吉 三谷 三郎 油田 尚郎 梅吉 三谷 三郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 一,〇七七 清岡榮之助 三〇〇,〇〇〇 高橋 正雄 一〇〇,〇〇〇 池島 三省 一〇〇,〇〇〇 藤井 壽八 一〇〇,〇〇〇 油田 尚郎 一〇〇,〇〇〇 本間 梅吉 一〇〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 製鋼能力 一、二萬噸 平 一、二萬噸 高 一、二萬噸 中形ロール 一、二萬噸 小形ロール 一、二萬噸 鋼材ロール 一、二萬噸 【事業成績】 十年上 十年下 十一年上 生産高(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 引受高(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 引渡高(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 十一年 |
| 株主資本 | 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 借入金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 七〇〇,〇〇〇 七〇〇,〇〇〇 七〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 支出 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【業績】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 利益 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【株主配當】 | 九月一日 八月 |
| 時價 | 新 八分六厘 八分五厘 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

徳山鐵板株式會社

(本社) 大阪市東區高麗橋四丁目三五第一ビル(電北漢一三二)

【業績低下】去る四月末締切の本年上期に於ける利益金は、三十七萬一千圓で前期より十七萬四千圓の減益となつた。従つて對拂込資本利益率は、一割九分八厘に低下し、特別配當四分を落して一割配當とした。尤も、前社長退職慰勞金七萬圓を經費として落してゐるので、これを加算すれば實際の利益は四十四萬圓に達した譯だが、業績の低下は否めない。

【強味】この業績低下は、鐵板市況極度の不振を全期を通じて受けた爲めに外ならない。が當社が、かゝる鐵板界の不況にも拘らず、その打撃を比較的輕微に止め得たのは、製品市價の變動に應じて有利な種類の品物の製造に轉換し得たからである。また販賣に於ても岩井商店の資本的背景を持つてをり、更に斯業に經驗が古いといふことも、當社の強味となつてゐる。

【配當據置か】鐵板市況も最近や、好轉してきてはゐるが、しかし前途尙警戒を要する。が、當社は市況悪化による打撃を緩和するため多角化を企圖し、帶鐵及び中板の製造を開始してゐる。これらもまだ眞の収益時代にはいつてゐないが、しかし漸次業績に寄與しつゝある。それ故一概に不安視する要なく、一割配當は維持せられよう。

【設立】昭和三年三月

【決算期】四月、十月

【事業】薄鐵板、中鐵板、帶鐵製造

【資本金】公稱 五〇〇〇

【株數】(三五) 100,000

【重役】社長 岩井雄二郎 取締役 下田伊三郎

常務 友田 一太 監査 岩井 豊治

常務 徳光 隆明

【大株主】株主總數 七六名

岩井商店 〇〇〇〇 川合 純一 七、七〇〇

山口合資 〇〇〇〇 日華生命 二、〇〇〇

川合 秀野 〇〇〇〇 辰馬 悅藏 一、〇〇〇

川部 順一 〇〇〇〇 長島 謙二 〇〇〇

川部 入重 〇〇〇〇 大川又三郎 〇〇〇

【事業規模】工場所在地 山口縣大津村(徳山)

生産能力(年産) 薄鐵板 五〇〇,〇〇〇

中鐵板 五〇〇,〇〇〇

帶鐵 五〇〇,〇〇〇

| 【資産負債】 | | 四十年 | 十一年 | 四十二年 |
|--------|--|--------|--------|--------|
| 株主資本 | | 三、二〇〇 | 三、二〇〇 | 三、二〇〇 |
| 外部負債 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 支拂手形 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 使用總資本 | | 八、二〇〇 | 八、二〇〇 | 八、二〇〇 |
| 固定資産 | | 三、二〇〇 | 三、二〇〇 | 三、二〇〇 |
| 流動資産 | | 五、〇〇〇 | 五、〇〇〇 | 五、〇〇〇 |
| 現金預金 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | | 十年上 | 十年下 | 十一年上 |
| 収入 | | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 |
| 支出 | | 八、〇〇〇 | 八、〇〇〇 | 八、〇〇〇 |
| 利益 | | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 |
| 【利益】 | | 九月一日調 | 九月一日調 | 九月一日調 |
| 時價 | | 五 | 五 | 五 |
| 【名義書換】 | | 五 | 五 | 五 |

東海鋼業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内一ノ二樓大鐵業内(電丸ノ内六六)

(出張所) 大阪市西區江之子島西町

【上期回復】十年下期は鋼材市價激落の打撃で業績は非常な低下を示したが、今年上期は市價の暴騰で可成り成績を回復した。利益金は十八萬圓、利益率は一割六分で、八分配當を据置いた。

【今期】十一月締切の今下期は、引續く鋼材市價の堅調で、前期並の成績が期待されてゐる。最近の鋼材高値は、原料屑鐵の激騰によるもので、鐵鋼會社の採算は却つて悪化してゐるが、當社は原料鋼塊を製品市價に應じて購入出来るので採算の悪化はなく、利益は前期より多少殖えるかもしれない。生産高は依然四萬噸に達する見込みだから、二十萬圓近くの利益が見込める。利益率は一割八分となる。資産償却を十萬圓近く行つても八分配當を据置ける。

【將來】當社は平爐を有せず、原料鋼塊を日鐵から購入してゐるが、その買入値は製品市價の何掛と決つてゐる。従つて製品市價に急激な變化のない限り、相當の利益を見込める譯だ。波瀾多い鐵鋼界のことだから遠い將來の豫測は出来ないが、前記の様な仕組だから、そう心配はない。固定資産も漸次改善されつゝある。日鐵への合併は立消えのかたちだが、資産を二百萬圓以下に切下げて置けば、若し實現しても株主に迷惑かけずに済む譯だ。

【設立】大正五年十二月

【決算期】五月、十一月

【事業】鋼板、條鋼、軌條

【資本金】公稱 三、〇〇〇

【株數】(三五) 三〇,〇〇〇

【重役】社長 大川平三郎 取締役 鈴木 柚藏

常務 大橋不二雄 監査 伊藤久萬一

取締役 白石元治郎 監査 長谷川太郎吉

岡崎久太郎 岡崎 博

【大株主】株主總數 三二名

岡崎久太郎 〇〇〇〇 大橋不二雄 〇〇〇

服部 玄三 〇〇〇〇 谷野 彌吉 〇〇〇

大川 合名 〇〇〇〇 岡崎 房子 〇〇〇

長谷川太郎吉 〇〇〇〇 田中榮八郎 〇〇〇

井田 五郎 〇〇〇〇 伊藤九萬一 〇〇〇

【事業規模】工場所在地 九州若松市

鐵板工場 生産能力 五〇〇,〇〇〇

加熱工場 生産能力 一〇〇,〇〇〇

製條工場 (中型) 〇〇〇,〇〇〇

加熱工場 (小型) 〇〇〇,〇〇〇

加熱工場 (千馬力) 〇〇〇,〇〇〇

【生産高】十年上 十年下 十一年上

鋼板(噸) 二、八〇〇 二、九〇〇 三、〇〇〇

山形鋼(噸) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

計 三、八〇〇 三、九〇〇 四、〇〇〇

| 【資産負債】 | | 五十年 | 十一年 | 五十二年 |
|--------|--|--------|--------|--------|
| 株主資本 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 外部負債 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 借入金等 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 使用總資本 | | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 |
| 固定資産 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 流動資産 | | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 現金預金 | | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 【收支勘定】 | | 十年上 | 十年下 | 十一年上 |
| 収入 | | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 |
| 支出 | | 八、〇〇〇 | 八、〇〇〇 | 八、〇〇〇 |
| 利益 | | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 |
| 【利益】 | | 九月一日調 | 九月一日調 | 九月一日調 |
| 時價 | | 五 | 五 | 五 |
| 【名義書換】 | | 五 | 五 | 五 |

大阪製鉄株式会社

(本社) 大阪市此花區北安治川通一ノ一 (電土佐堀 五三)

【業績逆轉】去る四月末に締切つた本年上期の利益金は僅かに一千圓に過ぎず、配當も遂に一割二分配當から、一舉無配の悲況に陥つた。これは、一つには、在庫品の思ひ切つた評價切下げの結果で、その點姑息な方法を弄するよりは遙に勝つてゐる。しかし前期より二十二萬一千圓、前年同期に比すれば實に三十五萬二千圓といふべし減益振りには驚かざるを得ない。

【鐵板恐慌の打撃】かくの如き業績の急激な逆轉は、いふまでもなく鐵板恐慌の結果である。殊に當社は徳山鐵板の如く、販賣會社を有するといふ特殊な強味もなかつたので、その打撃が一層大きかつた。加ふるに當社は薄鐵板、中鐵板、厚鐵板の製造を主とする關係上(その他シャーリングを行つてゐるが)、他の鋼材をも製造する多角的經營會社に比すれば、市況不振の影響を全面的に受けざるを得なかつたのである。

【尙復配困難】鐵板市況は最近漸く好轉しつゝはあるが、まだ探算は苦しい状態にある。だから當社の前途も依然として樂觀は出來ない。配當復活の期待は到底こゝ當分はもてない。當局者も前期思ひ切つて無配を斷行したのだから、今更配當など急がずに、徹底的な立直り策を樹立すべきである。

業事ミルア

【供應懸念薄らぐ】アルミ事業は飛躍的發展を遂げつゝある。嘗つては鍋釜一つを造る地金さへも外品の輸入に仰ぐ外はなかつたが、今は一轉して國産アルミの供給過剩期來を不安がられる程に飛躍した。けれどもまた世の認識は供給過剩期はしかく早急に來るものではないとの見方に變つて來た。軍備充實時代の到來が過剩懸念を賦とばした原因ではあるが、また各アルミニウム會社の公稱能力が示す如くに實際生産せらるゝものではないとの見方が常識化したためでもある。事實供給不安時代は容易に來らぬものと見てよい。

【着々本格化】國産アルミ會社としての電工、住友、日滿の三社はそれ々々に既定の生産設備を完成し、着々企業は本格化して來た。無論、各社とも既定の完成期は遅れたが、事業の豫定計畫にソゴを來たしたのは一社だにない。愈々我がアルミ工業は本筋に入つたのである。その後の新登場者としては日本曹達の企業化が確定したこと、大日本製糖のアルミナ事業が既に試験時代を離れ、

| | |
|-------|--|
| 【設立】 | 大正九年五月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 各種鐵板製造販賣 |
| 【資本金】 | 公 司 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 【株 數】 | 新 舊 (五〇〇) 五〇,〇〇〇 |
| 【重 役】 | 社長 北島安太郎 取締役 風間武三郎 専務 船岡正晴 取締役 風間英吉 取締役 豊水 政吉 監査 千葉金三郎 井上長太夫 森下彌三郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 五五名 風間武三郎 四〇〇 北島安太郎 四〇〇 井上長太夫 三〇〇 楓 英吉 三〇〇 堀口 菊藏 三〇〇 船岡利三郎 三〇〇 松元千代助 三〇〇 時岡大太郎 三〇〇 多田 藤吉 二〇〇 森下彌三郎 一〇〇 【事業規模】 生産能力(月産) 薄鐵板 三、〇〇〇 中鐵板 三、〇〇〇 厚鐵板 三、〇〇〇 切斷能力 三、〇〇〇 【事業成績】 十年上 十年下 十年上 厚鐵板販賣 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同 金 額 千 圓 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同 金 額 千 圓 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同 金 額 千 圓 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 同 金 額 千 圓 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 【資本異動】 九年六月百萬元増資、同年九月現社名に改稱(元大阪シャーリング)十年五月百五十萬圓増資 |

| | |
|---------|-------------------------------|
| 【資産負債】 | 四十年 十一年 四十二年 |
| 株主資本 | 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 |
| 外部負債 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 支拂手形 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 使用總資本 | 三、〇〇〇,〇〇〇 三、〇〇〇,〇〇〇 三、〇〇〇,〇〇〇 |
| 固定資産 | 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 |
| 流動資産 | 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 一、〇〇〇,〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【收支總定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 支出 | 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 |
| 【固定資産】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 消却年率 | 一〇% 一〇% 一〇% |
| 【業 績】 | 九年上 九年下 九年上 |
| 利 益 | 一〇〇 一〇〇 一〇〇 |
| 【株 價】 | (×) 印事株益(三三)平均を合む |
| 高 値 | 安 値 |
| 九 年 上 | 二五〇 一〇〇 安 値 |
| 九 年 下 | 二〇〇 一〇〇 安 値 |
| 十 年 上 | 二〇〇 一〇〇 安 値 |
| 十 年 下 | 二〇〇 一〇〇 安 値 |
| 十 一 年 上 | 二〇〇 一〇〇 安 値 |
| 十 一 年 下 | 二〇〇 一〇〇 安 値 |
| 【豫想配當】 | 十一年十月期 無配 |
| 【利 率】 | 九月一日開 無配 |
| 時 價 | 新二〇 利 率 一 |
| 【名義書換】 | 十 銭 (新券交付) 五十銭 |

愈々工業化の時機を迎へんとするに至つた事。懸案たる滿鐵のアルミ會社が愈々設立の方針に決定したことだ。これらは總てこれからの問題だ。

滿鐵のアルミニウム事業は資本金二千五百萬圓で、年産四千噸のアルミ生産計畫である。この資本金の内一千萬圓は滿鐵側の出資、五百萬圓が地元、残り一千萬圓を内地のアルミ同業會社及三井、三菱、住友の財閥に引受けしむる方針と云はれてをる。軍部の斡旋もあるから早晩具體化するものと見てよい。

【増資の一般化】擴張一段落に加へ内容充實策乃至は今後の擴張計畫の爲の増資が相次で行はれんとしてをる。電工が倍額増資の五千萬圓に、日滿が同じく倍額の一千萬圓増資に決定し、日本アルミにも倍額増資の問題が傳へられる。既に日曹は増資を執行し、日糖もまた事業の具體化と共に増資必然の機運にある。かくして、アルミニウムの資本吸集時代は尙ほこの先も當分持續される。元來が時代の要求に依つて生れ出た事業だけに、各社間に優劣はあるにもせよ、今後は急速なる發展を辿らう。

日本アルミニウム株式會社

(本社) 東京市豊町區丸の内一ノ六海上ビル内 (電九ノ内六室)

【工事進捗】いま尙ほ設備時代である。臺灣高雄工場は昨年六月の工事着手以來鋭意完成を急いでをるが、工事は豫定より可なり遅れることになるらしい。電解工場は今年八月末を以て完成の豫定であつたが、八月末現在に於てその電解工場は水銀變流器の据付と電解槽の建設中と云はるゝから、恐らく十月末でないとい一部の操業開始さへも覺束ないであらう。

【完成期は】電解部の完成を期して、先づ輸入アルミナ(ブリテイツシユ・アルミニウムより)を以て試験的の操業を開始する段取りとなるが、それも順調に行つて十月末、遅くれば十一月となるかも知れない。そしてアルミナ工場が完成され、アルミナからアルミニウム工場までの一貫作業が行はるゝようになる迄には來春一杯かゝるものと見られてをる。カーボン、氷晶石その他の諸材料の自給計畫はそれからだ。これは別にしても兎も角當社の工場が完成し全操業の開始となるのは來夏以後のようだ。

【増資必然か】何にしろ世界的優秀工場建設で萬事は外人技師の指導に依つて動いてをる。工場の完成までには資本金一千萬圓の全部が投下されても不足となるらしい。今年一杯に未拂込金の全部が徴收され、來春には倍額増資が行はるゝものと見られる。

機械工作會社

【上期横這ひ】機械工作會社の業績は、最近漸く好轉のテンポを緩めつゝあつたが、本年上期成績を見ると一層その感が深い。引續き好轉した會社もあるが、却つて減益に終つたものもあり、平均すれば略々横這ひの状態であつた。各社別の詳しい變化は以下に述べる個々の批判に委ねるとして、大體の傾向はかう云つてよい。

例へば性質の異つた大阪機械工作、芝浦製作、東京製綱、東洋製鐵、新潟鐵工及び古河電工の六社を採り出してその總合成績を見ると、十年上期利益率は二割一分七厘、同下期二割六分九厘、本年上期二割六分四厘となる。本年上期は昨年上期に比較すると可成りの好轉だが、昨年同期から見れば僅か乍ら却つて低下してゐる。

【横這ひの理由】かやうに本年上期の業績が横這ひの状態を呈するに至つたのは、色々の理由が考へられる。その中で特に注意を要するのは、採算の悪くなるつて來たことだ。試みに右に擧げた六社の製品納入高(收入)を一瞥すると、九年下期六千三百六十三萬圓、十年上期

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------|--------------|-----------------|-------------|-----------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|------|------|--------|
| 【設立】昭和十年六月 | 【決算期】三月、九月 | 【事業】アルミニウム製造 | 【資本金】10,000,000 | 【株数】100,000 | 【大株主】株主総数 | 【工場所在地】臺灣高雄市 | 【事業規模】 | 【資本異動】 | 【資産負債】 | 【株主資本】 | 【外部負債】 | 【使用總資本】 | 【流動資産】 | 【現金預金】 | 【收支勘定】 | 【利益】 | 【時價】 | 【名義書換】 |
| 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 | 三井物産 |

七千二百五十六萬圓、同下期七千七百十七萬圓、本年上期八千三百萬圓で、期によつて他少變動はあるが、本年上期まで大體順調な増加を辿つてゐる。處が利益金は此の間大して向上してゐないのである。思ふに原料高、競争に伴ふ製品安、經營合理化の一顧等の爲め、單位當り利益が漸次減つて來た結果であらう。

【新分野開拓】以上のやうに本年上期の機械工作會社には業績飽和の跡が窺はれるのであるが、併しだからと云つて、斯業の前途を妙味ないものと見るなら、誤りであらう。財政膨脹に伴つて新受註増加が豫想されるからだ。殊に此の際注意を要するのは、昨今新規分野に進出せんとする機運の濃厚なことだ。ディーゼル自動車、飛行機、精密機器等の増産がそれである。此等の事業は從來我國での發達が遅く、輸入品を驅逐するだけで可なり大きな市場が約束されてゐる。尤も他方單價引下や増税等があつて増配は殆んど何れの會社にも期待出来ない。併しそれだけに、資金の必要と相俟つて、未拂込徴收及至は増資がまだ各社に行はれるであらう。

株式芝浦製作所

(本社) 東京市豊町區有樂町三信ビル(電報掛五七二番)

【増資遅延か】当社には増資説があるが、事業擴張は一段落ついたので、資金の必要を認めずと、當局者は増資に對して積極的な意欲を有してゐない。従つてこれはそう急には實現はすまい。併し、高利益率を調節し、併せて配當率を高めに株主に酬ひる上からも、増資は必要であらう。従つて増資の筋合にあることに變りなく、まだその期待は充分持つてよい譯だ。

【業績の見透】それに業績の見透しも悪くはない。去る四月末締切の今年上期成績は依然好調で、業績は一段と向上した。利益金は二百五萬圓と前期より更に十七萬餘圓を増し、拂込資本の増加に拘らず、利益率は二割八分九厘に上つた。而も今後の見透しも良い。殊に当社には、最近工事を了した諸擴張計画があり、これが今後續々収益を擧げる筋合にあるので、業績は一層好望視される。即ち東京電氣と提携して造つた大井電氣と、石川島造船と共同の石川島芝浦タービンがそれで、これ等は漸次業績に寄與して来る。この他精密軍機工場の増設計画もある。

【今期増配か】差當つて今期も業績に不安なく、前期並の成績が期待される。増資がぐづつくとすれば、案外特配の引き上げるを行ふことになるかも知れない。

富士電機製造株式會社

(本社) 神奈川県川崎市田邊新田一(電川崎三三三)

【増資か増配か】最近当社株は、増配、拂込徴收、増資等の期待を織込んで旺んに買進まれてゐる。當社の業績は、かうした期待を抱かせるに充分だが、併し、増配、拂込徴收、増資等の好材料が一舉に實現されるとは思はれぬ。拂込徴收、増資に就いてはその實現性が可成りに強く傳へられてゐる様だが、遠い將來は兎も角、差當つて當分行はれさうにない。従つて増配の實現性はそれだけ強い譯だ。

【上期業績】四月末締切の今年上期は依然好成绩で百三十一萬圓、利益率に直して二割九分の利益を擧げ、七分配當を樂に据置いた。電話工場を分離して富士通信機製造を新設したため前期より多少の減益だつたが、今後この配當金が殖えるから心配はない。尙電話工場分離で償却金が少なくて済み、積立金を殖やした。

【内容】従來の資産内容は悪かつたが、毎期配當を控目にして内容充實に努めて來たので此の點も著しく改善されてゐる。

【今期増配か】十月末締切の今下期は、百五十萬圓の利益が期待される。利益率三割三分だ。固定資産の償却は今迄の様に多額を要しないから、積立金に思ひ切つて五十萬圓さいても、一、二分の増配は可能だ。今期一分増の八分配當が實現すると思ふ。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治三十七年七月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 發電機、變壓機、配電制御機、電氣機、電氣器具、電氣調整器、其他各種電氣機器 |
| 【資本金】 | 株式 1,000,000 |
| 【株数】 | (500) 200,000 |
| 【役員】 | 會長 平田篤太郎 取締役 大田黒野生 常務 久保正吉 山口喜三郎 百田貞次 北村 敏 田島 繁二 北村 謙 安川雄之助 小林 康治 取締役 安川雄之助 國安 卯一 黄金井晴正 吉田 正廣 |
| 【大株主】 | 株主總數..... 2,000名 三井合名(株) 7,000株 伊能 忠雄 東京電氣(株) 10,000株 藤新一郎 吉川 元光 1,000株 藤新一郎 關井三郎 1,000株 元治 一郎 益田 太郎 1,000株 千代田組 益田 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 横浜市鶴見區末廣町 【事業成績】 十年上 十年下 十一年上 受託高(千圓) 7,000 7,500 8,000 引渡高(千圓) 2,000 2,500 3,000 |
| 【関係会社】 | 米國 G・E と特殊關係あり 資本系統は三井系。 |
| 【投資会社】 | 特殊合金工具 大井電氣、 日本硝子電業社、鶴見臨港、東京石川島 造船 |
| 【資本異動】 | 十一年三月二日五株込徴收 |

| | |
|----------|---|
| 【資産負債】 | 四十年 十一年 四十二年 |
| 株主資本 | 2,600,000 2,600,000 2,600,000 |
| 外部負債 | 2,300,000 2,300,000 2,300,000 |
| 借入金 | 500,000 500,000 500,000 |
| 使用總資本 | 2,300,000 2,300,000 2,300,000 |
| 固定資産 | 2,300,000 2,300,000 2,300,000 |
| 流動資産 | 2,300,000 2,300,000 2,300,000 |
| 現金預金 | 1,000,000 1,000,000 1,000,000 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出 | 8,000,000 8,000,000 8,000,000 |
| 利益 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 【株價】(實價) | 高値 安値 |
| 八九年上 | 100 100 |
| 九九年上 | 100 100 |
| 十一年上 | 100 100 |
| 【豫想配當】 | 十一年十月期 特二分 【利息】 九月一日調 特二分 時價 100 利息四分二厘 |
| 【名義書換】 | 十 録【新券交付】五十録 |

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正十二年八月 |
| 【決算期】 | 四月、十月 |
| 【事業】 | 交流直流電動機、變壓機、配電機、各種電氣機器 |
| 【資本金】 | 株式 10,000,000 |
| 【株数】 | 株式 100,000 |
| 【役員】 | (社長) 吉村萬治郎 (常務) 堀山秀男 和田恒樹 (取締役) 杉本五十鈴 中上川鐵四郎、ベルンハルト・モリア、ヘルマン・ライス、ウイリ・チエダーゴーム、(監査役) 中川末吉、名取和作、ハインリッヒ・フォン・ブォール |
| 【大株主】 | 株主總數..... 2,000名 古河電工(株) 古河工業(株) 古河製鋼(株) シーメンス(株) シーメンス(株) シーメンス(株) シーメンス(株) 日本電機(株) 三井電機(株) 吉村萬治郎 三井物産(株) 中川鐵四郎 三井物産(株) 大同生命(株) 三井物産(株) |
| 【事業規模】 | 工場所在地 川崎市 生産能力(年産)..... 200,000 千圓 |
| 【関係会社】 | 資本系統は古河系。獨乙シメンズ社と特殊關係あり。 |
| 【投資会社】 | 十年六月電話機製造部を獨立せしめ通信機製造専門の富士通信機製造を創立(資本金六百萬圓) |

| | |
|----------|---|
| 【資産負債】 | 四十年 十一年 四十二年 |
| 株主資本 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 外部負債 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 借入金 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 使用總資本 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 固定資産 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 流動資産 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 現金預金 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 收入 | 10,000,000 10,000,000 10,000,000 |
| 支出 | 8,000,000 8,000,000 8,000,000 |
| 利益 | 2,000,000 2,000,000 2,000,000 |
| 【株價】(實價) | 高値 安値 |
| 八九年上 | 100 100 |
| 九九年上 | 100 100 |
| 十一年上 | 100 100 |
| 【豫想配當】 | 十一年十月期 八分 【利息】 九月一日調 五分 時價 100 利息五分二厘 |
| 【名義書換】 | 十 録【新券交付】五十録 |

古河電気工業株式会社

(本社) 東京市日本橋區室町二ノ八(電日本橋 四五二一)

【上期増益】五月末締切の今年上期は利益金百四十九萬八千圓、利益率二割六厘と成績一段と良化し、一割配當を据置いた。この計上利益は償却後のもので實際利益は二百四、五十萬圓、利益率にして三割三、四分に達する模様だ。十一月締切の今期もほゞ同様の利益が見込まれ、配當も据置かれるものと見られる。

【發展性】當社の製品の大半は直接、間接に軍需品製作に缺くことの出来ないものだ。軍需關係は今後一層増大する筋合にあるから、當社の受注も殖える。こうした見透しに對して、遅れ馳せ乍ら設備の擴張に着手してゐる。横濱本社工場及び日光工場の擴張は今期中に大体完成する豫定だし、更に大阪、尼崎兩伸銅工場も近々移轉擴張に着手する。尼崎電池も京濱地方へ移轉擴張する豫定だ。これ等は二、三年中には全部完成する模様で、これが収益を擧げて来る時期こそ刮目に値しよう。それに子會社も最近の軍需景氣に何れも好轉を示し、増資、増配の氣運にあるから、配當収入の増加も期待される。

【拂込徴収】右の擴張資金、子會社の拂込金等、今後資金が大部必要となつて来る。未拂込金は八百萬圓あるが十二月頃を皮切り一年位の間に全部徴収する豫定だ。

【設立】明治二十九年六月

【決算期】五月、十一月

【事業】伸銅、各種電機、電機、電池、綜合金條管、板、棒、特殊塗料

【資本金】公稱 三、〇〇〇、〇〇〇 拂込 一、四、五〇〇、〇〇〇

【株数】第一新 一、〇〇〇、〇〇〇 第二新 一、〇〇〇、〇〇〇

【重役】社長 中川 末吉 取締役 萩野元太郎

常務 鈴木 元 監査 河手 捨二

取締役 三谷 一二 佐々木敏雄

【大株主】株主總數 一、〇〇〇名

三慶 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

【資産負債】五十年十一月 五十二年

株主資本 三、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇

社債 一、〇〇〇、〇〇〇

借入金等 一、〇〇〇、〇〇〇

使用總資本 三、〇〇〇、〇〇〇

固定資産 一、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 二、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支】十年上 十年下 十一年上 十一年下

収入 一、〇〇〇、〇〇〇 支出 一、〇〇〇、〇〇〇

【利益】十年上 十年下 十一年上 十一年下

利益 一、〇〇〇、〇〇〇

【配當】十年上 十年下 十一年上 十一年下

配當 一、〇〇〇、〇〇〇

【名義替換】十 十 十 十

【新株交付】三十

東京電気株式会社

(本社) 川崎市堀川町七二(電川崎 五六一)
(支店) 東京市京橋區銀座西五ノ二(電銀座 五七一)

【業績向上】去る五月末締切の上期は、販賣収入は例年より稍減つてゐるが、償却後の利益は二百七十五萬八千圓と昨年同期より十三萬三千圓の増益であつた。利益率も、二月の拂込徴収で拂込資本金が殖えたにも拘らず一割七分六厘と僅か一分乍ら向上してゐる。業績は引續き向上してゐることが判る。配當は例年の方針に従つて、後期繰越金を残し特配を減らした。

【今期】當社の主要製品は電球だが、最近はこの他に、電氣器具、殊に弱電氣關係の製品に進出してゐる。電球に於いても、多年の研究に基き他社の追隨を許さない。今後業績は不安なく、徐々に向上を續けるものと見られる。十一月締切の今下期も上期並の成績が豫想される。配當は、上期の繰越金が百萬圓以上に達してゐるから、前年同期並に普通配當八分に特配八分をつける可能性は充分ある。

【擴張】當社は最近、子會社設置の形で設備の擴張を行つてゐる。昨年十月、無線部を分離して東京電気無線(資本金六百萬圓、拂込三百九十三萬圓)を創立したが、今年に入つても四月には芝浦製作所と共同出資で大井電氣(資本金二百萬圓全額拂込済)を設立し、五月末には昭和電線電纜(資本金百萬圓)を創立した。

【設立】明治二十九年二月

【決算期】五月、十一月

【事業】電球、積算電力計、照明器具

類、無線電信電話機、真空管

【資本金】公稱 三、〇〇〇、〇〇〇 拂込 一、〇〇〇、〇〇〇

【株数】新 一、〇〇〇、〇〇〇

【重役】社長 山口喜三郎 取締役 WK 三郎

副社長 HUBER 龍 監査 大塚 榮吉

取締役 立川 龍 石井 伍四郎

取締役 津守 豊治 平田 篤太郎

【大株主】株主總數 一、〇〇〇名

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

三井物産 三井物産 三井物産 三井物産

【資産負債】五十年十一月 五十二年

株主資本 三、〇〇〇、〇〇〇

外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇

社債 一、〇〇〇、〇〇〇

借入金等 一、〇〇〇、〇〇〇

使用總資本 三、〇〇〇、〇〇〇

固定資産 一、〇〇〇、〇〇〇

流動資産 二、〇〇〇、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支】十年上 十年下 十一年上 十一年下

収入 一、〇〇〇、〇〇〇 支出 一、〇〇〇、〇〇〇

【利益】十年上 十年下 十一年上 十一年下

利益 一、〇〇〇、〇〇〇

【配當】十年上 十年下 十一年上 十一年下

配當 一、〇〇〇、〇〇〇

【名義替換】十 十 十 十

【新株交付】三十

國産工業株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内二ノ一六ノ二(電丸ノ内二二二)

【上期成績】五期末締切の上期成績は幾分停滞気味であつた。利益金は百五十四萬九千圓で、十年下期より四萬九千圓を増したが、拂込増で利益率は三分三厘を低下して二割七厘に止つた。

【本期増益】併しそれにしても二割以上の利益率で配當は一割だから、勿論樂な決算である。それに今期はかなり増益する筋にある。受託高も殖えてゐるが、殊に昨年暮當社が引き受けたコロムビア蓄音機からの配當収入が大きい。十年下期には此の配當金は僅か一ヶ月分しか入らなかつた結果、株式肩代りの爲め調達した借金の利息を補ふにも足らなかつた。處が今期からは丸々配當金が入つて来る。これだけで半期二十四萬七千圓の收益増加である。尤も今期は倍額増益を行ひ、去る八月末に増資新株一株につき十二圓五十錢、總額三百七十五萬圓の第一回拂込を徴收した。従つて資本負擔はまた殖えるが、それでも利益率は二割一、二分に上るから、一割配當は全く安泰だ。

【發展】更に當社はI・G社と提携で六月下旬資本金百五十萬圓のチタニウム會社を創立し、五期末には日鐵と共同出資で資本金百萬圓の硫酸會社を起した。兩社とも當分收益は見込めぬが、將來性がある。これにつれて當社もまだ伸びやう。株價は尙割安。

株式新鴻鐵工所

(本社) 東京市豊町區丸ノ内有樂館内(電丸ノ内二二二)

【上期業績】五月締切の本年上期は計上利益九十七萬四千圓に上り十年下期より六萬圓の増益であつた。利益金の増進率は可成り鈍つてはゐるが、三割七分の利益率はやはり出色の好成績である。配當は引續き一割に据置いたので、決算内容は一層餘裕を加へた。毎期の堅實決算で資産内容は申分ない程、充實してゐる。

【今期と今後】前期からの繰越注文は五百七、八十萬圓に達し、更に一ヶ月平均百萬圓位の新規受註を見込める模様だから、當分注文の不足を感じる様なことはない。當社はエンヂンと石油關係機械の製作技術に特長を認められてゐるが、兩者共に需要は増加する筋合にあるから、今後もずつと現在程度の成績は維持出来る。今期の引渡高は設備の擴張で七百萬圓以上に達するだらう。利益も百萬圓近くを予想される。利益率は三割四分となり、一割配當は不安なく持續出来る。一、二分の増配も可能だが、一割以上の高配當は差控へる意向だから當分一割は据置かれよう。

【拂込、増資】業界將來の好望から、生産設備の擴張が必要なばかりでなく、過高利益率の調節、株金の増加等からも、増資をすべき順序だ。既に九月初、最終拂込五十萬圓を徴收した。但し増資は、當局者が實行を決断するまで相當時間がかゝらう。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十三年五月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 鑄物、鐵工品一般、内燃機、電話機其他、燃料 |
| 【資本金】 | 公稱 三〇〇,〇〇〇 新(三三三) 三〇〇,〇〇〇 |
| 【株主】 | 新(三三三) 三〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 藤田 政輔 取締役 岩澤 市松 村正 正輔 山田 敬光 常務 工藤 治郎 山田 敬光 加藤 基平 相談 粘川 義介 久保田 一 |
| 【大株主】 | 株主總數 三三三名 三菱商會 九、〇〇〇 藤田合名 七、〇〇〇 富國鐵兵 九、〇〇〇 第一生命 七、〇〇〇 第一鐵兵 七、〇〇〇 藤田政輔 三、〇〇〇 八幡田四郎 五、〇〇〇 廣海三三郎 四、〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 年産能力 鑄物 一〇〇,〇〇〇 鐵工品 一〇〇,〇〇〇 電機機器 一〇〇,〇〇〇 電話機 一〇〇,〇〇〇 起重機 一〇,〇〇〇 鐵管 一〇,〇〇〇 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 受託高(千圓) 三二五 三二五 三二五 引渡高(千圓) 三三三 三三三 三三三 |
| 【投資會社】 | 昭和製鋼工業、東洋利路、日本蓄音機、チタン工業、戸畑鑄物其他 |
| 【資本負擔】 | 十一月拂込 二十五萬圓徴收、八月借入増資 二十五萬圓徴收 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五十年 五十一 五十二年 |
| 株主資本 | 一六、〇〇〇 一六、〇〇〇 一六、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 二六、〇〇〇 二六、〇〇〇 二六、〇〇〇 |
| 固定資産 | 二六、〇〇〇 二六、〇〇〇 二六、〇〇〇 |
| 流動資産 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 三三三 三三三 三三三 |
| 支出 | 三三三 三三三 三三三 |
| 利益 | 〇 〇 〇 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治四十三年六月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 機械車輛小型船製作 |
| 【資本金】 | 公稱 六〇〇,〇〇〇 新(五〇〇) 六〇〇,〇〇〇 |
| 【株主】 | 新(五〇〇) 六〇〇,〇〇〇 |
| 【重役】 | 社長 笹村 吉郎 取締役 山口 八次 長島 吉次郎 監査 齋藤 康之助 橋本 三郎 中野 孝次 山口 誠太郎 白勢 景作 |
| 【大株主】 | 株主總數 一六三名 山口誠太郎 一〇〇,〇〇〇 西協合名 五〇,〇〇〇 日本石油 三〇,〇〇〇 川崎信託 三〇,〇〇〇 笹村吉郎 三〇,〇〇〇 中野興業 三〇,〇〇〇 大塚信三郎 一〇,〇〇〇 齋藤正作 一〇,〇〇〇 本間 彌一六、〇〇〇 飯塚知信 一〇,〇〇〇 |
| 【事業規模】 | 新設工場 工作機械、鐵道車輛、船舶、發動機、汽機汽罐、鑿井製油機械 長岡工場 鑿井製油機械、發動機、船舶 柏崎工場 製油機械、鑿井、鑄造鐵管 東京蒲田工場 ディーゼル機 |
| 【事業成績】 | 十年上 十年下 十年上 受託高(千圓) 三三三 三三三 三三三 引渡高(千圓) 三三三 三三三 三三三 |
| 【資本負擔】 | 十一月拂込 二十五萬圓徴收、八月借入増資 二十五萬圓徴收 |

| | |
|--------|----------------------|
| 【資産負債】 | 五十年 五十一 五十二年 |
| 株主資本 | 七〇、〇〇〇 七〇、〇〇〇 七〇、〇〇〇 |
| 外部負債 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 借入金 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 使用總資本 | 八〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇 |
| 固定資産 | 八〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇 |
| 流動資産 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 現金預金 | 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 三三三 三三三 三三三 |
| 支出 | 三三三 三三三 三三三 |
| 利益 | 〇 〇 〇 |
| 【名義書換】 | 十 十 十 |

東京瓦斯電気工業株式会社

(本社) 東京市大森區入新井一ノ〇〇 (電高橋一四四)

【増資決定】 去る八月、懸案の増資が倍額と決定した。九月三十日現在の株主に對して一對一と以て割當て、第一回拂込は十一月二日、十二圓半、總額百五十萬圓を徵收する。

【増資の目的】 増資の最大の目的は擴張計畫で、第一回拂込徵收の百五十萬圓は殆ど全部擴張資金に當てられる。擴張計畫は航空機、自動車及び計器等全般的な製作の擴張で、その程度は明確でないが、全體の擴張工費は大體二百萬圓位と見込まれてゐる。この資金は一時に全部を必要とするのではないが、この他に運轉資金が必要となつて来るから、第一回拂込金だけでは幾分の不足を感じる。従つて第二回拂込徵收も案外早く行はれる様に思ふ。

【配當力】 去る五月末決算も成績依然好調で十二萬三千圓の増益であつた。勿論これは計上利益で二分増配のため、これに對應して利益金を殖やしたのだが、實際利益はやはり百二十萬圓位に達した様だ。今後も當分、擴張計畫が利益を擧げなくともこの程度の利益は見込めるから、増資後も七分配當維持力は充分ある。

【今、來期増配か】 當局者は更に増配を意圖してゐるから、今、來期一分程度の増配が見込まれる。當社は軍需會社だから高率の配當は差控へねばなるまいが、一分位の増配なら實現しよう。

【設立】 明治四十三年八月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 航空機、發動機、自動車、各種兵器、計器類、一般機械、火藥

【資本金】 株式總數 100,000 株

【役員】 社長 松方 五郎 取締役 星子 常務 内山 直 監査 榮國 嘉七 横濱 俊 室 錫倉 春彦

【大株主】 株主總數 1,375名

十五銀行 三三三 蓬來 殖産 八〇〇 佐野 包治 三〇〇 北野 左衛門 三〇〇 水海 憲政 三〇〇 松方 五郎 三三三 長岡 銀行 一〇〇 山一 證券 一〇〇 山田 安平 一〇〇 龜田 利吉 一〇〇

【事業規模】 航空用發動機並機體、乗用兼合貨物車引消防用自動車、艦船用發動機、ホイスト類、羅針盤高度計其他計器類、機關銃銃砲各種兵器、一般機械

【投資會社】 東京火藥工業、共同國產自動車、日本エヤープレーン、同和自動車

【資本興動】 昭和八年一月和議確定し資本金六百萬圓を十分の一に切捨つ。同年八月五百四十萬圓増資して六百萬圓とす。十一月八月六百萬圓増資決定、十一月第一回拂込十二圓五徵收の筈。

【資産負債】

| | | | |
|----------|-----|-----|-----|
| 株主資本 | 五十一 | 五十一 | 五十一 |
| 外部負債 | 六〇 | 六〇 | 六〇 |
| 借入金 | 三〇 | 三〇 | 三〇 |
| 使用總資本 | 九〇 | 九〇 | 九〇 |
| 固定資産 | 八〇 | 八〇 | 八〇 |
| 流動資産 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 現金預金 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 投資利益 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 利益積立 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 利益消却 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 利益消却後のもの | 一〇 | 一〇 | 一〇 |

【業績】

| | | | |
|-----|----|----|----|
| 十年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 十年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 九年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 九年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 八年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 八年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 七年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 七年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 六年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 六年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 五年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 五年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |

【配當】 十一月十一日 八分

【名義書換】 十 續【新券文附】二十續

株式 池貝鐵工所

(本社) 東京市芝區三田區町二(電三田一、〇一〇)

【増資完了】 去る五月、四百萬圓から一千萬圓に二倍半増資を決定したが、内八萬株は八月一日現在の株主に對し一對一を以て割當濟、残り四萬株の内、三萬株は十五圓半のプレミアム付で證券會社の手を通して公募濟、一萬株は功勞株に引當てられた。第一回拂込は四分の一、總額百五十萬圓で、九月一日徵收された。

【擴張工事】 この新資本の使途は、例のディーゼル自動車工場の新設と工作機械標準製品工場の新設で、いづれも年内には完成の豫定である。機械も注文済みで十二月より仕事を開始する段取だが、來期はまだ全能力の三分の一運轉にとまり、全設備がフルに働き、収益を擧げるのは來々期になることと思はれる。前者は年産三百臺、後者は年約二百萬圓の能力だ。

【配當力】 十一年上期の計上利益は七十四萬九千圓で、三割七分五厘の利益率に當るが、一割配當を据置いたので内部の蓄積は一層増大された。今後も現在程度の利益は當分減りそうにないから増資後も現行一割配當は問題なく維持出来る。

【更に拂込徵收】 前記の第一期擴張計畫は大體年内に完了するが其後更に第二期の擴張に移る。本年三、四月頃迄には具體化する豫定だが、その前に第二回の拂込徵收が行はれよう。

【設立】 明治二十二年十一月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 各種工作機械、各種工具、内燃機、高級自動車、活字鑄造機械、ディーゼル自動車

【資本金】 株式總數 100,000 株

【役員】 社長 池貝 庄太郎 取締役 池貝 杉二 副 千葉 恒次郎 監査 千葉 風吉 取 寺井 雄一 池貝 秀雄 千葉 龍太郎

【大株主】 株主總數 1,375名

池貝 庄太郎 三〇〇 千葉 恒次郎 六〇〇 池貝 杉二 三〇〇 池貝 秀雄 三〇〇 池貝 風吉 三〇〇 池貝 龍太郎 三〇〇 池貝 庄太郎 一〇〇 池貝 秀雄 一〇〇 池貝 龍太郎 一〇〇 池貝 庄太郎 一〇〇 池貝 秀雄 一〇〇 池貝 龍太郎 一〇〇

【事業成績】 十年上 十年下 十年上 十年下

營業收入(千圓) 一、二〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇

工場経費() 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇

營業経費() 一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇

【投資會社】 池貝鑄造所(資本金五〇萬圓)

【資本興動】 昭和八年三月四〇〇萬圓に減資。十一月六月六百萬圓の増資を決議、九月第一回拂込十二圓五徵收。

【資産負債】

| | | | |
|----------|-----|-----|-----|
| 株主資本 | 五十一 | 五十一 | 五十一 |
| 外部負債 | 六〇 | 六〇 | 六〇 |
| 借入金 | 三〇 | 三〇 | 三〇 |
| 使用總資本 | 九〇 | 九〇 | 九〇 |
| 固定資産 | 八〇 | 八〇 | 八〇 |
| 流動資産 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 現金預金 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 投資利益 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 利益積立 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 利益消却 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 利益消却後のもの | 一〇 | 一〇 | 一〇 |

【業績】

| | | | |
|-----|----|----|----|
| 十年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 十年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 九年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 九年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 八年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 八年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 七年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 七年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 六年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 六年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 五年上 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 五年下 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |

【配當】 十一月十一日 八分

【名義書換】 十 續【新券文附】二十續

發動機製造株式會社

(本社) 大阪市西淀川區大仁町二丁目(電報局三三二)

【特配期待】今年下期は當社の創立三十周年に當る。當局者は極力この三十周年紀念をして意義あらしめたいとの意向だから、當社の業績が逆轉せざる限り、その紀念特配は期待してよい。特配程度はまづ二、三分といふところだらう。

【増資實現】去る六月二十五日の定時株主總會で、資本金二百萬圓を、倍額の四百萬圓に増加することに決定し、その第一回拂込十二圓五十銭は、去る九月十五日に徴收された。この増資の目的は、工場設備の擴張資金調達にある。當社製品のマイハツ自動三輪車、鐵道車輛用機器及びディゼル・エンジン最近需要増加の一途を辿つてゐる。爲に現在の生産設備ではその供給に應じ難くなり、工場設備の擴充が必要となつたからだ。

【業績】従つて業績がよく、本年上期決算(去る五月末締切)も、利益金三十三萬圓を挙げ、前期より二萬六千圓、前年同期より十萬八千圓の増加を示した。利益率にして三割三分である。

【前途】更に増資後にも不安はない。第一回の拂込徴收によつて拂込資本が五十萬圓増加するから、多少利益率の低下は免れまいが、これは過渡期の現象にすぎぬ。やがてこの資本の増大も、設備の擴張に伴ふ生産増によつてカバーされよう。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 明治四十年三月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 自動三輪車、ディゼル、エンジン、車輛用機器 |
| 【資本金】 | 公稱 400,000 新 200,000 |
| 【株数】 | 新 20,000 舊 10,000 |
| 【重役】 | 社長 高洲 清二 取締役 宮原 雅男 常務 竹下辰四郎 監査 田中 豊輔 取締役 柴田 貞一 吉田 芳太郎 平田 保三 相談 中村 爲三郎 竹崎 瑞夫 |
| 【大株主】 | 株主總數 200名 木谷寅之助 1,000 田中 豊輔 1,000 竹内善次郎 500 龜田利吉郎 500 龜田利三郎 500 齊藤 三郎 500 齊藤 恒三 500 高洲 清二 500 川崎信託 500 小林 秀夫 500 |
| 【事業規模】 | 年産能力 自動三輪車 2,000台 ディゼル、エンジン 2,000台 車輛用器具 120,000個 |
| 【事業成績】 | 十年上 10,000,000 十年下 12,000,000 資本高(十上) 1,000,000 日本エヤーブレーク、日本金具 |
| 【資本異動】 | 十一年九月増額増資、第一回拂込二圓五拾五枚 |

| | |
|----------|----------------------------------|
| 【資産負債】 | 五十年 五十年 五十年 |
| 株主資本 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 外部負債 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 借入金 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 使用總資本 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 固定資産 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 流動資産 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 現金預金 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 10,000,000 12,000,000 10,000,000 |
| 支出 | 10,000,000 12,000,000 10,000,000 |
| 【株價】(實物) | 高値 安値 |
| 十一年上 | 300 200 |
| 十一年下 | 300 200 |
| 十一年上 | 300 200 |
| 十一年下 | 300 200 |
| 【豫想配當】 | 十一年十一月期 一割 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分六厘 |
| 時價 | 新 35.5 利 六分五厘 |
| 【名義書換】 | 十條【新券交付】五十條 |

大阪製鎖造機株式會社

(本社) 大阪市此花區春日出町上五丁目二九(電報局三三二)

【上期実績】今年上期成績は利益金三十四萬七千圓で利益率は二割三分一厘であつた。配當は一割据置きである。これを前期に較べると利益金は一萬四千圓減、利益率は九厘の低下に當る。かく上期の成績が低下したのは鎖の引渡高が急減したためである。

【下期豫想】然し下期には鎖の引渡高は大體八隻分に上る見込だから上期の不振は挽回するものと期待される。鎖以外の一般機械類は順調に進んでゐる。下期の利益は今からはつきり判らぬが、概算四十九萬圓位期待される。拂込資本に對して二割五分の利益率となる。此の限り一割配當は問題なく持續可能である。

【減配見込】が然し、當社は次のやうな事情の爲め下期は業績に關係なく一、二分の減配を行ふと見込である。即ち當社の事業には兵器類を含んでゐるが、此の兵器類収益は當社全収益の約三割に當るから、軍需工業會社の色彩が濃厚の方だ。所で軍部の意向は最近高率配當を抑制しつつある。事業會社全般からみれば一割は高率とは云はれぬが、軍部では一割を最高目標に置いてゐるらしい。軍部の意向を尊重しないと注文單價を切下げられる惧れが多い。會社としては配當を下げて従來通りの値で注文を貰つた方が有利だ。反動期への準備をも兼ね、減配を意圖してゐる所だ。

| | |
|--------|--|
| 【設立】 | 明治三十七年八月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 船機用鎖類、昇降機其他製作 |
| 【資本金】 | 公稱 3,000,000 新 1,500,000 |
| 【株数】 | 新 15,000 舊 15,000 |
| 【重役】 | 社長 清水徳太郎 取締役 武田 雅幸 取締役 山岡 俊 中村 幸策 角田 駒治 監査 水田由次郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 120名 廣海三三郎 8,000 古田 敬徳 7,000 黒田 一三郎 10,000 川上 十郎 2,000 渡崎 照風 1,000 井手 種蔵 1,000 清水徳太郎 1,000 村地久治郎 1,000 山岡 俊 1,000 渡崎 節 1,000 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 大阪市春日出町本工場 朝日橋分工場 横濱市神奈川分工場 |
| 主要設備 | オルセン型鎖類試験機(200噸)1基 ハクセント型 (200噸)1基 六吋鎖棒高速試験機(200噸)1基 船機用鎖(年産能力) 4,000噸 |
| 【事業成績】 | 十年上 10,000,000 十年下 12,000,000 資本高(十上) 3,000,000 事業益(十上) 3,000,000 【資本異動】 十一年七月四百萬圓増資十 二圓五拾五枚徴收 |

| | |
|----------|----------------------------------|
| 【資産負債】 | 六十年 六十年 六十年 |
| 株主資本 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 外部負債 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 借入金 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 使用總資本 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 固定資産 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 流動資産 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 現金預金 | 3,000,000 3,000,000 3,000,000 |
| 【收支勘定】 | 十年上 十年下 十年上 |
| 收入 | 10,000,000 12,000,000 10,000,000 |
| 支出 | 10,000,000 12,000,000 10,000,000 |
| 【株價】(實物) | 高値 安値 |
| 十一年上 | 300 200 |
| 十一年下 | 300 200 |
| 十一年上 | 300 200 |
| 十一年下 | 300 200 |
| 【豫想配當】 | 十一年十二月期 九分 |
| 【利息】 | 九月一日調 七分五厘 |
| 時價 | 新 35.5 利 六分五厘 |
| 【名義書換】 | 十條【新券交付】三十條 |

株式 大阪機械製作所

(本社) 大阪市淀川区豊崎西通一ノ四(電北二〇〇)
(出張所) 東京市京橋區銀座西七ノ三(資生堂ビル内)(電銀座)

【業績】 本年上期成績は前期より若干よく、利益金は三十六萬二千圓、利益率も二割一分九厘となつた。尤も、最近紡績、人絹等に於ける新設擴張が下火となつたため、製品の總売上高は著しく減少を免れ得なかつた。しかしこれも、一時懸念された程ではなかつたし、内燃機、電動機、工作機械、その他の軍需品の受託が引き續き相當あつた。加へるに採算も好化したので右の様な順調な成績を保つことが出来た。

【採算好化】 殊に採算好化は顯著である。製品賣上高に對する利益金の割合は、本年上期九分八厘で、前期より一分一厘、前年同期より二分一厘を上昇してゐる。まだそう高い収益率とは言はれぬが、かなり急激な採算好化と云へやう。

【今後の問題】 大勢的には依然順調を辿るものと見て差支へあるまい。たゞ問題となるのは紡績類の受託が過去に於けるが如き著しき金額に上るとは期待されぬことである。此の點は多少痛手であつて、今後は手放しの樂觀は許され得ないであらう。しかし採算はまだ良好の餘地があらうし、内燃器を始めとして、其他電動機、量水器、冷凍器、ロード・ローラー、各種工作機械及び軍需品などの受託増でカバーして行くから八分配當は持續されやう。

株式 大阪機械製作所

(本社) 大阪市此花區大開町二丁目七二(電土佐堀 五〇)

【好成績】 當社は綿紡機を中心に其他工作機械類、紡毛機、カード機、自動車部分品、エア・プレヒーター(燃料節約装置)等の製作を行つてゐる。成績は頗る好調を呈し、七上期から十一年上期迄の平均利益率は四割五分と云ふ高率である。而かも此間の平均配當率は一割六分七厘となつてゐるから、決算に含みの多いことは云ふ迄もない。

【増資實現】 子會社長岡鐵工所の資本金五十萬圓を八萬二千五百圓に切捨て、合併し、更に五百四十一萬七千五百圓を増資して資本金總額を八百萬圓とした。増資第一回拂込(四分一)は去る八月廿日に徴收済み。

【將來】 増資後も、成績に不安はなき見込みだ。尙長岡鐵工所から半期七、八萬圓の増益が見込めるし、尼崎工場及び名古屋工場等からも最少限度十五、六萬圓の増益が期待される。従つて、今下期は拂込資本が膨脹するが、利益率は四割四、五分とならう。

【政策的減配】 配當は當下期に五分減の一割五分とすることに決定してゐる。これは増資の關係もあるが、主として時節柄高率配當を遠慮しようと言ふのだ。然し右の如き利益率が期待されるとせば依然として余裕ある決算を續けて行ける。

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正四年十月 |
| 【決算期】 | 五月、十一月 |
| 【事業】 | 紡績用紡機及人絹毛織用機械、量水器、ロード・ローラーOKK式自動織機、軍需品、内燃機、冷凍機 |
| 【資本金】 | 公稱 500,000 払込 333,333 |
| 【株主】 | 新 200 舊 133,333 |
| 【重役】 | 社長 原 清明 取締役 星住 康次郎 取締役 渡邊 清 監査 範多 龍平 土屋 藤九郎 田島 善太郎 |
| 【大株主】 | 株主總數 2,222名 錦生株式會社 1,000名 竹中 治 200名 高木商店 1,000名 原 清 1,000名 高池信託 800名 高倉作太郎 200名 土屋 藤九郎 200名 田島善太郎 200名 西田保三郎 200名 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 大阪市豊崎町本工場 工場能力 加島分工場 年産 500千圓 主要設備 プラノミター 一臺 パワープレス 一臺 マシニング 一臺 マシニング 一臺 セーパー 一臺 ユニバーサル 一臺 高速旋盤 一臺 六呎旋盤 一臺 十呎旋盤 一臺 鐵板取機 一臺 |
| 【資本異動】 | 十年一月新株第二回拂込二二萬五圓徴收 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 【資産負債】 | 五月 十一月 十一月 |
| 株主資本 | 333,333 333,333 333,333 |
| 外部負債 | 1,000 1,000 1,000 |
| 借入金 | 1,000 1,000 1,000 |
| 使用總資本 | 334,333 334,333 334,333 |
| 固定資産 | 2,000 2,000 2,000 |
| 流動資産 | 332,333 332,333 332,333 |
| 現金預金 | 332,333 332,333 332,333 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 収入 | 4,000 4,000 4,000 |
| 支出 | 3,000 3,000 3,000 |
| 利益 | 1,000 1,000 1,000 |
| 【配當】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 配當率 | 10% 10% 10% |
| 【利息】 | 九月一日調 七月六日調 七月五日調 |
| 時價 | 新 50 利 七分五厘 |
| 【名義書換】 | 十五錢 新券交付 五十錢 |

| | |
|--------|---|
| 【設立】 | 大正九年二月 |
| 【決算期】 | 六月、十二月 |
| 【事業】 | 紡機及び一般機械類の製作 |
| 【資本金】 | 公稱 800,000 払込 333,333 |
| 【株主】 | 株主總數 1,111名 山田多計治 200名 坂井 新次 常務 本田 太郎 監査 齊藤 恒一 取締役 山田 又司 阿部 繁一 山田多計治 200名 東洋紡績 200名 前田 興次郎 200名 稻庭 庄次郎 200名 鴻池 信託 200名 坂井 新次 200名 |
| 【事業規模】 | 工場所在地 大阪、名古屋、尼崎 工場敷地面積 東京、長岡、上海 職工數 1,017人 工場設備 抽 紗 機 100臺 平削機 100臺 ミリング機 100臺 特殊工作機械 100臺 生産能力(年額) 8,000圓 【投資會社】 帝國精密工業、理研ピスト ンリング、原口電機製作所、大阪車體 製造 【資本異動】 十年四月一二回五圓徴收、 長岡鐵工所合併八二、五圓増資、十 一年八月五、四一七、五圓増資、十 二年五圓五圓徴收 |

| | |
|--------|-------------------------|
| 【資本負債】 | 六月 十一月 十一月 |
| 株主資本 | 333,333 333,333 333,333 |
| 外部負債 | 1,000 1,000 1,000 |
| 借入金 | 1,000 1,000 1,000 |
| 使用總資本 | 334,333 334,333 334,333 |
| 固定資産 | 2,000 2,000 2,000 |
| 流動資産 | 332,333 332,333 332,333 |
| 現金預金 | 332,333 332,333 332,333 |
| 【收支】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 収入 | 4,000 4,000 4,000 |
| 支出 | 3,000 3,000 3,000 |
| 利益 | 1,000 1,000 1,000 |
| 【配當】 | 十年上 十年下 十一年上 |
| 配當率 | 10% 10% 10% |
| 【利息】 | 九月一日調 七月六日調 七月五日調 |
| 時價 | 新 50 利 七分五厘 |
| 【名義書換】 | 十五錢 新券交付 五十錢 |